聖徒の道　1979年2月20日発行（毎月1回20日発行）　第23巻第2号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

聖徒の道

2　1979

もくじ

末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会
スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会
エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト

顧　問
マリオン・D・ハンクス
ロバート・D・ヘイルズ
ディーン・L・ラーセン
リチャード・G・スコット

教会誌編集主幹
ディーン・L・ラーセン

国際機関誌
ラリー・ヒラー（編集主幹）
キャロル・ラーセン（編集副主幹）
ロジャー・ギリング（デザイナー）

「聖徒の道」
赤松成次郎（翻訳部長）

聖徒の道２月号
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布５—10—30
印刷所　株式会社　精興社
配　送　東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4—9—19
定　価　年間予約1,700円　１部300円
海外予約1,700円
INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA0540AJA Printed in Japan

郵便振替口座番号　東京0—41512
口座名　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

鉄の棒をしっかりつかむ……スペンサー・W・キンボール……5
扶助協会……ボイド・K・パッカー……9
愛の贈り物……レックス・D・ピネガー……12
真実の宗教……ハワード・W・ハンター……15
人の値……マリオン・G・ロムニー……17
神権に関する啓示と教会役員の支持……N・エルドン・タナー……23
「汝らの子供たちを見よ」……ゴードン・B・ヒンクレー……26
召しに応えて……ジェームズ・E・ファウスト……29
予言者とひとつになる……F・バートン・ハワード……30
福音は人々を幸福にする……テディー・E・ブルーアートン……31
「善を行って決して飽かず」……ジャック・H・ゴースリンド・ジュニア……32
霊性のはかり……ロバート・E・ウェルズ……32
伝道の祝福……ボーン・J・フェザーストーン……35
私たちの共通の先祖……J・トーマス・ファイアンズ……39
「主が完全に受け入れたもう価値ある……」……エズラ・タフト・ベンソン……41
伝道のもたらす喜び……リグランド・リチャーズ……46
信仰，勇気，決断……デーン・L・ラーセン……49
あなたがたの光を輝かせなさい……ジョセフ・B・ワースリン……51
キリストの弟子……マリオン・G・ロムニー……54
面接のもたらす祝福……N・エルドン・タナー……58
考え，従うべき基本原則……スペンサー・W・キンボール……62
生ける神を信じる信仰の基……N・エルドン・タナー……69
収穫を失う人……マービン・J・アシュトン……73
神を仰ぎ見て生きよ……カーロス・E・エイシー……78
宣教師の信仰……トーマス・S・モンソン……82
モロナイの最後の言葉……マーク・E・ピーターセン……95
啓示を受けるであろう……ブルース・R・マッコンキー……101
「おかえり，フェリーラ」……ジョン・H・グローバーグ……104
「人よ，彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた」……S・デルワース・ヤング……107
霊の成長……M・ラッセル・バラード・ジュニア……109
誤解のないように……ジェイコブ・ディエガー……111
ホーム・ティーチング——その神聖な召し……L・トム・ペリー……114
キリストにあって永遠の望みを抱く……スペンサー・W・キンボール……117
福祉活動の労働のもたらす祝福……スペンサー・W・キンボール……123
健康——喜びのある生活をもたらす……バーバラ・B・スミス……128
メキシコ，ベルメヒロ支部の素晴らしい模範……ビクター・L・ブラウン……129
福祉活動における管理の職を果たす……J・リチャード・クラーク……132
個人と家族の備えをする……H・バーク・ピーターソン……135
福祉活動におけるステーキ部長の役割……デビッド・B・ヘイト……136
貧しい人々に手を差し伸べる—誓約により課せられた義務……マリオン・G・ロムニー……140

末日聖徒イエス・キリスト教会
第148回半期総大会報告

1978年９月30日，10月１日に，ユタ州ソルトレーク・シティー，テンプルスクェア，タバナクルにおいて催された大会の報告

「大神権の職を管理する長たる者の義務は全教会を統轄すべきものにして，モーセの如くあるべし。

すなわち，見よ，この教会の頭首に神の与えたもうあらゆる賜を有し誠に彼は聖見者たり，啓示を受くる者たり，翻訳者たり，また予言者たり，ここに智恵現わる。」（教義と聖約107：91—92）

スペンサー・W・キンボール大管長は，この職に伴う権能と約束，みたまをもって，やがて教会歴史の中にその歩みの一頁を飾るものとなる総大会を再び管理された。

今回の半期総大会は，出席した教会員に，教会に下された啓示を「主のみ言葉とし，みこころとして受け入れる」挙手の支持が求められたということで，極めて重要な大会であった。

この啓示は，「人種や肌の色を問わず……教会の資格ある男性会員全員に神権と神殿の祝福を授けることができる」というものであった。すでに６月９日に発表されていた啓示であるが，この度，大会で会員の支持が求められたものである。（p. 23 参照）

大会はスペンサー・W・キンボール大管長の管理の下に開かれ，土曜日午前の最初の一般大会で，新しい十二使徒評議員会会員，七十人第一定員会会長，ならびに３名の七十人第一定員会会員の名前が提示された。十二使徒評議員会の空席は，去る８月19日のデルバート・L・ステイプレー長老の死去に伴って生じたものである。

また，これらの教会幹部の支持に先立って，N・エルドン・タナー第一副

管長から，先に述べた啓示に対する支持の提議が行なわれた。次いで，「長年，無私の愛をもって献身的に奉仕の業に」携わってきた教会幹部に，「必要に応じて」「名誉会員」の称号が与えられることになったという発表があった。この名誉会員となる教会幹部は，職務からは解任されないが，実際の業務には携わらない。(p.167参照)

名誉会員に支持された教会幹部は，以下の7名である。スターリング・W・シル長老，ヘンリー・D・テイラー長老，ジェームズ・A・カリモア長老，ジョセフ・アンダーソン長老，ウイリアム・H・ベネット長老，ジョン・H・バンデンバーグ長老，S・デルワース・ヤング長老。

前七十人第一定員会会長のジェームズ・E・ファウスト長老が，新たに十二使徒評議員会会員として支持された。また，七十人第一定員会のW・グラント・バンガーター長老が新たに七十人第一定員会会長に支持された。そして，新たに次の3人が七十人第一定員会会員として支持された。ユタ州バウンテフルのF・バートン・ハワード長老，カナダ，カルガリーのテディー・E・ブルーアートン，ソルトレーク・シティーのジャック・H・ゴースリンド・ジュニア。この結果，教会幹部の総数は68名となり，七十人第一定員会は49名となった。(略歴に関しては，p.161を参照)

大会は，9月30日（土)，10月1日（日）の両日，テンプルスクェアのタバナクルで開かれ，32名の教会幹部が話をした。

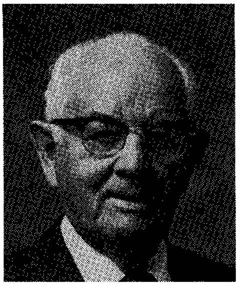
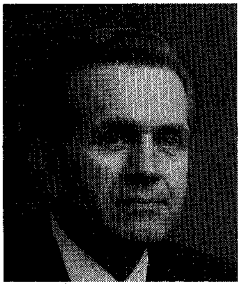
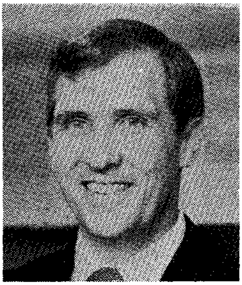
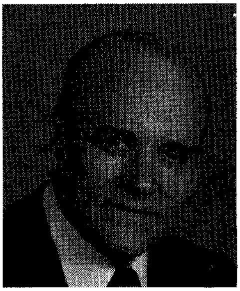
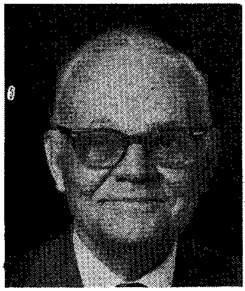
大会の模様は，合衆国とカナダのテレビ局200局と376の有線テレビ放送，イタリアのテレビ局50局，合衆国のラジオ局61局，中南米71局，オーストラリア61局，イタリア20局，ヨーロッパおよびアフリカ向け短波放送2局から放送された。また，合衆国内の有線放送320カ所，ヨーロッパ64カ所，ヨーロッパのFM放送受信地73カ所でも大会の模様が伝えられた。さらに，土曜日の神権会については，合衆国，カナダ，プエルトリコの1,424カ所，オーストラリア，ニュージーランド，フィリピン，香港，韓国，日本の54カ所で有線放送が行なわれた。

また，2日間にわたる一般大会とは別に，9月29日（金）に教会本部ビルで地区代表セミナーが催された。そしてこのセミナーでは，キンボール大管長から，福音を受け入れる備えのできている国々のこと，また他の教会幹部から，大切な教会プログラムと優先順位についての指示が与えられた。(詳細については，p.168参照)

1978年９月30日(土)

午前の部における説教

末日聖徒イエス・キリスト教会第148回半期総大会報告

スペンサー・W・キンボール大管長　ボイド・K・パッカー長老　レックス・D・ピネガー長老

ハワード・W・ハンター長老　マリオン・G・ロムニー第二副管長

大管長
スペンサー・W・キンボール

鉄の棒をしっかりつかむ

たとえ変革の風が吹き，大波に洗われようと，私たちがしっかりとつかまって身を守ることのできる棒がある

十二使徒定員会会員のデルバート・L・ステイプレー長老が死去されたことを，私たち教会員は非常に悲しく思っている。ステイプレー長老は1978年8月19日に亡くなられたが，これまで十二使徒として28年間忠実に立派な働きをしてこられた。その彼が今，この席にいないことは大きな悲しみである。私たちはもう一度ステイプレー長老のご家族に愛と哀悼の意を表したいと思う。ここで私たちは，ステイプレー長老に代わって，新たに十二使徒定員会会員にジェームズ・エスドラス・ファウスト長老を支持して下さるように皆さんに提議したい。この提議に賛成の方は，右手を挙げてその意を表わしていただきたい。

私たちはまた，七十人第一定員会会員として，フレッド・バートン・ハワード，テディー・ユージーン・ブルーアートン，ジャック・H・ゴースリンド・ジュニアを支持して下さるよう提議する。次に，ファウスト長老に代わり，七十人第一定員会会長としてウイリアム・グラント・バンガーターを支持して下さるように提議する。この提議に賛成の方は右手を挙げてその意を表わしていただきたい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わしていただきたい。

ただ今支持された教会幹部の方々は，それぞれ壇上の定められた席に着いていただきたい。

兄弟姉妹の皆さん，末日聖徒イエス・キリスト教会の総大会に世界各地から集まってこられた皆さんに歓迎の言葉を述べ，ソルトレーク・シティーをはじめ，各地でこの大会の模様を視聴しておられる大勢の方々の姿を心に描けることはなんと栄えあることであろうか。実にこの大会は，忠実な聖徒たちの国際的な集いである。

現在この地上における主の王国が，自由世界のほとんどの国々に及び，発展していることを皆さんと共に喜びたい。私たちは，着実に新しい地域に福音の門戸を開き，新しい伝道部を開設し，そして分割し，さらに多くの青年男女が専任宣教師として伝道に出られるように効果的な指導を行なおうと努めている。6カ月前の大会以降，新たに10の伝道部が開設され，伝道部は全世界で166になった。現在，26,606名の宣教師が，十二使徒定員会の指導の下に，ほとんどあらゆる国民，部族，国語の民，民族の間で福音を宣べ伝えている。十二使徒定員会の神聖な召しは,「教会の大管長会の指揮下に於て，天の制（きだめ）に適うよう主の御名によりて職務を行う。すなわち，これらの者は教会を設立し，よろずの国民に於ける教会のあらゆる事務を整理」(教義と聖約107:33）することである。

今年の末には，ステーキ部数は1,000を越えることだろう。1943年に私が使徒に召された当時，全世界でわずか145のステーキ部しかなかったことを思えば，まさに驚くべき発展である。

この進歩と発展は主のお陰である。これは人を救い，人々をキリストの羊の群れの中に招くこのプログラムを，主が導いておられるからである。私たちはこれまで多くのことを行ない，達成してきたが，まだまだなすべきことはそれ以上に多く残されている。私たちは雄々しく，しかも勇気をもってこれからも前進を続け，イエス・キリストが復活された主であり，人類の贖い主であることを世の人人に宣言しなければならない。

私たちはこれまで，すべての教会員に可能な限り家庭菜園を造り，食物を生産するよう

に呼び掛けてきた。そして，自分たちの労働によって得られた作物を食し，それで必要を満たすようにと勧告してきた。また，両親の方方に，自分たちだけがこの作業に携わるのでなく，子供たちにも手伝わせるようにと勧めてきた。そうすれば子供たちは，働くことの喜びと価値を知り，またそのような家族の共同作業を通して子供たちの責任感を養うことができるからである。

私たちは畑や植込みをきれいにするだけでなく，家屋や納屋，物置き，垣根などを修理したり，ペンキを塗り替えたりすることも必要である。この仕事には終わりがない。したがって，これからも絶えず注意を払い，計画を立て実行に移すようにしなければならない。

次に，個人の日記や記録を付け，家族の歴史を編纂するように再度お勧めしたい。過去に系図や歴史記録を探求してきた末日聖徒の家族は皆，先祖がもっとよい，完全な記録を残してくれていたらよかったのにと思っているはずである。一方では，福音の改宗にまつわる出来事や，その他多くの奇跡的な祝福や霊的な体験など，関心を呼ぶ出来事を先祖が記録し，霊の宝としてそれが受け継がれてきた家庭もある。人々はとかく，自分たちの生活には記録するようなこともないし，だれも自分たちが何をしたか関心を示さないと言って弁解をする。しかし，私は皆さんが日記を付け，記録を保存するならば，確かにそれは家庭にとって，あるいは子供たちや孫，そして代々の子孫にとって，大いなる霊感の源になると約束する。

家庭の夕べは，そのような活動を行なうのに最もふさわしい時間であり場所である。特に，子供たちに自分の生涯について記録する方法を教える絶好の場である。もしまだ行なっていなければ，きょうから日記を付けることを決心していただきたい。

私たちは，もっと頻繁に神殿に参入し，亡き親族を贖う業に全力を傾注する必要がある。神殿推薦状を持つ者は皆，できるだけ頻繁に推薦状を使い，死者のためのバプテスマやエンダウメント，結び固めの儀式に携わるべきである。まだ推薦状を持たない教会員は，それを持つ資格が得られるように真剣に自分自身を備える必要がある。そのような人々も，これらの永遠の祝福を享受し，シオン山の救い手として働けるようになっていただきたい。聖徒たちに課せられた神殿活動の責任が現在ほど増大した時はない。私たちはこのチャレンジに応えるために立ち上がらなければならない。

私はもう一度全世界の聖徒たちに，もっと厳密に安息日を守るように勧告したい。現在主の聖日は，全世界的に，また末日聖徒の間でさえも，その神聖な意義が軽視されつつある。人々はますます安息日の神聖な目的を見失ない，富や快楽，娯楽を求め，物質的な偽りの神を礼拝するようになってきた。私たちはすべての聖徒たちに，また神を恐れる全世界の民に，安息日を聖く守るように引き続き勧告するものである。もし人々が安息日に買い物をしなければ，店も閉じざるを得ない。これは，行楽地に出掛けること，スポーツ，その他の娯楽行事全般について言えることである。ところが現実には，どうも金銭を追求することが，「あなたがたはわたしの安息日を守り，わたしの聖所を敬わなければならない」（レビ19：30）という主の戒めに優先しているようである。

「わたしを主よ，主よ，と呼びながら，なぜわたしの言うことを行わないのか。」（ルカ6：46）

人々が安息日の目的を汚すのは現代に限ったことではない。しかし私たちはこれに勧告の声をあげる。私たちは現代の社会を非常に憂慮している。ラジオやテレビを通じて毎日邪悪な事柄が人々に教えられる。それらは醜く，汚れていて，みな正義を破壊するものばかりである。人々は神を忘れてしまっているかのようである。確かにサタンは今解き放たれている。以前にも申し上げたように，現代

社会に増大しつつある放縦の悪を，私たちは非常に憂慮している。

私たちは絶えず変わっている。そして，人生の歩み自体も急激に変化している。現在，世界全体が変革の波に押し流され，人々は道に迷い，一体何が価値のあることなのか分からなくなっているように思える。しかしながら，正義と悪は不変である。福音の原則も決して変わらない。たとえ人が悪を語り，悪を行なったとしても，神の戒めの言葉は一点一画と言えども変えることはできないのである。

今日，義の軍勢は明らかに攻撃を受けている。世の人々は不浄と堕落の洪水におぼれかけている。そこで私は世の人々に向かってこう叫びたい。「正しく真実なものをしっかりつかまえなさい。そこにしか安全はない。世に流されないようにしなさい」と。

1946年に私は，特に大きな高波に襲われた直後のハワイを訪れたことがある。約40フィート（12メートル）の高波に見舞われたヒロ市やハマクア海岸一帯は壊滅状態にあった。家は引っ繰り返り，引き裂かれ，押しつぶされていた。垣根や庭は跡形もなく流され，橋や道も洗い流されていた。道路には浴槽や冷蔵庫が車と一緒に散乱していた。教会堂が立っていた所には，ただ建物の土台しか残っていなかった。死者は100名以上にのぼり，負傷者もかなり出たと言う。家屋を失った家族は数千に達した。私はそのような中で，苦難を克服した人々の勇敢な物語を数多く耳にした。

婦人のひとりが，高波が襲ってきているのですぐに避難するようにという電話を友人から受けた時のことを語ってくれた。彼女が海を見下ろすと，巨大な，山のような波がこちらに向かってくる。そこで彼女はすぐに赤ちゃんを抱き上げると，夫と共に高台に向かって駆け出した。しかし，彼女のふたりの娘は，まだラウハラの木のそばで遊んでいた。ふたりは波が押し寄せてくるのに気付くと，一目散に木の方に走っていき，しっかりと木の幹にしがみついた。最初の巨大な高波がおおいかぶさるように襲ってきた。ふたりは息を止め，あらん限りの力をふりしぼって木にしがみついていた。すると間もなく水が引き，水の上にふたりの頭が出た。ふたりは水が引くと，頃合いを見計らって，次の波が押し寄せてくる前に一気に高台を駆け登った。こうして家族は全員助かり，自分たちの家が押し寄せる高波にのまれて流されてゆくのを高台から見守ったのである。

私たちもまた，悪魔が解き放つこのような強力な破壊力に立ち向かわなければならない時がある。罪，邪悪，不道徳，堕落，専横，欺瞞（ぎまん），陰謀，不正直という高波の脅威に，私たちは常にさらされている。私たちが用心しなければ，それらは大きな力を持ち，非常な速さでやってきて，私たちを滅ぼしてしまう。

しかし，私たちには警告の声がある。それは，私たちの心を呼び覚し，聴く耳を与え，邪悪を退け，永遠の生命への道を示してくれる。私たちは助けがなければ，それらの悪に対抗することはできない。高台へ逃れるか，さもなければ押し流されないようにしっかりとつかまっているものが必要である。私たちがしっかりとつかまっているものが，イエス・キリストの福音である。それは，たとえ悪魔がどのように力を結集しようとも私たちを守ってくれる。モルモン経中のある予言者は次のように人々に勧告している。「お前たちは神の御子でキリストである私らの贖い主の岩を基にしなくてはならないことを忘れるな。贖い主の岩を基にするならば，悪魔がその大風を吹かせて柱のように立つつむじ風をまき起すとき，また悪魔の雲と暴風雨とがお前らを打つとき，悪魔はお前らに打ち勝って不幸の淵と永遠の悲惨にお前たちをひき落す能力（ちから）はない。」（ヒラマン5：12）

私たちは完全にならなければならないというキリストの教えは，言葉だけのものではない。人には人間としての弱さを克服し，神の属性を伸ばして，文字通り御父や御子のようになる権利があると，主は述べておられる。

大勢の人が自らの内にある才能を十分に使わないために，キリストのようになる力が具わっていることさえも無にしてしまっている。人はその力が具わっていることを，その力を使って証明しなければならない。使ってみなければ，その力がないことも分からないであろう。

完全に向かって歩むことは，一時的な決定ではなく，生涯を懸けて求め続ける過程である。

モーセは主のみ言葉を受けて山から下ってきた。この時，主がイスラエルの民に与えたもうた戒めは，最低限の行動規範であった。その戒めについて，パウロはこう述べている。「律法は，信仰によって義とされるために，わたしたちをキリストに連れて行く養育掛（よういくがかり）となったのである。」（ガラテヤ3：24）

十戒を守って生活することは，完全になるための第一歩にすぎない。イエスは十戒が神聖なものであることを教えられた。しかし，それ以上のものがあることを繰り返し強調された。

主を至高の御方として認め，偶像礼拝をしないだけでは十分とは言えない。私たちは，自分の心と勢力と思いと力の限りを尽くして主を愛し，主が義なる子供たちにもたらす大いなる喜びを知る必要があるのである。

神を冒瀆することをやめるだけでは不十分である。私たちは主のみ名を自分の生活の中で掛け替えのないものとする必要がある。私たちは，主のみ名を尊ぶ時に，友人や隣人，あるいは自分の子供たちを決して混迷の中に置き去りにしたりはしないであろう。私たちがイエス・キリストに従う者であるとの確信を持とうではないか。

安息日に映画を見に行ったり，猟や魚釣りに出掛けたり，スポーツをしたり，不必要な労働をすることを断つだけでは不十分である。安息日をもっと積極的に守るためには，聖典を勉強する，教会の集会に出席して福音を学ぶ，主を礼拝する，集会に来なかった人に手紙を書く，悲しんでいる人を慰める，病人を見舞うなど，主が聖日に行なわれるであろうと思われる事を行なう必要がある。

もし私たちが戒めの通りに両親を敬うならば，両親の最高の特質を見習い，両親の願いを成就させようと努力するはずである。どのような物をもってしても，義しい生活に勝るほうびはないであろう。

殺生をやめるだけでは十分とは言えない。それ以上に，私たちには生命を尊び，それを養い育ててゆく神聖な義務がある。生命を奪うのではなく，生存に必要なものをすべて享受できるように惜しみなく助けを与えなければならない。これが達成できたら，私たちは心と霊をなお一層高めたいと思うことだろう。

私たちは体に害になる食物を取らないようにしている。あらゆることを知恵と節度を持って当たることによって，私たちは健康と肉体の安寧を求める。

姦淫をしないだけでは不十分である。私たちは結婚生活をもっと神聖なものとし，互いに犠牲を払い，努力しながら，コートシップの時期に培った思いやりと尊敬を深めてゆく必要がある。神は神権の権能によって結び固められた結婚を永遠に存続するように定められた。したがって，私たちが日々，思いやりと愛をもって互いに尽くし合うことは，主が望まれているところである。

私たちは行動だけでなく，その心と思いにおいても清くなければならない。

主はシナイ山で，「あなたは盗んではならない」（出エジプト20：15）と言われた。私たちはあらゆることにおいて正直でなければならない。私たちは寛大でなければならない。利己的であってはならない。お金を求められれば，お金をあげるようにしよう。しかし大抵の場合，人が一番求めているものは，金銭では買うことのできない愛と時間と思いやりである。もしそれが事実であるとすれば，私たちはお金に寛大であっても，それで十分とは言えないのである。

偽りの証言をしたり，他人のものをむさぼったりするのは利己心の表われである。イエスは，「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」と教えられた。そしてこの戒めと神を愛する戒めとに，「律法全体と預言者とが，かかっている」と言われた。(マタイ22：39—40参照)

親切，慈しみ，愛，思いやり，寛大など美徳を挙げれば限りがない。主は私たちがこのような特質を伸ばすことを望んでおられる。

「もし何にても，徳高きこと，好ましきこと，よき聞えあること，あるいは褒(ほ)むべきことあらば，われらはこれらをたずねもとむるものなり。」(信仰箇条第13条)

イエス・キリストの福音は真実である。私たちがその原則を学び，実践し，聖霊の助けを得て心から求めるならば，だれでもそれが真実であることを知ることができる。それ以上に，もし真理を求めている人が，福音の原則に従っている人の模範を見ることができれば，それはもっと容易に受け入れられるはずである。私たちの生活の中に見られるキリスト教徒の美徳の模範で，教会の宣教師の召しほど偉大なものはない。

主は，主を愛し，愛の模範を人々に示し，献身的な奉仕をし，主の永遠の原則を守って生活する人に大いなる約束を与えて下さっている。

たとえ変革の風が吹き，大波に洗われようと，私たちがしっかりとつかまって身を守ることのできる原則の木，原則の棒がある。これこそ，この地上に完全に回復されたイエス・キリストの福音である。

主の祝福があって，一人一人の会員が鉄の棒をしっかりとつかむことができるようにイエス・キリストのみ名によりへりくだり祈るものである。アーメン。

十二使徒評議員会会員
ボイド・K・パッカー

扶助協会

姉妹の皆さん，神権会に出席するのが兄弟たちの義務であるのと同じように，扶助協会に出席することは皆さんの義務です

私はこれから，かつて一度も所属したことのないひとつの組織についてお話したいと思います。この組織のお陰で私も家族も大きな恩恵を被っています。私にはこの組織の会員になる資格はありませんが，この組織の影響はいつも私に及んでいます。

この組織は，世界で最も古い婦人団体のひとつである扶助協会です。およそ70カ国に，百万を優に越える会員が住んでいます。会員数は毎年非常な勢いで増えており，独身女性にも入会の資格があります。

予言者ジョセフ・スミスはこの扶助協会を創設した時に，婦人たちに向かって次のように述べました。

「皆さんは，神が定められた神権の秩序を通じ，この最後の神権時代に教会の諸事を導く……ために任命された人々を仲立ちとして指示を受けるであろう。今私は主のみ名により皆さんのために鍵を回す。したがって，この協会は喜びとなり，今から後，知識と英知とが流れ下るであろう。」(*History of the Church*「教会歴史」4：607)

予言者は，この組織が「皆さんの天性に従って」組織された「愛の組織」となり，「皆さんがその特権に恥じない生活をするならば，天使たちは皆さんの友とならざるを得ない」と，彼女たちに語っています。(*History of the Church*「教会歴史」4：605)

今から30年前に，ジョージ・アルバート・スミス大管長はこう語っています。

「皆さんは，……世界中どの婦人たちよりも豊かに祝福されています。皆さんは初めて選挙権を受けた女性であり，教会の活動に初めて発言権を持った女性です。それは主の予言者に啓示された結果であり，それを皆さんに与えたのは神です。あの時以来，世界の女性たちがどんなに恩恵にあずかったか，考えてみて下さい。この教会に属する皆さんだけが祝福を受けたのではありません。予言者ジョセフ・スミスが女性解放の鍵を開けたことで，全世界のために鍵が開かれたのです。それ以来，宗教の自由，公民の自由といった祝福を享受する女性の数は時代と共にふえています。」（*Relief Society Magazine*「扶助協会誌」1945年12月号，p. 717）

私は扶助協会に入れて欲しいとお願いしているのではありません。ただこの婦人の組織が存在しているだけで，私は多くのものをそこから得ることができるからです。私は会員でなくても，この組織からはるかに多くのものを得ています。

私は，扶助協会という名称が将来も変わらないように願っています。この名称は，予言者ジョセフ・スミスから婦人たちに与えられたあの宣言に直接由来しているからです。その調和した完全なプログラムは，おのずから女性の求めるすべての価値ある必要にこたえるものであります。

全員が文学，絵画，音楽，時事，家事技術や，特に霊的生活に常に触れて，良い思いや良い感情，価値ある才能を存分に表現するよう励まされます。

私の妻は食料品店から帰って来ると，すぐに使う物を別にし，使わない物は保存します。中には緊急用の物もあります。

また，全然自分たちが使わない物もよく買ってきます。それはほかの人たちの分です。

妻は扶助協会から帰る時同じように，今度は霊の生活必需品を抱えて帰ってきます。すぐに使うものもあれば，保存するものもあります。けれどもその大半はほかの人のためのものです。

妻の保管庫は扶助協会に出席するお陰でいつも補充され，妻は折々に以前の扶助協会から得たものを取り出しています。

繰り返しますが，私は扶助協会の会員ではありません。けれども私たちは家族として，扶助協会会員の姉妹たちとの交わりの中で，恩恵を被っています。

もう何年も前のことになりますが，ある指導者は次のように語っています。「教会の女性の居場所は男性の前でも後でもない，隣りである。」（ジョン・A・ウイッツオー，*Evidences and Reconciliations*「証言と和解」p. 305）

扶助協会の組織の手順を見ると，教会の男性と女性の関係がよく分かります。

扶助協会は徳ある女性，堅実な女性，組織化された女性たちのためにあります。敬虔な女性，霊的な女性，勤勉な女性，既婚女性，未婚女性，若い女性，年輩の女性，そのすべての女性たちのために扶助協会があります。

このような女性たちの輪の中に，まだ足元の定まらない女性，迷う女性，疲れ果てた女性たちが迎え入れられます。扶助協会は孤独な女性に計り知れない祝福をもたらします。

私は，ハロルド・B・リー長老の先妻の葬儀が終わった後，娘さんのヘレンと一緒にいました。

その時だれかが彼女に次のようなお悔やみを言いました。「お母様はお父様を本当によくお世話しておられました。きっとお寂しいでしょう。お母様がして下さったいろんなことを思い出していらっしゃるのでしょうね。」

すると，ヘレンは深い洞察を秘めてこう答えました。「いいえ，お分かりいただけないかもしれませんが，父は母がしてくれたことよりも，母自身が亡くなったことを悲しんでいます。父にはいろいろなことをしてあげる相手が必要なのです。」

私たちには何かをしてあげる対象が必要です。その必要が満たされない時に，私たちは孤独になります。扶助協会はその手段を主の

方法で提供しているのです。

姉妹たち，教会は皆さんを必要としています。教会は，服のファッションから大きな社会問題まで，万事において節度と品位を重んじる女性を必要としています。

教会には，組織化された女性，組織できる女性が必要です。計画，指導，実行のできる手腕ある女性，教えることのできる女性，ちゅうちょなく意見を述べることのできる女性が必要です。

個人的に教える場合も，指導者の責任にあっても，霊感を受けて導くことのできる女性が大いに必要とされています。

世の風潮を見極め，たとえどんなにもてはやされても浅薄なものや危険なものを確実に判別する識別の賜を持った女性が，教会には必要です。

人の気に入られなくても，正しい立場を取ることのできる女性が，教会には必要です。

予言者ジョセフ・スミスは扶助協会を組織した時に，「同情はさて置き，毅然たる性格」（*History of the Church*「教会歴史」4：570）が必要だと語っています。

扶助協会は教会の福祉活動の中で非常に重要な位置を占めています。したがって，扶助協会が強くなければ，この計画は成功しないことでしょう。

私がこのように扶助協会をたたえるのは，組織のためではありません。この組織に属する方々一人一人に祝福がもたらされているからです。

ここで教会の姉妹たちに申し上げたいと思います。扶助協会に出席することは実際のところ任意ではありません。これは大切なことです。

男性にとって，神権によって養われる数々の性格を自分の生活に生かすことがひとつの義務であるように，扶助協会によって養われる徳を自分の生活に吸収することは，女性の義務です。

先日，私は数人の姉妹たちが扶助協会について話し合うのを聴きました。ひとりの若い女性がこう言いました。「お年寄りと若い人の両方に気を配ることはとても難しいわ。若い人向けのレッスンやプログラムを計画すると，お年寄りはいらっしゃらないの。みんなを喜ばせることをするって，本当に大変だわ。」

姉妹の皆さん，じっと家にいて扶助協会に誘われるのを持つだけの姉妹でいて欲しくないと思います。そのような気持ちはよくないと思います。

祈り，働き，立派な発表をする忠実な姉妹たちを励まして下さい。あなたが出席することは，それだけで大きな助けとなるのです。

ある姉妹たちは，扶助協会を正餐のように考えて，味覚を堪能させるメニューを真剣に捜している風がうかがえます。

姉妹の皆さん，神権会に出席するのが兄弟たちの義務であるのと同じように，扶助協会に出席することは皆さんの義務です。

私はある姉妹たちが次のように言うのを聞いたことがあります。「扶助協会は何も得るものがないから出席しないのです」と。

ではここで，ひとつの実話をお話したいと思います。

扶助協会と教会の若い女性の組織は，1888年に全国婦人会議と国際婦人会議の創立会員になりました。この両会議の設立目的は，主として婦人参政権運動の推進と婦女子の地位向上にありました。

その後長年の間，当教会の代表者たちは，社会情勢や指導者や指導者の対モルモン観などにより，良き時代，悪しき時代と，数々の時代を過ごしてきました。

1945年4月に，ベル・スミス・スパフォード姉妹が扶助協会会長になりましたが，支持されて1，2週間後に全国婦人会議から，ニューヨーク市で年次大会が開かれる旨の通知が届きました。

スパフォード姉妹はかつてその会議に出席した経験がありました。そこで扶助協会会長会は以前の経験から，招待を受諾したものか

どうか何週間も検討しました。

その結果，扶助協会は婦人会議脱退の提案を大管長に提出することとし，理由を連ねて書類を作成しました。

スパフォード姉妹は心配げな面持ちで，ジョージ・アルバート・スミス大管長の机上に書類を差し出し，「扶助協会会長会は，この書面にある理由により，扶助協会中央管理会が全国婦人会議と国際婦人会議から脱退することを提案致したいと存じます」と言いました。

スミス大管長は書面にじっくり目を通し，半世紀以上も続けてきたのに，と申しました。

スパフォード姉妹は，ニューヨークまでの旅費は高く，時間も取られ，侮辱された経験もありますからと説明をいたしました。そして，「会議からは得るものがないので身を引きたい」と言いました。

すると知恵に満ちて円熟した老予言者は，椅子の背に寄り掛かり，唖然とした様子で「何も得るものがないから脱退したいと言われるのですか」と尋ねました。

「ええ，そうしたいと思います。」と姉妹は答えました。

大管長は，「それでは，あなたはその会議にどのような貢献をしておられますか」と聞きました。

「スパフォード姉妹，驚きました。あなたはいつも，何が得られるだろうかとばかり考えておいでですか。何を提供しなければならないかという立場で考えてはいらっしゃらないのですか。」

大管長はその書類をスパフォード姉妹に返し，断固とした口調で，「婦人会議は続けて下さい。あなたの影響力を是非発揮して下さい」と言いました。

そして，スパフォード姉妹は言われた通りにしました。このように，スパフォード姉妹は賢明な予言者から優しく正されて，その後婦人会議の議長になったのでした。

今，私はその同じ言葉を教会の一人一人の姉妹に申し上げたいと思います。「扶助協会から得るものがない」という理由で出席しない方々に，あなたは扶助協会にどのような貢献をしていますかとお尋ねしたいと思います。

私は心から扶助協会を支持します。それが全能の神よりの霊感によって組織されたことを知っているからです。扶助協会は創立以来，多くの祝福に浴してきました。この組織は落日ではなく，昇り行く朝日です。そこから放射する光や力は，衰微せず，増大を続けることでしょう。

私は，現在の扶助協会が霊感を受けた賢明で有能な女性たちによって指導されていることを知っています。彼女たちを通じて，訓練に乏しい人，孤独な人，独身の人たちの不満は，平安と幸福に座を明け渡すことでしょう。

霊感に欠けて道を迷うとまどいは，確信と指導にとって代わることでしょう。

この数カ月間，祈りの気持ちをもってこの事柄を考え，この組織の頭が主であることを思い巡らしました。私は腹蔵なく，末日聖徒イエス・キリスト教会の扶助協会を支持し，賞賛し，神に姉妹たちへの祝福を祈ります。なぜならば，これは神の教会であり，私たちは予言者によって導かれているからです。イエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。

七十人第一定員会会員
レックス・D・ピネガー

愛の贈り物

教会プログラムの目的は，教会員が神と隣人を愛せるようになるよう援助を与えることである

私の友人がテキサス州ダラスから飛行機でソルトレーク・シティーの自宅に帰る途中でのことである。彼の頭の中は，近々家族

が迎えるある重大な出来事のことでいっぱいであった。一人息子が数日中に異国へ伝道に出るという。彼は愛する息子を思い，考えにふけった。「私の息子が教会のことを教えるために遠い国へ出掛けて行くというのだから，この教会は一番の教会のはずだ！」そこで彼はメモ用紙とペンを取り出し，最良の教会に求められる特性を列挙し始めた。

彼はこう書いた。「若い人を育成するプログラム，スポーツプログラム，健全な活動プログラム，子供を教え，しつけるためのプログラム，女性の技術や才能をみがくプログラム，貧しい人，病人，身寄りのない人，被災者たちを援助するプログラム，労働と奉仕のプログラム，家族と個人の霊的成長を図るプログラム」

こうして彼は，沢山の事項を挙げ，見事なリストを作り上げた。その後，自分の所属する末日聖徒イエス・キリスト教会に，すべての人の必要を満たすプログラムがあることに満足した。そして確かに息子が代表して然るべき最良の教会だと結論を下したのであった。

友人は列挙した最良の教会のすぐれた特性に気を良くして，隣りの席の紳士にそれを見せた。すると，金融会社の役員であったその紳士は，大きな関心を寄せた。ふたりは一緒にリストを見ていたが，最後にこの実業家は私の友人にこう言った。「私なら教会に何を求めるか，知りたいと思いませんか。ただひとつ，教会の信者が『自分を愛するように隣り人を愛せよ』という救い主の教えを実行しているかどうかということです。」

私の友人は，この経験からひとつの大切な教訓を学んだ。つまり彼は，これらのプログラムの目的は，教会員が神と隣人を愛せるようになるよう援助を与えることであるということも知らずに，教会のプログラムをあの紳士に教えていたのである。私はその友人の許可をいただいて，きょう皆さんに彼の経験をお話した次第である。ここで皆さんと，次の聖句について考えてみたい。

「心をつくし，精神をつくし，思いをつくし，力をつくして，主なるあなたの神を愛せよ』。

第二はこれである，『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事ないましめは，ほかにない。」（マルコ12：30—31）

故郷を離れ，友人，家族を残し，安穏と安楽をあとにイエス・キリストの福音の教えを携えて全世界の見知らぬ隣人たちの中へ出で行く，あの友人の息子と，同じく2万7千人の若者たちを駆り立てる力は，ほかならぬ主と隣人とに対するこの愛なのである。私たちが犠牲をいとわずすべてを尽くして，自分の生活に喜びと幸せをもたらした教えを伝えようとするのは，とりもなおさず主と隣人を愛しているからである。末日聖徒は神が生きておられることを宣言する。神は全人類を愛しておられる。神は，悔い改めて従うすべての人々を，永遠の喜びと幸福に導いて下さるのである。

世の人々は現在何か信じられるものを求めてさ迷っているように思われる。最近一流出版社が行なった全国的な調査から明らかなように，人々は今キリスト教徒の生活の基盤をなす信仰に活力を呼びもどす宗教，……先祖が抱いていた力強さを与えてくれる宗教，……家族関係を密にしてくれる宗教，……この偉大な国を築きあげた開拓者魂を呼びさましてくれる宗教を切実に欲している。（1978年8月15日，リトルページ広告会社調査報告より）この調査結果を見ると，末日聖徒イエス・キリスト教会の基本概念が人々の求めている宗教と合致していることが分かる。ニューヨークに本拠を置くある出版社は次のように論評している。「混迷の時代に，彼ら（モルモン教徒）はきわめて明確な答えを提示している。……人心の転換を待ち望んでいるこの一大世界において……近い将来における彼らの発展の見通しは明るい。」

先日，11歳になる私の娘クリステンが，心配なことがあると言って私の所にやって来た。

より善い，義しい生活を希求する人ならだれでも同じ思いを抱いているのではないだろうか。娘はこう言った。「パパ，イエス様のような生活を一日だけでもするようにって言われたの。でも，1週間頑張ってもできないの。毎日，きょうこそは頑張ろうって思うのよ。でも，できなくって，また次の日ってなるの。」

私はこのようなジレンマを経験する人たちからよく相談を受ける。彼らは自分の生活を正したい，変えたいと思っている。しかし，何回も失敗を重ねて，罪の重荷を下ろす方法はもうないと感じている。逃れる望みもなく，悲しみと絶望に打ち沈んでいるのである。

私たちは皆神を愛するように言われている。その神が私たちに対して完全な愛をもっておられることを忘れてはならない。世の人々は皆，救い主の愛に伴う大いなる贖いの力を知る必要がある。主は私たちを深く愛しておられる。私たちが悔い改めて主の教えに立ち返るならば，主は私たちの犯した悪い行ないを赦し，それを忘れると約束して下さっている。（教義と聖約58：42参照）また，私たちを深く愛しておられることから，罪の代価を喜んで支払って下さったのである。主は私たちのために苦しみ，私たちのために死なれた。また主は，「わたしに従ってきなさい」と言われた。重荷を主にゆだねていただきたい。救い主の願いは，私たちを引き上げ，助け，導き，そして救うことである。

ヘンリー・ドラモンドが書いた，キリストの愛をテーマとした古典文学に，死を間近にした少年を見舞った男の話がある。男は片手を少年の頭に按いて慰めた。「『坊や，神様は君を愛しているよ。』すると少年はベッドから身を起こし，家中の人々に『神様はぼくを愛してる！　神様はぼくを愛してる！』と大声で叫んだ。このわずかひと言が少年を変えた。神から愛されているという気持ちが少年の全身をめぐり，気持ちを和らげ，新たな活力を生み出したのである。これこそ，神の愛がかたくなな人の心をとかして，忍耐強く，謙虚で，穏やかな無私の人間を出み出すさまである。これ以外に方法はない。何も不思議なことはない。私たちは人々を愛し，一人一人を愛し，敵をも愛する。それは，神が初めに私たちを愛して下さったからである。」（*The Greatest Thing in the World*「世界で最も大いなるもの」pp. 47—48）

このような主の深い愛を知ると，主と隣人に対する私たちの態度はますます変わってくる。主は言われた。「わたしがあなたがたを愛したように，あなたがたも互に愛し合いなさい。」（ヨハネ13：34）

何週間か前に，私はある人から贈り物をいただいた。美しい包みをほどき，中から出てきたものを見て一瞬驚いた。それは高価な品物であった。以前その贈り主の事務室で見た時に，それが調法で素晴らしいことをほめたことがあった。造りも精巧で，非常に高価なものである。私がこの大切な贈り物に心を動かされたのは，それが高価だからというのではなく，贈り主の大きな愛を知ったからである。その品物は贈り主自信にとってもお金では買うことのできない大切な物であった。彼自身もそれを愛する人から贈られ，そのことから励ましを得，幸せを得たのだった。それが今度は私を幸せにするために私への愛のしるしとしてその最も貴重な宝を贈って下さったのである。

このキリストのような愛の模範をはじめ，家庭や教会で出会う人々の間で示される様々な愛の贈り物に，私は心から感謝している。このような経験から，私は自己を奮い立たせ，自分も人々に愛を示そうという望みを培ってきた。

願わくは，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である私たちがまずこの一番大切な戒めをよく覚え，実践できるように。そして心を尽くし，精神を尽くし，思いを尽くし，力を尽くして，主を愛するように。神のすべての戒めに従い，私たちの最大の愛の贈り物で

あるイエス・キリストの福音を隣人に分かち，その愛を示すことができるように。私はこのイエス・キリストの福音が真実であり，この地上にある最大の主であることを証する。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

十二使徒評議員会会員
ハワード・W・ハンター

真実の宗教

同胞に十分な愛を示せないからといって自分には宗教心がないとする人は，実に気の毒である

少し以前に，国のさる有力者との会見記を読んだことがある。彼は自分の現在の関心事を問われてこう答えた。「私は格別に宗教心のある人間ではありませんが，宗教によって勧められている行動にはどうも私にはしっくりこない何かがあります。」私はその言葉を聞いて，彼がどうして政治や社会の問題を宗教と結び付けるのか，またどうして自分を宗教的な人間でないと考えたのか合点が行かなかった。その疑問の答えは，宗教の定義にある。

「宗教（*religion*)」という言葉にはこれという定まった定義があるわけではない。時には私的，公的を問わず礼拝を指して使われる。また，神聖なものと世俗的なものを区別するために使われることもある。霊魂不滅を信じることが宗教的であると見る人もいる。宗教という言葉のごく一般的な意味あいは，神もしくは神々に対する信仰，すなわち神を礼拝することである。「宗教」という言葉はいわゆる救いの追求，または神聖な源から来る啓示と関連付けて用いられる。

ジョセフ・スミスは教会が組織されて間もなく，自分にあてられた質問状の回答を公にした。その質問のひとつに，「あなたの宗教の基本原理は何ですか」というのがあった。それに対してジョセフ・スミスはこう答えている。「私たちの宗教の基本原理は，使徒，予言者の証である。すなわち，イエス・キリストが亡くなり，葬られ，3日目によみがえって天に昇られたことについて立てた証である。私たちの宗教のその他のことはすべて，この証に加えられた補足にすぎない。」（ジョセフ・スミス，*History of the Church*「教会歴史」3：30）

聖典には，多くの事柄について定義を見いだすことができる。しかし聖書が一種の宗教専門書と言われながら，旧約聖書には「宗教（*religion*)」という言葉が見当たらず，新約聖書にわずか数カ所出てくるだけというのも興味深い。その箇所をここで取り上げてみたい。

「宗教」という語が初めて出てくるのは，アグリッパ王の前で信仰を擁護したパウロの言葉である。パウロはアグリッパ王に，「わたしは，わたしたちの宗教の最も厳格な派にしたがって，パリサイ人としての生活をしていたのです」（使徒26：5）と言った。パウロはユダヤ人の3つの宗派，すなわちパリサイ派，サドカイ派，エッセネ派を引き合いに出して，自分はその中でも一番厳格なパリサイ人として生活していたと述べたのである。ユダヤ人は教義よりも儀式，信条よりも典礼を重んじたので，パウロも宗教の教義や信条ではなく，むしろ礼拝の形式のことを問題にしている。

次に「宗教」という言葉が登場するのは，これもパウロがガラテヤ人へあてた書簡にある。パウロはこう述べている。「ユダヤ教（*Jews'religion*）を信じていたころのわたしの行動については，あなたがたはすでによく聞いている。すなわち，わたしは激しく神の教会を迫害し，また荒しまわっていた。」（ガラテヤ1：13）パウロがキリストに従う者やキリスト教徒であ

ると告白する者を迫害したことはよく知られているが，一体彼はなぜあのようなことをしたのであろうか。何がパウロを残忍な行動に走らせたのであろうか。パウロはその疑問に答えて，自分は先祖の宗教，すなわちヘブル人として先祖から受け継いできた習慣，律法，そして鉄のように厳しい規則を持つ宗教に従って生活していたからであると述べている。そのような鉄の規律が，パウロをキリストの弟子に対する容赦のない迫害に駆り立てたのである。パウロはガラテヤ人への書簡の中でも，アグリッパ王に弁明した時と同じように，宗教を教義や信仰としてよりも規律としてとらえている。

次に新約聖書に出て来る3番目の「宗教」という言葉であるが，それは，「離散している十二部族の人々へ」(ヤコブ1：1)書かれたヤコブの手紙の中にある。「もし人が信仰深い者だと自任しながら，舌を制することをせず，自分の心を欺いているならば，その人の信心（*religion*）はむなしいものである。」(ヤコブ1：26)

ヤコブはここでパウロが述べた礼拝の形式や厳格な規律とは一線を画した清い宗教というものを簡明に定義している。ヤコブはこう言った。「父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは，困っている孤児や，やもめを見舞い，自らは世の汚れに染まずに，身を清く保つことにほかならない。」(ヤコブ1：27）この言葉は簡単で気取りはみじんもないが，その意味するところは深く，計り知れない重みがある。「孤児や，やもめを見舞い」という言葉は，私たちに隣人や同胞を思いやるべきことを思い出させてくれる。これは，救い主が愛としてしばしば語られた教えでもある。主は次のように言われた。「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」(マタイ22：39）これがヤコブの言う神への愛と献身であり，隣人に愛をもって仕えることである。ヤコブはそれを，孤児ややもめを例に取って語ったのである。

ヤコブが述べた宗教の定義の第2は，「世の汚れに染まらない」ことである。世の汚れに染まらないとは，簡単に言えば，世のものとならず，罪や不義の汚れから離れることである。パウロはこのことについて，ローマ人への手紙の中でこう語っている。「あなたがたは，この世と妥協してはならない。」(ローマ12：2)

つまりヤコブは，真実の宗教とは世のものとならず，隣人に愛と思いやりを示すことによって表わされる神への献身であると言っている。こういうと簡単すぎて舌足らずに見えるが，この言葉の中には重要な真理が含まれている。換言すれば，真実の宗教とは罪から離れる（すなわち汚れに染まらない）だけでなく，誠心誠意親切を尽くし，奉仕の業を行なうことであると言える。

ベンジャミン王は，塔の上から民に語った時，すでにこのことを悟っていた。王は自分が人民への奉仕に日々を捧げてきたことを次のように語った。「これを自慢したいと思って言ったのではない。私が務めたのはただ神のために務めただけである。

ごらん，私がこれらのことを言うのはお前たちに知識を与えるためであって，またお前たちが同胞のために務めるのは，ただお前たちの神のために務めるのであることを悟らせるためである。」(モーサヤ2：16―17)

マタイによる福音書には，次のように記されている。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは，すなわち，わたしにしたのである。」(マタイ25：40)

予言者ジョセフ・スミスの生涯はこれと同じ属性，すなわち友人や同胞，全人類，そして神に対する奉仕がうかがわれる。ジョセフの親友であったジョン・テイラーが予言者の沈んだ気持ちを慰めるために歌を歌ったのは，予言者ジョセフがカーセージの獄内に捕われ殉教する丁度2時間前のことであった。この歌は困っている人を助け，飢えて死にそうな人にパンを分け与えるという歌詞に始まっ

ている。その中から少し抜粋してみよう。

悩める旅人　われの前過ぎて
われの断り得ぬ　助けをもとむ
何処のものか　その名も聞き得ねど
故(ゆえ)知らず其の眼に　わが愛惹(ひ)かる

食べ物少きとき　かれ来たりて
食事を求めぬ　われはみな与う
彼は祝して食べ　われにも分けぬ
すぐそれ食べれば　屑(くず)はマナなりき

これに続く節には，渇いた人に飲ませ，裸の人に着せ，疲れた人を休ませ，傷ついた人を治し，獄舎にいる人の苦しみを分かつことが歌われている。そして最後の節で，救い主がそのみ姿を現わされる。

この旅人見る間に　姿かわり
救い主となり　わが前に立ちぬ
「恐るな，わがため　恥じずなせしわざ
おぼえらる」とわれ　呼びて言いたまいぬ
（讃美歌　149番）

同胞に関心と思いやりを示す十分な愛が持てないからといって自分には宗教心がないとする人は，実に気の毒である。主はこう言われるであろう。「『これらの最も小さい者のひとりにしなかったのは，すなわち，わたしにしなかったのである。』

そして彼らは永遠の刑罰を受け，正しい道は永遠の生命に入るであろう。」（マタイ25：45—46）

ジョセフ・F・スミス大管長は，かつてこう記している。「自分には生来宗教心がないなどと言ってはならない。またそう言って，悪い行ないや禁じられた行為……の口実にしてはならない。……まことの宗教の意味を心に留めて，外見においても，実質においても宗教心のある人となりなさい。イエスの証が予言のみたまであるように，あなたが純潔，正義，正直，公正，善行を愛することは，とりもなおさず生まれつき宗教心があることの，確かな証拠である。」

スミス大管長はこう続けている。「あなたの心を調べてご覧なさい。きっと心の奥底にこの特質があることが分かるであろう。それが分かったら，この特質を伸ばし，育んで，自分の救いを得られるようにしなさい。」（“Not Naturally Religious” *Improvement Era*『生来宗教心がないと言う人』インプルーブメント・エラ1906年4月号，p. 495）

私たちが同胞に仕え，世の汚れに染まらず，真実宗教心のある者として主に認められる者となるように，イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

第二副管長
マリオン・G・ロムニー

人　の　値

永遠の生命を得る望みを持ち，行動を起こすことが必要である

愛する兄弟姉妹の皆様，私はこれから人の値ということについてお話したいと思う。したがってその間，主のみたまがあるように，ともに祈っていただきたい。

今から丁度58年前の秋に，伝道の召しを受けて教会本部を後にした時，私はこの手に一枚の指示書を握りしめていた。それには次のような聖句が記されていた。

「汝ら，人の値は神の前に大いなることを憶えよ。

見よ，そは汝らの贖い主なる主は肉体にて死を受けたればなり。これを以て彼はすべての人々の悔い改めて彼に来らんために，すべての人々の苦を受けたり。」（教義と聖約18：10

—11）

ここで主は，ご自分が「すべての人々の苦」を受けたことを述べ，また人の値が非常に高いことを強調しておられる。この言葉の重みはその苦しみがどれ程大きかったかを知れば一層明確になる。ルカはゲッセマネの園におけるキリストの祈りを次のように記している。

「そしてご自分は，……ひざまずいて，祈って言われた，

『父よ，みこころならば，どうぞ，この杯をわたしから取りのけて下さい。しかし，私の思いではなく，みこころがなるようにして下さい。』

そのとき，御使が天からあらわれてイエスを力づけた。

イエスは苦しみもだえて，ますます切に祈られた。そして，その汗が血のしたたりのように地に落ちた。」（ルカ22：41—44）

それから1800年の後，主は自らその時の苦しみについて次のように述べられた。

「今われ汝に命ず，悔い改めよ。……汝の痛苦甚しからざらんがために悔い改めよ。すなわちその痛苦の如何に甚しきかを汝知らず，その如何に強烈なるかを汝知らず，また如何に堪え難きかを汝知らざるなり。

見よ，われは神なるに，人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために，すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。

されど，人もし悔い改めずば誠にわれと同じ苦しみを受けざるべからず。

その苦しみたるや，われ神，すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ，あらゆる毛の孔より血を湧かせ，身と霊と両（ふた）つながらを苦しめ，すなわちこの苦きさかずきより呑まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。

然はあれども，父なる神は讃（ほ）むべきかな。さればわれはこの苦しみをなめ，人の子らの為に準備を為し終りたり。」（教義と聖約19：15—19）

この近代の聖典に記されているように，主が人の値を高く評価しておられることは，古代の予言者に与えられた啓示からも明らかである。主は人の値がいかに高いものであるかを予言者の心に銘記されるために，何人かの予言者たちに大いなる創造物をかいま見させ，ついでそれらの創造物が「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」（モーセ1：39）という目的を達成させるためのものであることを告げられた。

エノクは神の創造物を示現で見た後に，次のように宣言した。「人もしこの世界と言う微粒子，げにかくの如き幾百万の世界を数え得たりとすれば，そは主の造りたまいしものの数の始めにはあらざらん。」（モーセ7：30）

主は同じくモーセにも創造の模様を示して言われた。「われは，無数の世界を創りたり。……

一つの世界とそれにつける天の過ぎ行く時は，誠に別の生活を生ず。かくしてわが業にもまたわが言にも終りなし。

見よ，これわが業にしてわが栄光，すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」（モーセ1：33，38—39）

これらの聖句は詩篇作者の疑問に対する答えでもある。

「わたしは，あなたの指のわざなる天を見，あなたが設けられた月と星とを見て思います。

人は何者なので，これをみ心にとめられるのですか，

人は何者なので，これを顧みられるのですか。

ただ少しく人を神よりも低く造って，
栄えと誉とをこうむらせ，
これにみ手のわざを治めさせ，
よろずの物をその足の下におかれました。」
（詩篇8：3—6）

この計り知れない価値を有する人間とは一体何だろうか。この深遠な疑問に対する答えは，天からの直接の啓示による以外に得ることはできない。それが重要であればこそ，神が御自ら人々に語りかけ，また天使を遣わさ

れたのである。このことはまず時の初めにアダムとイヴに啓示された。そして，それぞれの福音の神権時代に「主が選びたもう者」（モロナイ7：31），すなわち主の予言者たちに明らかにされてきたのである。

予言者たちは主から告げ知らされたこれらの真理を忠実に証した。これは，民がふさわしい限り，聖霊の力によってこの真理を知ることができるようにするためである。（モロナイ7：32参照）

このようにして，私たちは人が何者であり，何なのかを知った。私たちはこのような知識を与えて下さった神に感謝と賛美を呈したい。そして，私たちは今次のことをはっきりと証することができる。

人間は二元性の存在，すなわち霊と肉体から成る生命体である。霊はこの地球が創造されるはるか昔，前世において個々に独立して存在していた。事実，この地球は霊が死すべき体を受ける場所として特別に創造されたものである。

霊の特質について聖典の中で最も明確に述べられている箇所は，イエスが紀元前2200年に霊体でジェレドの兄弟にみ姿を現わされたところである。イエスはその時，次のように言われた。

「見よ。……われはイエス・キリストなり。

汝らがわが形にかたどりて造られたることを今汝は見ずや。最初に一切の人々はわが形にかたどりて造られたり。

見よ，今汝が見るこの体はわが霊体なり。われはわが霊の体にかたどりて人を造れり。われは今わが霊のまま汝に現わるると同じ形の肉体を具えてわが民にもまた現われん』と。」（イテル3：14―16）

このことから，肉体は霊の体にかたどって造られたことが明らかである。

人の起源

人は本来，神の息子である。人の霊は「神より生れたる息子と娘」（教義と聖約76：24）なのである。独立して存在していた英和は，この誕生の過程を経て，それぞれ霊の存在として組織されたのである。

人の行く末

霊たちは前世における自らの行ないによって，次のふたつの特権を与えられた。(1) 霊の幕屋である骨肉の体を有する特権，(2) 生ける霊の結合体として不死不滅の状態になること。

このふたつの目的を達成させるために次のような計画が定められた。(1) 誕生。誕生を経て霊は骨肉の体を得る。(2) 死。死によって，霊と体は一時的に分離する。(3) 復活。霊と体は贖われて再び結合し，二度と分離しないようになる。

こうして主がモーセに言われた「これわが業にしてわが栄光，すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり」（モーセ1：39）というみ言葉が完成するのである。キリストは死に打ち勝ち，ここで言われている不死不滅の肉体をすでに受けておられる。

しかし，それだけではない。主は人々のために，それ以上のことを行なわれた。

キリストの贖罪によって人々が永遠の生命を得られるように道を開いて下さったことである。主はすべての人に不死不滅を保証された。しかし，必ずしも永遠の生命は保証しておられない。

不死不滅の体を得た人々の間には，階級の違いが生じるであろう。「この星とあの星との間に，栄光の差がある。死人の復活も，また同様である。」（Ｉコリント15：41―42）パウロはこのように教えている。

不死不滅とは，終わりのない生活を意味する。

一方，永遠の生命とは生活の程度，すなわち不死不滅の最高の状態，昇栄，神ご自身が享受されておられる生活を意味している。

人間の可能性

この永遠の生命へ到達する過程で，人は各自の可能性を最大限に伸ばす必要がある。しかもそれをこの世で達成しなければならない。神ご自身，栄光を受け，復活し，不死不滅と永遠の生命を受けられた御方である。その神の子供である人間は宇宙を支配する自然の法則に従う限り，天父の得ておられる最高の状態。すなわち完全の域に到達する可能性を持っているのである。ヨハネはこの真理について次のように記している。「わたしたちは今や神の子である。しかし，わたしたちがどうなるのか，まだ明らかではない。彼が現わる時，わたしたちは，自分たちが彼に似るものとなることを知っている。」（Ⅰヨハネ3：2）

このような高い状態に至ることの必要性について，主はこう命じられた。「それだから，あなたがたの父が完全であられるように，あなたがたも完全な者となりなさい。」（マタイ5：48）

永遠の生命は，福音の律法と儀式に従う者にのみ与えられるのである。イエスはこう言われた。「永遠の生命に行く道は細く，その門は狭くしてこれを見出す者は少し。」（Ⅲニーファイ27：33）

イエスは永遠の生命に至る門は狭く，その道が細いことをしばしば民に教え，警告された。このことは聖典のほかの箇所にも記述されている。しかし同時に，入るその門と道にふさわしい者すべてに開かれていることを明らかにしておられる。主は次のように述べておられる。

「誠に，主かくの如く言う。その罪を捨ててわれに来り，わが名を呼び，わが声に従い，わが誡命を守るあらゆる人々は，わが面を見てわれ在るを知ることあらん。

われこれらのことばを汝らに告ぐるは，汝らわが言うところを聞きて礼拝の方法を覚りて知り，礼拝するものを知り，かくしてわが名によりて御使に来り，而して時至りて御父の完きを受けんがためなり。

もし汝らわが誡命を守らば，御父の完きを受け，わが御父に於ける如く，汝らわれにありて栄を得べし。」（教義と聖約93：1，19—20）

主ご自身が述べておられるように，人に永遠の生命をもたらすことこそ，神の無上のみ業であり，栄光なのである。

人の値はこのように尊い。確かに「人の値は神の前にて大いなる」（教義と聖約18：10）ものである。したがって，人にとっても価値のあるものでなければならない。

人に永遠の生命をもたらすことが神のみ業であり，栄光であるとするならば，私たち自身，永遠の生命を得る望みを持ち，行動を起こすことが必要である。さらに，自分だけでなく，同胞にも永遠の生命をもたらすようにしなければならない。そして，人がそれぞれ自分は何者であり，何なのか，すなわち自分の属性，起源，行く末，可能性を完全に理解するならば，それができるはずである。

永遠の生命に比べると，そのほかのものはすべて取るに足らず，まったく価値がない。そのことについて，イエスは次のように述べておられる。

「人が全世界をもうけても，自分の命を損したら，なんの得になろうか。

また，人はどんな代価を払って，その命を買いもどすことができようか。」（マルコ8：36—37）

最後に，この大会の話を聴きながら，しかも回復されたイエス・キリストの福音をまだ受け入れていない友人の皆様に短かいメッセージをお送りしたい。

これまで述べてきた人の値に関する真理は，決して目新しいことではない。先程もお話ししたように，このことは時の初めにすでにアダムに啓示されていた。そしてアダムは自分の子供たちにそれを伝えた。また，その後の神権時代においても，この真理が繰り返し人々に明らかにされてきた。また，時の絶頂に至っては，イエス御自ら，世の人々にこのことを教えられたのである。

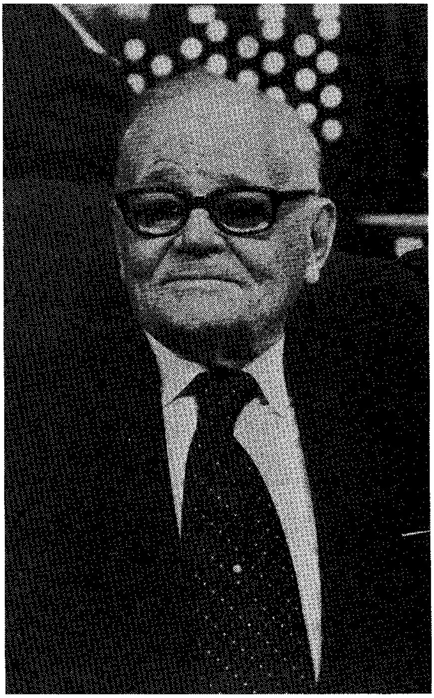
きょう皆様にお伝えしたい特別なメッセージは，聖典の中で時満ちたる神権時代と呼ばれているこの時代に，主は再び天を開かれたということである。そして人の属性，起源，行く末，そして，可能性が再び私たちに告げ知らされたのである。御父と御子イエス・キリスト，さらに古代の使徒や予言者たちは，主が選びたもうた近代の予言者を訪れ，これらの真理と，イエス・キリストの永遠の福音につけるすべての純粋で，分かり易い原則，儀式，教えを回復し，確認された。

福音の儀式を執行する権能である神権は，再び人間の手にゆだねられた。そしてキリストは再びこの地上にご自身の教会を設立されたのである。この教会には，私たちが永遠の生命を得るために，この世でしなければならないすべての事柄を行なう完全な権能がある。それは決して人自らの力でできるものではない。

私たちは皆様を心から愛している。皆様が天父なる神の家庭の兄弟，姉妹であることを私は知っている。きょう，皆様が大会の話を聴いて下さったことを私たちは心から感謝したいと思う。同時に，是非皆様にこの教会の教えを学ぶようにお勧めしたい。皆様が心を開き，祈りの気持ちをもって「イエス・キリストのみ名により，永遠の父なる神に問うならば，神は聖霊の力によって，これらの事柄が真実であるかどうか」（モロナイ10：4）を示して下さるであろう。

私たちはこの回復されたメッセージを是非皆様に知っていただきたいと願っている。皆様にその気持ちがおありならば，教会の資料をお送りするか，お届けしたい。あるいは，皆様のご都合が良い時においでいただければ，このメッセージをお伝えしたいと思う。私たちはこのみ業を推し進めるために，この身を主に捧げている。私たちはその目的のために召されているのである。私たちは古代におけるキリストの弟子たちと同じ責任を受けている。主イエスは私たちに向かって，「汝ら全世界に出で行き，一切の生くる者に福音を説き……」（教義と聖約68：8）と言われた。

これらのことが真実であることを証申し上げたい。もし皆様がこれらのことを理解し，受け入れるならば，ほかでは得ることのできない人の値の尊さを知るはずである。それは皆様を永遠の生命に通じる道に導き，ひいては皆様の生活が変わり，人知で測り知ることのできない平安がもたらされることであろう。そのようになるようイエス・キリストのみ名によりへりくだり祈るものである。アーメン。

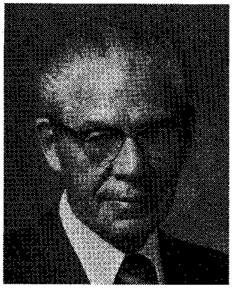
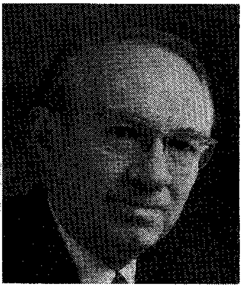


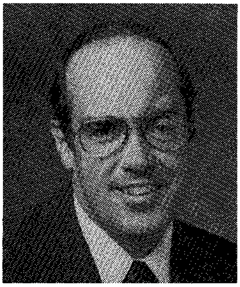
第二副管長　マリオン・G・ロムニー

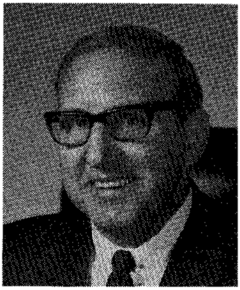
1978年9月30日(土)

午後の部における説教

末日聖徒イエス・キリスト教会第148回半期総大会報告

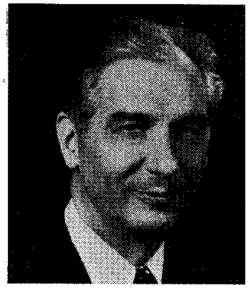
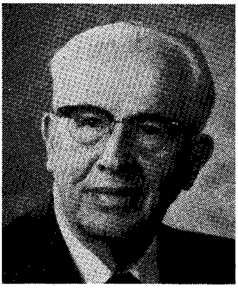







N・エルドン・タナー
第一副管長

テディー・E・
ブルーアートン長老

F・バートン・
ハワード長老

ボーン・J・
フェザーストーン長老

ゴードン・B・ヒンクレー長老　ジェームズ・E・ファウスト長老

ジャック・H・ゴースリンド・ジュニア長老　ロバート・E・ウェルズ長老

J・トーマス・ファイアンズ長老　エズラ・タフト・ベンソン長老

第一副管長
N・エルドン・タナー

神権に関する啓示と教会役員の支持

去る6月初旬に，大管長会は，教会の資格ある男性会員全員に神権と神殿の祝福を授けることができるという啓示がスペンサー・W・キンボール大管長に下されたと発表しました。キンボール大管長の要請により，この啓示が発表されるに至った次第をご説明致します。まず大管長は聖なる神殿の神聖な部屋で長い時間瞑想し，祈った後にこの啓示を受けました。そしてその後，大管長はそれを副管長に提示し，副管長はそれを受け入れ，承認しました。次いで十二使徒定員会に提示され，十二使徒定員会も全会一致でそれを承認しました。引き続きこの啓示は他の教会幹部全員に提示され，同様に全会一致で承認されました。

キンボール大管長の要請に従い，ここで大管長会の書簡を朗読させていただきます。

「1978年6月8日
末日聖徒イエス・キリスト教会の神権役員各位
拝　啓

現在世界各地で主のみ業が進展しており，多くの国々の民が回復されたメッセージを受け入れ，群をなして教会に加わっています。私たちはこのような発展を感謝しています。このことから私たちは，立派な生活を送っているすべての教会員に，福音のもたらすあらゆる特権と祝福が与えられるように望む気持ちを持つよう霊感されました。

神の永遠の計画の中でいつの日か，すべての資格ある兄弟たちが神権を受けるようになるであろうと約束している過去の予言者や大管長の言葉を知っていた私たちは，神権を差し止められている兄弟たちの忠実な姿を目にして，これら忠実な兄弟たちのために長い間，熱心に主に願って参りました。私たちは，何時間もの間，神殿の一室で主に導きを願い求めました。

その結果，主は私たちの祈りを聞き届けて下さいました。長い間待ちこがれていた約束の日が訪れたことを，主は啓示によって私たちに確認して下さいました。すなわち，教会の忠実で資格ある男性会員はすべて，聖なる神権を，その神聖な権能を行使する権威と共に受けることができ，またそれに伴い，神殿の祝福を初めとするすべての祝福を愛する者と共に享受できる日が訪れたのです。従って今後，教会のすべての資格ある男性会員は，人種や肌の色を問わず，神権への聖任を受けることができます。神権指導者は，アロン神権，メルケゼデク神権，いずれの場合も，聖任を受けようとする人が規定の標準にかなった生活をしているかどうか，教会の方針に従って入念な面接を行なうようにして下さい。

主は，主の承認したもう僕の声に耳を傾け，福音のあらゆる祝福を得ようと自らを備える全世界の主の子らすべてに祝福を与えようとしておられます。私たちは，主がそのようなみこころを今私たちに知らせて下さったことを，ここに謹んで宣言します。

敬　具

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー
大管長会　」

私たちは，スペンサー・W・キンボールを予言者，聖見者，啓示を受ける者，末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として認め，この啓示を主のみ言葉とし，みこころとして受け入れるように皆さんに提議致します。この提議に賛成の方は右手を挙げてその意を表

わして下さい。反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

キンボール大管長，全会一致の支持が得られたようです。これで動議は通過致しました。

次に，教会幹部と役員の支持を願う前に，キンボール大管長からの次の声明をお読みしたいと思います。

現在，全世界的に教会の発展が著しく，それに伴って教会幹部の旅行の頻度が増し，責任が重くなっております。そこで，何人かの教会幹部の兄弟たちのために，職務の変更を考慮する必要が生じて参りました。その兄弟たちは，長年，無私の愛をもって献身的に奉仕の業に携わり，賞賛を受けるにふさわしい立派な働きをして参りました。そこでこの度，これまで負ってきた責任を軽減するのが賢明であると判断致しました。

私たちは長い間，実際には数年にわたって，よく祈り考慮し，検討した結果，教会幹部の兄弟たちに必要に応じて新しい特別な地位を与えることとしました。すなわち，ある兄弟たちを，七十人第一定員会の名誉会員に任じることに致しました。これらの兄弟たちは七十人第一定員会から解任はされませんが，実際の業務には携わりません。これは，当人の状態を考慮し，献身的な奉仕に対する感謝を表わすものであり，今後も，必要に応じてこの称号が与えられることになります。

ではこれから，教会幹部と中央役員，中央補助組織役員の支持をお願い致します。

私たちは予言者，聖見者，啓示を受ける者，末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてスペンサー・W・キンボールを支持して下さるよう提議致します。この提議に賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

大管長会第一副管長としてナサン・エルドン・タナーを，第二副管長としてマリオン・G・ロムニーを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会長としてエズラ・タフト・ベンソンを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会員として，エズラ・タフト・ベンソン，マーク・E・ピーターセン，リグランド・リチャーズ，ハワード・W・ハンター，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，ブルース・R・マッコンキー，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイト，ジェームズ・E・ファウストを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

教会の大祝福師としてエルドレッド・G・スミスを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

大管長会副管長，十二使徒，大祝福師を予言者，聖見者，啓示を受ける者として支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

私たちはスペンサー・W・キンボールを末日聖徒イエス・キリスト教会信託管理人として支持するよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

七十人第一定員会会長会ならびに七十人第一定員会会員として，フランクリン・D・リチャーズ，J・トーマス・ファイアンズ，A・セオドア・タトル，ニール・A・マックスウェル，マリオン・D・ハンクス，ポール・H・ダン，W・グラント・バンガーターを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

その他の七十人第一定員会会員として，セ

オドア・M・バートン，バーナード・P・ブロックバンク，ロバート・L・シンプソン，O・レスリー・ストーン，ロバート・D・ヘイルズ，アドニー・Y・小松，ジョセフ・B・ワースリン，ハートマン・レクター・ジュニア，ローレン・C・ダン，レックス・D・ピネガー，ジーン・R・クック，チャールズ・A・ディディエ，ウイリアム・R・ブラッドフォード，ジョージ・P・リー，カーロス・E・エイシー，M・ラッセル・バラード・ジュニア，ジョン・H・グローバーグ，ジェイコブ・ディエガー，ボーン・J・フェザーストーン，ディーン・L・ラーセン，ロイデン・G・デリック，ロバート・E・ウエルズ，G・ホーマー・ダラム，ジェームズ・M・パラモア，リチャード・G・スコット，ヒュー・W・ピノック，F・エンツィオ・ブッシェ，菊地良彦，ロナルド・E・ポールマン，デリック・A・カスバート，ロバート・L・バックマン，レックス・C・リーブ・シニア，F・バートン・ハワード，テディー・E・ブルーアートン，ジャック・H・ゴースリンド・ジュニアを，また七十人第一定員会名誉会員としてスターリング・W・シル，ヘンリー・D・テイラー，ジェームズ・A・カリモア，ジョセフ・アンダーソン，ウイリアム・H・ベネット，ジョン・H・バンデンバーグ，S・デルワース・ヤングを，それぞれ支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

管理監督会の管理監督としてビクター・L・ブラウンを，第一副監督としてH・バーク・ピーターソンを，第二副監督としてJ・リチャード・クラークを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

地区代表として，全地区代表を現状のままで支持して下さるように。

扶助協会，会長としてバーバラ・ブラッドショー・スミスを，第一副会長としてジャナス・ラッセル・キャノンを，第二副会長としてマリアン・リチャード・ボイヤーを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

日曜学校，会長としてラッセル・M・ネルソンを，第一副会長としてジョー・J・クリステンセンを，第二副会長としてウイリアム・D・オズワルドを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

若い男性，会長としてニール・D・シェイラーを，第一副会長としてグラハム・W・ドクシーを，第二副会長としてクイン・G・マッケイを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

若い女性，会長としてエレイン・A・キャノンを，第一副会長としてアーリン・B・ダーガーを，第二副会長としてノーマ・B・スミスを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

初等協会，会長としてナオミ・マックスフィールド・シャムウェイを，第一副会長としてコーリン・ブッシュマン・レモンを，第二副会長としてドロシア・ルー・クリスチャンセン・マードックを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

教会教育委員会，委員としてスペンサー・W・キンボール，N・エルドン・タナー，マリオン・G・ロムニー，エズラ・タフト・ベンソン，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，ニール・A・マックスウェル，マリオン・D・ハンクス，ビクター・L・ブラウン，バーバラ・B・スミスを支持して下さるように提議致します。

賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

教会財務委員会，委員としてウイルフォー

ド・G・エドリング，ハロルド・H・ベネッド，ウェストン・E・ハミルトン，デビッド・M・ケネディー，ウォーレン・E・ピューを支持して下さるように。

タバナクル合唱団,団長としてオークレー・S・エバンズを，指揮者としてジェラルド・D・オタリーを，准指揮者としてドナルド・H・リプリンガーを，タバナクルオルガニストとしてロバート・カンディック，ロイ・M・ダーリー，ジョン・ロングハーストを支持して下さるように。

以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

キンボール大管長，以上の役員および教会幹部に対して全会一致の支持が得られたようです。

十二使徒評議員会会員
ゴードン・B・ヒンクレー

「汝らの子供たちを見よ」

両親の子供に対する責任は，彼らを愛し，教え，敬い，彼らと共に，また彼らのために祈ることである

愛する兄弟姉妹の皆さん，ここで大切な話の責任をいただき，聖きみたまの導きを祈っている。

先日，私は数人の孫を連れてサーカスを見に行った。私は，空中ブランコの曲芸師よりも，孫たちやそこにいた大勢の子供たちに興味を引かれた。私は，子供たちが目の前で繰り広げられる曲芸を目を皿のようにして見入り，また大声で笑う様子をあっけに取られて眺めていた。そして，世の中の生活とその目的を絶えず新鮮なものにしてくれる子供の不思議な力のことを考えた。そのようなサーカスのざわめきの中でさえも好奇心を駆り立ててくる子供たちの様子を見ながら，私の心はニーファイ第三書に記録されているあの美しく感動的な光景に飛んでいた。復活された主は子供たちを抱き寄せ，涙を流し，祝福を与えて言われた。「汝らの子供たちを見よ。」（IIIニーファイ17：23）

今日の世の善と悪は，過去の子供たちを育てた人々のもたらした結実である。同様に，私たちが次の世代を担う若人をどのように訓練するかによって，数年後の世界が決まるのである。将来が心配であれば，まず自分の子供の教育について考えてみることである。賢明にも，箴言の著者はこう宣言している。「子をその行くべき道に従って教えよ，そうすれば年老いても，それを離れることがない。」（箴言22：6）

少年の頃，夏になると私たちは果樹園で働いた。そして桃を沢山収穫した。父は，私たちを農業大学で開かれた枝の刈り込み方の講習会に連れて行ってくれた。そして1月と2月には，毎週土曜日に，果樹園に行き，枝の刈り込みをした。その経験から，はさみやのこぎりで枝を適切に刈り込めば，たとえ雪に覆われ木が枯れたようになっていても，春や夏に太陽の光がすべての枝によく当たり，多くの収穫を得られるということを学んだ。またさらに進んで，9月にどのような実を収穫できるかを2月に予測できるということも分かった。

E・T・サリバンは，かつて次のような興味深い言葉を残している。「神はこの世で大いなるみ業を行ない，不正を改めようとされる時に，特別な方法をお使いになる。神はこの目的のために地震や雷を送られたりはしない。ただ貧しい家の名もない母親に赤ん坊を授けるだけである。そして神の思いを母親の心に託し，母親はそれを子供に伝える。そして辛抱強く待たれる。この世で最も大きな力を持つのは，地震でもなければ，雷でもない。それは幼い子供である。」（*The Treasure Chest*

「宝箱」p. 53)

これらの幼い子供は，育て方次第で善の力ともなれば，悪の力ともなる。主は単刀直入に次のように述べておられる。「われは汝の小児たちを光明と真理の中に導き来れと汝らに命じたり。」(教義と聖約93：40)

あまり多くの例を挙げても分かりにくくなるので簡潔に申し上げるが，子供に対する責任は4つある。すなわち，彼らを愛し，教え，敬い，彼らと共に，また彼らのために祈ることである。

つい最近，車のバンパーに次のように書いてあるステッカーを見かけた。「きょう，あなたは子供を抱き上げましたか。」親の愛を感じている子供たちは，何と幸福で，祝福されていることだろう。その温かさと愛が，後に甘い実を結ぶのである。現代社会を風靡している荒々しさは，かつて子供たちに向けられた荒々しさの見返りである。

先頃，幼友達のひとりに会ったが，その時少年時代の思い出が走馬燈のようによみがえってきた。私の育った社会にはいろいろな人がいる。人々の結束は堅く，近所の人々で私の知らない人は多分ひとりもいなかったと思う。私たちは互いに愛し合っていたが，ひとりだけどうしても好きになれない人がいた。ここで告白するが，当時私は彼をひどくきらっていた。その後私は悔い改めたが，今振り返ってみてもその時の思いがいかに強かったかがよく分かる。彼の子供たちは私の友達であった。しかし，彼は敵であった。なぜこれほど彼をけぎらいするようになったのだろうか。その訳は，少しでも気に入らないと，彼は皮ひもであろうと棒であろうと手元にあるものを取って子供たちをたたいたからである。

私がそのように感じたのは，多分私の育った家庭環境のせいである。父は，私たちがどんなに悪いことをした時でも，そのような体罰を加えることはなかった。ただ穏やかに家族を諭した。

私は後に，その短気な隣人の影響が彼の子供たちの生活に再現されているのをこの目で見た。また，家庭に送られてきた子供たちに乱暴を働くことしか知らない親は非常に多く，彼はそのような親たちのひとりであったことを，その後私は知ったのであった。私が子供の頃に見たその父親は，合衆国だけでなく，全世界に住むおびただしい数の幼児虐待者のひとりに過ぎなかったのである。社会事業家や大病院の救急職員，大都市の警官や判事，このような人々は彼らのことをよく知っている。殴る，ける，たたく，さらには少女に暴行を加えるといった有様である。また，子供たちをだましてポルノ写真を撮ったりする不徳な男女のグループもある。

私はこのような醜悪な事柄を長々と語るつもりはない。しかし，次のことだけは申し上げておきたい。自分はキリストに従う，自分はこの教会の会員であると公言しながら，先に述べたような行ないをする者は，神を冒瀆しており，御子の教えを否定している。イエスは，罪汚れのない子供たちを抱き寄せて次のように言われた。「これらの小さい者のひとりをつまずかせる者は，大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が，その人の益になる。」(マタイ18：6)

人類の救い主のこのみ言葉以上に，子供を虐待する者にあてた強烈な非難の言葉があるだろうか。皆さんは，この世にもっと愛の精神が必要だとは思わないだろうか。そのように思うならば，まず皆さんの家庭の中から始めていただきたい。子供たちに目を向け，天父のみもとから遣わされた彼らの内にある神の力を認めていただきたい。

ブリガム・ヤング大管長は，かつて次のように語った。「子供は母親の笑顔が好きで，ふきげんな顔をきらう。私は母親の皆さんに申し上げたい。皆さんは子供たちが悪に染まることを許してはならない。しかし同時に，穏やかに接するようにしていただきたい。」(*Discourses of Brigham Young*「ブリガム・ヤン

グ説教集」p. 323）

また，ブリガム・ヤング大管長は，次のようにも述べている。「主を愛し，恐れる気持ちをもって子供たちを育てなさい。彼らの気性を知り，それに応じた接し方をしなさい。決して怒りにまかせて正そうとしてはならない。彼らを教える時に，あなたに愛を感じさせる方法で行なうようにしなさい。恐れさせてはならない。」（同上，p. 320）

子供たちのしつけが必要なことは言うまでもない。しかし，極端に厳しく，暴力を伴うしつけは，子供たちを正しい方向へ導かない。むしろ反感を招くことになる。それでは問題の解決にはならず，問題を悪化させるだけである。それはまた自己の敗北でもある。主が教会管理の原則について啓示されたことは，家庭管理にも同様に言えることである。

「如何なる権力も勢力も……維持する能わず，または維持すべきものにあらず，ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる……。

すなわち，聖霊に感動しては機に臨みて激しく人を責む。然る後，また彼の汝を敵視せざらんために責めたるその人に一層の愛を示す。

かくて，彼は汝の誠実は死のきずなよりも強きことを知るべし。」（教義と聖約121：41，43—44）

子供をよく観察し，そして教えなさい。私が申し上げるまでもなく，皆さんの模範以上に子供たちの心に人生のあり方を印象づけるものはない。旧友の子供たちに会った時に，その両親が育んできた伝統が新しい世代に受け継がれているのを見ることは実に大きな喜びである。

次のような話がある。古代ローマの都で，数人の女性たちが宝石を自慢し合っていた。その中に，ふたりの息子を持つコーネリヤという女性がいた。ひとりの女性が彼女に尋ねた。「あなたの宝石はどこ？」するとコーネリヤは自分のふたりの息子を指して答えた。「あのふたりが私の宝石です。」彼女の教えを受け，彼女の美徳を学んで成長したこのふたりの少年が，後にグラッスス兄弟と呼ばれた，ギアス・グラッススとティベリウス・グラッススである。ふたりは，ローマ史に残る最も勇敢で有力な革命家であった。彼らの名前が世の人々に覚えられ，語り継がれる限り，自らの生活の模範を通して子供たちを育ててきた母親も長くその名をたたえられることだろう。

ここで再びブリガム・ヤング大管長の言葉を読んでみよう。「神がその慈しみをもって与えて下さった子供たちに，早いうちから神のみ言葉の重要性と，この神聖な宗教の麗しい原則を教えるよう常に心掛けていただきたい。そうすれば，彼らは一人前の男女に成長した時に，福音を心から大切にし，真理から決して離れることはないであろう。」（*Discourses of Brigham Young*「ブリガム・ヤング説教集」p. 320）

愛を注ぎ，熱心にまた忠実に教えたにもかかわらず，子供たちが意に反した成長をし，必ずや悲惨な結果を招く不幸な道に故意に踏み込んでしまうことがある。そのように，道をはずれた子供たちを見て嘆いている両親がいる。このような人々に，私は深い同情を寄せると同時に，エゼキエルの次の言葉を送りたい。「子は父の悪を負わない。父は子の悪を負わない。」（エゼキエル18：20）

しかし，このような例はそう度々あるわけではない。また，このような例があるからと言って，私たちに神から託された神聖な責任である，愛と模範と正しい教えによって子供を育てる義務をなおざりにしてよいということにはならないのである。

私たちはまた，自分の子供を敬うことを忘れてはならない。主の啓示によれば，子供は私たちと同じように神の子供であり，永遠の原則を知ることにおいて私たちと何ら変わりないのである。事実，主は子供のような清さと素直さ，また潔白さを身に付けなければ主と共に住むことはできないことをはっきりと

述べておられる。「心をいれかえて幼な子のようにならなければ，天国にはいることはできないであろう。」（マタイ18：3）

チャニング・ポラックは，皮肉めいた言葉でこう述べている。「不正を軽べつする青年期を思い返してみると，次のような望みを持つ人々が必ずいる。……人は生まれた時が老人で，成長するに従って若く，清く，純粋で，汚れなくなり，最後に幼な子のような純白の心で永遠の眠りにつけないものだろうかと。」（"*The World's Slow Stain Reader's Digest*『汚れ始めた世界』，「リーダーズ・ダイジェスト」1960年6月号，p. 77）

皆さんの子供たちを観察し，子供たちと共に祈り，子供たちのために祈っていただきたい。そして彼らを祝福していただきたい。子供たちがこれから足を踏み入れようとしているところは，複雑で危険に満ちた世界である。彼らは逆境の荒海に船出しようとしているのである。子供たちが自分の手元にいるうちに，強さと信仰を育んでおくことが大切である。彼らは社会で見いだせない大きな力を備えておく必要がある。彼らは新しい世界に適応するだけでは不十分である。彼らはその世界を引き上げなければならない。それを持ち上げる力こそ，自らの生活の模範と，神を知り，証を持つことによってもたらされる信仰の力である。彼らには主の助けが必要である。求めるならばいつでもその助けを送って下さる力の源を知ることができるよう幼い時から子供たちと共に祈ることである。

私は，子供たちの祈りを聞くのが大好きである。また，子供たちのために祈りを捧げる両親に感謝している。聖なる神権を持った父親が重大な決定を下そうとしている息子や娘の頭の上に手を按き，主のみ名と聖きみたまの導きによって父親の祝福を授ける姿を見ると，なんとも言えない敬虔な気持ちになる。

すべての父親が子供を最も貴重な宝とし，彼らを思いやりと愛に満ちた模範によって導き，そして子供が必要とする時に聖なる神権の権能によって祝福を授けるならば，またすべての母親が子供たちを人生の宝石，永遠の御父から送られた贈り物とみなし，彼らを知恵を働かせ，主の訓戒に従って育てるならば，私たちの住むこの社会はどれ程麗しくなることだろう。

古代の予言者イザヤはこう語った。「あなたの子らはみな主に教えをうけ，あなたの子らは大いに平安を得る。」（イザヤ54：13，欽定訳より和訳）私はこの言葉に次のように付け加えたい。「子らの父と母は大いに平安と喜びを得る。」

皆さんがこの平安を得られるように心から祈ると共に，以上申し上げたことが真実であることをイエス・キリストのみ名により証する。アーメン。

十二使徒評議員会会員
ジェームズ・E・ファウスト

召しに応えて

私は神と神の予言者に，私の生涯と勢力と，少しではありますがあらん限りの能力を，無条件にすべてお捧げします

キンボール大管長，ならびに兄弟姉妹の皆さん，私は今，この召しを受けるのに自分はふさわしくないのではないかという気持ちでいます。これまでにこの召しを受けただれよりもその気持ちが強いかと存じます。私は一昨日の木曜日以来，昼も夜も考え続けてきました。その間，自分はふさわしくないし，備えもできていないという思いを断ち切ることができませんでした。

しかし私は，聖なる使徒職にある者の第一の条件が，神聖な贖い主，キリストなるイエスの個人的な証人となることであるのを知っています。この点については，私にも資格が

あると思います。私は言葉に言い表わせない神のみたまの平安と力によって，真理を学んできたからです。

私は，自分の心と体の一部のようになっている愛する妻のルースの愛に満ちた励ましと支持を感謝しています。また，家族の一人一人に心からの愛を表わしたいと思います。

私が初めて古代と近代の使徒たちの名前を覚えたのは，初等協会においてでした。母も私の教師でした。その母がどんなに並はずれた夢を見たとしても，自分の教えた子供がやがて主イエス・キリストの特別な証人たちの評議会の一員になろうとは，よもや予想しなかっただろうと思います。

私は宣教師として，軍人として，また教会幹部として多くの国々を訪れ，すべての人々を愛することを学びました。私は，地位のない人やしいたげられている人，貧しい人，苦しんでいる人，謙遜な人，これらの人々にいつも深い愛を示すキンボール大管長やその他の方々の模範に倣い，主の弟子として働きたいと思います。もしもこれを忘れたならば，決して主の弟子とはなれないことを私は承知しています。

私たちは愛する友人であり，同僚であるデルバート・L・ステイプレー長老の逝去された知らせを悲しみをもって聞きました。私たちはステイプレー長老を心から愛していました。

私はキンボール大管長をはじめ，タナー副管長，ロムニー副管長，ベンソン会長，その他十二使徒の兄弟たちの支持と愛に感謝しています。また，フランクリン・D・リチャーズ会長をはじめとする七十人第一定員会の兄弟たち，ならびにその他の教会幹部の兄弟たちに，私の変わらぬ愛と感謝の気持ちを申し述べたいと思います。私は神と，神の予言者キンボール大管長に，私の生涯と勢力と，少しではありますがあらん限りの能力を，無条件にすべてお捧げします。イエスがキリストであり，神の御子であることを知っているからであります。救い主も御存じのように，私は主の生きておられることを知っています。ですから，喜んでこの召しと鍵と責任を引き受け，最善を尽くすと約束申し上げます。イエス・キリストの聖なるみ名によって申し上げます。アーメン。

七十人第一定員会会員
F・バートン・ハワード

予言者と ひとつになる

私は福音を愛しています。選択の余地なく，また周囲の状況から止むを得ずこうなったのではありません

愛する兄弟姉妹の皆さん，私は大管長会の方々が示して下さった愛と信頼を心から感謝しています。また，今この大会で与えて下さった皆さんの支持の挙手にも感謝しています。私は主を愛し，また主のみ業を愛しています。

はなはだ個人的なことで申し訳ありませんが，福音に対する私の気持ちを話させていただきたいと思います。私は福音を愛しています。選択の余地なく，また周囲の状況から止むを得ずこうなったのではありません。また，はるか彼方からの命令を盲目的に受け入れたのでもなければ，他人にあやつられたのでもありません。前向きの態度で目的意識をもって行動し，自分に与えられた自由意志を使って心を捧げる決意をしたのです。私は主のみ業に謙遜に，正直に，最善を尽くして，積極的に携わりたいと思います。魂を従属させることも，他人を支配することも求めずに，主に従う人々と心をひとつにして，いかなる場所にあってもみ業に携われることを感謝し，分かち合い，助け合いながら，孤立せず，自己欺瞞の生活に陥らないで，なすべきことを

確実に，喜んで行ないたいと思います。大義を支え，盛り立て，愛し，大義に心と生命を捧げ，感謝の念に満ちた忠実な僕になりたいと思います。

私は疲れや恐れを知らず，しっかりと立ちたいと思います。弱さとは外からの圧力に屈することです。

私は内部から力と愛を放つ人間になりたいと思います。受け身ではなく積極的に，熱心に，明るく，忠実に，いつも主と一致していたいと思います。願わくは私たちが主と，そして主の予言者と一致し，いかなる場所にあろうと，どのような職にあろうと託された責任の中に和合一致を保てますように。私は皆さん方のために祈っています。また，特に弱い私ですので，このような大いなる召しを受けるにあたって自分自身のためにいつも祈りたいと思っています。イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。

七十人第一定員会会員
テディー・E・ブルーアートン

福音は人々を幸福にする

福音について聞いたある友人が言った。「あなたはこれ以上何を望みますか」と

皆さん御存じのように，この地上に回復されたイエス・キリストの福音は，人々を幸福にします。私は少し前に，ニューヨークからやってきたある著名な弁護士と話をしたことがあります。彼は私をじっと見つめて，「あなたはこれ以上何を望みますか」と言いました。私は彼の言葉にうなずきながら，考えました。昔のことや現在のことを考えると，当然のことながら，私たちが家族として受けている大きな祝福を再確認せずにはおれませんでした。私は妻を愛しています。主は私に妻を与えて下さいました。私は福音を愛しており，福音が真実であることを知っています。私は2日前にキンボール大管長とお会いした時に，ここ4年間程キンボール大管長の写真を見，また直接に遠くから見かけ，握手をするたびに大管長がどういう人であるかが次第に分かってきたことをお話しました。大管長はこの地上における主の代表者です。そのことを私ははっきりと知っています。

イエス・キリストの福音は私たちを幸福にします。ですから私たちはこの教えをすべての人々にお伝えしたいと思います。私は自分の生涯と財産と働きのすべてを主に，大管長会に，そして自分を管理する方々に捧げるつもりです。私は神に仕えたいという強い望みを持っています。最近私は機会あるごとに，自分が最も嫌いなことは参加しないことであると語ってきました。何をするかは問題ではありません。ただ，いつも教会で何かをしていたのでした。

救い主の奉仕の模範は私たちに多くのことを教えています。私たちはその模範に従い，それに倣う必要があります。

私たち一人一人に特別な祝福があり，非常な勢いで世界中にみ業を推し進めんとするキンボール大管長の抱いておられるビジョンを理解することができるように祈っています。また当然のことながら，私たちがみ業を推し進め，強くしていくことのみを心に掛けて，それを行なうことができるように祈っています。

私と妻はこの1，2週間前に非常に珍しい経験をしました。約20年間にわたって私たちが計画してきたことが今年の末にようやく実現する運びとなったのです。私たちは互いに顔を見合わせて，「どうしてだろう。まさかできるとは思わなかった」と語り合ったものです。そして，一昨日の木曜日にその訳が分かったのです。

私は，自分の生活に主のみ力が働いている

ことを感謝しています。私は主が私に与えて下さっている多くの素晴らしい祝福に値する者となり，主の王国を建設するために立派な働きができるように，イエス・キリストのみ名により祈っています。アーメン。

七十人第一定員会会員
ジャック・H・ゴースリンド・ジュニア

「善を行って決して飽かず」

私は以前にもまして主に頼り，心から主のみたまを祈り求める気持ちです

愛する兄弟姉妹，このように主に仕える召しをいただいて皆様の前に立ち，胸が一杯です。身に重い責任ですが，人々に仕えるこの機会に，感謝の気持ちは言葉で言い尽くせないほどです。

木曜日の午後にキンボール大管長の面接を受けてから，いろいろな事柄が変わりました。私は前にも増して主に頼り，主のみたまを祈り求め，皆様の励ましと愛を受けたいと心から願っています。

今感謝していることは数々ありますが，アルマが息子ヒラマンに「善を行って決して飽かず，謙遜で柔和な心を抱け……青年の時智恵を得よ。……神の命令を守ることを習慣とせよ」（アルマ37：34—35）と教えたように，私を教え導いてくれた父と母に愛と尊敬をもって感謝を述べたいと思います。両親の愛と影響力を私は永遠に忘れないことでしょう。

また，辛抱強く理解を示してくれた友人や親戚の人々に感謝してます。私はこれまで自分を強め，豊かにしてくれた良き友に恵まれてきました。アリゾナ・テンペ伝道部を管理していた当時の600人余りの宣教師たちにも感謝しています。あの素晴らしい伝道から得た教訓は決して忘れません。また天父が与えて下さった最も高貴な助け手である妻のグエンに感謝しています。妻はいつも献身的に私を支えてくれました。愛と信仰に満ち，福音をこよなく愛している妻は，いつも私を励ましてくれます。私は心から妻を愛しています。また，私の6人の子供たち，義理の息子，それに私たちの初孫をも愛し，心から感謝しています。彼らの義しい生活を見ていると，ただ喜びと幸せ以外には何も考えられません。

現在，言語訓練伝道部に入っている息子にも特別な愛と感謝の言葉を送りたいと思います。息子は火曜日にイタリアのパトバへ伝道に出掛ける予定です。

兄弟姉妹，私はきょう皆様に私の証を述べたいと思います。主イエス・キリストが生きておられ，このみ業が主のみ業であり，スペンサー・ウーリー・キンボール大管長が実にこの地上における神の予言者であることを証します。私はキンボール大管長を心から愛しています。そして，大管長と教会幹部の兄弟たちにまた兄弟姉妹である皆様に，心と思いと勢力と力を尽くして仕えるつもりです。主イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。

七十人第一定員会会員
ロバート・E・ウェルズ

霊性のはかり

人格と能力と霊的資質は，私たちの進歩の物差しである

愛する兄弟姉妹の皆さん，私たちが皆，みたまによってひとつとなり，共に高められ，この福音の麗しさを知って喜びを分かつことができるように祈るものである。私は今

ポケットに1ドル銀貨を持っているが，その片面には「我ら，神を信頼す」と書かれている。私たちは予言者から主を信頼するようにと教えられている。少年ダビデが巨人ゴリアテと対決した時のように主を信頼することである。次に，銀貨のもう一方の面には「さらば神，我らに信頼を寄す」と書かれている。主は私たちに信頼して欲しいと願っておられると同時に，私たちを信頼したいと望んでおられるのである。かつてある偉大な予言者は次のように語った。「信頼されることは，愛されること以上の素晴らしい賛辞である。」（デビッド・O・マッケイ，*True to the Faith*「信仰に忠実に」p. 274）

この人生の主たる目的のひとつは，主から信頼を受ける価値があるかどうかを見られることである。よく知られた聖句のひとつに，次のような言葉がある。「而して，これによりて彼らを試し，何にてもあれ，主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。」（アブラハム3：25）私たちはこの地上で過ごす間に，信頼を受ける価値があるかどうかを試され，計られるのである。

予言者ジョセフ・スミスが語っているように，私たちはこの世における最高の祝福を得るには，たとえ身の危険や犠牲に直面しようとも，何事においても信頼できると主から認められるまで，あらゆる試しを受け，それを克服しなければならない。主は神のすべての子らを愛しておられるが，信頼を寄せる度合はそれぞれに違う。主が私たち一人一人を愛し，信頼できるとしたら何と素晴らしいことではないだろうか。

人の値打ちはその人がどれ程お金を持っているかではなく，その人はどれ程借金ができるか，あるいは他人のお金をどれ程任せられるかによって決まるとよく言われる。これは銀行家たちが用いる信頼の目安であるが，そのまま霊に関わる信頼にも応用できると思う。銀行家が人格と能力と資産を評価するように，主は私たちの人格，能力，霊的資産（資質），を評価し，信頼できる人間かどうかを決められるのである。

人格は信頼を勝ち取るための一要因である。借り手の人格（つまり，いかなる犠牲を払っても期日に返済するというその人の道義心）に何か疑惑があれば，信頼はされず，お金を借りることはできないであろう。

主は，私たちがどのような状況にあっても正しいことを行なう信頼できる者かどうかを，知りたいと思っておられる。エジプトに売られたヨセフはポテパルの側近という高い地位にのぼった。そこでポテパルの妻は彼を誘惑し，罪に陥れようとした。ヨセフは故郷や家族と遠く離れていた。彼は信頼を受けてはいたが，奴隷であることに変わりはなかった。ヨセフの道徳心について知る人もいなければ，心配してくれる人もいなかった。ポテパルの妻の要求を拒めば面倒になるのは必至であった。しかしヨセフは自分の高潔な人格を捨て去ることができず，罪を犯さなかった。そのためにかえって捕えられて獄に入れられた。ヨセフは代価を払って清さを守ったのである。もしそうしなければ彼の人格にゆゆしく傷ついていたはずである。またニーファイも，その強靱な性格のゆえに主の命令に従うことができた。さもなければ悪人レーバンに容易に殺されていたであろう。しかしニーファイは真ちゅう版を得るために主が必ずその方法を備えて下さるという証を持っていたので，もし彼がその気持ちに逆らっていたならば，それはニーファイの人格に大きな傷跡を残すことになったであろう。このようにして，ヨセフとニーファイは主から信頼を受けるに足る者となったのである。

立派な性格を身に付けている人は，ひと度証を述べたならば，その証にかなった生活をする。マルチン・ルターはボルムス議会の場で，己れに忠実であることの大切さを述べた。「私はこのことを撤回できないし，撤回しようとも思わない。なぜなら良心に反する行ないをしていては，安全も良い結果も得られな

いからである。これが私の信念である。ほかに道はない。神よ，どうか私に助けを与えたまえ。」(*Gospel Ideals*「福音の理想」p. 354)

ジョセフ・スミスはパウロの性格を次のように描写している。「パウロが……光を見声を聞いた示現の顚末を語った際……ある者はかれは偽りを語ると言い，他の者はかれは狂えりと言った，……しかしながらすべてこれらの反対も，パウロが示現を得たと言う現実を打ち破らなかった。パウロは，先に示現を受けた。彼はこれを受けたと言う事実を身を以て知った。そして天下のあらゆる迫害もこれを変えることはできなかった。」それから，ジョセフは自分が受けた示現について，自分の証を付け加えた。その証はジョセフの性格がいかに強靱であったかを示している。「私は示現を受けたのであるからそれが事実であるのを身を以て知っている。私は神がそれを知りたもうことを知っている。私はそれを打ち消すことはできなかった。また敢て打ち消そうともしなかった。」(ジョセフ・スミス2：24—25) ジョセフ・スミスは，どのような犠牲を強いられようと信頼を寄せるに足る者であることを神がお認めになった，気高く大いなる人格を備えた人であった。

デビッド・O・マッケイ大管長は次のように述べている。「人生における最大の関心は金銭や名声や財産を得ることではない。技能を伸ばすことでも，知識を増すことでもない。人間のこの世における最大の目標はキリストのような人格を育むことである。」(*True to Faith*「信仰に忠実に」p. 32)

末日聖徒イエス・キリスト教会の活発な会員は，キリストのような人格を育んでいる。専任宣教師として伝道に出ることは，主の信頼を受けるに足るキリストのような性格を築き上げるのに役立つ。

次に，能力も信頼の一部である。銀行家が顧客に求める能力は，約束を履行すると確信できる能力である。主が私たちに求めておられる能力は，主に益をもたらす僕として働ける能力である。主は私たちに才能と賜と祝福を与えて下さっている。そして，私たちがそれらを伸ばし，主の信頼にこたえてそれを人々への奉仕に用いることを期待しておられる。

5タラントを渡された僕はそれを10タラントにして帰ってきた時，「良い忠実な僕よ，よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから，多くのものを管理させよう」(マタイ25：21) と言ってほめられた。2タラントを受けた僕が4タラントにして帰ってくると，先の僕と同じようにほめられた。しかし与えられた1タラントを増やそうとしなかった怠惰な僕は，主から懲らしめを受けた。この原則は明白である。主は僕たちが能力を倍加するようにと期待しておられるのである。才能でも責任でも自分の僕たちがその与えられたものを倍加することを望んでおられるのである。偉大な予言者，キンボール大管長もあらゆることを倍加してほしいと望んでおられることは確かである。キンボール大管長は宣教師の数が2倍になり，忠実な新しい教会員の数が2倍に増え聖餐会の出席が2倍に伸びるのを見たいと思っておられる。私たちはそれぞれ自分の能力や働きをあらゆる手段を尽くして倍加する聖なる責任を負っていると思う。そうしたならば，主は僕である私たちの能力を信頼して下さるに違いない。

能力を増す努力は何も教会の奉仕に限られたことではない。私たちの日々の生活の糧を得ている仕事の技術を伸ばす努力もしなければならない。また親として，教師として，能力を伸ばさなければならない。また人々に黄金の質問をして福音を分かち合う能力も伸ばす必要がある。同じキリスト教徒の隣人たちが人に奉仕しているように，良識ある市民としてその能力を伸ばすことも必要である。主は，私たちが能力をどのように使うかに応じて信頼を寄せて下さる。私たちが自分に与えられたものを用いて何をなしたかにより，私たちに信頼を寄せて下さる。モルモン教会の活発な会員たちは物心両面でその能力を伸ば

している。専任宣教師として伝道に出ることは，主から信頼されるに足る能力を伸ばすのに役立つ。

霊的資質も信頼の一部である。銀行家は，顧客の緊急時に利用できる資産や積立金と同時に客の事業に対する意気込み，決意といったものを見る。このことを霊的な事柄に置き換えてみると，主は人生の危機に直面した時の個人の霊的資質と同時に，主の王国に対する個人の決意の度合も見られるのである。

霊的資質はある意味で各人が義しい生活を通して行なってきた投資である。言わば非常時に引き出すことのできる予備資産である。私たちはその霊的資質をどのようにして蓄えればよいだろうか。聖典や生ける予言者たちの言葉を学んでその投資をする。天父ともっと親しく交わりを持つことによって投資することもできる。また他人に奉仕し，人々に無条件で無私の愛を示すことによって投資することもできる。さらに伝道の投資によって多くの祝福を倉に積み上げ，罪の赦しを得ることもできる。賢明な両親や従順な子供となることや，召しに対して今までの2倍も働くこともその投資である。こうした投資が，主から信頼され，世の障害や誘惑を克服してゆく霊的資質を築き上げるのである。

私たちの先祖は，犠牲という投資によって霊的資質を築いてきた。彼らは，自分たちの生活をよく整えていた上に，予言者に従うために自分たちの宝をすべて投げ売って犠牲を捧げ，また天から祝福された民であるということをよく知っていたので，どんな困難にも立ち向かってゆくことができた。彼らは迫害を被った。それでも家族を後に残して伝道に出た。肥沃な農場や快適な家を捨てて，乾いた砂漠や寒々とした山中へ出て行った。予言者ジョセフは次のように述べている。「あらゆるものの犠牲を求めない宗教は，命と救いを得るために必要な信仰を生む力を持つことはできない。」（*Lectures on Faith*「信仰講話」N・B・ランドウェル編，p. 58）

キリストの教会の活発な会員は皆，力強い霊的資質を築いている。専任宣教師として伝道に出ることは揺るぎない霊的資産を築き上げるのに役立つ。

教義と聖約の第124章20節にこう記されている。「わが僕……彼の心誠実なるを以て信任することを得。彼はわが証を為すを愛する故に主なるわれ彼を愛す。」

私は今ここに証し人のひとりとして厳粛に証する。神は生きておられ，私たちを愛しておられる。神の御子イエス・キリストは栄光を受け，昇栄された御姿でその聖なるみ名をいただくこの教会の頭として立っておられる。この地上における権威ある正当なる主の代弁者は，予言者ジョセフ・スミスによって回復されたこの大いなる神の教会を導く私たちの生ける予言者ただひとりである。これらのことをイエス・キリストのみ名により，申し上げる。アーメン。

七十人第一定員会会員
ボーン・J・フェザーストーン

伝道の祝福

神の祝福があって，伝道に出ることのできる人すべてが伝道の召しにあずかれるように

「およそ，出で行きてこの王国の福音を宣べてすべての事に終始忠実なる者は，何人も心に衰えを感ずることなく，また心暗くなることもなし。体も手足も関節も衰えず，神知りたまわずにはその頭髪一筋も地に落つることなく，また飢ゆることも渇くこともなかるべし。」（教義と聖約84：80）

過去2年間，私は家族と共にテキサスの伝道部で働いてきた。そこでの経験は期待をはるかに上まわる充実した素晴らしいものであ

った。初めてその地を訪れた時，フェザーストーン姉妹は主にこう祈った。「私たちには時間があまりありません。どうかできるだけ早く私がいろいろなことを覚えて，み業に携われるようにして下さい。」

後に，彼女はこう話してくれた。「主は私の祈りに答えて下さり，大切な教訓を数々与えて下さったわ。そのひとつが伝道に来て1カ月とたたない頃に得た教訓なの。来る日も来る日も忙しくて，静かに過ごす時間が少しもなかったの。でもある日，午後の時間が45分位あいたので，外で愛馬にくしをかけてやったの。その間，少しの時間だけ，自分ひとりの世界にひたることができたわ」と。

妻は伝道部でわずか数分の時間も自分ひとりになることができなかった。そのために妻はひざまずいて主に祈った。「天のお父様，どうぞ少しでよいですから自分だけの時間をお与え下さい。」

するとこの世の事物を目に見るようにはっきりと，次のような言葉が脳裏に浮かんできた。「娘よ，これはあなたの時間ではない。私の時間である」と。私たちは，主から召されているこの期間，全力を尽くして働こうと努めている。その労働の基準も，他の人とではなく，絶えず自分の基準と比較する必要がある。

ここで，私たちと一緒に働いてきた宣教師たちの「信仰」の経験を少しご紹介したいと思う。

ウェイデル長老夫妻が週間報告書にこう書いてきた。「少し長くなりますが，今週あったひとつの霊的な経験をお伝えしたいと思います。金曜日に，アロイ長老と臨時にその同僚になったカーチス長老が私たちの家を訪問して下さいました。そしてふたりを宣教師の家までお送りしました。その時アロイ長老が宣教師のアパートがどういうものか中に入って見るように勧めて下さったのです。彼は裏口から入って私たちのために，表の戸を開けてくれたのですが，その時彼の顔は何とも言えない輝きを放っていました。

『長老，ほら，いただきものですよ。見て下さい。』テーブル上には食料品が山と積まれていました。後でカーチス長老から伺ったことですが，アロイ長老と同僚はある時その日の食物にも事欠く家族に出会い，自分たちの食べ物をそっくりその家族にあげてしまったのでした。私たちの胸はいっぱいになりました。」そして最後にウェイデル姉妹はこう結んでいた。「主はご自分の弟子たちを必ず見守っていて下さいます。」

また，夫を失った後に宣教師となったローナ・コール・アルダー姉妹は，週間報告書に次のように書いてきた。「伝道の経験は証を本当に強くしてくれます。証を得た日時についてははっきり告げることはできませんが，私の信仰の土台を強く，堅固なものとしてくれた多くの出来事を私はよく覚えています。心を謙遜にしてくれた数多くの経験を通して，この8カ月間ほど主を近くに感じたことはなかったと思います。メキシコの革命を3回体験し，本当の証を築き上げることができました。教会でレッスンを準備する時も主を近くに感じることができました。主は言葉では言い尽くせない沢山の祝福を与えて下さいました。けれども伝道生活のように，一日中霊的な経験が得られたことはかつて一度もありませんでした。

そのほか特に私の霊性が高められたのは，息子たちが伝道に出ていた時のことです。息子たちは伝道先から私にモルモン経を読むように言ってきました。夫は長男がチリで伝道中に亡くなりました。その試練の時期に私は本当に謙遜になりました。あの辛い経験と豊かな祝福を心から感謝しています。真心と感謝を込めて，アルダー姉妹。」

数カ月前に，私たちの伝道部へ素晴らしい夫婦が赴任してきた。彼らの到着する前に娘さんから次のような手紙が届いていた。「親愛なるフェザーストーン伝道部長へ。間もなく，あなたの伝道部に1年半の伝道をするために

一組の夫婦が着任すると思いますが，彼らは世界で最も素敵な夫婦です。父母はあなたの下で働けることを心から喜んでおります。あなたのおっしゃることは何でもするつもりだと申しておりました。あなたはきっと私の両親をお気に召していただけると思います。どうか父と母をくれぐれもよろしくお願いします。」伝道に出てくる宣教師の大部分は，主イエス・キリストを愛し，主に仕え，人々を主に導きたいと望んでいる。しかし少数ではあるが，召しからの大切さを忘れ，伝道が成功していないことを正当化しようとする者もいる。それは，給料袋を受け取って5ドル足りないのに気がついた人にたとえられる。彼は主人のところへ行き，「今週の給料は5ドル足りないようですが」と抗議した。

すると主人は答えた。「やはりもどって来ましたね。先週5ドル余計に払ったのにもどって来なかったじゃないですか。」

すると彼は言った。「ええ，1回の間違いならまあ我慢もできるのですが，続けて2回もするもんですから。」

年配の夫婦や未亡人も，よく準備が整いさえすれば伝道の召しにあずかることができる。そして子供や孫たちが夜ひざまずいて，「愛する天のお父様，テキサスで伝道しているおじいさんとおばあさんをどうぞ祝福して下さい」と祈る時，彼らは豊かな祝福を受けるのである。

オルセン姉妹には12人の子供がいた。そして息子たちを全員伝道に出した。現在はその子供たちが母親を援助し，伝道に出している。このように，私は自分の伝道部で，毎月のように，宣教師と家族の間の愛を見聞きしている。

また，ひとりの素晴らしい青年が伝道に召されてきた。それまで彼は外国の自動車会社で働いていて，国中を車でまわっていた。末日聖徒でない彼の上司は，彼が2年間伝道に出るというのを聞いてその青年にこう言った。「伝道に行かずにこれからも私の下で働くなら，28,000ドルのフェラーリを君に進呈しよう。」そのグラニス長老は，ゾーンリーダーとして1カ月前に伝道を終えた。

ある長老は，私がサンアントニオに着任して間もなく伝道部にやってきた。彼には大勢の兄弟がいた。彼の父親は息子の伝道費用の足しにパートタイムの仕事を見付けた。しかし，それでも足りないので，母親が学校給食の仕事を手伝うことになった。この仕事なら子供たちの帰宅時間には家にいられるからである。それでも，この宣教師に送られてくる金額は微々たるものであった。私は面接の時，その長老に財政のことを尋ねると，彼は顔を曇らせ，一生懸命に倹約して使ってはいるんですが，家族の送金ではどうしても足らないということであった。そして彼はこう言った。「伝道部長，私は決してむだ遣いはしていません。倹約しようと思って，この3日間，何も食べていません。」それから，次のように語った。「幼い妹までもが，私を助けてくれます。誕生日にもらった1ドル札を，自分よりも私の方が必要だろうからといって封筒に入れて送ってくれたのです。」そう言って彼は泣き出した。私はワイシャツのポケットから手の切れるような100ドル札を2枚取り出した。この100ドル札は必要な時に使って欲しいと時折親友が送ってくれるものである。「実は，私の友人が，これをあなたにあげるようにと送ってきました」と言ってその100ドル札を差し出すと，両手に顔をうずめて泣きくずれたのであった。

また，ダニエル・ギフォード長老は，祝福師の祝福で，伝道中に教会幹部の近くで働くという約束を受けていた。彼はテキサスで伝道するように召された時，まだ召されて2，3カ月しかならない伝道部長の下でどうしてそのような約束が成就されるだろうかと不思議に思っていた。ところが，彼が宣教師訓練センターで10月の総大会の最後の一般大会の模様を聴いていた時に，タナー副管長が次は七十人第一定員会会員であり，新しくテキサ

ス・サンアントニオ伝道部の伝道部長に召されたボーン・J・フェザーストーン長老ですと発表するのを耳にしたのであった。後日，ギフォード長老は伝道部長補佐に召された時に，自分が受けた祝福師の祝福の約束のことを私たちに話してくれた。このギフォード長老にとって，これがだれの業か疑問を説く余地があるだろうか。

別の伝道部から移ってきたある長老が，親元へ帰りたいと言ってきた。両親や監督が思いとどまって伝道を全うして欲しいと望んでいることは本人も承知していた。私は何回も彼を面接した。その面接の中で，彼は自分のワード部では過去5人の長老たちがいずれも伝道の途中で帰ってきていると話してくれた。私は，後に続く若者たちの悪い模範となった最初の長老の軽率さにあきれてしまった。そしてこの長老こそは何としても立派に伝道を終えさせようと決心した。彼は約4カ月間，毎週，宣教師の召しを解任してほしいと，理由を書き連れて手紙を書き送ってきた。それに対して，私は一通も欠かさず返事を書いた。

そうすると，4カ月目の終わりに，ようやく彼から他の宣教師と同じような内容の手紙が届いた。その追伸のところにこう記されていた。「伝道部長ご覧の通り，私の負けのようです。」それを読んだ時，私の目に涙がこみあげてきた。

ビンス・ロンバルディは，「闘いは苦しければ苦しいほど降伏しがたいものだ」と言った。この長老は立派なゾーンリーダーとして伝道を全うした。彼は暖かい心と教える才能に恵まれ，人々を愛し，気遣い，霊的にも傑出し，伝道も立派に終え，名誉の解任を受けた。そして神殿で美しい女性と結婚し，現在は，神殿の近くに住み，神殿にもしばしば参入している。この長老は自分のワード部の将来の宣教師たちにとって立派な模範となったのである。

シェフィールド長老は大手術を11回も受け，そのほか1時間以内の手術もさらに回数多く受けてきた。彼の最大の願いは，手術によって伝道できる体になることであった。伝道に出る1年前，彼は最後の手術を受けた。それにもかかわらず，伝道に出てからは，週平均70時間から80時間も伝道の業に従事している。そしてあらゆる人から深く愛されている。

シェフィールド長老は，問題を抱えた宣教師たちにとって大きな祝福となっている。ある面接で彼の同僚が，シェフィールド長老はよく肩をはずすことがあると教えてくれた。それはひどい痛みを伴い，しかもよく夜中に起こるそうである。私はすぐにシェフィールド長老と面接し，病院に入って必要な手当てを受けるように勧めた。すると，彼は私の目を見詰め，めったに見せない厳しい表情でこう言った。「伝道部長，私は人生の大半を病院で過ごしてきました。この伝道が終わればまた手術を受けなければなりません。私は主に約束しました。もし伝道させて下さるなら，その間どんなに具合いが悪くてもどんなに苦しくても，2年間は1日たりとも病院には入りませんと約束したのです。」

伝道の祝福が何であるか，「あなたたちは知っているか。」（アルマ26：2）

恐らくウィリアム・ケイス・クラーク兄弟姉妹はそれを知っていたであろう。彼らはこう書いてきた。「愛するフェザーストーン伝道部長，お手紙をいただいて喜んでおります。私たちもあなたを愛しております。」（実に彼らは私にまだ会ったこともないのに愛することができたのである）彼らの手紙はこう続いている。「私たちはもう若くありません。ウィリアム・ケイス・クラークは81歳でございます。彼は副監督，監督，そして祝福師を31年間務めて参りました。私エレン・クラークは76歳で，これまでワード部，ステーキ部のあらゆる組織で音楽指揮者と教師をして参りました。私たちはこれまで恵まれた豊かな人生を送らせていただき，福音を教えることを大きな喜びとして参りました。10人の子供はみ

んな神殿結婚をして教会で活発に働いております。最近家族の集まりを持ったのですが，56人の孫と26人のひ孫が集まりました。今回の伝道は夫には4回目，私にとっては3回目になります。私たちの一番幸せな時間はイエス・キリストの福音を教えている時でございます。」どの宣教師にも愛と犠牲の体験がある。私は宣教師たちを心から愛している。大義に捧げる彼らの献身，主に対する愛，そして喜んで主のために奉仕する心は，必ずや彼らの生活と子孫を永遠に祝福することだろう。

愛する兄弟姉妹，すべての人がイエス・キリストの福音の回復を聞く特権にあずからなければならない。宣教師の召しに応じる人々は，「何人も心に衰えを感ずることなく，また心暗くなることもなし。体も手足も関節も衰えず，神知りたまわずにはその頭髪一筋も地に落つることなく，また飢ゆることも渇くこともなかるべし。」（教義と聖約84：80）

私たちはあらゆる人を捜し求め，しかもキリストの純粋な愛によってそれを行なわなければならない。

人を裁いてはならない。神がだれを備えておられるかだれも知らないからである。予言者ジョセフ・スミスは，次のように述べている。「今や真理の旗が掲げられている。いかなる汚れた者の手も，このみ業の発展を止めることはできない。迫害は威を振い，暴徒は連合し，軍隊は集合し，中傷の風が吹き荒れるかもしれない。しかし神の真理は大胆かつ気高く，悠然と出で立ち，あらゆる大陸を貫き，あらゆる地方に至り，あらゆる国に広まり，あらゆる者の耳に達し，神の目的は成し遂げられるであろう。かくして，大いなるエホバは，み業は成ったと告げられることであろう。」（*History of the Church*「教会歴史」4：540）

神の祝福があって，伝道に出ることのできる人すべてが伝道の召しにあずかれるように。伝道が確かに祝福をもたらすことを，私は知っている。これらのことを，イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

七十人第一定員会会長
J・トーマス・ファイアンズ

私たちの共通の先祖

4代の系図探求を終えた教会員は，教会の記録抄出プログラムに従事することになる

ファウスト長老，私たち七十人第一定員会会長会は，あなたの新しい召しを全面的に支持し，心からの愛を表明したいと思う。また，新しく召された3人の教会幹部の方々を心から歓迎したい。皆さんは私たちが担う幾多の責任を共に担って下さる方々であると確信している。

私は自分の父のことを私の父と呼ぶ。しかし私の4人の兄弟姉妹のことを考えると，父が私だけの父ではなく，私たちの父であることに気付く。

祖父を例にとると，もし私が祖父を自分だけの祖父と呼ぼうとすれば，兄弟だけでなく，いとこたちも加わっていっせいに，「彼は私たちの祖父だ」と言うであろう。曾祖父を私の曾祖父と呼ぶならば，またいとこもやってきて，曾祖父は私たちの曾祖父だと言うに違いない。

私たちの先祖が共通の先祖であることは明白である。私たちは過去をさかのぼって「私の，私の」と言ってはならない。「私たちの」と言うべきである。過去にさかのぼればさかのぼるほど，その叫びは大きくなる。

最近，系図探求の仕事の中に重複したところがあることが明らかになってきた。それがどの程度のものか具体的に知りたいと思って，私は自分の系図記録を専門の系図調査所に持って行った。そこで私の記録を人名録と照合してみると，私の記録の95パーセントがすでにそのファイルに載っていた。ということは，

新しい記録はわずか5パーセントしかないということである。ほかに34人の依頼人が私と先祖を共通にしていたからである。これにはすっかり驚いてしまい，だれもがこんな状態だろうかと思った。そこで私はこの調査所に依頼して，合衆国内の全地域から教会員，非教会員を問わず依頼人を選び出し，彼らの先祖の名前を互いに照合してもらった。するとどうだろう。記録の80パーセントが重複しており，当人だけの記録はわずか20パーセントという次第である。

また，別のある機関に調査を依頼したところ，私には348人のいとこ，またいとこ，そのまたいとこがいて，その全員が同一の2代目曾祖父を探求することもあり得るという調査報告を得た。

以上の例から明らかなように，系図探求における重複は著しい。キンボール大管長が4代前までの先祖の探求を指示されたのは，このような基本的理由があったからである。4代の系図探求を終えた教会員は，教会の記録抄出プログラムに従事することになる。

それでは，私たちにはどのような責任があるのだろうか。

まず，4代家族の記録プログラムを考えてみよう。4月の総大会でキンボール大管長が系図について話されて以来，系図活動が盛んになってきた。今人々には，「自分も系図探求ができる」という気持ちがある。そして，多くの「兄弟姉妹で構成する家族」が，互いに協力し合って4代の「家族の記録」を見直し，情報が正確かどうかの確認を行なっている。例えば，私たち夫婦には5人の子供がいる。その5人はひとつの「兄弟姉妹で構成する家族」を成す。彼らは私たち夫婦の助力を得て，私たちの4代の「家族の記録」を調べる。そして，記録に記載された情報がすべて正確であることが確認できたら，私たちは家族として，それを1セットの「家族の記録」にして提出する。セットを6つも7つも作成してそれぞれに提出するようなことはしない。

4代家族の記録プログラムは，ある意味で専任宣教師として伝道に出るのに似ている。私たちは専任宣教師に召されると，この最も大切な神の務めに全力を傾中する。そして伝道を終えた後も伝道活動に対する関心は失わない。依然として関心は持続する。しかし，伝道中のように専心するというわけにはいかない。

4代家族の記録プログラムは，専任宣教師として伝道に出るのに似ている。私たちは，「兄弟姉妹で構成する家族」として「家族の記録」を提出する。そしてこれを終えると，ある意味で私たちは自分の系図の使命は達成したことになる。しかし，そうだからと言って系図への関心を失ってよいというわけではない。自分の自由意志を働かせて，望むところまで探求を続けるのである。しかしながら，私たちの心を先祖に向ける方法はほかにもある。それが記録抄出プログラムである。今その長所と必要性について少し説明したいと思う。

もし皆さんがソルトレーク・シティーへ来て，私に電話をかけたいと思ったら，電話番号簿で私の家の番号を捜すはずである。かりに，番号簿を開いた時に電話を設置した日付順に名前が載っていたとする。しかもソルトレーク・シティーには数冊の電話番号簿がある。あなたはまずどの番号簿に私の名前が載っているかを見定め，次いでページをめくってわが家に電話がついた時期をたよりに番号を捜すであろう。

だれかがこの番号簿の氏名をアルファベット順に並べ直して1冊の本にまとめたら，どんなにか番号が調べやすいことであろう。

数年前までは，系図を調べるのに，先祖の記録があると思う土地へ出掛けて行き，牧師や司祭や記録の保管人に許可をもらって調べたものである。

そのような海外旅行のために教会員が莫大な時間と経費をかけ，それが教会員にかなり負担になっていた。そこで，系図部では人を

派遣してマイクロフィルム撮影の許可を取り，教会員がいながらにしてそのマイクロフィルムを容易に利用できるようにした。これらの記録は，電話の設置順に載せられた電話番号簿のように，年代順に収録されている。

これが現状である。では将来はどうなるのであろうか。

各ステーキ部には間もなく次の方式が紹介されるはずである。私たちはまずマイクロフィルムから全部の名前を写し取り，カードに記入し，コンピューターでアルファベット順に整理してゆく。これが記録抄出と呼ばれる仕事である。こうしてアルファベット順に並べられた名前のリストは，電話番号簿のように，神殿の儀式だけでなく，将来のいろいろな資料の基となる。

私たちがマイクロフィルム・リーダーの前に座り，過去の記録からひとつずつ人名を書き出す時，それは，記録に載っている先祖の子孫たち一人一人に代わって行なっているのである。今後は，干し草の山の中に埋もれた針を捜すようなことはなくなる。電話番号簿のように整理されたものの中から捜せばよいのである。

現在はこの世の先祖のことのみを考えているが，もし前世の先祖のことを考え，それが天の御父であることを思えば，自分が記録の中に見る名前は皆自分の兄弟や姉妹であることがよく分かる。これは伝道活動で言えばさしずめ戸別訪問といったところである。

これまで熱心に働いてきた人々の労苦に感謝しようではないか。過去の系図探求における働きはみな素晴らしく，すべて現在の基礎を築くものであった。

私たちは開拓者たちの働きのことを考えると，畏敬の念を抱かずにはおられない。ある者は手押し車で大平原を越えてきた。今日の私たちがあるのはそのような人々の辛苦と苦難のお陰である。私たちはその手押し車ととりわけそれを押した彼らの手に心からの愛と尊敬を抱いている。

現代は，超音速の飛行機もある。命令を与えさえすれば，コンピューターは心を先祖に向ける手伝いを一手に引き受けてくれる。

科学技術のもたらす恵みを享受したからといって，人間性が奪われるわけではない。それにより，先祖の探求法がもっと近代化されるのである。

天父の目から見て，私たちは何をなすべきであろうか。

私たちは福音のもたらす最高の祝福を，かつてこの世に生を受けたすべての神の子供たちに，それを受け入れる意志のある限り与えるようにしなければならない。

私たちは今どこまでそれを進展させているだろうか。

現在，教会全体で年間およそ100万人の名前が聖なる儀式のために処理されている。しかし，この割合でゆけば，10億の名前を調べるのに1,000年もかかる勘定である。主の時間表によると，過去に亡くなった10億人ごとに1,000年もかけるだけの時間の余裕が果たしてあるだろうか。

私たちは霊的にも技術的にも，主の豊かな祝福を受けてはじめて，私たちの心を先祖に向けるという愛を待ち望んでいる神の子供たちに昇栄の機会を分かつ働きを促進させることができるのである。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

十二使徒評議員会会長
エズラ・タフト・ベンソン

主が完全に受け入れたもう価値ある……

父母や祖父母に働きかけて，個人の歴史，家族の歴史を作っていただきたいと思う

今年の4月の総大会で，スペンサー・W・キンボール大管長は次のように言われた。「さ

らに私は，生者への伝道と同様に，死者のための神殿活動も急ぐ必要があると感じている。なぜならば，このふたつは基本的に同じだからである。……

大管長会と十二使徒評議員会は先頃，この非常に大切な業を早急に推し進めるためにはどのようにすればよいかについていろいろと検討を加えた。……

私たちは4代家族の記録プログラムの重要性をここで再び強調し，このプログラムに関する責任を個人と家族の双肩に直接課したいと思う。さらに可能であれば，4代以上さかのぼって調べ，家族の記録を作成するようにするとよい。

……系図記録から人名を抄出するプログラムを実施する。教会員は2マイル行く精神をもって，この抄出プログラムに従事し，奉仕するようにしていただきたい。このプログラムは地元の神権指導者が管理し，運営する。」(『生命と救いに至るまことの道』「聖徒の道」1978年10月号，p. 2）

この発表により，系図探求と神殿の儀式のための名前の提出方法が大幅に変更されることになる。それが個人と家族に実際どのような影響を及ぼすか，ここで変更になった事柄と，そうでない事柄とを明確にしておきたいと思う。

まず，従来と同様に変わりのない点を挙げてみよう。

1．教義と聖約第128章にある主の命令。「兄弟よ，われらまことに偉なる大義に向って進まざらんや。……

　この故に，いざわれら一教会員として，一人の民として，また末日の聖徒として，義しきに適う捧物を主に捧げん。またいざわれら，主の神殿の完成せる時，その中に於て，主が完全に受け入れたもう価値ある，われらの死者の記録を載せたる一冊の書を主に呈せん。」(22，24節)

2．日記を付け，個人と先祖の歴史を記す責任。特に系図表にある4代の先祖の歴史を記す責任。

3．生きている家族全員が神殿の儀式を受けるようにする責任。

4．覚えの書を編纂（へんさん）する責任。また，少なくとも4代までの先祖の名前を提出し，彼らのために神殿の儀式を執行する責任。

5．夫婦と子供たちで構成される家族を組織立てる責任。子供たちが結婚し，その子供が生まれると，祖父母を頭とした家族組織が構成される。このような家族組織を通じて，教会の全家族は，伝道活動，家族の備え，系図と神殿活動，福音の教育，文化・社会活動に活発に参加するようにしなければならない。以上の必須の責任は今後も変わらない。

次に，変更になった点を挙げてみよう。

1．4代家族の記録プログラムは大幅に変更された。これまでは，4代の「家族の記録」を提出する責任は各個人にあった。しかし，従来の4代家族の記録プログラムは1978年12月をもって終了する。そして1979年7月以降，教会は，個人ではなく，家族組織で新たに作成される「家族の記録」と「系図表」を受け入れることになる。したがって，1979年7月までの期間に，教会員は兄弟，姉妹，および両親から成る家族を組織立てて，彼らが共通に持っている「家族の記録」の情報を比較し，情報が正確かどうか，日付は正しいかどうか調べるようにしていただきたい。そして，家族としてひとつの記録を提出するようにする。次に，(両親が健在であれば）両親もこれを行ない，すべての世代の記録が正確であるようにする。また，必要であれば訂正する。そうすれば，家族組織の大切さが分かるであろう。

2．次に大きな変更点は，4代以上さかのぼって系図探求を続けてもよいが，これは教会の個人や家族に義務としては課せられないということである。それに代わって，教会が，大規模な記録の収集と抄出のプログラムを実施し，神殿の儀式を施す死者の名

前を用意することになる。

末日聖徒の聖典と系図探求に通じた人ならば，抄出プログラムは「主が完全に受け入れたもう価値ある」教会の覚えの書を作成する第一歩であることがお分かりいただけると思う。抄出プログラムの目的は，個人の神殿の儀式を行なうために名前を効率よく確認し，神殿活動を迅速に進めることにある。これにより，神殿を運営するために多数の名前を用意するという必要も解決できるわけである。

これまでは，先祖の探求に家族が法外な時間と金銭と労力を費やすことが珍しくなかった。しかし今後は，先祖を捜し出すことに一度それなりの努力を払えば，たとえ見付け出せない場合でも家族の責任は完了し，確認できない先祖は抄出／索引プログラムにまかせて，さらに別の家系の先祖に進むことができる。

ここで，先祖を中心とした家族組織について一言申し上げたいと思う。この家族組織は共通の先祖を持つ子孫たちで構成される。先祖を中心とした家族組織を設ける第一の目的は，系図活動を共通の先祖ごとに相互調整をするためである。ところがこの家族組織が，本来の目的を忘れて社会活動や文化活動，その他の活動に主眼を置くようになると，両親や祖父母の家族組織の領域が侵されることになる。したがって，キンボール大管長の変更の発表に合わせて，現在進行中の系図活動が完了できるようにしていただきたい。今後は，両親または祖父母の家族組織で，家族の集いや資金の調達を行なうようにしなければならない。

この先祖を中心とした家族組織のもうひとつの大切な目的は，両親や祖父母の家族組織が家族の歴史，特に最初の4代の先祖の歴史を作成することができるように，必要な資料を提供することである。このように先祖を中心とした家族組織は，記録文書や写真，手紙，原稿，日記，新聞，書籍などを集めてファイルし，目録を作り，保管する。

繰り返し申し上げるが，教会の全家族は，両親，また可能であれば祖父母の家族組織に所属するようにすべきである。先祖を中心とした家族組織は，家族の歴史を含め，系図活動の相互調整を行なうためにのみ存在する。この目的が十分に果たされたら，この家族組織は解消するとよい。

教会の家族が予言者の勧告通りに組織され，教会として，また家族として可能な限り先祖を調べ上げることができれば，その時初めて私たちは，ブリガム・ヤング大管長の予言した祝福を受けるにふさわしい資格が得られるのである。

「あなた方は主の神殿に入り，主のみ前で死者のための儀式を捧げるであろう。……この儀式が完了するまで，シオン山の大勢のイスラエルの長老たちは，主の神殿の柱のように，そこから出てくることはないだろう。彼らは神殿の中で寝泊りし，食事をとる。またしばしば次のように言うことだろう。『昨晩ある人が神殿に来ました。その人はだれか知りませんが，私たちの兄弟であることは間違いありません。その人は私たちの知らないことをたくさん教えてくれました。また，記録に出ていない，私たちの先祖の名前を沢山教えてくれました。私の真実の系図と何百年もさかのぼって私の先祖の名前を与えてくれました。』この人は，『あなたと私は同じ家族の中でつながっています。この中にあなたの先祖の名前が出ていますから，これらの名前を取り上げて，書き出し，あなたと同じように，バプテスマと確認の儀式を授けてこの人たちを救って下さい。彼らに永遠の神権の祝福を授けて下さいと私に言いました。』私たちがこの世に生を受けた人たちのためにしようとしているのはこのことなのである。これを考える時に，私はゆっくり休みたいとは思わない。むしろ終日勤勉に働きたいと思う。この仕事はかなり労力を要する仕事であるので，むだに過ごす時間が全然ないからである。」(*Journal of Discourses*「説教集」6：295)

私は，これまで説明した原則に従い，自分の家族を組織してみた。皆さんの中にも実行された方は多いと思う。私はエズラ・タフト・ベンソン家族という，祖父母の家族を組織した。私の子供たちと結婚した孫たちはこの家族組織の一員であり，同時にそれぞれの両親を中心とした家族組織の一員でもある。

私たちの親族は「系図表」を照合し，1979年にひとつの家族として教会に提出できるように「家族の記録」の確認を急いでいる。

また，子供たちには家族の歴史を作成してもらっている。私と妻は子供たちの模範となるように，私たち自身の歴史を作成している。さらに私たちの1枚目の「系図表」に出てくる4代目までの妻と私のそれぞれの先祖の歴史をまとめている。つまり，私たちの子供にとっては5代の家族の歴史ができ，孫にとっては6代，ひ孫にとっては7代の家族の歴史が残るわけである。

私たちはこれらの歴史をまとめる時，ごく一般的な様式で書くように努め，家族の覚えの書に収めるのに都合のよいように，「系図表」と同じサイズの紙にタイプした。また，ひとり当たり10ページ以内をめどに，簡潔にまとめるように心掛けた。何度使っても文字が消えたりしないように，わざわざオフセットで印刷し，コピーが何枚も取れるようにした。歴史にはそれぞれ，先祖の写真をはるつもりである。私たちは家族組織に属する全員に，それらの歴史を各々の家庭の夕べの基礎資料として使い，子供たちに先祖に対する愛と感謝と尊敬を教えるように勧めている。

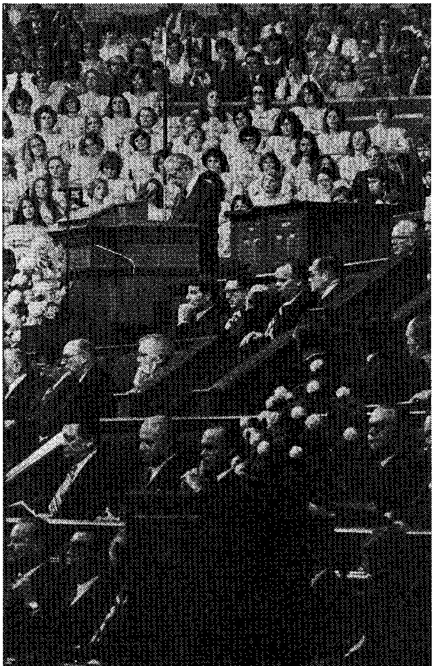
もし皆さんがまだ始めていなければ，現在の自分の家族と祖父母の家族を組織立てて，個人と家族の歴史を作成していただきたいと思う。

「さあ行って私たちの儀式にあずかろうではないか。そうすれば，霊界に行って父，母，兄弟，姉妹に会った時に，怠惰の責めを彼らから受けることはない。……これら〔神殿〕の儀式は私たちに啓示されたものである。私たちはそのことを知っている。したがって，その儀式にあずからなければ罪の宣告を受けるであろう。」（ウイルフォード・ウッドラフ，*Journal of Discourses*「説教集」13：327）

予言者ジョセフ・スミスは次のように述べている。「われらまことに偉なる大義に向って進まざらんや。進み行きて退くことなかれ。奮い起てよ，……進み進みて勝利に至れ。汝ら喜べ大いに喜べよ。世の人，歌声を張り裂けしめよ。死者よ，王インマニュエルに永遠讃美の歌を語り出だせ。インマニュエルこそ創世の前より，われらをして死者をその囚屋より贖うを得しむることを定めたまえり。そは囚人は釈さるべければなり。

……この故に，いざわれら一教会員として，一人の民として，また末日の聖徒として，義しきに適う捧物を主に捧げん。またいざわれら，主の神殿の完成せる時，その中に於て，主が完全に受け入れたもう価値ある，われらの死者の記録を載せたる一冊の書を主に呈せん。」（教義と聖約128：22，24）

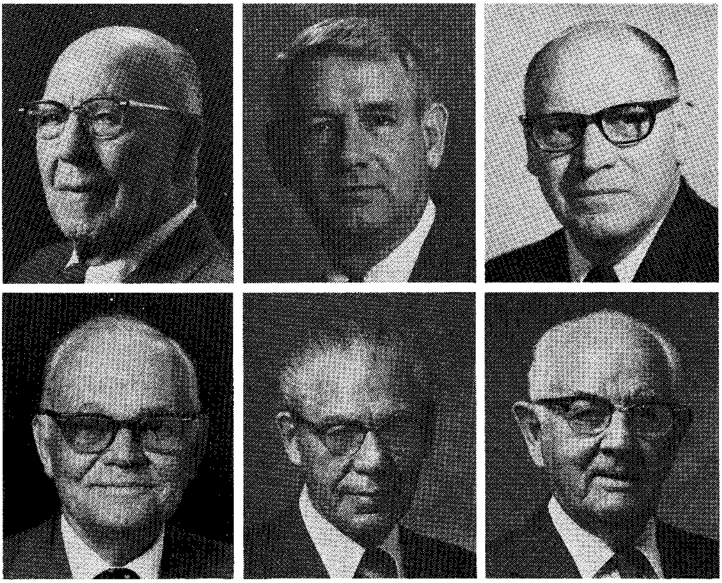
これらのことをイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



1978年9月30日（土）

神権部会における説教

末日聖徒イエス・キリスト教会第148回半期総大会報告



リグランド・リチャーズ長老　ディーン・L・ラーセン長老　ジョセフ・B・ワースリン長老

マリオン・G・ロムニー第二副管長　N・エルドン・タナー第一副管長　スペンサー・W・キンボール大管長

十二使徒評議員会会員
リグランド・リチャーズ

伝道のもたらす喜び

私たちの偉大な指導者の期待を裏切ることなく，すべての男子を伝道に送り出せるように祈っている

今宵，この場に立ち，この聖なるタバナクルをいっぱいに満たした神権者の大会衆を拝見すると非常な感動を覚える。特に，私はアロン神権の長として，14年間，教会の管理監督を務めた関係上，ここにお集まりのアロン神権者を拝見すると，深い感動を覚える。もちろん，他の会場でこの大会の話に耳を傾けているアロン神権者に対しても，同じような気持ちを抱いている。私たちは世界各地で，聖徒たちがキンボール大管長に対して，また特にキンボール大管長が伝道活動を強調しておられることに対して大きな関心を寄せていることを目にする時，深い感動を覚える。御存じのように，キンボール大管長は，すべての少年は伝道に出るようにと語っている。

私は少年の時に経験した，ひとつの出来事を思い出す。まだ執事に聖任される前で，私の育った小さな田舎町のワード部の集会に出席した時のことである。その日，南部諸州での伝道を終えて帰ってきたふたりの宣教師の伝道報告を聴いた。当時の宣教師は，財布も袋も持たずに旅をし，宿のない時には幾晩も屋外で眠らなければならなかった。私はその夜，ふたりの宣教師から何か特別な話を聴いたかどうか覚えていない。しかし，たとえ特別な話を聴かなかったとしても，主が私に何か特別なものを与えて下さったことは確かである。というのは，その集会が終わった時，私は，もし召されたら，世界のどの地方にでも伝道に出掛けようと思ったからである。私は帰宅すると，自分の寝室に入り，ひざまずいて主に祈った。そして，伝道に出かけることのできる年齢に達したら召しを受けられるよう，十分にふさわしい生活が送れるように助けて下さいと願った。後年，ソルトレーク駅からオランダに向けて旅立つ時，私が愛する人々に言った最後の言葉は，「きょうは，生涯最良の日です」であった。

私が伝道に出掛ける前に，当時大管長会の一員であったアンソン・H・ランド副管長は，私たち宣教師に次のように語った。「皆さんは人々から愛されるでしょう。しかし，おごり高ぶってはなりません。皆さんが愛されるのは，皆さんが他の人々よりも優れているためではないからです。皆さんが携えて行くもののために，人々は愛してくれるのです。」その時は，私はその言葉の意味が分からなかった。しかし，約3年間過ごしたオランダの地を後にする時に，ランド副管長の言ったことの意味がよく理解できたのであった。私は聖徒たちや，それまでに教会に導いた改宗者たちに別れのあいさつをして回った。その時，私は伝道に出掛ける際に愛する人々に別れを告げた時の何千倍もの涙を流した。

例えば，別れのあいさつをするためにアムステルダムのある家庭を訪れた時のことである。それは，私が改宗に導いた家庭である。私が訪れると，夫人は頬に涙して私の顔を見上げ，こう言った。「リチャーズ兄弟，シオンに行く娘を数カ月前に見送りましたが，とても寂しく感じました。でも，あなたを見送る方がもっと寂しいですわ。」私は，その家庭を初めて訪れた宣教師であった。その時に私は，「皆さんは人々から愛されるでしょう」と，ランド副管長の語った意味が分かった気がした。

次に私は，オランダひげをはやした兄弟に別れを告げに行った。彼はオランダの服を着て出てくると，ひざまずいて私の手を取り，しっかりと握って口づけをし，涙で私の手をぬらした。その時も私は，「皆さんは人々から

愛されるでしょう」と，ランド副管長の語った意味が分かった気がした。

ここで，グラント大管長がよく私たちに話して下さった，改宗者は宣教師をどれ程愛しているかという話をご紹介したい。グラント大管長はスカンジナビアのある国からアメリカに移住してきた夫婦について話した。その夫婦は福音の知識はあまりなかったが，福音が真実であることを知っていた。そこで監督はこの夫婦のところへ行き，什分の一の律法について教えた。すると彼らは什分の一を納めた。それから監督は再び彼らのところへ行き，断食献金について教えた。すると彼らは断食献金を納めた。監督はまた，ワード部の集会所を建てるための献金の要請に出掛けた。彼らは，什分の一からその資金をまかなうべきだと考えた。けれども，監督が去る前に，その夫婦は集会所の建築資金を納めたのであった。

それから間もなくして，監督はその家庭を訪れ，父親に息子を伝道に行かせてほしいと頼んだ。私には，グラント大管長がここに立って，「それはまったく耐えられない重荷でした」と語る声が聞こえるような気がする。その兄弟はこう言った。「彼は私たちのたったひとりの子供です。妻が寂しがることでしょう。だから，彼を伝道に出すわけにはいきません。」それに対して監督は言った。「△△兄弟，あなたは自分の親族を別にして，だれを一番愛していますか。」すると彼は少しの間考えていたが，やがて，「白夜の国を訪れて，イエス・キリストの福音を教えてくれた若者を愛しています」と答えた。監督はまた言った。「△△兄弟，あなたの息子さんをそのように愛される人にしてはいかがですか。」すると彼は，「監督，あなたには負けました。どうぞ息子を連れて行って下さい。伝道のために息子を捧げます」と言った。

さて，父親の皆さん，あなたの息子さんを，白夜の国を訪れて福音を教えたあの若者のように，ほかの人から愛される人にしてはいかがであろうか。私は，オレゴンで伝道したある帰還宣教師の話を聞いたことがある。彼自身，教会への改宗者であった。彼はしっかりした足取りで説教台の前に立つと，「私は百万ドルの小切手と引換えでも，伝道の経験は手離せません」と言った。彼の後方の席に座っていた私は，心の中で考えた。「オランダでの最初の伝道を，百万ドルと引換えにできるだろうか」と。それから私は，自分が仲立ちとなって教会に導いた家族を数えてみた。百万ドルと引換えに彼らを売るとしたら，自分は一体どんな人間だろう。私は，全世界のお金と引換えでも手離せない。

ある晩のこと，私はアパートの一室で，過去のことを思い起こしてみた。私は主の使いとして10家族を教会に導いていた。そして，彼らの息子たちが何人も伝道に出掛けていた。今から数年前のこと，私はブリガム・ヤング大学で開かれたインディアンのための食事会で話をすることになっていたので，これら10家族の中の一家族がどうなっているか調べ，その家族について話すことにした。当時，その一家族だけで153人の直系子孫がいた。そしてその中の35人が，専任宣教師の経験を持ち，4人がステーキ部宣教師として働いていた。もしひとりが2年間伝道したとすると，彼らの改宗した人々の伝道を入れなくても，その家族だけで70年間伝道活動を行なったことになる。また，その会に出席していたある家族は，インディアンの子供をふたり家庭に引き取った。そして，その中のひとりは8年間，その家族の世話になり，後に伝道に出た。私と同僚がその家族を教会に導いた時，私たちは70年先を見通せなかった。彼らがどうなるか予想できなかった。

私はまた，自分が仲立ちとなって教会に導いたもうひとつの家族を調べた。詳しいことは分からなかったが，聞いたところでは，彼らの祖父はすでに亡く，当時150人の直系子孫が教会に所属し，その中の5人が監督を務めているとのことであった。

私はある日，これら10家族のことを思い巡らし，イエスのみ言葉を思い浮かべた。「あなたがたは自分のために，虫が食い，さびがつき，また，盗人らが押し入って盗み出すような地上に，宝をたくわえてはならない。

むしろ，自分のため，虫も食わず，さびもつかず，また，盗人らが押し入って盗み出すこともない天に，宝をたくわえなさい。」（マタイ6：19―20）

私が青年時代のわずか数年間に，オランダの人々の間で過ごした数年間に，どれ程の宝を天に蓄えたかお分かりいただけるだろうか。ある人々はすでに他界した。しかし私は自分自身の家族と同じように彼らを愛している。私は自分の時が来てかの世界の人々の所へ行ったら，再び彼らに会えることだろう。私はその日を楽しみにしている。

私は宣教師と共に働く機会を何度も得た。私はこれまで4回伝道に出て，その中2回は伝道部を管理する責任を与えられた。また，数多くの伝道部を訪問してきた。若い人々が述べる証を聴くのが，私は大好きである。例えば，オレゴン州のある青年は，どんなに給料の高い会社であっても伝道活動を止めて入社する価値のある会社はこの世にひとつとしてないと，証会で述べた。彼は，数年間の兵役を終えて帰郷した後，伝道に出てきたのであった。

先週，アイダホ州で伝道中のある宣教師から手紙をいただいた。その一部をここで皆さんにお読みしたい。

「伝道活動に勝る仕事はありません。私は，これまでの27年間の人生で最も素晴らしい報いをこの伝道から得てきました。私は自分の生活を主に捧げています。私の心は，今私の目から流れ落ちている喜びの涙のように，満ちあふれています。伝道の成功と喜びを味わえることは，何にも増して素晴らしいことです。」

先日，私は，アルゼンチンでの伝道を終えたある兄弟の訪問を受けた。彼と旅を共にした宣教師たちはワシントンに帰ったが，彼は他の宣教師たちの訓練を手伝うため，ソルトレーク・シティーに来たのであった。すでに彼は3年間，親元を離れて暮らしていた。私は彼に言った。「クレッグ，あなたは伝道地にいる時間が無駄だと思いませんか。故郷に帰れば教育は受けられるし，安定した生活の道を開くこともできるでしょう。」すると彼は言った。「いいえ，監督。私を幸せにしたいと思ったら，明日の朝にでも飛行機に乗せ，アルゼンチンへ送り返して下さることです。」若人の心に，お金でこのような気持ちを抱かせることが果たして可能であろうか。このような信仰を人々の心に植え付けることができるのは，人の感情を創造したもうた主ただおひとりである。

兄弟の皆さん，私は自分のために伝道に出たいというような息子を持ちたくないし，そのような息子を伝道に出したくもない。なぜならば，私たちは世の人々に福音の真理を宣べ伝える責任を負っているからである。また，子供たちを伝道に備えさせる確かな方法のひとつは，彼らのために伝道資金の口座を開き，彼らにその貯蓄を行なわせることである。そうすれば，幼ない頃から伝道するようになるであろう。一例を挙げると，私が訪問したカリフォルニア州のあるワード部の監督は，少年が執事に聖任されたら，宣教師基金から15ドルをその少年に与えるというプログラムを実施している。監督から15ドルをもらった少年は，父親にも同額のお金をもらう。またその後，少年は面接を受けるたびに，例えば教師に聖任される時に，伝道資金の貯蓄額を調べられる。

教会のすべてのワード部がそのワード部のように行なって宣教師を送り出したら，55,500人の宣教師が出てもよい計算になる。私は自分の家系に属する，まだ伝道に出ていないすべての男子に伝道資金の口座を開かせ，幼ない時から伝道の意識を持たせるようにしている。

神が皆さん全員を祝福したもうように。また，私たちの偉大な指導者の期待を裏切ることなく，すべての男子を伝道に送り出せるように祈っている。私は皆さんに私の祝福をお残ししたい。主イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

七十人第一定員会会員
ディーン・L・ラーセン

信仰，勇気，決断

人生においてどのようなチャレンジに直面するかはそれに対して下す決断に比べればそれほど重要ではない

私は，信仰と勇気と決断について，アロン神権の年代にある若人の皆さんにお話ししたいと思う。そして，皆さんが成長期に伴う数々のチャレンジに直面した時に，私の話を役立ててそれを乗り越えて下さるようにと願っている。

最近，私は宣教師からレッスンを受けているひとりの青年に会った。彼はモルモン経を読んで祈った時に，答えを得たと感じていた。彼が行なうことは，バプテスマを受けるか否かの決断を下すことだけであった。

彼は優秀な青年で，これまで厳しい試練を幾度か経験し，大きな勇気と思慮深さを示してきた。しかし，教会員になろうとする今，これまでにないチャレンジに直面したのである。

私たちは，彼が新たに下さなければならない最も重要な決断について話し合った。「なぜ多くの人がモルモンに批判的なのですか」と彼は尋ねた。そして，宣教師と交際しているために友人や家族，会社の同僚から受けている扱いについて話し，さらに次のように言った。「教会に入ったとしても，とてもそのような感情の中で生活して行けるという自信はありません。でも，あなたの教会の教えは信じています。ですから，モルモンとしてではなく，善良なクリスチャンとして生活したいと思うのですがいかがでしょうか。」

この青年が家族や友人の悪感情を恐れてバプテスマを受けないという決断を下すならば，どのような結果を招くか想像するのは難しくない。もちろん，彼には選択する完全な自由が与えられている。しかし，選択の招く結果を選ぶ自由はないのである。

私たちは時として，末日聖徒であることを忘れて主から受けている信頼を損なう思いや行ないにふけるように誘惑されることがある。しかし，私たちはいつも自分が正しいと知っている事柄に基づいて物事の選択をするように求められる。私たちはほとんどの場合，自由に決断を下せるが，その選択のもたらす最終的な結果については選択する自由はないのである。

何が正しいかを知ること，またそれが良いと信じること，それだけでは十分でない。私たちは進んで自分の立場を明らかにし，いかなる状況の下にあっても自分の信念に従って行動しなければならない。たとえ自分に信念があっても，その信念に反する行為を秘かに，あるいは公然と行なうとすれば，その信念は何ら価値がないのである。

今日の社会において，忠実な末日聖徒であるためには，多くの勇気が必要とされる。多くの聖徒にとって，それは容易なことではない。また，時の経過と共に次第に容易になるというものでもない。現代の試練は厳しい。とりわけ，アロン神権者である若人にとっては厳しい。というのは，主の教えに忠実に従って生活したからといって，必ずしも人々の称賛を得られないからである。しかし，勇気を持って自分の信念を貫くならば，必ずやその報いを得るであろう。西ドイツの13歳の少年，アーミン・サッコー・ジュニアは自分の経験からこのことを知り，「ニュー・エラ」誌

に次のように書き送った。「クリスマスの時に，ぼくたちは先生と一緒にイエス様のことについて話しました。先生は，『キリストは死んで地上からいなくなり，今も死んだままです』と言いました。ぼくは，先生の言葉を聞いた時に，教会の教えについて考えました。ぼくは，キリストが3日後に復活し，多くの人々に現われ，それから天に昇られたことを知っていました。ですから，事実は先生の話と全く違うことを先生や友達に教えなければいけないと感じました。先生はぼくのことを相手にしませんでした。でも，ぼくは……イエス様が復活されたことを皆に話しました。ぼくが先生の言ったことを訂正しようとしたので，先生は不愉快そうでした。けれどもぼくはかまわず話しました。すると先生は，これは考え方の相違にすぎませんと言いました。ぼくはそれに答えて，『ぼくが話したことは，だれでも聖書から読むことができる事実です。はっきりと書かれていますから，ぼくの話したことと違う考え方のできる人はいないと思います』と言いました。授業が終わってから，先生は，ぼくがどこの教会に属しているのか尋ねました。そこでぼくは，『末日聖徒イエス・キリスト教会です』と答えました。その日は，心の中に本当に良い気持ちがしました。」（"*The Savior Lives!*" *New Era*『救い主は生きておられる』「ニュー・エラ」1977年12月号，p. 18）

自分の信じていることを話そうと決意したアーミン少年に賛辞を送ろう。それは決して容易なことではなかった。しかし，アーミン少年は自分が正しいと知っていることを行動に移したのである。

私たちがこの世で直面するチャレンジの中には，極めて個人的なものもある。身体障害やそれに類する制約がそうである。このような場合でも，落胆や敗北感ではなく，満足と達成感を得る決断を下す機会が与えられる。皆さんの中には「ニュー・エラ」誌(「聖徒の道」1977年1月号）のスティーブン・フェランスの話を読んだ方もおいでだろう。彼は4歳の時に進行性筋無力症という不治の病にかかった。医者は，12歳まで生きられないだろうと言った。しかし，スティーブンは人生に背を向けて無気力な病人になったりせずに，可能な限りあらゆる活動に自ら参加したのである。彼は人生を明るい目で眺めながら，一生懸命に過ごした。そして，自分の障害を補う方法を見いだしたのである。彼は医者の宣告よりも6年も長く生きた。晩年のスティーブンは人の助けを借りなければ動くことも困難な状態にあったが，熱意と独創力とユーモアのセンスは決して失わなかった。彼は自分の人生を幸福で意義深いものにしただけでなく，彼を知るすべての人々を霊的に鼓舞し，良い感化を与えたのである。若人の皆さんの中で，スティーブンの話を知らない人がおいでならば是非，読んでいただきたいと思う。（ベン・ホートン，『スティーブン』「聖徒の道」1977年1月号，pp. 21—23参照）

以前に私は高等学校のバスケットボール・チームのコーチを務めたことがある。そのシーズンは例年になく不調で，開幕後，立て続けに何試合も負けた。そのため，ファンや町の人々の中には成績不振に不満を押さえ切れない人々がいた。多くの人々から公然と非難を受けた。これはチームの選手にとって大きな試練であった。その結果，数人の選手が落胆して退部してしまった。しかし，残った選手たちは，自分自身とコーチを信頼する気持ちを失わなかった。そして，チームの不振が誘因となり，かえって練習に精出すこととなったのである。

シーズン半ばになると，状態は一変し，チームは試合に勝ち始め，州大会に出場する資格を獲得して人々を驚かせた。しかし，さらに驚いたことに，チームはその州大会で優勝したのである。これは学校創立以来の快挙であった。

決勝戦後，優勝杯の授与式と祝賀会を終えて，私は数人の選手と共に車で帰宅の途に就

いた。車の中で，私たちはそのシーズンに成し遂げた信じ難い出来事を思い返して，みんな沈黙していた。しばらくすると，大会の優秀選手のひとりに選ばれた少年が口を開いた。「コーチ，ぼくは今晩の試合に勝つと思っていました。」

私は，なぜそのように考えたのか興味を覚え，彼に尋ねた。「どうして，勝つと思ったのかね。」

すると，簡潔で率直な答えが返ってきた。私はその言葉を生涯決して忘れないだろう。「それだけのことをしたからです。」これが彼の返事であった。

確かにその通りであった。彼らはそれだけの代価を払ったのである。その波乱に富んだ年に少年たちは，彼らの生涯にとって価値のある貴重な教訓を学んだのである。

人生においてどのようなチャレンジに直面するかは，それに対して下す決断に比べればそれほど重要ではない。最善を尽くす勇気と信仰を持っている人は自分がこの世に来た目的を達成し，さらにほかの人々にも各自の目的を達成する力を与えることだろう。

私が最初に紹介した青年は，非常に重大な決断に迫られている。決断をあいまいにすることは許されない。教会員に与えられる祝福を享受するには，バプテスマを受けて教会に入り，それによって生じる結果を進んで負わなければならない。進んで代価を支払うことが必要なのである。そのためには，信仰と信頼が要求されるであろう。私たちが直面するチャレンジに対して選択をする場合も同様である。アロン神権者の皆さん，主は大きな信頼を寄せ，皆さんが自分の立場を堅持してなすべきことを行なうように期待しておられる。皆さんはすべて勝利者となるためにこの世に来たのである。主のみ業は必ずや伸展することだろう。そして，主の王国を建設するために皆さんが行なうべきことは多い。

私たち一人一人が，神の助けを受けて「代価を支払い」，いつの日か神のみもとに帰ることができるように，イエス・キリストのみ名により祈るものである。　アーメン。

七十人第一定員会会員
ジョセフ・B・ワースリン

あなたがたの光を輝かせなさい

各神権者はあらゆる機会をとらえて救い主のことを証すべきである

私たちの心に鮮明に焼きついた心温まる思い出は，いつまでも忘れ得ぬものである。そのような思い出のひとつに，昨年東ドイツのドレスデンで開かれた伝道部大会がある。1936年以来40年以上もの間，この地方を教会の大管長が訪れたことはなかった。しかし，ついに聖徒の祈りが答えられた。キンボール大管長が伝道部大会に出席されるとの発表があったのである。

1,200名以上の教会員と求道者が，遠方からあるいは近隣から，予言者の言葉を聴くために集まった。中には，数百キロも旅をして大会に出席した人々もいた。会場は満員で，それ以上ひとりも入る余地がない程であった。ある兄弟は，このまたとない機会を逃したくないために，大きなはしごを持ち出して壁に立て掛け，上の窓から大会の模様を眺め，大管長の話に聞き入っていた。彼の顔にはほほえみがあった。私にはその意味がよく理解できた。たとえ2時間半の間，地上4メートル半のはしごの上で危険な状態にあろうとも，彼は大会に出席できたことに感激し，感謝していたのである。

キンボール大管長の話を聴きながら，超満員の会衆の目に涙が光っていた。大管長は祝福と霊感をその大会衆とはしごの上の兄弟に与えただけでなく，車椅子の姉妹，マーガレ

ット・ヘルマン姉妹にも与えた。このヘルマン姉妹は若い頃から腰の病気を患っていた。そして年がたつと共にその痛みはますます激しくなり，ついに松葉杖を使わなければ歩けない状態となった。歩行の痛みを和らげ，場所の移動を容易にするために，教会員がお金を集めて彼女の車椅子を購入した。しかし，この車椅子もしばしの安らぎしか与えなかった。やがて，車椅子に座っているだけで，耐え難い苦痛を感じるようになったからである。同時に，彼女の左側の顔面神経が麻痺し，苦痛はさらに激しくなった。そのようなある日，予言者がドレスデンに来るという知らせが届いたのである。そこで彼女はどんなことがあっても大会に出席し，予言者に手を触れたいと熱望するようになった。

彼女は，予言者が自分の頭に手を置いて祝福を与える時間などあろうはずがないと思った。しかし，マルコによる福音書に記されている12年間長血を患った女性と同じような信仰をもっていた。イエスのことを聞いて，「せめて，み衣にでもさわれば，なおしていただけるだろう」と思ったあの女性である。その女性がみ衣に触れると，イエスは次のように言った。「娘よ，あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。」（マルコ5：25―34参照）

ヘルマン姉妹は孫のフランクに頼んで早目に会場まで連れて行ってもらい，予言者が通る通路に車椅子を置いて予言者を待った。この時の模様が，彼女の手紙の中に麗しい言葉で記されている。「予言者が私の方に近づいて来られ，私の手を優しく握って下さいました。そして，愛のこもったまなざしで，じっと私を見詰めました。それからというもの，現在に至るまで，私はまったく痛みを感じません。これは私の生涯で最も素晴らしい証です。」

記念すべき大会も終わり，私たちが人々の間をぬって退出する時，出席者は心を込めて美しい讃美歌「神よまた逢うまで」を歌った。まさにそれは，忘れ得ぬ思い出であり，神の力と信仰に対する力強い証であった。

兄弟の皆さん，私の切なる願いは，福音のためにすべてを忘れてはしごに登った兄弟のように，各自が進んで行動することである。また，車椅子の姉妹のように強い信仰を育んで下さるよう願っている。

そのための最善の方法は，主に仕え，神権を尊ぶことである。これが私の証である。神権を尊ぶには，イエスがこの世で導きと教えを施しておられた期間に述べたもうた偉大な教えと，啓示を通してこの末日に下された偉大な教えを，私たちのすべての思いと行ないの基にすることである。また，祈り，清い思い，汚れない言葉遣い，健全な身だしなみ，他の人々への奉仕，そして今日の誘惑を退けるのに助けとなる自らの改宗を図る努力，これらの事柄を通して神権を尊ぶのである。個々の生活の中で模範の光を輝かせ，加えて家庭と家族を強め，さらに教会の独身成人の生活に祝福をもたらし励ましを与えるために，できる限り理解の手を差し伸べるようにしよう。

家庭と家族を強めるために，私たちにできることは沢山ある。中でも大切なことは，私たちの妻や娘が扶助協会で活発であるように励ますことである。残念なことに，現在教会の多くの女性がこの祝福を受けていない。皆さんの働きを通して扶助協会の現状が改善されるならば，皆さんの家庭は祝福されるであろう。

最近，アイダホ州のある警察官から聞いた話は，この事実を裏付けるものであった。彼は，妻が活発な扶助協会の会員であったので，20年以上もの間，子供をしかる必要がなかったということである。

夫，妻，息子，娘がそれぞれ協力するならば，イエスが教えられた最も大切な言葉を真に達成できるのである。

「あなたがたは，世の光である。山の上にある町は隠れることができない。

また，あかりをつけて，それを枡（ます）の下にお

く者はいない。むしろ燭台の上において，家の中のすべてのものを照らさせるのである。

そのように，あなたがたの光を人々の前に輝かし，そして，人々があなたがたのよいおこないを見て，天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」（マタイ5：14―16）

私たちは福音の原則に従って生活する時に，「あなたがたは世の光である」（マタイ5：14）と宣言された救い主のみ言葉を成就することができる。この光を持つ私たちは，生活と行ないを通して人々の間に光を放ち，彼らが天父の栄光を輝かすように感化を与えるのである。

イエスは私たち一人一人が主を知るように望んでおられる。なぜならば，主を知る知識には人を変える力があり，私たちの生活に至上の喜びをもたらすからである。しかし，福音の及ぼす影響は個人にとどまらず，周囲の人々の生活から暗闇を追い払う光となる。自分ひとりで救われる人間はいない。それは丁度，ランプが光を放つのは，ランプ自体のためでないのと同じである。

今日，キリスト教は教義の基本において分裂している。全世界の忠実な末日聖徒でこの現状に疑いを抱かない者はない。この分裂のことが，最近の『タイム』誌に「イエスの神性に関する新たな論争」と題して掲載された。現代の多くの学者が，「イエスは永遠なる神の御子であるとは主張なさらなかったし，初期のクリスチャンも同様であった」という見解を発表した。英国では7大学の神学者が，イエスは神ではなかったという内容の書物を出版した。アメリカでも同様である。ある著名な牧師は，「イエスが自分を神であるとか，御子であると主張したことはない」と確信をもって述べている。『タイム』誌は以上のことを次のように要約した。「（いわゆるキリスト教唱道者の）新たなキリスト研究の観点に立つと，キリストはかつてのように神聖な存在ではない」と。（*Time*「タイム」1978年2月27日）

このように曲解された，危険な見解の中で明らかに要求されることは，教会の柱である神権者と姉妹が「パン種のような」（マタイ13：33）模範を示し，その影響力をさらに広く及ぼして非惨な世の中を満たすことである。私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの神性について，回復された教会と教会員がとる立場は，ジェームズ・E・タルメージ長老の次の言葉に雄弁に語られている。

「今，生きていると死んでいるとにかかわらず，無数の人々の厳粛な証が，このイエスこそ神であり，生ける神の御子であることを，また人類の贖い主，救い主であって，人間の身も霊も裁く永遠の裁き主であり，父なる神が選んで油注ぎたもうた御方，すなわち『キリスト』であると異口同音に宣言している。」（「基督イエス」p. 2）

私たちの教会は，現在も将来も，この点について決して妥協をしない。私たちはイエス・キリストの神性について揺るぎない証を述べる時いつ，いかなる場所にあっても，ためらってはならない。不承不承行なってもならない。世の状態がどうあれ，各神権者はあらゆる機会をとらえて救い主のことを証し，福音の真理を教え，模範を示し，私たちの救い主イエス・キリストに関する真理が永久に残るように友人や見知らぬ人々の前に光を輝かさなければならないのである。

最後に，ブルース・R・マッコンキー長老の「我キリストを信ず」と題する簡潔で美しい詩を引用して，救い主への絶対的な信頼を心から厳粛に証したいと思う。

「我キリストを信ず，そは我が主，わが神
主によりて我は恵みの上にあり
力をつくして我はあがめん
主は真理（まこと）の光の源なれば
我キリストを信ず，
よし何事か起こらんとも
主のみもとにぞ我は立たん
かの大いなる日，主再び地に降りたまい

すべて人の子を統べたまわんそのときに」
（『イエスについての証』「聖徒の道」
1973年4月号，pp. 158—59）
（『イエスの証』「エンサイン」1972年7月p. 109）

キンボール大管長は確かに主の力強い予言者であることを証する。大管長の霊感あふれる言葉と模範は，揺るぎない証が確かなものであることを表わしている。大管長は私たちに豊かな祝福を宣言し，限りない愛と励ましを与えて下さっている。私たちが偉大な指導者である大管長の指示に従えるように，イエス・キリストのみ名によりへり下り祈るものである。アーメン。

第二副管長
マリオン・G・ロムニー

キリストの弟子

神の律法を守ること，これこそ真実にキリストの弟子となるすべての人が従わなければならない大切な事柄である

兄弟の皆さん，私は，イエスの弟子になるということについて，少しお話したいと思う。私たちは神権を受けており，キリストの弟子となるにふさわしくありたいと願っている。このことに関連して，教義と聖約41章5節に次のように記されている。

「わが律法を受けてこれを行う者はすなわちわが弟子にして，わが律法を受けたりと言いてこれを行わざる者はわが弟子にあらず。これらの者は，汝らの中より追い出さるべし。」

キリストは，主の弟子となるようにすべての人を招いておられる。すべての人々に呼びかけ，そして約束を与えて下さっている。「すべて重荷を負うて苦労している者は，わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」（マタイ11：28）と。

また，主は言っておられる。「その罪を捨ててわれに来り，わが名を呼び，わが声に従い，わが戒命を守るあらゆる人々は，わが面を見てわれ在るを知ることあらん。」（教義と聖約93：1）

イエスは，この招きに対して礼金を求めたりは決してなさらない。ニーファイが記しているように，主は，「世界の隅々に至る一切の人々よ。われにきて金銭なしに無料で乳と蜂蜜とを買え」（IIニーファイ26：25）と言っておられる。しかしながら，金銭の支払いを求められないからといって，まったく代価を払わなくてよいというわけではない。キリストの弟子となるためには，支払わなければならないものがある。しかも，現実に要求されるものが。それは金銭ではない。実際の行為である。

イエスはこのことをはっきりと述べておられる。主に従うと公言する人々は，代価の要求されることを，最初に知らなければならないと，主は述べておられる。ルカによる福音書から，幾つか例を挙げてみよう。

「道を進んで行くと，ある人がイエスに言った，『あなたがおいでになる所ならどこへでも従ってまいります』。

イエスはその人に言われた，『きつねには穴があり，空の鳥には巣がある。しかし，人の子にはまくらする所がない。

またほかの人に，『わたしに従ってきなさい』と言われた。するとその人が言った，『まず，父を葬りに行かせてください』。

彼は言われた，『その死人を葬ることは，死人に任せておくがよい。あなたは，出て行て神の国を告げひろめなさい』。

またほかの人が言った，『主よ，従ってまいりますが，まず家の者に別れを言いに行かせてください』。

イエスは言われた，『手をすきにかけてから，うしろを見る者は，神の国にふさわしくないものである』。」（ルカ9：57—62）

イエスは，口先ばかりの人を求めてはおられない。イエスが求めておられるのは，努力し犠牲を払うことこそ主に従うことであると知っている人々である。

ルカは次のように記している。「大ぜいの群衆がついてきたので，イエスは彼らの方に向いて言われた，『だれでも，父，母，妻，子，兄弟，姉妹，さらに自分の命までも捨てて，わたしのもとに来るのでなければ，わたしの弟子となることはできない。自分の十字架を負うてわたしについて来るものでなければ，わたしの弟子となることはできない。……

それと同じように，あなたがたのうちで，自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては，わたしの弟子となることはできない』。」（ルカ14：25—27，33）

イエスのこのみ言葉には，厳しさがうかがえる。しかし，「文字通り自分の家族を憎んで捨てることが弟子となるための条件であるとは言っておられない。」弟子になろうと思う者は，個人やこの世の「要求よりも，まず神に対する義務を果たさなくてはならない」ことをイエスは強調しておられるのである。（ジェームズ・E・タルメージ 「基督イエス」p. 522）

またイエスは，この世の事業を行なう場合と同様，費用を計算することが大切であると述べておられる。主は次のように言われた。

「あなたがたのうちで，だれかが邸宅を建てようと思うなら，それを仕上げるのに足りるだけの金を持っているかどうかを見るため，まず，すわってその費用を計算しないだろうか。

そうしないと，土台をすえただけで完成することができず，見ているみんなの人が，

『あの人は建てかけたが，仕上げができなかった』と言ってあざ笑うようになろう。」（ルカ14：28—30）

主はこの神権時代に，かつて主ご自身がこの世において模範を示されたように，私たちが主のみ業にすべてを捧げ，主の戒めに厳密に従うことが大切であると述べておられる。

教会が組織された翌年の1831年，主は，ミズーリ州ジャクソン郡に集合していた聖徒たちを訪れた予言者ジョセフ・スミスに，「こは約束の地にしてシオンの市を建つべき所なり」（教義と聖約57：2）と，啓示を下された。この朗報に，シオンの祝福を得たいと切に願っていた聖徒たちは大喜びした。しかし同時に，シオンが建設できるか否かは，聖徒たちが主の律法に従順であるかどうかにかかっていると告げられたのである。主は彼らに次のように言われた。「聞け，汝らわが教会の長老たちよ。わが言に耳を傾けよ。汝らに関してわが欲するところ，また汝らを遣わしたるこの地に関してわが思うところをわれより知れ。われ誠に汝らに告ぐ，生くるも死ぬるもわが戒命を守る者は幸福なるかな。およそ艱難の中にも忠実なる者の報いは天国に於て更に大いなるべし。多くの艱難の後に祝福は来る。……わが豫め（あらかじめ）告ぐるこの事を心に憶えよ。」（教義と聖約58：1—2，4—5）

主はこのように告げ，約束されたシオンの祝福を，その栄光のあるがままに受けるためには，艱難を体験しなければならないということを聖徒たちに明らかにされた。

また主は聖徒たちに，当時シオンであり将来もシオンとなるミズーリ州ジャクソン郡では，律法すなわち主の律法を守らなければならないと警告された。そこに住む者は，真実の弟子とならなければならなかった。ミズーリ州の聖徒たちにこのことが知らされたのである。私たちもまた，このことをはっきりと知る必要がある。神の律法を守ること，これこそ真実にキリストの弟子となるすべての人が従わなければならない大切な事柄である。

それから1週間後，予言者ジョセフ・スミスがカートランドに向かって旅立つ間際に，主は彼を通して，すべてのものを捧げることの大切さを強調するひとつの啓示を下された。

「主は言う。誠心を以てわが栄光を仰ぎ見て今この地に集り来たれる人々は，見よ，幸

福なるかな。そは生くる者は地をつぐことを得，死ぬる者は全く働きを休みて安息を得。されど彼らのなしたる業はその人々につき従いて，わが備えたる父の住居に於て冠を受けしむればなり。然り，その足シオンの地の上に立ちて，わが福音に従い居る者は幸福なるかな。その者は報いとして地の善きものを受け，而も地はそれを力強く生ずべければなり。またわが前に忠実にして勤勉なる者は，天より祝福をもて冠を受くべく，また誠に少からざる戒命とその時々に関する啓示とを与えらるるなり。この故に，われ彼らに一つの戒命を与う。曰（いわ）く，汝心を尽し，勢力と思いと体力とを尽して主なる汝の神を愛すべし。また，イエス・キリストの名によりて神に仕うべし。」（教義と聖約59：1－5）

主の律法に耳を傾け，受け入れると公言するだけでは十分ではないのである。

次いで，主は，聖徒たちがシオンで繁栄するために行なわなければならない事柄を，具体的に幾つか挙げられた。

「汝己れの如く汝の隣りを愛せよ。汝盗むなかれ。また，姦淫を犯すなかれ。また，人を殺すなかれ。また何事にてもこれに類することを為すことなかれ。すべての事に就きて，主なる汝の神に感謝すべし。汝誠に真にへりくだりたる心と悔いる精神とを以て，汝の神に義しき捧物となすべし。汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様，祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし。」（教義と聖約59：6－9）

これは，主がミズーリの聖徒たちに告げられたことで，主の弟子たるにふさわしいことを証明するためには，これを守らなければならない。シオンのステーキ部の中心地であるミズーリ州ジャクソン郡に聖徒たちを導きたもうた時に，主はこのように告げられたのである。

また主は，最後に次のように言われた。

「正しき業を行う者はよき報いを得，すなわちこの世に在りては平和を得，次の世にありては永遠の生命を得ん。」（教義と聖約59：23）

私はここで，ミズーリ州ジャクソン郡の聖徒たちの歴史について話すつもりはない。ただ当時の聖徒たちは，シオンを築くために必要な献身を示さなかったと言えば，それで十分である。その結果，彼らは「敵の手によりて追払われ且つ危害を与えられた。」（教義と聖約103：2）その後，1834年2月24日，主は予言者ジョセフ・スミスに，聖徒たちがその地を追い払われた訳を次のように語っておられる。

「そは，……わが名を冠する者たちが与えたる教えと戒命とをことごとく聴かざりし故，暫（しば）しの間痛く且つ苦しき懲（こら）しめに服さしめんためなり。」（教義と聖約103：4）

彼らは本当の意味で主の弟子にならなかったのである。しかし主は彼らに，次のような大いなる約束を与えられた。「彼らは即刻その敵を守ることによりて，彼らはこの世の国々わが脚下（あしもと）に服し，聖徒らにこの世の与えられていつまでもこれを占めるに至るまで敵に打勝つを止めざるべし。」（教義と聖約103：6－7）

この大いなる約束は私たちに与えられたものである。私たちは，主がこの世にシオンをお建てになるまで，敵に打ち勝ち続けることだろう。そして，この大いなる約束がいつ成就されるかは，神の神権をあずかる者がいつ真実の弟子となるかにかかっている。したがって私たちは，福音の教えにかなった生活をすることによって，この世にはびこっている放蕩や邪悪に立ち向かわなければならない。

「何人もわが為に生命（いのち）を捨つることを怖るるなかれ。わが為に生命を捨つる者は再びこれを得べければなり。」（教義と聖約103：27）

また次の言葉は，私の胸を強く打たずにはおかない。

「また何人にまれ，わが為に喜びてその生命を捨てざる者はわが弟子にあらず。」（教義と聖約103：28）

私たちはこの大いなる宣言を考える時に，メルケゼデク神権を持つすべての人々に関わる誓約が思い出される。

教義と聖約第84章の啓示は，「聖なる神権」（教義と聖約84：6）と「小神権」（教義と聖約84：30）について明らかにした後，さらに次のように続く。

「およそ忠実にしてわが今語れる二つの神権を得，而してその天よりの召を全力を尽して遂行する者たちは，『みたま』により聖められてその肉体再新さる。これらの者はモーセの息子たちとなり，アロンの息子たちとなり，アブラハムの子孫となり，また教会員にして王国の民となり神の選民となる。主は言う，またすべてこの神権を受け入るる者は，われを受くるなり。そは，わが僕らを受け入るる者はわれを受くればなり。また，われを受け入れる者はわが父を受くるなり。而して，わが父を受け入るる者はわが父の王国を受くるなり。この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし。而してこは神権に属ける誓詞と誓約によりて然るなり。この故にこの神権を受くる者は，すべてわが父のこの誓詞と誓約とを受け，而してこれをわが父は破ることも変えることも為したもうはずなし。されど何人にまれ一度この誓約を受けて後これを破り，またことごとくこれに違背する者はこの世に於ても未来の世に於ても罪の赦しを受くることなかるべし。」(教義と聖約84：33—41)

私は，すべての神権者がこの誓約を忘れず，この誓約の下に各自の務めを果たして，その宣言に従う者に約束されている祝福を得られるようにと切に願い，また祈っている。

「誠に，主かくの如く言う。その罪を捨てわれに来り，わが名を呼び，わが声に従い，わが戒命を守るあらゆる人々は，わが面を見てわれ在るを知ることあらん。」（教義と聖約93：1）

兄弟の皆さん，私はここで皆さんに証を残したいと思う。私は，神が生きておられることを知っており，神のことをもっとよく知りたいと心から願っている。私はこれまで，イエス・キリストの福音が真実であるということについて疑いを持ったことはない。私は，自分が今生きているように確かに，イエスが生きておられることを知っている。イエスは，いつの時代にも肉における神の独り子であり，私たちの贖い主である。

私は，ジョセフ・スミスがこの最後の神権時代を開いたことを知っている。御父と御子が森の中でジョセフ・スミスに姿を現わしたもうたこと，そして，御父が予言者ジョセフ・スミスに私たちの主なるイエス・キリストを親しく紹介なさったことを思う時に，深い感動を覚える。私は，天使たちが訪れてきて，予言者とオリヴァ・カウドリに神権を回復したことを知っている。神は地上に再び主の教会を建てられた。そして，末日聖徒イエス・キリスト教会は，主の教会である。イエス・キリストの名をおいて，人類を救い得る名は天下のだれにも与えられていない。私たちが世界の隅々に至るまで広く宣べ伝えているイエス・キリストの福音を受け入れ，これに従う者のみが，この世において，物心両面の救いを得ることができるのである。

私は近い将来主のみ前に立って，この世で自分のなした事柄について報告をしなければならないことだろう。私は皆さんにこの証を述べると共に，私たちが福音に完全に従って，キリストのまことの弟子となり，この世において平和を得，来るべき世において永遠の生命を得ることができるように祈るものである。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

☆　　　　☆

第一副管長
N・エルドン・タナー

面接のもたらす祝福

私たちの第一の目的は，人に救いをもたらすことであり，教会員にこの世の使命と目的を理解させることである

兄弟の皆さん，このようにテンプルスクエアのタバナクルに会した大勢の神権者を目のあたりにすることは，まことに素晴らしい光景である。この会場以外に，全世界の約1,500の建物で何万人という神権者がこの放送に耳を傾けていることを思うと，この上ない力強さを感じる。

私たちが今宵ここに集まったのは，神の予言者である教会の大管長をはじめとする指導者から指導を受けるためである。私たちは皆，神権とは与えられた職の範囲内で神のみ名によって行動するために人に授けられた神の権能であることを知っている。人に与えられる祝福の中で，福音の証を持つことと，神権を持つことに勝る祝福はない。

皆さん方は全員神権者として主のみ業に携わって，真理と正義の大義を打ち建て，神の王国を建設しようと努めておられることと思う。実際に，私たちはこのことを行なう責任がそれぞれに課せられているのである。

私たちは皆，この教会がイエス・キリストの教会であり，主ご自身が神の予言者であるスペンサー・W・キンボール大管長を通してこの教会のみ業を導いておられることを知っている。私は皆さん方全員がこのことを知っているようにと切に望んでいる。

この教会が神権を有する唯一の教会であることを知っているとは，どういう意味であるか考えていただきたい。アロン神権，これはバプテスマのヨハネが遣わされてジョセフとオリヴァに授けた尊い神権である。メルケゼデク神権，これはペテロ，ヤコブ，ヨハネが按手礼によってジョセフとオリヴァに授けた神権である。

これらふたつの神権の権威と権能，および神権の職に伴う働きを考えてみると，何と素晴らしいことであろうか。アロン神権者は聖餐を祝福し，教会員に聖餐を配ることができる。また，監督から割り当てられるその他様々の義務を果たす。祭司は，天父と御子と聖霊とのみ名によって実際に人々にバプテスマを施すことができる。しかし，このような儀式を執行する人は皆，主の信任を受けるにふさわしい清い神権者でなければならない。

兄弟の皆さん，私たちは神権を与えられることを当然だと考えてはいないだろうか。私たちは主が寄せて下さる信頼と，福音の儀式を執行する特権に感謝しているだろうか。

私たちに与えられた責任をふさわしい状態で果たすことの必要性は，いくら強調してもし過ぎるということはない。

私は毎朝毎晩，私たちの指導者である，スペンサー・W・キンボール大管長が健康と活力を得，理解と知識を深め，主に代わって教会を導くために必要な霊感と啓示を受けられるように祈っている。

また，私たちすべての教会幹部が主の導きを得て神権の召しを全力を尽くして遂行できるように祈っている。また，常に考え方に一致があり，各自の受けている職にふさわしく生活できるように祈っている。さらに，全世界の神権者と教会員が人々の中にあって良い模範を示し，良い感化を及ぼし，人々が私たちの善い行ないを見て福音に興味を持つようになることを祈っている。福音は，その教えを信じて生活に取り入れるすべての人々に生命と救いをもたらすものである。

私たちがこの世に来たのは，天父のみもとに帰る資格のあることを立証するためであり，また，他の人々を同じ祝福が得られるように備えさせることである。

そのために，私たちは福音の教えに従って生活しなければならない。主は，私たちがこの目的を遂げることができるように数々の組織を与えて下さった。

そのひとつが家族である。ここで少し私の家族について述べてみたいと思う。私がアロン神権者の時，幸いにも父は監督であった。そのため，面接を受ける時，父が父親として面接しているのか，監督として面接しているのか分からないことがあった。しかし，面接の時にいつも父は，神権がどれほど大切であるか，また神権者としてふさわしくあるにはどうすべきかについて説明してくれた。父は私にとって最良の友であった。すべての監督は，アロン神権者にとって家族外の最良の友であるべきだと思う。アロン神権者は，次のことを心に留めておかなければならない。すなわち，監督はあなたがふさわしい生活をして，誓約を守り福音の教えに従う者だけに与えられる大いなる祝福を受けられるように助ける人であるということである。父親が模範的で家族に良い影響を及ぼしている家庭，定期的に家庭の夕べを開いている家庭で生活できることは素晴らしいことである。

教会の補助組織や聖餐会，神権定員会はすべて，教会員に備えをさせることを目的として定められたものである。

これらの組織や集会は，知恵の言葉を厳密に守り，什分の一を納め，集会に出席し，すべての行為や取引きにおいて正直で高潔で正当であり，自立し，薬物の乱用や卑わいな言葉を避け，同性愛などの不道徳な行為を断ち切るなど，主の目にかなった生活をすることの重要性を強調する。このような生活をしてこそ，神権の昇進を受け，神殿に参入し，伝道に出るという大いなる祝福にあずかることができるのである。

教会の神権者は，主のみ業を妨げるような行ないは一切しないであろうと私は確信している。

神権者の中にあっても，教会員でない人々と共にいても，神権者たる者は行動や思いや感化力を常に最善の状態に保って，この地上に神の王国を築き，人を救う業に携わっていると人々に見なされるようでなければならない。アロン神権者の皆さん，どこにあろうとも，これが私たち神権者の責任である。ひとたび神権を受けた者は，教えられた通りの生活をし，模範となるように期待されているのである。

監督やステーキ部長は，自分が管理している人々に先程私が述べた義務を教え，彼らを訓練し，励まし，力づける責任を負っている。

一方，若人はこれらの事柄に備えてふさわしい生活をする責任がある。

このように互いがその義務を果たす時に，監督は若人にとって家族以外で得られる最高の友となり，あらゆる面で模範となるのである。しかしながら，監督やステーキ部長には，若人が神権の昇進を受けるにふさわしいか，伝道に出る資格があるか，神殿に参入できる状態かどうかを面接によって判断する責任がある。

監督やステーキ部長は，若人がどのように戒めに従って生活しているかを観察し，面接を行なってこの判断を下す。その際，若人がふさわしい生活をしてなければ，神殿に参入できないし，伝道に出ることもできない。ふさわしくなるまで待たなければならない。

中には，ふさわしくない状態で神殿に参入し，良心の呵責に耐えられずに数年後に大管長に告白し，どうすればよいか尋ねる若い男女がいる。

また，監督やステーキ部長にうそを言って，ふさわしくない状態で伝道に出る若い男性もいる。このようなことは決して正しいことではなく，主の目に忌みきらわれることである。ふさわしくないままで伝道に行くよりは，ふさわしい状態になるまで待つか，伝道に出ない方が賢明である。

この世は，邪悪と誘惑に満ちている。私たちはこのような誘惑に背を向けるべきであっ

て，世の誉れを得ようとして誘惑に陥ってはならない。

悪の満ちている今日，面接する責任のある人が正しい面接を行なうことが最も重要である。

私たちの第一の目的，責任は，人を救うことである。このことを常に忘れないでいただきたい。

大切なことは，面接する相手に，彼らは神の霊の子供であり，人々から愛されていることを自覚させることである。また，彼らの幸福と人生における成功を願い，助けになりたいと思っていることを知らせることである。

資格の有無を判断する面接は，監督やステーキ部長の大きな責任である。また同時に，面接を受ける側にも同等の責任が伴う。面接をする場合は，常に一対一で行なうようにすることが大切である。

若い男性と伝道に出る面接をする時には，主と主の教会を代表する宣教師に主が何を望んでおられるかについて話し合う。例えば，知恵の言葉，道徳，正直，自立，什分の一，従順，献身等について主は宣教師に何を期待しておられるか彼に説明させる。

若い男性に，あなたが主に代わって面接していることを告げる。したがって，あなたに話すことは，主に対する約束となるのである。

面接と同時に，彼に自己評価させる。主は彼を，主の代理として望んでおられるだろうか。彼はあらゆる面で主の目にかなっているだろうか。主はすべてのことを御存じであり，決してあなどられるような御方ではないことを思い出させる。

彼に何か欠けている点があれば，それを正す方法があることを知らせる。悔い改めには大いなる清めの力がある。

ふさわしくないままで伝道に出るよりは伝道を延期した方がはるかによいことを，彼に知らせる。ほとんどの場合，悔い改めによって伝道の備えをすることができる。

重大な罪を犯した場合は，教会幹部の承認を得なければならない。しかしそれも，監督とステーキ部長の双方が面接をして，彼が完全な悔い改めをし，伝道に出るにふさわしい者となっていることを認めてからでなければならない。

面接の約束は，ステーキ部長が教会幹部とその件について話し合い，面接の時間の有無を確認してとるようにしなければならない。

過ちを犯した者は，面接されるのを待たずに，友である監督に自ら進んで話すようにすべきである。

かつて過ちを犯した若者が生活を一新し，主の使いとなるために清くふさわしい生活を始めることほど喜ばしいことはない。

面接は，思いやりと温情と愛を基としていることを常に心に留めておかなければならない。これは非常に大切なことである。相手に愛していることと，助けたいと思っていることを知らせなければならない。

監督やステーキ部長は，神殿推薦状を発行するための面接をする時，次のように言うとよい。

「あなたは神殿に参入する推薦状を受けるためにここにおいでになりました。そして，私は主の代理としてあなたを面接する責任があります。資格のあることが確認できましたら，私はあなたの神殿推薦状に署名しますが，私の署名以外に必要な署名があります。それはあなたの署名です。この両方があってはじめて，推薦状として認められるのです。

そして，推薦状に署名する時に，あなたはこの推薦状を持つにふさわしい者となるという約束を主と交わすことになります。これから，幾つかの質問をしますので，すべてに正直にお答え下さい。」

数年前に，私の友人が次のような話をしてくれた。彼がまだワード部で責任を持っていた頃，神殿推薦状の発行を受けるために監督のところに行った時のことである。

彼の監督は忙しそうにこう言った。「さて，

兄弟のことはよく知っているので，署名する前にとり立てて質問する必要もないでしょう。」そこで友人は次のように答えた。「監督，あなたには質問をする責任がおありでしょう。そして，私にはそれに答える特権があります。私は，あなたと主に対してその質問に答えなければなりません。ですから，質問をしていただけませんか。」

まさにその通りである。主は教会員に，面接を通してそれらの質問に答える特権をお与えになっているのである。そこでもし欠けている点があれば，会員は神権の昇進や伝道，神殿推薦状を受ける資格を得るように生活を改めることができる。

さらに，規定の質問を終えた後に，次のように付け加えるとよい。

「主の宮居に参入する人は，汚れなく，神聖で，清い状態にあり，決して不自然な行為を行なっていてはなりません。」

兄弟の皆さん，私たち教会を導く者の責任は，皆さんにはっきりと教えることである。したがって，私は通常このような集会では話さないことを，あえて今ここでお話したいと思う。

現在，世の中には邪悪で不正な行為が見受けられる。これらは衰退するどころか，ますます増加している。時折，結婚した夫婦が愛情を表現するのに，不純で不自然なふさわしくない行為に走ることがある。このことに関して，私たちはしばしば手紙で，「不自然な」「ふさわしくない」という言葉の定義について問合せを受ける。この答えは，皆さん方がよく御存じである。少しでも疑いを抱くようなことは，行なわないことである。

言うまでもないことであるが，不純な行為を習慣としている神権者は，神権の昇進を受ける資格がない，また神殿推薦状に署名する資格がないと感じているはずである。

万一皆さんの中に不純な行為に陥っている人があれば，それを捨て去ることである。そして，資格を問う面接において，自分自身に，主に，面接する神権役員に，あなたがふさわしいことを告げられるようになっていただきたい。

繰り返し申し上げるが，会員の資格を問う面接を行なう皆さんは，主の代理である。したがって，主ご自身が行なわれるように面接しなければならない。

すなわち，面接には，不謹慎で，品位を落とすようなことがみじんたりとも混じっていてはならない。面接は不作法であったり，不快でみだらな気持ちを起こさせるものであってはならない。

時々，監督やステーキ部長が軽率で不謹慎な面接をしているという報告を受けることがある。これは，特に既婚者に対して多いようである。

このような下品で，みだらで，不謹慎な行為を一つ一つ取り上げて，会員をきびしく詰問するようなことをしてはならない。

ある若い宣教師が背罪を犯したことを告白し，伝道本部で教会幹部から面接を受けた。その罪は，今後の伝道活動の資格を喪失させるものであった。

教会幹部は彼の行為の醜悪さに驚き，彼をそのような行動に追いやったものは何かを尋ねた。そしてその若者の監督からそのような行為について教わったという答えに，教会幹部はがく然とした。

その監督は，伝道の予備面接で，「あなたはこういうことはしていませんか。ああいうことはしていませんね」と，思いつくすべての不正な行為を挙げて質問したのである。それらの事柄は，これまで若者が想像もしなかったようなことばかりであった。その結果，邪悪な思いが刻み込まれた若者の心に，悪魔は巧みに取り入り，ついに若者は誘惑に屈してしまったのである。

兄弟の皆さん，面接は愛と慎みをもって行なわなければならない。面接を適切に行なうために，時折次のように尋ねてみるとよい。

「ご自分の神殿推薦状に署名するのに，不

安に感じることや，主に対して不正直だと感じることはありませんか。」

「署名する前に，何かしなければならないことはありませんか。主はすべてを御存じであり，決してあなどられるような御方ではありません。私たちはあなたをお助けしたいと思っています。召しや推薦や祝福を得るのに，正直であっていただきたいのです。」

あなたが以上の方法を用いる時に，相手の会員は自分自身を吟味する責任を負うことになる。監督やステーキ部長は識別の力を用いる権利がある。したがって，推薦状を発行する前に彼らに何か欠けているところがないかどうかを見分けることができるであろう。

識別の賜を持っているということは，何という祝福であろうか。これは，神権役員に与えられている賜である。

時折，監督やステーキ部長は，ずっと以前に犯した背罪について教会員から告白を受けることがある。このような人々は，もっと前に告白していなければならず，それをしなかったばかりに不必要な苦しみを受けることを余儀なくされている。

そのような場合，必ずしも教会法廷を開く必要はない。これは，監督の判断に任されている。監督にはそれに関して霊感と導きを得る資格がある。特に本人のその後の生活に悔い改めの状態がうかがわれる場合，霊感によって決定しなければならない。

責任を果たす時に，霊感と啓示を受けられるということは何と素晴らしいことであろうか。神権者の皆さん，このような霊感と啓示を受けるにふさわしい人となっていただきたい。

私は，思いやりと愛を具えた監督やステーキ部長の話をしばしば耳にする。彼らは，霊感によって面接を行ない，教会員のいかなる問題にも対処することができる。すなわち，教会員の生活を正して，彼らを伝道に出，神権の昇進を受け，主の宮居に参入するのにふさわしい教会員とすることができるのである。これこそ私たちが目指す業である。忠実な者に約束されている祝福を得させるために，これらの若人に愛と思いやりと関心を示すことである。

もう一度申し上げる。目的を達成できるように，私たちに識別の賜と啓示と霊感が与えられていることは何という祝福であろうか。これらはすべて人に救いをもたらすためのものである。まさにこれらは，私たち自身を救いに導くだけでなく，すべての教会員にこの世の使命と目的を理解させ，天父のみもとに帰る備えをさせるものである。

神権者の皆さん，私たちはこれから，愛するキンボール大管長の話をお聞きする。キンボール大管長は神の予言者であり，主は大管長を通してこの教会を導いておられる。私たち全員が大管長の言葉に耳を傾け，その教えを信じ，従うことができるように，イエス・キリストのみ名によってへりくだり祈っている。アーメン。

大管長
スペンサー・W・キンボール

考え，従うべき基本原則

女性を敬い，生命を大切にし，徳高い生活を営み，福音が宣べ伝えられるよう祈りを捧げていただきたいとの予言者の呼びかけ

今宵，神権者の皆さんをここにお迎えし，私は大きな喜びを覚えている。世界の各地で，私たち神権者は主を礼拝し，主をたたえるために集まっている。

兄弟の皆さん，過日，世界各地の数百の会場に何十万もの教会の姉妹たちが出席し，教会の女性のための特別集会が開かれた。実に感銘深い集会であった。皆さんはすでに奥さんや姉妹，母親あるいは娘からその会の模様

についてお聞き及びのことと思う。私たちはそのような集会を開けたこと，そして現代の科学技術でそれが可能になったことを感謝している。私たちは教会の女性を愛し，深い尊敬の念を抱いている。

私はその集会を振り返る意味で，息子，兄弟，父親，夫である皆さんに，二，三勧告したい。パウロがテモテに強く求めたように，教会の女性に対して「年とった女には母親に対するように，若い女には，真に純潔な思いをもって，姉妹に対するように」（Ｉテモテ５：１—２）接していただきたい。私たち神権者はそのようにすべきである。ほとんどの神権者はすでにそうなっているとは思うが，私たちは世の男性とは異なっていなければならない。私たちは年老いた女性を自分の母親のように扱い，若い女性を自分の姉妹（あねいもうと）のように扱うように，しかも「真に純潔な思いをもって」そうするようにと語ったパウロの勧告は，卓越した教えである。これに対して世の男性は，女性を軽視し，あるいは単なる欲望の対象や利己心を満足させるための対象としか考えていない。しかし，私たちは女性に対する行動や交わりにおいて世の男性と同じであってはならないのである。

ペテロは妻を尊ぶよう私たちに勧告している。（Ｉペテロ３：７参照）私はとりわけ妻，母親，姉妹，娘に対して他のだれよりも礼節を重んじなければならないと考えている。パウロは，自分の親族と家族をかえりみない場合は，「不信者以上にわるい」（Ｉテモテ５：８）と述べているが，自分の親族をかえりみるということには，経済的な保護のほかに，愛情面での保護を与えることも含まれると思う。主は現在の神権時代に次のように述べておられる。「妻たる者は……夫に扶養を要求する権利あり。」（教義と聖約83：２）この扶養という言葉の中には，愛情を注ぎ，食物だけでなく思いやりをも与える義務が含まれていると思う。

かつてリー大管長は，私たちの周囲にいる「乏しき者」は，食物と同様に，友情と愛の手をも必要としていると述べたことがある。私は時折，末日聖徒の女性が「乏しい」状態にあると考えることがある。それは，本来彼女たちが受けるはずの思いやりを寄せられていないからである。食料貯蔵室を一杯にすることはできても，姉妹たちは愛情に飢え，自分を認められることについて満たされていないのである。

兄弟の皆さん，私たちは姉妹たちから支援を受けていると同じように，教会の召しに働く姉妹たちを支援しようではないか。姉妹たちは軽視されても何とかやってゆくことが多いからといって，彼女たちを軽視することのないようにしようではないか。

家族全員をたたえる声で家庭を満たしていただきたい。同僚の神権者たち，すなわち教会の責任で共に働く兄弟たちに関心を払うあまり，永遠の伴侶を軽視することのないようにしていただきたい。妻との交わりは永遠に続くものだからである。

愛に満ちた天父は，地上でのあらゆる生活で喜びを得，恵みにあずかる機会を私たちに与えて下さっている。ここで主のみ言葉を読ませていただきたい。

「神はまた言われた，『水は生き物の群れで満ち，鳥は地の上，天のおおぞらを飛べ』。……

神はまた言われた，『わたしは全地のおもてにある種をもつすべての草と，種のある実を結ぶすべての木とをあなたがたに与える。これはあなたがたの食物となるであろう。

また地のすべての獣，空のすべての鳥，地に這うすべてのもの，すなわち命あるものには，食物としてすべての青草を与える』。そのようになった。

神が造ったすべての物を見られたところ，それは，はなはだ良かった。夕となり，また朝となった。第六日である。」（創世１：20，29—31）

私は，前回の総大会の神権部会で，古くから歌われている歌の一節を読んだ。この「小

鳥たちを殺すな」という歌は，私がアリゾナで子供の頃，よく口ずさんだ歌である。同年代の少年たちは手に手にパチンコを持って沢山の小鳥を殺したものである。

初等協会や日曜学校で私たちはこう歌った。

「小鳥たちを殺すな　木々で鳴く鳥
夏中ずっと　きれいな声で。
小鳥たちを撃つな　この地は神のもの
小さくとも大きくとも　神は恵みたもう。」

（*Deseret Songs*「デゼレト歌集」1909年，No. 163）

私は全世界の若人と話をしながら，この歌詞に関連してもっと話をしておかなければならないと感じた。

私は世界のあらゆる国々で，美しい声をあげ，木々を飛び交う小鳥を見ることができると思う。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は，これらの小鳥や野生動物の保護に力を注いだ方である。

ある時，スミス大管長はワサッチ山岳地帯を訪れて，丘や森に住む動物たちと接した折に，次のような詩を詠み，4節からなるその詩にそれぞれ絵を描いた。最初に野リスを次のように詠んでいる。

高山をかけまわる小リス。
小リスはえさをねだり，
えさをもらうと，
感謝を込めてさようならをいう。

次はコウモリである。

夜空を飛び交う小さなコウモリ。
コウモリは昆虫や蚊を食べる。
全くコウモリに似つかわしいえさだ。

次に鹿を描いている。

山小屋を訪れる子鹿のバンビ。
差し出す塩をなめ
山中を駆け巡る。

次に小鳥をうたう。

一日中歌い私たちを楽しませてくれる
空の友。
冬の寒さが訪れると
賢くもいずこかへ去って行く。

さて，私は不必要な流血や殺生について私の考えを付け加えておきたい。予言者たちの情感あふれるこれらの言葉に，あらゆる人は心を動かされると思う。

罪もない小鳥の殺生だけでなく，農夫や人類の敵である害虫を食べてくれる野生動物についても申し上げたい。これらの動物を無益に殺すことは邪悪なことであるばかりか，恥ずべきことであると私は考える。この原則は，小鳥だけでなくあらゆる動物をその対象にすべきであると思う。主が私たちにすべての動物を与えられたと記されている聖句の目的とするところはここにあると理解している。これらすべての生き物は，私たちが活用するため，さらに私たちを助けるために地上に置く必要があると主はお考えになったのではないだろうか。

ジョセフ・F・スミス大管長は次のように述べている。

「数年前，イエローストーン国立公園に行った時，私は小川や美しい湖を小鳥たちが少しも人を恐れないで泳いでいるのを見た。小鳥たちは飼い鳥のように，通行人がそばを通っても恐れなかった。また，美しい鹿の群れが，道路の傍らに集まっており，家畜のように人を恐れなかった。それを見た時，私は，この地上で，中でもシオンの住民の中で，だれも傷つける者，悩ます者のいない時代が来るのを，かいま見たような気がした。これらの鳥は，もしも人の住んでいる他の地域に行けば人懐っこいので簡単に狩猟家のえじきになることだろう。同じことがあの美しい動物，鹿

とカモシカについても言える。もし彼らが，公園の保護区を迷い出ると，当然彼らの命をねらう人々のえじきとなることだろう。私は，どうして人が動物の命を奪いたいというような血に飢えた望みを持つようになるのか，全然理解できない。小鳥を何百羽と撃ち殺す『スポーツ』を楽しんでいる人々を私は知っている。私たちの中にもそのような人々がいる。彼らは一日のスポーツが終わると，害のない鳥をどれだけ殺したかを自慢し合う。そして猟の許されている期間中，毎日何十人，何百人という人々が狩りに行くのである。（鳥たちにも保護の期間が設けてあって危険を気遣う必要のない時がある）狩猟解禁の朝早く，大軍隊が戦闘を始めたかのような鉄砲の音がとどろきわたる。そして，罪のない小鳥たちの虐殺が行なわれるのである。

食料として必要でない限り，だれも動物を殺してはならないと私は考えている。人の食用とならない罪のない小鳥を殺してはならない。命のある動物を殺そうとすることは，人にとって悪いことだと私は思う。ある著名な人々が，動物の血を流すことを楽しみのようにしているのを見て，私は驚いたことがある。動物の血を流すことは間違っている。」(*Gospel Doctrine*「福音の教義」pp. 265—66）

この点についてある詩人は次のように記している。

「あなたが与えることのできない命を
　奪ってはならない。
　あらゆるものは平等に生きる権利を
　持っているのだから。」

私はこの詩に付け加えたい。神があらゆるものに命を与えられたのだから，そして，人の食料を必要を満たすことのみに用いるべきものだから，と。

開拓者たちが平原を旅していた時に，バッファローを殺して子供たちや家族の食料にしたのとは事情が違う。舌と皮だけをとるために野牛を殺し，やたら命を粗末にし，食糧を無駄にした邪悪な人々もいたことは確かである。

予言者ジョセフ・スミスは，多くの人々をどのように治めているか尋ねられた時，次のように答えた。「私は人々に正しい原則を教え，人々に自らを治めさせる。」

私たちは予言者ジョセフ・スミスに正しい教えを求めている。予言者は次のように語っている。「私たちはエンバラス川を渡り，この川の支流を西へ1マイル程行った所に野営した。テントを張っていると，3匹のがらがら蛇が兄弟たちに襲いかかろうとしているのに気付いた。しかし，私は兄弟たちに言った。『そのままにしておきなさい。手を出してはいけない。神の僕たちが同じような気持ちをもって殺そうとしていたら，蛇はいつまでも毒液をはいて立ち向かってくる。私たちはどう猛な動物を前にしてでも手を出さないようにしなければならない。人が残忍な気持ちをなくして，動物を殺すのをやめる時に，ライオンと羊が一緒に生活し，乳飲み子が蛇とたわむれても危害を受けない日が来るのだから。』そこで兄弟たちは注意深く蛇を棒に巻きつかせると，対岸に運んで行った。私は兄弟たちに，旅の間中，飢えをしのぐために止むを得ない場合を除いて，蛇や小鳥をはじめあらゆる動物を殺さないように戒めた。」(*History of the Church*「教会歴史」2：71—72）

さて，年齢を問わずすべての兄弟たちにもうひとつ申し上げたいことがある。一篇の詩を読むので，その内容を真剣に考えていただきたい。この詩には「清潔に」という題が付いており，この主旨についてはすでに何人かの兄弟たちが本大会で話している。

「あなたが汚れた話を口にする時，
人々にどんな印象を与えているか
考えているだろうか。
子供たちは喜ぶだろうか。
人々が笑うからといって
誇らしげに話してもよいものだろうか。

あなたの口をついて
汚れた話が出てくる時に,
自分の心の中にあるすべてを
さらけだしていることを知っているだろうか。
それはあなたが汚れていることを
明るみに出し,
あなたの無知を声高らかに
宣言しているのだ。
本当の楽しみを求めている礼儀を知った少年たちに
愛想をつかされることになる。

あなたは人々にあなたの心がどれほど
不潔かを示しながら,
自分に本当の常識があるとでも思っているのだろうか。
あなたは自分の両親と友達を
侮辱しているのを知っているだろうか。
思いを巡らしてみなさい,
それがわかるだろう。

周囲の人から尊敬を受けたければ,
もう少し言葉を選び
もう少し上品な言葉を使いなさい。
そうすれば,汚れや悪臭,罪の中に
人生を求めている人々よりも,
はるかに大きな尊敬を受けることだろう。」

兄弟の皆さん,これらのことを考えていただきたい。深く心の中で思い巡らしていただきたい。ふさわしい生活を営み,戒めを守り,神権を尊びなさい。そうすれば,主はあなたを愛し,祝福を与えて下さるであろう。私は主の僕として皆さんに私の愛と祝福を与えたい。

会を閉じる前に今ひとつ申し上げたいことがある。この会のはじめにリグランド・リチャーズ兄弟が語ったように,偉大な伝道プログラムについて数々話されてきた。現在,宣教師は26,606名を数え,さらに毎週その数が増加している。

しかしながら,いまだに入国できない国,査証(ビザ)や旅券(パスポート)を入手できない国が数多い。これは非常に大切なことである。オリブ山で主より与えられた責任を果たそうとするならば,つまり私たちが「全世界に出て行って,すべての造られたものに福音を宣べ伝え」ようとするならば,これらの国々の門戸を開く必要がある。私は先日地区代表の集会でこのことについてお話した。私たちはまだほんの表面をひっかいたに過ぎない。私たちにはもっと多くの宣教師が必要である。私たちを友と考えて入国の機会を与え,世の中で最も素晴らしいものすなわちキリストの福音を民に伝える機会を与えてくれる国がもっと必要である。この福音は彼らに救いと大いなる幸をもたらし得るものである。

今宵私の話に耳を傾けているすべての方々にお願いしたい。これらの国々の指導者と接触を図り,私たちが彼らの民によきものをもたらすということを信じていただくために特別な努力を払っている兄弟たちがいる。皆さんの毎日の祈りの中で,国々の門戸が開かれるという偉大な祝福を実現させるために,これらの兄弟たちへの祝福を願っていただきたい。私たちは彼らを善良な市民に,また善良な人にすることができる。そして彼らに幸福と喜びを与えることができる。

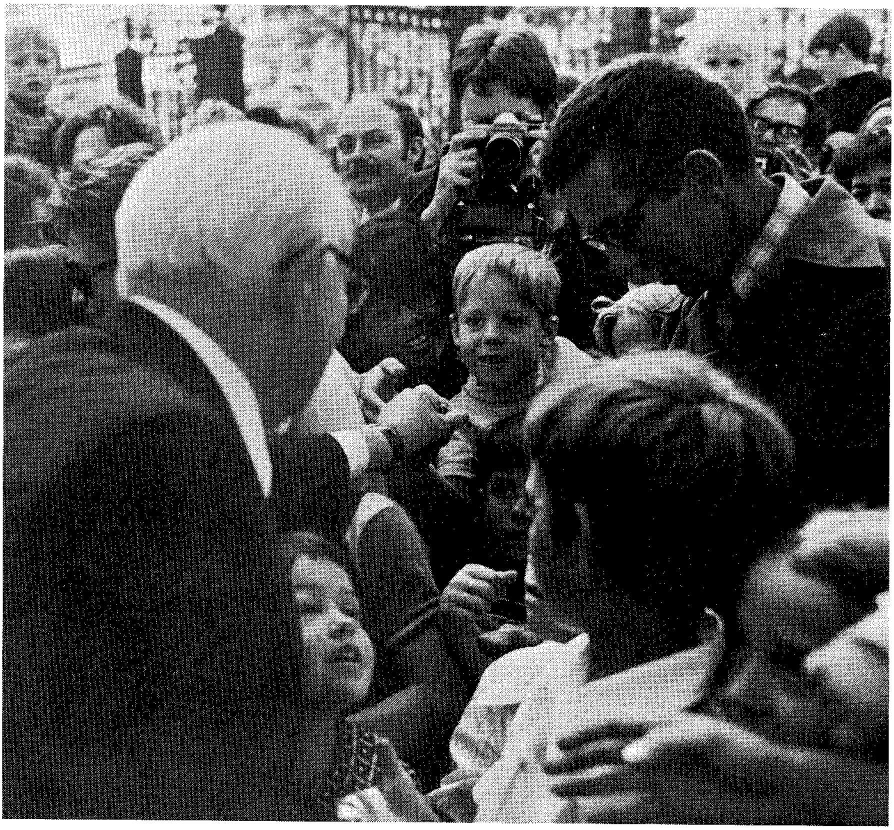
すべての家族は毎週月曜日欠かさず家庭の夕べを開いていただきたい。そして,家庭の夕べで特に伝道活動を取り上げて話し合っていただきたい。父親,母親,そして子供たちがこの非常に大切な点について順に祈りを捧げていただきたい。すなわち,国々の門戸が開かれるように,次に教会の若い男女の宣教師が喜んで伝道に携わり,人々を教会に導くことができるように祈っていただきたい。

中国には9億の人々が住んでいる。昨日,50人程の中国人の聖徒たちにお会いした。私は教会本部の中を案内し,私たちの計画について話した後,このように言った。「きょう私

たちは中国のことについて話し合いました。」（その日は地区代表の集会が開かれた）「中国の人々はすぐれた資質をもっておられることを知りました。また主のみたまが中国の人々の上に臨み，福音をもたらす可能性が見えてきたようです。」私はこの大会に出席しているすべての中国人の方々にお願いしたい。「皆さんの家庭の夕べ，家族の祈り，集会の祈りの中で主にこのことをお願いしていただけないであろうか。もちろん，主は皆さんの助けがなくともおできになる。しかし，主は私たちがそのことに関心を持ち，そのことをどれほど理解しているかを知りたいと思っておられるのではないだろうか。」

したがって，今後聖徒たちの祈りが増し，そしてその祈りの中で主のプログラムが確立され，主の命じられたように主の民のもとへ福音を携えて行くことができるよう常に願っていただきたいと，私は心から望んでいる。私はこれが行なわれることに深い関心を寄せ，また祈っている。

話を終えるにあたり，愛する教会幹部の兄弟たちがここで語ったすべてのことに感謝の意を表したい。福音が真実であり，偉大であることを証し，イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

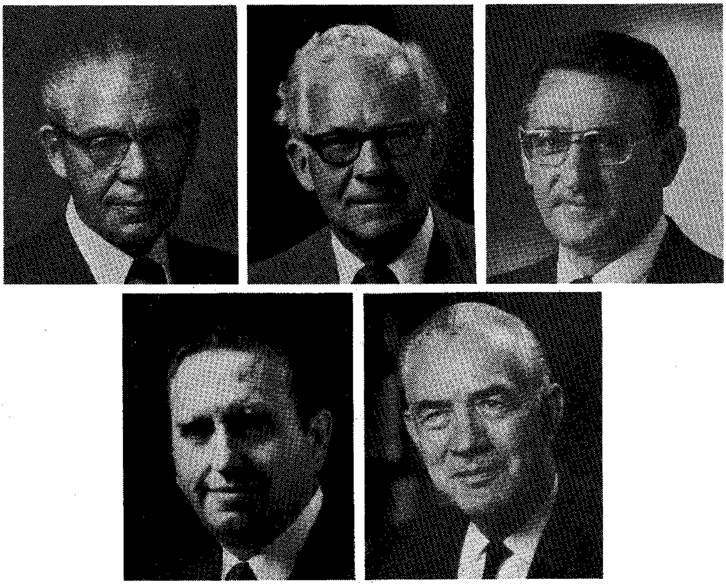


テンプルスクエアで子供たちと握手するキンボール大管長

1978年10月 1 日(日)

午前の部における説教

末日聖徒イエス・キリスト教会第148回半期総大会報告



N・エルドン・タナー第一副管長　マービン・J・アシュトン長老　カーロス・E・エイシー長老

トーマス・S・モンソン長老　マーク・E・ピーターセン長老

第一副管長
N・エルドン・タナー

生ける神を信じる信仰の基

神の存在を信じることに加えて，私たちは神の性格や属性を知らなければ，私たちの信仰は不完全なものとなってしまう

合唱団による「わが先祖の神」（*Gad of Our Fathers*）の美しい合唱に続いて，「天にいますわれらの父」に祈りが捧げられ，次いでキリストをたたえる「主の愛を歌う喜び」（*'Tis Sweet to Sing the Matchless Love*）が歌われた。ここで，私は神と人間の関係についてお話したいと思う。皆さんにお話する間，主のみたまと祝福があるように謙遜にお祈りする。

聖書は，「はじめに神は天と地とを創造された」（創世記1：1）という，簡潔な言葉ではじまっている。この言葉の中に，神を信じる信仰の基，神の無限の力，そして人間が死すべき状態に置かれている理由を見いだすことができる。創世記の第1章を読むと，私たちはこの地球の崇高な創造について知ることができる。神は，光とやみを分け，天と地を分け，青草と種をもつ草と実を結ぶ果樹とを地に生えさせ，日と月と星を置き，魚と鳥と動物を創造され，そしてついに，「神は自分のかたちに人を創造され……男と女とに創造された。」（創世1：1—27）神の存在を立証するこれらの聖句を読まずに，私たちは実際に創造主なる神をどのようにして知ることができるだろうか。神の性格や特質，属性を実際にどのようにして理解できるだろうか。神が存在するという事実を信じることがまず大切である。しかし，神のみもとにもどり，永遠の生命が得られるように私たちを導く知性を伴った信仰を働かすには，神の存在を信じるだけでは不十分である。

神の存在を信じることに加えて，神の性格や属性を知らなければ，私たちの信仰は不完全で空しいものになってしまう。真理の原則に基づいていなければ，信仰は何の役にも立たないのである。このことは以前もお話したヨーロッパ人が最初に新大陸を探検した時の話に明らかにされている。ヨーロッパ人と出会ったインディアンは，火薬の威力に驚嘆し，火薬の生産法について幾つもの質問を浴びせた。無知なインディアンをだましてもうける絶好の機会と見てとったヨーロッパ人は，火薬は植物の種から取れるとインディアンに教えた。そしてインディアンは，その言葉を信じ，金と交換に種をもらった。インディアンは，注意深く種をまき，成長を見守った。もちろん，植物から火薬が取れる訳がなかった。どんな誠実な気持ちをもって信じても，誤っていれば何にもならない。誤りは真理に変わることができないからである。

私たちの神への信仰もこれと同じである。神を知り，神の性格や属性を理解しない限り，私たちは神を信じる完全な信仰を持つことはできない。旧約の時代には，神についての疑問は皆無であった。神は，アダムやイヴと共に歩き，語られたからである。そして，罪を犯して園を追われた後も，アダムとイヴは引き続き神に頼り，神に犠牲を捧げた。また神はふたりに戒めを与え，ふたりはそれらの戒めを守った。

アベルとカインは，両親の教えと個人への啓示によって神のことを知ったのである。アベルの捧げ物が受け入れられ，カインの捧げ物が拒まれた後，カインは兄弟殺しの罪を犯したが，神はカインと語りたまい，カインはそれに答えた。

アダムは930歳生き長らえ，その間9代の後裔，ノアの父ラメクに至るまで自分の証を伝えることができた。（創世5：5—31参照）神の知識は，ノアとその家族によって大洪水後も人類に受け継がれ，ノアはその後10代に

わたって直接彼らに教えを授けた。(創世6：9参照）また神は，アブラハム，イサク，ヤコブ（イスラエル）と続き，イスラエルの子孫たちの間に偉大な驚嘆すべきことをなしたもうた。(創世17：1，出エジプト3：15参照）

神は，モーセに様々な方法でご自身の事を知らせたもうた。モーセは，神のみ姿さえ目にしたのである。そして，何代にもわたって神とイスラエルの民との直接の交通の道が開かれていた。

歴史や伝説のほかに，人間の理性も神の存在を力強く宣言している。私たちを取り巻く自然の中にその証明を見いだすことができる。かつての著名な科学者，ジェームズ・E・タルメージ長老の言葉を引用してみたい。

「この自然の相を観察する人は天地万物の中に一糸乱れない秩序があることに感銘を受け，昼と夜とは規則正しく交代して動物に植物に人間に活動と休息の期を交互に与え，四季の循環は活動と休養の期を違えず，動物は植物に依り植物は動物に依り，水は海から昇って雲となり，雲は冷却して水と成って人を利益することに目を注ぐ。また人が進んで物事をくわしく研究すれば，勉学と科学的研究によってこれらの証明は幾層倍することを知る。また地球とそれに伴う諸星はその軌道を踏み外すことなく，衛星は遊星に属し遊星は太陽に属して互いに引き合っている法則を知り得るし，動植物や自分自身の体の驚嘆すべき組織や，肉体の機構の考えも及ばぬを見ることができて，一歩一歩進むごとに理性に訴えるところが多くなり，はたしてこれらの秩序これらの組織を誰が造ったかと疑問を発せざるを得なくなり，その結果疑問は変じてその存在と能力がかくも強力に声明されている『創造者』に対する崇拝となり観察者は変じて礼拝する者となる。」(「信仰箇条の研究」，p. 40）

この証明をもってすれば，神の存在を疑うことはできないはずである。初期の聖典は，神の存在を論証しようとしていないし，無神論の詭弁を論破しようともしていない。そして，後になって，誤りが入り込んできたようである。キリストや使徒の死と共に，啓示が止んだ背教の時代が訪れた。この間神の性格や属性についての単純で道理にかなった権威ある教義がゆがめられはじめ，人の造ったおびただしい数の説や教義が出現した。その多くは，超自然的で不可解なものであった。

当時，神会に関する多くの不和，論争に決着をつけるため，紀元325年，コンスタンチン大帝により，「権威あるものとして受け入れられる……信仰の宣言」を獲得するニケア公会議が召集された。そして，現在ニケア信経として知られている信条が公表された。その後，アタナシウスの信経が現われた。その一部を紹介しよう。「カトリックの信仰は，そのペルソナを混同することなく，またその本体を分つことなく，唯一の神を三位に於て，また三位を一体に於て礼拝することこれなり。何となれば父と子と聖霊との神性は一にして，その光栄は等しくその権威は共に無窮なればなり。子は父の如く聖霊もまた同じ。すなわち父も子も聖霊も造られたる者に非ず，共に宏大にして永遠なり。然れども三つの永遠なる者あるに非ずして，造られざる者と宏大なる者との一なるが如し。同じく父も子も聖霊も全能なり。されど全能なる者三者あるに非ずして，一の全能者あるのみ。かくの如く父も子も聖霊も神なれども三つの神あるに非ずして神は一なり。」(「信仰箇条の研究」p. 58）タルメージ長老は，「以上これだけの短かい文章の中にこれほどの矛盾と撞着があることを想像するのは困難である」(「信仰箇条の研究」p. 58）と言っている。多くの人々にとって，神は全く神秘的で不可解なものでしかないのである。

ところが，この末の日に，神は昔なしたもうと同様，再び人にご自身を現わされた。聖書には，真実の福音が姿を消して背教が起こること，また，回復があり，それがどのようにもたらされるかについても予言されている。

そしてこの予言は，実際に御父と御子が予言者ジョセフ・スミスを訪れたもうという崇高な出来事によって成就した。彼は，その時代にあって御二方が別個の御方であり，御一方が，他の御一方を指して「こはわが愛子なり。彼に聞け」と仰せられた（ジョセフ・スミスの著2：17）ことを証明することができたし，現に証したのである。

ジョセフ・スミスはこの示現のことを人々に話した時，あざけり笑われ，迫害され，アグリッパ王の面前に於て弁明したパウロのようであったと述べている。（ジョセフ・スミス2：21―24参照）

「彼はこれを受けたと言う事実を身を以て知った。そして天下のあらゆる迫害もこれを変えることができなかった。……私も正にその通りであった。……私は自分の胸の中で語るようになった『何故真実のことを話すから私を迫害するのか。私は本当に示現を受けたのだ，私がどうして神に抗らえようか。何故世の中の人は，私が本当に見たものを見ないと言わせようと思うのか。私は示現を受けたのであるからそれが事実であるのを身を以て知っている。私は神がそれを知りたもうことを知っている。私はそれを打ち消すことはできなかった。また敢て打ち消そうともしなかった。私は少なくとも，本当にあったことを打ち消すならば神の怒りを受けて罪の宣告を受けることを知っている』と。」（ジョセフ・スミス2：24―25）

後に，ジョセフ・スミスは，天使を通じて，イエス・キリストが地上におられた時に組織された予言者や使徒のいる初期の教会と同じイエス・キリストの教会が回復されることを知らされた。そして，古代の予言者によって予言された通り，末日の聖典が世に現わされ，新しい啓示が与えられ，さらに福音の回復が予言の成就を待ちこがれていた人々に告げ知らされた。

1830年に教会が回復されて間もなく，ジョセフ・スミスは末日聖徒イエス・キリスト教会の信仰箇条として知られる十三カ条を作成した。第一条には次のように記されている。

「われらは，永遠の父なる神と，その御子イエス・キリストと聖霊とを信ず。」

啓示や聖典を通して，私たちはこの御三方は，各々歴然とした別個の御方であることを知っている。ヨハネは救い主にバプテスマを施した時，肉体のイエスを目の前にして聖霊のしるしを認め，御父の声を聞いたことが記録されている。神会の御三方がそれぞれご自身を現わされたのである。（マタイ3：13―17参照）後に救い主は，弟子たちに，神会の御三方が別個の御方であることを明らかにされ，ご自分が去った後は御父が慰め主すなわち聖霊を遣わして下さると語られた。（ヨハネ14：26参照）

この御三方は，それぞれ神と呼ばれ，神会を構成しておられる。イエスが示されたように御三方は，各々別個の御方であるが目的においてはひとつである。イエスは，御三方が一致していることを繰り返し証された。

疑問をもち，理解していただけない人に私は申し上げたい。すべての人はその心に個人的なこの証を受けることができる，と。神は，ジョセフ・スミスやそのほかの人に対するようには個人的に訪れたまわないが，聖霊の力を通して，すべての真理が明らかにされ，すべての人は神が生きてましまし，イエス・キリストは御父の御子であって，生命と救いの計画を人々にもたらすためにこの世に降られたことを知ることができるのである。

最近，私はヒーバー・J・グラント大管長の1919年の説教を読んだ。その中で大管長は，アルバート・J・ビバリッジ上院議員の著わした「若者と世界」（*The Young Men and the World*）と題する本を読んでいると話している。グラント大管長によると，第一章「若者と説教台」で，ビバリッジ氏は次のように語っている。「説教する聖職者になろうとする人は，その述べんとする真理に心から改宗していなければ，説教台に立つ度に神を冒とく

することになる。

ある人が正しい答えを得ようとして，夏の休暇中，接したすべての牧師に次の3つの質問をした。最初の質問は，『父なる神を，ひとりの存在としての神，明らかに触知し得る英知ある存在である神，また宇宙全体に漂っている霧のような存在でない神を信じますか。あなたが想像する神はそのような神ですか。何もお話しにならなくて結構です。ただ心に感ずるままに，はいかいいえで答えて下さい。』『はい』と答えた牧師は，いなかった。

次の質問は，「『はいかいいえで答えて下さい。あなたは，キリストが生ける神の御子であり，世を救うために神より遣わされた方であり……，神より命じられたある使命をもち，十字架上で死なれ，死から復活された神の御子であると信じますか。『はい』と答えた人はひとりもいなかった。

3番目の質問は，「『あなたは死んでからも再び，自分が何者であり，その他の人々が何者であるかを知る英知ある存在として生きるでしょうか。はいかいいえで答えて下さい。』やはり，だれも『はい』と答えなかった。」

グラント大管長は，今日聖典を学び，神を知り，生命と救いの計画を知ろうと願う末日聖徒は，老若男女を問わずすべて，この3つの質問全部に「はい」と答えることができると，続けて説明している。（*Conference Report*「大会報告」1919年10月，pp. 27—28）

私たちは前世にいたことを知っており，天父のみもとへもどり，永遠の生命にあずかるにふさわしい備えをするために死すべき体をもってこの世で生活していることを知っている。このことは信仰箇条の中に述べられている。

「われらは，キリストの贖罪により，すべての人類は，福音のおきてと儀式とを守ることによりて救われ得ると信ず。」（信仰箇条第3条）

この宣言は，ジョセフ・スミスに与えられた教義と聖約第76章の啓示の中で明らかにされている。

「その時天より声ありてわれらに証せる福音，すなわち喜びの音信とはかくの如し。

それ，イエスは世に来りたもうて世のため十字架に附けられ，世の罪を負い，世を聖くし，あらゆる不義を潔めたもう。」（教義と聖約76：40—41）

キリストの贖罪について，パウロはコリント人への手紙の中で次のように教えている。

「もしわたしたちが，この世の生活でキリストにあって単なる望みをいだいているだけだとすれば，わたしたちは，すべての人の中で最もあわれむべき存在となる。

しかし事実，キリストは眠っている者の初穂として，死人の中からよみがえったのである。

それは，死がひとりの人によってきたのだから，死人の復活もまた，ひとりの人によってこなければならない。

アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように，キリストにあってすべての人が生かされるのである。」（Ｉコリント15：19—22）

キリストは言われた。

「父は，わたしが自分の命を捨てるから，わたしを愛して下さるのである。命を捨てるのは，それを再び得るためである。

だれかが，わたしからそれを取り去るのではない。わたしが，自分からそれを捨てるのである。わたしにはそれを捨てる力があり，またそれを受ける力もある。これはわたしの父から授かった定めである。」（ヨハネ10：17—18）

また，主は言われた。

「それは，父がご自分のうちに生命をお持ちになっていると同様に，子にもまた，自分のうちに生命をもつことをお許しになったからである。

そして子は人の子であるから，子にさばきを行う権威をお与えになった。

このことを驚くには及ばない。墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き，善をおこなった人々は，生命をうけるためによみがえり，悪をおこなった人々は，さばきを受けるためによみがえって，それぞれ出てくる時が来るであろう。」（ヨハネ５：26—29）

私たちは，マルタが兄の死を告げた時にイエスが語られた言葉を思い出す。

「わたしはよみがえりであり，命である。わたしを信じる者は，たとい死んでも生きる。

また，生きていて，わたしを信じる者は，いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか。」（ヨハネ11：25—26）

救い主は，栄えある約束を次のような美しい言葉で宣言しておられる。

「神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで，永遠の生命を得るためである。

神が御子を世につかわされたのは，世をさばくためではなく，御子によって，この世が救われるためである。」（ヨハネ３：16—17）

これらの聖句から，キリストの贖罪とその贖罪に伴う私たちの責任について，理解することの大切さが，よく分かる。贖罪は万人のためにあり，やがてすべての人が墓から復活することが分かる。そして私たちは，生命の復活にあずかるか，さもなければ神ののろいを受けるのである。私たちはイエス・キリストを信じ，従い，戒めを守らなければならないと，はっきり述べられている。

過去の咎（とが）にさいなまれ，希望を失っている人がいるかもしれない。人生の道を変えるには遅すぎると思っている人がいるかもしれない。福音の計画は万人に悔い改めの原則を通して，栄光ある復活と神の永遠の生命への望みと励ましを与えるものである。救い主はこの地上で導きと教えを施しておられた時に，「悔い改めて，バプテスマを受け，われに来よ」と言われた。悔い改めとは，自らの罪を認め，告白し，その罪を捨てることである。

イエス・キリストの教えを受け入れ，それに生きる代償は，この世の富をはるかに越えるものであり，天に私たち自身の宝を蓄えることになる。（マタイ６：20参照）

キリストの特別な証人として，私は厳粛に証申し上げる。神は生きておられ，私たちは神の霊の子供である。イエス・キリストは肉における天父の独り子であり，また万人の救い主である。また「神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで，永遠の命を得るためである。」（ヨハネ３：16）そして，キリストの贖罪を通して全人類は，福音の律法と儀式に従うことによって永遠の生命を享受することができるのである。

さらに私は，完全な福音が，この末の日に回復され，イエス・キリストの指示に基づいて建てられたこの教会が神の予言者スペンサー・W・キンボールにより，導かれていることを証する。イエス・キリストの福音を私たちすべてが受け入れ，永遠の生命を受けて，神と共に住むことができるよう謙遜にイエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

十二使徒評議員会会員
マービン・J・アシュトン

収穫を失う人

人としての特質を受け入れ，変化を受け入れ，指示に従い，決意することの大切さ

現在，世界各地で人々は収穫期を迎えており，農作物が全人類のために収穫されている。また，この時期は万人に感謝の念を起こさせる時節であると共に，個人の黙想，評価，計画の時ともなる。農業においても，日

常生活においても，収穫を得るためには何が必要だろうか。収穫と生産量を増すために，私たちは何ができるだろうか。一方，どのような時に収穫を失うだろうか。

救い主は，マタイによる福音書第13章の種まきのたとえ話の中で，収穫を失う原因を指摘しておられる。また，どのような人が収穫を失うかについても語っておられる。救い主の警告とみ言葉は実に貴い。私たちは現在，土の薄い石地で生きている。つまり，注意を払っていなければ，収穫すなわち報いを失いかねない。

「見よ，種まきが種をまきに出て行った。

まいているうちに，道ばたに落ちた種があった。すると，鳥がきて食べてしまった。

ほかの種は土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので，すぐ芽を出したが，

日が上ると焼けて，根がないために枯れてしまった。……

また，良い地にまかれたものとは，御言を聞いて悟る人のことであって，そういう人が実を結び，百倍，あるいは六十倍，あるいは三十倍にもなるのである。」（マタイ13：3—6，23）

このように，良い地に種をまき，しっかりと根をはった人には収穫が約束されている。

私たちに収穫すなわち報いを失わせる原因となる4つの事柄について，ここで一緒に考えてみたい。これらは今日ますます大きな問題となっている。

1． 人としての特質を快く受け入れないこと。イエスが深い知恵と判断力と技術をもって教えられた時，イエスの身近にいた人々は，その驚異的な才能や奇跡に驚きさえ感じた。そして，「この人は，この知恵とこれらの力あるわざを，どこで習ってきたのか。

この人は大工の子ではないか。母はマリヤといい……。

わたしたちと一緒にいるではないか。」（マタイ13：54—56）人々は，イエスのみ言葉やみ業に感動し，驚きさえ感じた。しかし，「大工の子ではないか。わたしたちと一緒にいるではないか」という言葉から分かるように，イエスを受け入れようとしなかった。

今日，ある人々は土の薄い石地に種をまいている。これらの人々は，勧告や指示を与える人々の権威に疑いを抱いている人々である。一部の人々の中に無視，非難，反抗などの風潮があるのは，彼らが神は人間を通じてそのみ言葉を伝えられるということを受け入れていないためである。ナザレのイエスではなく，平和の君を待ち望んでいる人々は，イエス・キリストを救い主として受け入れることはできないであろう。「この人は大工の子ではないか。」「かいばおけで生まれた者ではないか。」「ナザレから，なんのよいものが出ようか。」（ヨハネ1：46）このような疑問は，指示や勧告を与えるように召され支持された人の人としての特質を快く受け入れようとしない弱さの表われである。

いばらを植えて収穫を損なおうとする疑い深い人々に惑わされてはならない。このような土壌で不作を免れるにはどうしたらよいだろうか。「アリゾナ出身ではないか。」「カナダから来た人ではないか。」「メキシコ生まれではないか。」「新しい監督のところに相談に行けって？　彼はあの通りを少し行った所に住んでいる人じゃないか。」このような風や嵐で根を枯らさないようにしなければならない。

マタイによる福音書を読んでみよう。

「こうして人々はイエスにつまずいた。しかし，イエスは言われた。『預言者は，自分の郷里や自分の家以外では，どこででも敬われないことはない。』

そして彼らの不信仰のゆえに，そこでは力あるわざを，あまりなさらなかった。」（マタイ13：57—58）

「預言者は，自分の郷里や自分の家以外では，どこででも敬われないことはない。」ガリラヤ人のこのような態度は，彼ら自身に不幸を招いたのである。間もなく，イエスはガリラヤ人への伝道をやめ，ナザレを出てエルサ

レムに近い南方の地方でみ業を進められた。もしガリラヤの人々にイエスのみ業を受け入れる信仰があれば，彼らは奇跡や顕現，肉体や霊の癒しを享受できたことだろう。しかし，主はこれらの人々のもとを去り，再びその他を訪れることはなかった。

悲しいことに，このようなことは今日私たちのまわりにもある。日々ジョセフ・スミスやスペンサー・W・キンボール大管長と共に歩き，語り，彼のそばにいることを喜びとしながら本質的に信仰がないため，予言者として彼らを受け入れることのできない人々がいる。ある日，ハロルド・B・リー大管長は，「私にあまりに身近な人だから」という理由でジョセフ・スミスを予言者として受け入れられなかったニューヨークの高名な人物について話した。

私たちは，ステーキ部やワード部でよく顔を合わせる人からの指示や啓示，勧告を拒むことによって，収穫を放棄していないだろうか。欠点があり，家族もいる普通の人間であるということで指導者を拒んではいないだろうか。

「この人は大工の息子ではないか」という態度で接する時，私たちは，真理や進路，究極的な収穫までも失ってしまうことになる。イエスを「ただのマリヤの子供」としか認めず，神の独り子として受け入れなかった人々が大勢いた。

ジョセフ・スミス，ブリガム・ヤング，ジョセフ・フィールディング・スミスなど歴代大管長の価値や重要性は，背格好，服装，あるいは公衆の抱いているイメージで測られるものではない。ガリラヤの海辺で育った人であろうと，ニューヨーク州北部に住んだ人であろうと，永遠の真理を教える教師の体型や出生，人気で，その真理の価値は減じるわけではない。

「われらは，すべて神のこれまでに啓示したまいしこと，すべて今啓示したもうことを信じ，なお今より後，神の王国につきて多くの偉大にして重要なることを啓示したもうことを信ず。」（信仰箇条第9条）私たちがこのようであるならば，安全は保証される。私は，これらの啓示は人々を通して，すなわち人としての特質を具えた予言者を通して与えられるということを一言付け加えたい。

2．変化を快く受け入れられない。私たちが，種まきのたとえ話の中にあるような変化を受け入れなければ，私たちに根はない。

「その中に根がないので，しばらく続くだけであって，御言のために困難や迫害が起ってくると，すぐつまずいてしまう。」（マタイ13：21）

私たちの根が深ければ，絶えず与えられる啓示や変化，指示を快く受け入れるであろう。快く解任を受け入れ，また情熱をもって召しや新しいチャレンジに取り組む力を増すことだろう。そして，多忙で罪を犯す暇もなく，大きく成長して，傷つく余地もない。また，どのような召しにも心から献身する気持ちをもって仕えることだろう。そして人々をあるがままに受け入れ，可能性を認めることができるようになるだろう。変化は，根を深く張り巡らすだけでなく，その根を新しい肥沃な土壌の方へ伸ばしてくれるのである。

数年前，私の知人の母親が，ひとつの経験を話してくれた。それは，変化が根を肥沃な土壌まで伸ばしたことを示すものである。彼女は，数年間ワード部の青少年活動に熱心に携わり，当時若い女性の会長を務めていた。ある日，ステーキ部長から電話を受け，翌週の日曜日の午後にステーキ部長会と会うことになった。彼女は涙を抑えて，夫の所へ行くと不安げな声で，こう言った。「ステーキ部の仕事を頼まれるかもしれないわ。でも，ステーキ部の仕事はしたくない。私，ワード部が好きなの。ワード部の青少年を愛しているわ。それに，副会長の姉妹たちも。今の仕事が大好きなの。変わりたくないわ。」

夫はこう言った。「行ってみたらどうかな。ぼくは君にどんな責任でも受けてもらいたい

ね。」

予測は的中していた。ステーキ部若い女性会長の召しであった。後にステーキ部長は彼女に，あなたのようにしぶしぶ召しを引き受け，がっかりした様子で帰って行った人を今まで見たことはないと言った。

そして，6年以上にわたって，彼女は同じ副会長の姉妹たちと共に，ステーキ部の若い女性の仕事に携わった。「この期間は，私にとって最高の奉仕ができた時でした」と，彼女は語った。「視野が開けました。ステーキ部の素晴らしい指導者，それに多くの立派な若者と親しくなれました。それにユタ州内の立派な指導者と共に働く経験も得，その後に中央管理会で働く機会に恵まれました。もしあの時に責任を辞退していたらと考えると，身震いします。」

天の父なる神は，私たちに必要なものを御存じである。変化は困難や恐れを招くことがある。しかし，正しい方向への変化は成長をもたらす。新しい責任や，福音に基づく新しい経験は，その人が持てる能力を十分に発揮するならば，その人に新たな力を増し加えるであろう。

新しい召しや機会といった変化への抵抗や反感は，福音の中に下ろした根を深め，丈夫にするのを妨げる土の薄い石地である。

セオドア・I・ルービンは次のような名言を残している。「もし私たちが行動を起こすならば，人生は変化を伴った経験を限りなく生む。そして，あなたが意欲を持ち喜んで立ち向かうなら，人生の長さと同じだけ変化し成長することができる。これは，人間であることに伴うチャレンジであり，苦しみであり，また喜びである。」

時として私たちは，他の人々の変化を喜んで受け入れないことがあるが，それは愚かであり，悲しいことである。私は最近，小さな町に住むひとりの男性のことを聞いた。彼は家族を養いながら，仕事に専念していた。彼は問題がなかったわけではなかったが，主と福音を心から愛する善良な人であった。過ちは，それがどんなに小さいものであっても，なかなか周囲の人々はそれを忘れないものである。そのため，彼は成長し進歩して，以前とは違う新たな自分に変わることが不可能のように思われた。

宣教師として海外で働いた時，彼は驚くべき貢献をしていた。伝道部長は，彼が他のどのアメリカ人とも比較にならないほど，2国間の文化の橋渡しをしてくれたと言った。そして，彼は伝道を終えて小さな町に帰った。彼の隣人たちは，悪意はないまでも彼の過去をいつまでも覚えており，彼を招くことも，成長した彼を認めようともせず，かつての魅力のない人間としか見ようとしなかった。

そのような偏見のために，彼は不幸で，王国建設のために十分な働きもできないまま一生を終えたのだった。しかし，もしも新しい土地の人々が別な時期に，彼が変わることを託し，実際に彼が望んでいる通りの人，心の中に描いている彼自身の姿の通りになることを認めていたら，彼は立派な生涯を過ごしていたであろう。

もうひとつの例をお話しよう。私の友人はひとりの少年と一緒に通学していた。彼は家庭生活に恵まれない，福音の大切さもあまり理解していない少年だった。彼は酒をたしなみ，時には大酒を浴びることもあった。しかし，故郷を出てからというもの，教会で非常に活発になった。彼のひとつの夢は故郷にもどり，事業を始めることであった。そして彼はそれを実行に移した。しかし不幸にも，前述の人と同様に，故郷の人々は彼の立ち直った姿を見ようとせず，以前の彼としてしか扱わなかった。そこでついに彼は故郷を捨て，ほかの地で事業や教会のために目覚ましい働きをした。そして最近，彼は友人にこう語ったという。残念なことに，福音を知っていながら，以前の友達や町の人々は，「故郷へ帰ろう」という気持ちを私に起こさせない，と。

3．快く指示に従わない。 従順でないため

に報いを失う人がいる。「聞いても聞かず，また悟らないからである」という言葉は，損なわれやすい所に落ちた種について説明した種まきのたとえ話の解説である。（マタイ13：13）

「ほかの種はいばらの地に落ちた。すると，いばらが伸びて，ふさいでしまった。」（マタイ13：７）私たちもいばらの中に落ちることがある。私たちは従順にならなければ，約束された祝福から遠ざかってしまうのである。

私は，数日前，一時教会に来なかったが後に再び熱心になった長老の話を聞き，深く感動した。彼は，「私は教会にもどり，きょうから活発になります。私の長老定員会会長は，私がだれにも会いたくない時に訪ねてきてくれ，またどだれからも愛されたくない時に私を愛してくれたからです」と言っていた。ここに，責任を忠実に果たしている長老定員会会長がいる。

私たちは従順であるようにと言われる。なぜ従順でなければならないのだろうか。それは，そのように主が命じられたからである。ニーファイ第一書９章５節に次のようにある。「それであるから，主はある賢いみこころがあって私にこの版をつくれと命じたもうが，そのみこころが何であるか私に解らない。」ニーファイは，主の賢明な目的を完全には理解できなかったが，その指示に従った。そして，ニーファイが従順であったことで全世界の人々に祝福がもたらされたのである。現在の指導者に従わないことは，石地に種をまくことである。すなわち，収穫は得られないことだろう。

4．快く決意しようとしない。種まきのたとえ話は，しっかりとした根を張らない人々のことも述べている。このような人は決意や証がなく，都合のよい時にだけ教会員として振る舞う。彼らの証はすぐに芽を出し，苦難に遭っても石地に落ちてもしばらくは生い茂っている。しかし，やがて枯れ始める。

「ほかの種は土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので，すぐ芽を出した……。」（マタイ13：５）

深く，揺るぎない証は，毎日養分を吸収してさらに強くなっていく。また分かち合う時に，その証はさらに強くなる。力強い証は，肥えた土地に根を下ろしている。太陽や雨，嵐さえもがその証を強くし，さらに揺るぎないものとする。日常生活には様々な出来事があるので，それらの摩擦によって枯れてしまう証もある。根が浅いと証は弱まり，もう収穫は望めない。しっかりと決意を固めようではないか。そうすれば，私たちは石地に落ちて枯れることもないし，安全と幸福の道を踏みはずすこともない。召されたどのような責任に対しても心から献身する人は，しぼむことも枯れることもなく，不安を感じることも横道にそれることもない。その根が深く，王国の肥えた土壌にしっかりと下りているからである。収穫は，これまで仕えてきた日々の所産である。

収穫を失わないようにしようではないか。私たちが失う収穫とは何であろうか。それは福音に基づく業を果たす時にもたらされる成長と発展の日ごとの喜びであり，困難な仕事やよりよい奉仕をした時の満足感である。

とりわけ私たちは永遠の成長と進歩を失ってしまう。(1) 人としての特質を快く受け入れないこと。(2) 変化を快く受け入れないこと。(3) 快く指示に従わないこと。(4) 快く決意しようとしないこと。このような土の薄い石地を避けることができるように祈っている。そうすることによって，深くしっかりと根を張り，天父がすべての子供に望んでおられる収穫を得ることができるように。イエス・キリストのみ名によって祈るものである。アーメン。

☆　　☆

七十人第一定員会会員
カーロス・E・エイシー

神を仰ぎ見て生きよ

今日私たちは聖典と生ける予言者を通して，神のみ声を聞くことができる

私は，一度も上を見ようともせずに人生を過ごしてきたひとりの人を知っている。彼は決して人生を送ったとは言えない。ただこの世にいただけである。彼は長年アルコールの奴隷となっていた。いつも酒に浸り，惨めな毎日であった。うつろな目をして，千鳥足で通りをさ迷い，通りすがりの友人からあいさつをされても，ただ力なく手を振り，小声でぶつぶつ言うだけであった。手の付けられない者というのは彼のような者を言うのであろう。

アルコール中毒の彼は，人と話すのがきらいで，人目を避けるようによろよろと裏通りをさ迷い，挙げ句の果てに溝に落ち込む。彼の行き着く所は，そこしかなかった。彼は自分の周囲にだれがいようと，何が起ころうと，一切とんちゃくしなかった。

大勢の人々が彼の健康を気遣い，誇りや目的，家族の愛，その他数々の祝福を失ってしまった彼を哀れんでいた。しかし，人々は彼の束縛された状態をただ見ているだけで，だれもそのかせを取り除いてやろうとはしなかった。またある人々は，同情することもなく，ただ嘲笑するだけであった。

しかし，ある親切な人々が，この男に奇跡を起こそうと立ち上がった。彼らは多くの時間を費やし，愛を示し，優しく説得に努め，彼のために熱心に祈り，彼を更生させるためにありとあらゆる努力を払った。その結果，彼は悔い改めの階段を上り始めた。(1) まず彼は神のみ言葉を受け入れ，虚弱な心に養いを与えるようになった。(2) 次に，生ける予言者に目を向け，その教えに耳を傾けるようになった。(3) そして，キリストを信じるようになって自信を回復した。

間もなく彼は，自信と活力を得て，しっかりとした足取りで通りを歩くようになった。サタンの束縛から解かれたのである。彼は胸を張り，人の目を見て言葉を交わすようになった。さらに重要なことには，彼は愛に満ちた夫として，また尊敬できる父親として自分の役割を立派に果たすようになったのである。ある時，新しく生まれ変わったこの兄弟は，教会で次のように証した。

「皆さんは，人の靴のちりよりも笑顔の方がどれほど素晴らしいか，多分お分かりにならないと思います。

黒い大地を見下ろすよりも，青く澄みきった大空を見上げる方がどんなに素晴らしいか，お分かりにならないと思います。

仕事を終えて帰宅した時に子供たちがあなたを恐れて逃げるよりも，喜びを満面にたたえて駆け寄ってくる方がどんなに素晴らしいか，皆さんにはお分かりにならないでしょう。」

珍しいことではない

これは特別なことでも珍しいことでもない。世間によくある話である。しかも，幸せな結末を迎えない方が普通なのである。私たちの周りには，酒を浴び，自分の足を引っぱり，顔も上げられないような罪に陥っている若者たちが大勢いる。人が自らの罪や過ちの重荷ゆえに，胸を張り前を向いて生活できないとは，何とも悲しく恐ろしいことである。反対に，人が次のようになることができたら，どんなに素晴らしいことであろう。

——聖典を通して神を仰ぎ見，神の真理を受け入れて身と霊を養う。

——生ける予言者を通して神を仰ぎ見，霊感された人の勧告に従って人生を歩む。

——キリストを仰ぎ見，キリストの贖いを通

してもたらされる祝福を受けるにふさわしい者となる。

神のみ声を聞く

数年前，私の管理下に，教会の召しと意義をなかなか理解しない若者がいた。私は召しの大切さを熱心に説いた。自尊心にも働き掛けてみた。しかし何の効果も得られそうになかった。そして考えあぐねた末に，私はこう尋ねた。「あなたに自分の召しを完全に果たすよう教えるのに，一体何が必要だと思いますか。」彼は答えなかった。そこで私の方から切り出した。「燃えるしばでも見るのを期待しているのではないですか。それとも天使の訪れですか。天の声を直接聞くことですか。」

すぐに答えが返ってきた。「そうなんです。私に必要なのは神の声を聞くことです。」

最初この若者は正気なのだろうかと疑った。しかし，彼の顔をじっと眺め，その声の調子をうかがっていると，正気であることに間違いなかった。そこで，彼と一緒に次の聖句を読んだ。

「汝らの主，汝らの神なるイエス・キリストなるわれこれを語れり。

これらの言は世の人々より出でしにもあらずまた人間の言にもあらず，われより出でし言なり。この故に汝らはこの言がわれより出でし言にして，人間より出でしにあらざることを証すべし。

この言を汝らに語れるはわが声なり。そはわが『みたま』によりて汝らに与えられ，わが能力によりて互いにこれを読むを得るなり。されどもしわが能力によらざれば，汝らこれを有つこと能わざらん。

これを以って，汝らわが声を聞きわが言を知るを証するを得べし。」(教義と聖約18：33—36)

やがてこの若者は，聖典が主のみこころであり，主の精神であり，主のみ言葉であり，主のみ声であることを理解し始めた。(教義と聖約68：4 参照)

私は若者に，聖典を通して神を仰ぎ見，毎日の学習時間を主と個人的に交わる時間とするように勧めた。そして，彼が聖典を忠実に読み，その言葉を深く考えるようになるならば，自分の召しの目的を知り，それを果たす熱意も湧いてくるだろうと約束した。

キリストのみ言葉——羅針盤

モルモン経の中に，球または道しるべと呼ばれる道具を持っていた人のことが記されている。一見羅針盤のようなこの道具は主から与えられたものであり，人々の神を信じる信仰の度合いに応じて動いた。人々が義しく信仰をもって生活すれば，針は彼らの進むべき方向を示してくれた。戒めを守ろうとする熱意や信仰がなくなってくると，針は動かなくなってしまう。(Ⅰニーファイ16；18：12参照)

モルモン経を記したある予言者は，羅針盤とその働きを，霊にかかわるものであり，「意味のないことではない」(アルマ37：43) と述べ，さらにこう続けている。

「たとえば，永遠に尽きぬ幸福へ行く真すぐな道を示すキリストの言葉を守ることが容易であるのは，先祖が約束の地へ行く真すぐな道を自分らに示すこの羅針盤に従うことが容易であったと同じである。

これは全くよく似ていることではないか。先祖がこの道しるべに従って約束の地へ行ったように，私たちがもしもキリストの御言葉が示す道を歩いて行くならば，確にその御言葉によって憂き世を越えてはるかに善い約束の世へ行くことができる。

……われわれはこの道が踏み易いために怠りとならないように注意しなくてはならない。先祖の時代にもこれと同じことがあった。すなわちただ仰いで見れば命が助かると言う道の備えがあった。今のわれわれもその通りである。道は備っているから，われわれがもし仰ぎ見て従うならばすなわちとこしえに生きるのである。……

神の命に従って生きよ。」(アルマ37：44—47)

私たちの多くは，この聖なる書物の重要性を考えることもなく，日々の生活に追い回されているのではないだろうか。私たちは医者や弁護士，仕事の相手との約束事ならば，何としても守ろうとする。しかし，神との交わりを引き延ばすこと，すなわち聖典の研究を怠ることは何とも思わない。心の貧血症にかかっており，人生の指針を失うことには何ら注意を払おうともしない。毎日15分か20分間聖典を読むように計画し，実行する時に，人生はどれほど実りあるものとなることだろう。このような神との交わりを通して，私たちは神のみ声を知り，あらゆることについて神からの導きを得るのである。

私たちは聖典を通して，神を仰ぎ見なければならない。

改宗談

20世紀に入る少し前のこと，ふたりの宣教師がハワイのある島の山村に足を踏み入れようとしていた。小屋のそばで，宣教師の登ってくる姿を見ていた男が，近くにいた子供にこう言った。「下りて行って，あの人たちに帰るように言いなさい。彼らの説いていることには関心がないからと言いなさい。」子供たちは父親の言い付け通りにした。

それでも宣教師たちは丘を登ってやって来た。村に着くとその男のところに来てこう言った。「ご迷惑を掛けるつもりはありません。私たちは現在この地上に生ける予言者がおられることを，あなたにお伝えするために，遠くからやって来たのです。」

「何ですって。」その男は驚きの目を見張って尋ねた。

宣教師たちは繰り返し証を述べた。「現在この地上には生ける予言者がおられます。そして私たちはその予言者のメッセージをあなたにお伝えしたいと思っています。」

するとこの男は子供たちに向かってこう叫んだ。「急いでお母さんを呼んできなさい。お兄さんやお姉さんも呼んできなさい。そして生ける予言者がおられると伝えなさい。」その後間もなく，この家族は福音を受け入れ，バプテスマを受けた。（ハワイのトム・カレオ兄弟がエイシー長老に語った実父の改宗談より）

予言者の役割

昔から主は予言者を通してみこころを明らかにしてこられた。彼らは特別に備えられた人であり，真理を受け入れて教えるよう召された人である。彼らの使命は神の代弁者として仕えることである。

アモスは次のように宣言している。「まことに主なる神はそのしもべである予言者にその隠れた事を示さないでは，何事をもなされない。」（アモス３：７）アモスは自分が生きていた時代のことだけを述べているのだろうか。いや，そうではない。アモスは神が「人々を偏り見る者」（教義と聖約１：35）でないことを知っていた。神がその子らを愛しておられることはいつの世にあっても変わらないことも知っていた。そして絶えざる啓示が必要なこともよく知っていた。

近代の予言者は次のように述べている。

「この故に，主の声は……地の果にまで及ぶ。

その時主の腕現われて，主の声もまた主の僕らの声も聞かんとせず，予言者にして使徒なる者たちの言にも耳傾けんとせざる者のその民の中より絶たるべき日来るなり。」（教義と聖約１：11，14）

指揮官の命令

軍隊は指揮官の指示がなければ行進もできないし，立派な戦績を上げることもできない。また，昔の戦略や策略で今日の戦闘に勝とうというのも矛盾した考えである。戦闘の基本原理というものはいつの時代にも大体同じかもしれない。しかし，武器は改良され，戦場は異なり，敵は賢くなっている。そのほか多くの面で状況が変化している。そのため指導者から絶えず命令を受ける必要があるのであ

る。

教会の頭であり，神の王国の将軍であるキリストは，これまでと同様，今後もキリストに従う者たちの歩調を合わせるように指示し，前進する時も立ち止まる時もすべて予言者を通して命じられるであろう。そして，主の命令に従い，隊列を崩すことなく終わりまで耐え忍んだ忠実な兵士の上に勝利は輝くのである。

私たちは生ける予言者を与えて下さった神に感謝する。そして，私たちの永遠の必要を満たすために，予言者を通して主の戒めと勧告を受けることのできる特権に賛歌を捧げたい。

確かに私たちは生ける神の予言者を通して，神を仰ぎ見て生活しなければならない。

火のへび

イスラエルの民はエドムの地に向けて荒野を旅していた時，落胆して神と彼らの指導者モーセに不満を並べたてた。そこで「主は，火のへびを民のうちに送られた。」不平を言った多くの民はそのへびにかまれて死んだ。人々は自分たちの愚かさに目覚め，モーセに次のように嘆願した。「わたしたちは主にむかい，またあなたにむかい，……罪を犯しました。どうぞへびをわたしたちから取り去られるように主に祈ってください。」（民数21：6—7）

そこでモーセは民のために祈り，主から答えを受けたのである。「火のへびを造って，それをさおの上に掛けなさい。すべてのかまれた者が仰いで，それを見るならば生きるであろう。」（民数21：8）

モーセは主から命じられた通りにした。

その結果はどうであっただろうか。従順にそれに従った者が何人いただろうか。従わなかった者はどれほどいただろうか。さおの先のへびを見て生き長らえた者は何人いただろうか。その答えは，モルモン経の中に記されている。「主は……火のように飛ぶ蛇をかれらの中につかわしたもうた。しかし，かれらがかまれたあとでこれを癒す方法は備えて置きたもうた。そして癒されるための骨折りといえば，ただ目を向けて見るだけのことであったが，この骨折りが簡単で容易であったがためにかえって死んだ者が多かった。」（Ⅰニーファイ17：41）

荒野でさおの先にへびがかけられたことは，キリストの十字架上の死を象徴している。イエスは御自らこの真理を教えられた。また何回となくご自分の無惨な死に方を予言された。そしてある時主はモーセに，この荒野での出来事について次のように述べられた。

「そして，ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように，人の子もまた上げられなければならない。

それは彼を信じる者が，すべて永遠の命を得るためである。」（ヨハネ3：14—15）

私たちは永遠の生命を得たいと思うならば，古代のイスラエルの民と同じように目と心を十字架のキリストに向けなければならない。なぜならば，キリストの復活によって，私たちは肉体の死に打ち勝つことができるからである。そして，キリストの贖いによって，私たちは罪に打ち勝ち，霊的に生まれ変わって，神のみもとに帰る道に入ることができるのである。

私たちがキリストを仰ぎ見て生活することはそれほど大切なことなのである。

私たちの目をどこに向けるかは重要な問題である。

ダビデ王は屋上から「ひとりの女がからだを洗っているのを見た。その女は非常に美しかった。」（Ⅱサムエル11：2）ダビデはそれを遠くから眺め，欲望にかられてしまい，ついに堕落した。

イスカリオテのユダは，30枚の銀貨に目がくらみ，正義も欲望に押し切られてしまった。ユダは自分の命と魂を30枚の銀貨で売ってしまったのである。（マタイ27：3—10参照）

私たちは脇見をしたり，この世の朽ちる物に目を向けたりしてはならない。目は，「から

だのあかり」（マタイ6：22）である。私たちは目を前方に向けて見開くように訓練しなければならない。私たちは神を仰ぎ見て生活しなければならないのである。

老いも若きも次代を担う人々がすべて，神について証する聖典を通して，神を仰ぎ見るように祈っている。タナー副管長は先程，神について述べられたが，その神について教えて下さる生ける予言者を通して神を仰ぎ見るようにお勧めする。またキリストを仰ぎ見るように。

私は聖典を通して神のみ声を聞くことができることを証する。また現在生ける予言者がおられること，キリストこそ，全人類に救いをもたらすことのできるみ名であることを証する。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

十二使徒評議員会会員
トーマス・S・モンソン

宣教師の信仰

今日若人は新しい試練，新しい問題，新しい誘惑に直面している。しかし，絶えず熱心に主に仕えようと努力している若人が何十万もいる

この歴史的なタバナクルの中で主を礼拝し，この素晴らしいコーラスを聴いて霊感され鼓舞されない者がいるであろうか。

エバン・スティーブンス兄弟がタバナクル合唱団の指揮者をしていた時のこと，彼は「末日聖徒の若人の信仰」というテーマで話された故ジョセフ・F・スミス大管長の説教に非常に心を動かされた。大会が終わると，スティーブンス教授はひとりでシティー・クリーク・キャニオンに出掛けて行き，大管長の霊感された言葉を心に思い巡らしていた。すると突然，天よりの霊感が彼に下り，彼は岩の上に腰を下ろすと一篇の詩を書いた。それが次の詩である。

シオンの若者　　真理を守り
攻め来る敵に会い　　ひるまず逃げず

ああ
われら受けし　　信仰持ち
殉教者の持つ　　真理を信じ
戒め守らん
手に心に霊にも

（讃美歌150番；J・スペンサー・コーンウォール，*Stories of Our Mormon Hymns*「モルモンの讃美歌物語」p. 173）

教会の初期の時代にも，若者たちは数々の苦難に直面し，解決すべき様々な問題を抱えていたに違いない。青年期は安易な時期でもないし，難問から解放される時期でもない。昔と同様に今でもそのことが言える。事実，時代の変遷とともに若人に降り懸かる問題の規模や範囲は非常な勢いで増大している。誘惑は人生の地平線にいつも不気味な姿を現わす。暴力，盗み，薬物の乱用，ポルノなどがテレビ番組の主題となり，ほとんど毎日のように新聞をにぎわしている。このようなものは私たちの計画を打ち砕き，思考力を鈍らせるものでしかない。間もなくこれまで仮定でしかなかったことが現実となり，世界中至る所で若者が「去年より悪い」とか「最悪の連中だ」というようにきめつけられてしまう時がやってくると言われている。しかしそのような考え方は間違いであり，そのような主張は誤っている。

今日は新しい試練，新しい問題，新しい誘惑を抱える新しい時代かもしれない。しかし，何十万という末日聖徒の若人は初期の若人がそうであったように，絶えず努力を惜しまず，熱心に仕え，信仰に忠実に生きようとしている。善悪の区別が非常にはっきりしているため，現代の風潮から見れば例外と目される人人を，世界中の心ある人々はかえって賞賛し，

注目し，感謝するのである。

ここで皆さんにミネソタのある住民からいただいた手紙をご紹介したい。あて先はブリガム・ヤング大学となっている。

「拝啓，

私は12月22日にミネソタ南部を出発し，アイオワ州デモイン，イリノイ州シカゴを経由してフロリダの南端までバス旅行をしました。

途中，デモインで若者たちのグループと一緒になりました。この若者たちはブリガム・ヤング大学の学生で，休日を利用して田舎に帰るところでした。

皆さん，非常に礼儀正しく，服装もきちんとしていて，若者らしい考えを持っている人たちでした。そのような若者たちと同行できて，本当にうれしく思いました。彼らは私の未来に希望の光を投げ掛けてくれました。

私は，大学だけではこのような立派な若者が育つはずのないことを知っています。彼らの人格は素晴しい家庭で形成されたものだと思います。多分，ご両親の力でしょう。ご両親に直接このことをお伝えすることもできませんので，この感謝の気持ちを伝えるべく大学にお便りさせていただきました。」

このような賞賛の言葉を受けることは決して珍しいことではない。おほめの言葉をいただくたびに，私たちはいつも大きな喜びを覚えるのである。末日聖徒の学生たちは信仰を行動に表わしている素晴らしい模範である。

世界の人々を驚かせ，彼らの心に信仰を湧き立たせるもうひとつの集団がある。それは，末日聖徒の宣教師である。現在，全世界で26,600名を超える宣教師が働いている。これらの青年男女は伝道の召しを受ける特別な日を心待ちにし，その日のために，全生活を懸けて準備してきた人々である。父親は子供に誇りを感じ，母親は幾分不安を覚える。ここで宣教師推薦書から，ある監督の言葉を読んでみたい。

「これまでに推薦した人の中で，彼ほど傑出した人物はおりません。彼は生活のあらゆる面において秀でており，これまで教会ではアロン神権定員会会長を務め，高校では役員をしていました。また陸上競技とフットボールのスターでもありました。私はこれほど優れた若者を宣教師に推薦した記憶がありません。そして自分がその若者の父親であることを誇りに思っています。」

監督やステーキ部長はもっと一般的なことを書いてくる。「ジョンは素晴らしい青年です。彼は肉体的，精神的，経済的，霊的に伝道の備えができており，どこに召されようと喜んで仕え，立派に召しを果たしてくれるものと思います。」

ある日，私はキンボール大管長が専任宣教師の召しの手紙に署名するのを見ていた。その中に大管長自身の孫にあてた召しの手紙があった。彼はその手紙に教会の大管長として署名をした後，本文の下にこう書き添えた。「君を誇りに思っているよ。愛を込めて，おじいさんより。」

召しを受けた若者は，大学の教科書に代わって聖典を手にすることになる。家族や友人，親友としばらくの間別れて，デートやダンス，ドライブを忘れ，求道者を見付けて福音を教え，証を述べるようになる。

ここで信仰篤い数名の宣教師をご紹介したい。この実例から，彼らが「シオンの若者真理を守り」という言葉通りの生活をしていることがよく分かるであろう。

最初に，旧メキシコ出身のホセ・ガルシヤ兄弟のことをお話したい。彼は貧しい家庭に生まれたが，幼い頃から信仰を育まれてきた。そして，ホセは伝道の召しに備えていた。彼の推薦書が大管長のもとに届いた時，丁度私もそこにいた。推薦書には次のように書かれていた。「ガルシヤ兄弟が伝道に出ることは，家族にとって大きな犠牲です。彼は家族の生活を支える働き手です。彼の持ち物はただひとつ，宝物のように大切にしている切手のコレクションしかありません。もし必要であれば，彼は伝道のためにそれも喜んで売るつも

（p. 94へ続く）

りでいます。」

キンボール大管長は推薦書のこの言葉に次のように答えた。「彼に切手を売るように言って下さい。この犠牲は彼にとって大きな祝福となることでしょう。」それから大管長は目を輝かせ，顔に笑みを浮かべて次のように言った。「毎月，教会本部には世界各地から何千通もの手紙が送られてきます。それらの切手を取っておいて，ガルシヤ兄弟の伝道が終わる時に渡して下さい。彼はただでメキシコ中のだれよりも素晴しい切手を集めることができるでしょう。」

これは時と場所は異なるが，救い主の経験をそのまま表わしているように思われる。

「イエスは目をあげて，金持たちがさいせん箱に献金を投げ入れるのを見られ，

また，ある貧しいやもめが，レプタ二つを入れるのを見て

言われた，『よく聞きなさい。あの貧しいやもめはだれよりもたくさん入れたのだ。』」（ルカ21：1—3）

「みんなの者はありあまる中から投げ入れたが，あの婦人はその乏しい中から，あらゆる持ち物，その生活費全部を入れたからである。」（マルコ12：44）

次に，ユタ州プロボにある宣教師訓練センターにいた宣教師をご紹介したい。この宣教師は南ドイツで伝道するためにドイツ語を熱心に勉強していた。毎日，ドイツ語の文法書を手に取って，表紙にある西ドイツのローテンブルクの古風な趣のある家の写真にじっと見入っていた。その写真の下に住所が書かれている。その青年は決心していた。「この家を訪問して，そこに住んでいる人にきっとこの真理を伝えよう」と。そして彼はそれを実行した。その結果，ヘルマ・ハーン姉妹を改宗し，バプテスマを施すことができたのである。彼女は現在，世界中から家を見学にくる観光客に語りかけ，イエス・キリストの福音から得られた祝福について述べるのを喜びとしている。ハーン姉妹の家は恐らく，世界でも最も有名な記念撮影の場所のひとつであると思う。そしてここを訪れる人は皆，彼女の称賛と感謝の念に満ちた，福音の簡潔でしかも熱の込もった証を聞いて帰るのである。ハーン姉妹に福音を伝えたこの宣教師は，主から与えられた神聖な責任をよく覚えていたのである。「それゆえに，あなたがたは行って，すべての国民を弟子として，父と子と聖霊との名によって，彼らにバプテスマを施し……」（マタイ28：19）

3番目は，揺るぎない信仰をもった宣教師マーク・スキッドモア長老の話である。スキッドモア長老は，ノルウェーへの召しを受けた時，ノルウェー語を一言も知らなかった。しかし，福音を教え，証を述べるためには，ノルウェー人の言葉に通じる必要がある。そこで彼は秘かに誓った。「私はノルウェー人の家族をバプテスマの水に導くまでは絶対に英語を話さない。」それから彼はよく勉強し，熱心に祈り，主に嘆願した。このようにして彼は信仰の試しを経て，望んでいた祝福を得たのであった。彼は素晴らしい家族を教え，バプテスマを施したのである。そして彼は半年ぶりに英語を話した。その週に，私は彼と会ったが，彼の口から出るのはただ主に対する感謝の言葉だけであった。私はその時勇敢な司令長官モロナイの言葉を思い出した。「われは権力を求めず，……われはまた浮世の名誉を求めず，わが神に栄光のあることを求め……」（アルマ60：36）

最後に気高い宣教師の息子を持つ母親についてお話したい。この家族は寒さの厳しいワイオミング州のスター・バレーに住んでいた。その地方は，夏は短く，冬は長くて寒い。19歳の息子が伝道で家をあければ，その分仕事の負担がだれにかかるかは明らかである。その上，父親は病気にかかっていて仕事もできない。そのため，家族を養う乳牛の乳しぼりの仕事も，母親の両肩にかかったのである。

私は，伝道部長をしていた時，ソルトレーク・シティーで開催された伝道部長セミナー

に出席した。その時私と妻は自分の伝道部で宣教師として働いている若者たちの両親と会合を持った。その会には裕福で，身なりもきちんとした両親が大勢集まった。話しぶりも穏やかで，信仰も強かった。それとは反対にそれほど恵まれている風でもなく，服装も質素で，遠慮がちな人々もいた。しかしそのような両親もまた，宣教師である我が子を誇りに思い，彼らのために祈り，彼らのために犠牲を捧げていることに変わりはなかった。

その日の午後に会った両親の中で，最も強く印象に残っているのが，スター・バレーから来た母親であった。彼女が私に握手を求めてきた時，私はその手に大きなたこができているのを知った。明らかにそれは，彼女の毎日の野良仕事によってできたものである。母親は，北風に吹かれて荒れた顔で，節くれだった手をいかにもすまなさそうに差し出しながら，小さな声でこうつぶやいた。「息子のスペンサーに，愛していると伝えて下さい。みんな息子のことを誇りに思っています。毎日彼のためにお祈りしていますと，そう伝えて下さい。」

その夜初めて，私は天使に会い，天使の語る声を聞いたような気がした。私はその言葉を聞いた時，一言も言葉を発することができなかった。その天使のような母親がキリストのみたまを私たちのもとに運んでくれたからである。彼女は神のみ手をしっかりと握りしめて死の陰の谷を勇敢に歩き，この世の生活を息子に捧げていたのである。それは決して忘れることのできない印象を私の心に残した。

そのような気高い母親に育てられ，導かれた宣教師たちはヒラマンの若い兵士にも匹敵する。

「かれらはみな青年であって筋骨たくましく活発な勇士であったばかりでなく，いついかなる時でも委ねられたことを忠実に行った。

かれらはみな神の命令に服従することと，神の前に正しく真すぐに暮すこととを教えられ，真実な心を持つ真面目な青年であった。」（アルマ53：20—21）

このような宣教師の模範は人々の心に信仰を育み，自信を植え付ける。また真理を教え，神を証する。それはまさに次の讃美歌の歌詞を立証するものである。

シオンの若者　　真理を守り
攻め来る敵に会い　　ひるまず逃げず

ああ
われら受けし　　信仰持ち
殉教者の持つ　　真理を信じ
いましめ守らん
手に心に霊にも

私たちがシオンの若者と共に堅く立ち，信仰に忠実に生き続けることができるようにイエス・キリストのみ名により心から祈るものである。アーメン。

十二使徒評議員会会員
マーク・E・ピーターセン

モロナイの最後の言葉

モロナイは今日の道徳的退廃を憂慮し，その悲劇の結末を警告している

先週，私たちは教会の認める最も大切な記念日を迎えた。それは，イエス・キリストの福音の回復に先駆けて天使モロナイがジョセフ・スミスを訪れた日である。（ジョセフ・スミス2：28—65参照）

モロナイはすでに死人の中からよみがえり，復活体を得ている。

彼は今からおよそ1500年前にアメリカ大陸に住んでいた人で，当時多くの民の生命を奪った悲惨な戦争の最後の生存者であった。

モロナイは自分の家族を含むすべての民が

滅びるのを見た最後の目撃者であった。敵は激しく復讐心を燃やし，民を全滅させることを誓い合った。そしてこの誓いが現実となったのである。

モロナイの父はモルモンで，古代の民ニーファイ人の軍の司令長官であった。この戦いがアメリカ大陸で起こったのは，キリストの降誕から400年後のことである。（モルモン6章参照）

戦いが終わりに近づいた頃，モルモンは，現在のニューヨーク州西部のクモラと呼ばれる小高い丘に全軍を集めた。

その時，レーマン人と呼ばれていた彼らの敵がこの丘に攻め寄せてきた。モルモンは当時の恐ろしい出来事を次のように記している。

「私の民とその妻子とはレーマン人の軍が進んでくるのを見た時，すべての悪人の胸に満ちている非常に死を怖れる心を抱いてレーマン人と戦いを始める時を待った。

私の味方は敵の数が多いから一人のこらず非常な恐れを生じた。

レーマン人は剣，弓，矢，まさかりおよびあらゆる武器を以て私たちを襲ったので，私と一しょに居た一万人の部下はうち倒され，私もまた負傷して兵の間に倒れた……」（モルモン6：7—10）

次にモルモンは，ニーファイ人の軍隊で彼と一緒に戦った他の指揮官たちも兵士たちと共にその屍を横たえたと語っている。このクモラにおける最後の戦いで命を落としたニーファイ人の兵士の数はおよそ25万人にのぼった。

モルモンはおびただしい死者を見て，こう記している。

「私は死んだ私の民のことを悲しみ悼んで全身が引き裂ける思がし，次のように叫んで言った。

『美しい者たちよ。お前たちはなぜ主の道を離れたのか。美しい者たちよ。お前たちはなぜお前たちを抱えようとして両手をひろげたもうたイエスを拒んだのか。

見よ，お前たちはこれさえしなかったならば死ななかったものを。しかしお前たちはもう死んでしまって，私はお前たちの亡いことを悲しみ歎いている。

美しい息子よ，娘よ，父母よ，夫婦よ，美しい者共よ。どうしてこのように死んでしまったのか。

しかし，お前たちはもうこの世を去ったから，私はこの悲しみでお前たちを呼び返すことはできない。……

ああ，この大きな滅亡がお前たちに来ない内にお前たちは悔い改めたらよかったものを。』」（モルモン6：16—20，22）

なぜニーファイ人は滅びたのであろうか。アメリカ大陸に住むことはひとつの特権であると彼らは教えられていた。なぜなら，アメリカ大陸は約束の地であったからである。そのために，この地に住む者は神の定められた律法を守らなければならなかった。

この地の神であるイエス・キリストに喜んで仕える者のみがここにとどまることを許され，その他の者は一掃されてしまうのである。（イテル2：10—12参照）

ニーファイ人はこのことをよく知っていたにもかかわらず，故意に罪を犯し，キリストの教えを拒んだ。

彼らは約束の地に住むための条件を満たせなかったために，一掃されることになり，このような流血を招いたのであった。

モルモンは，この悲劇を詳細に記録した。その記録の中で，ニーファイ人の生存者は，男女，子供を合わせてわずかに24人であったと述べている。このわずかな生存者も翌日には殺され，ただひとりモロナイだけが記録を封じるために主によって命を救われたのである。

モロナイは記録を書き終えると，戦場と化していたクモラの丘にそれを隠した。この記録は後に，それを抄録した歴史家モルモンの名にちなんでモルモン経と名付けられ，世に出ることになっていたのである。当時，唯一

の生存者モロナイはこの記録を完成させることの大切さに触れ，次のように述べている。
「私モロナイは父モルモンの記録を書きついで結びとする。」（モルモン８：１）

そして最後の戦いの模様をこう記している。
「私は一人だけ生き残ったから私の民の悲しい全滅の記事を書かなくてはならない。

私は記録を作ってから地の中に隠しておく。

父も一切の親族も戦で殺されたから私は一人のこって友もなく行く所もない。また主が私をいつまで生き永らえさせたもうかもわからない。」（モルモン８：３—５）

モロナイはこの言葉を記しながら，ニーファイの民が滅びたのは，彼らが悪を好み，神の勧告をないがしろにした上に，この世の富や不正を追い求めたためであることを繰り返し述べている。彼らの滅びた最大の原因はこれである。

アメリカ大陸は選りすぐりの地であり，そこに住む人々は神に従わなければならない。さもければ主のみ前から追い払われる。主はこのことを不従順なニーファイ人に告げておられなかっただろうか。教えに背いたニーファイ人が滅びてしまったのは，主がその約束を果たされたからではないだろうか。今日考古学者たちはかつてそのような大文明があったことを物語る廃墟を発掘している。

モロナイは記録を閉じるにあたり，その記録を手にする近代の人々が同様の滅亡を招くようなことのないように願って，次のように述べている。

「見よ，私はあなたたちが今目の前にあるかのように話しているが，本当はあなたたちはまだ生まれないのである。しかし，イエス・キリストが前以てあなたたちを私に見せたもうたのであなたたちの行ないが今私に解(わか)るのである。

あなたたちが心の中に誇り高ぶること……

あなたたちは金銭と自分の財産と自分の華かな衣を……愛するのである。」（モルモン８：35—37）

この予言の中で，モロナイは現代のアメリカ人を襲う道徳的退廃のことにふれている。また，なぜ愚かにも罪に身をゆだね，キリストを拒み，災いを招こうとするのかと問いかけている。

さらに「なぜキリストの御名を受けることを恥とするか」と尋ねている。現代のアメリカ社会では，キリストを信じると公言しながら，そのみ業を行なおうとしない人が大勢いることをモロナイは十分承知していたのである。（モルモン８：38参照）私たちは主のみ業に携わることによってはじめて真実キリストのみ名を受けることができる。それは口先だけの奉仕ではない。モロナイは行ないのない信仰が死んだものであることをよく理解していた。私たちもそのことを自覚する必要がある。

モロナイがその父と共に記し，今まさにクモラの丘に埋めようとしているこの記録は，今日の私たちに対する警告の書であることをモロナイははっきりと告げている。

彼は現代の様子を描きながら，何百万という人々が神の権能を否定し，地震や暴風雨，戦争が起こり，至る所で戦いのうわさが聞かれる時にこの記録が世に出ることを告げている。（モルモン８：26—34参照）

それは世の中に「汚れた行いのある時」であるとモロナイは述べている。（モルモン８：31参照）モロナイがこの世に見られる汚れた行ないについて語っていることは何と興味深いことだろう。今日の生態学者も同様のことを述べてはいないだろうか。

モロナイはさらに，この記録が現われる時代には，殺人，強盗，虚言，詐欺，みだらな行ないが横行すると述べている。今日，隠匿，賄賂，盗み，横領，その他の不正行為が個人だけでなく，会社や政府内部にまで及んでいることを考えてみていただきたい。不正直が大半の人々の生活と化してしまってはいないだろうか。

不道徳が国家をむしばみ，社会的な流行病

となっていることも考えていただきたい。何と恐るべき退廃であろうか。

モルモンは世を去る前に，この記録は異邦人にとっては警告となるが，レーマン人にとっては祝福となることを告げている。また，ユダヤ人に特別なメッセージを与えるものとなることも告げている。「イエスがキリストである，生ける神の御子であるということをユダヤ人に信じさせるためで，第二はユダヤ人，むしろイスラエルの全家がことごとく自分たちの神である主が与えたもうた受け嗣ぎの地へ，再び元通り集められる事業に関する御父の偉大な永遠のみ心が，その最も愛したもう御子によって成しとげられ，その結果御父の誓約が果されるためである。」（モルモン５：14）現在この聖句がどのような意味を持っているかよく考えていただきたい。

モルモンは，この約束の地に住んでいる現代のアメリカ人にこう書き残している。「その時お前たちがもしも悔い改めてその悪い道から立ち帰らないならば，どうしてよく神の力の前に倒れずに居ることができよう。

ごらん，お前たちは神の御手の中にある。神は全権全能を持ちたもう。また神の大きな命令があるならば，大地も巻物のように巻かれるであろう。

それであるから，異邦人よ。悔い改めて神の御前にへりくだれ。へりくだらないならば，神はその正義を以てお前たちを責めたもう。」（モルモン５：22—24）

特に現代の人々に与えられたこの警告を，私たちは無視してよいものだろうか。

モロナイは父の記録に加えて次のように記している。

「主の御業に反抗できる者が一人でもあるか。主の全権全能に逆らう者があるだろうか。主の御業をいやしむ者があるだろうか。またキリストの子らをいやしむ者があるだろうか。

主の御業をいやしむ一切の人たちよ。見よ，お前たちは……亡びるのである。」（モルモン９：26）

モルモンとモロナイは，ニーファイ人がこの地の面から滅ぼし去られた出来事の最中にこれらの言葉を記したのである。彼らは，私たちの時代も当時と同じ状態になることを知っていた。

モロナイが最後の証を記した時，この記録が今日の私たちにとって，どれほど重大なものとなるかよく知っていた。彼は私たちに，この記録を読んで信じるようにと勧告している。

「それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば，神は聖霊の力によってこの記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。」（モロナイ10：４）

これがモロナイの最後の言葉である。モロナイはすでにアメリカ大陸に住む民に与えられた恐るべき神の警告の言葉を書き残していた。

「この地はすべてのほかの地よりも勝っている地であるから，この地を所有する者が神に事えない時に亡びてしまう……」（イテル２：10）

モロナイはニーファイ人が全滅したことを例に取って，私たちに教訓を与えている。また，ジェレド人の悲劇についても記している。同じような滅亡が，まったく同じ理由で私たちを襲うことは考えられないだろうか。

これがモロナイのメッセージである。彼は現代の人々にそのことを伝えるために，死人の中からよみがえったのである。

モロナイの民もアメリカ人であった。そして，モロナイの言葉は民から民へ，古代のアメリカ人から現代のアメリカ人へと語り継がれてきた。その声は，かつて古代の民を襲ったあの恐ろしい状態に陥らないように私たちに告げる苦き経験の叫び声である。

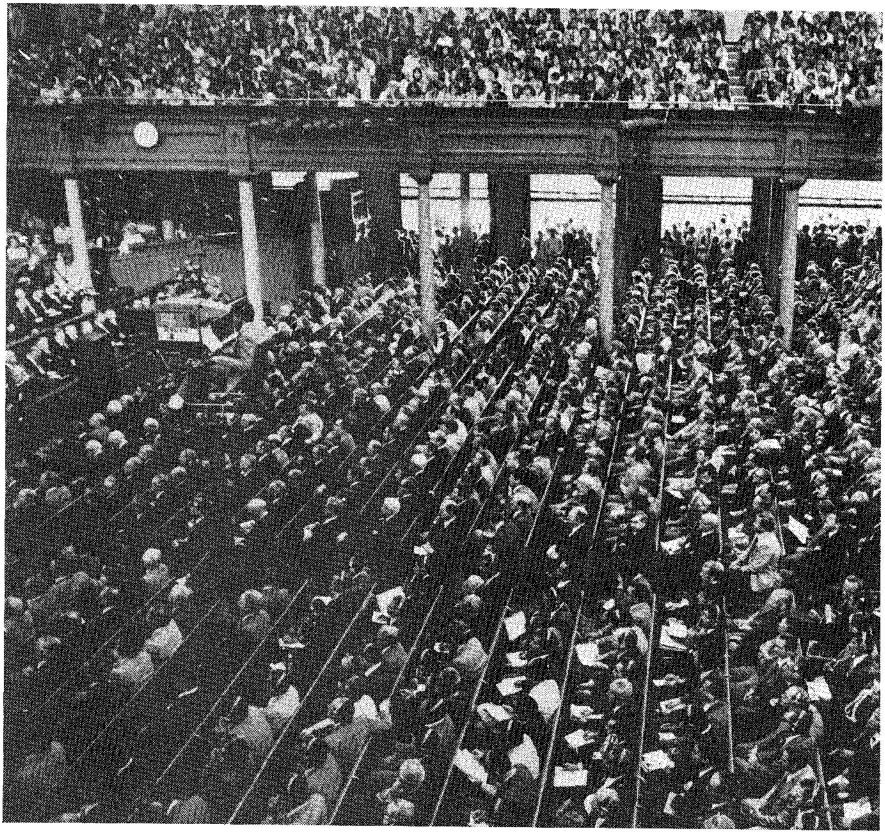
モロナイは，裁きの日に私たちと会って自ら記した言葉を立証すると告げている。（モロナイ10：27参照）彼はこの記録を携えて立証

することだろう。私たちは将来数々の書物によって裁かれるが，その中のひとつにこのモルモン経も加えられる。

今，私たちはモルモン経を手にしている。この書物は全世界の人々のために書かれたものであり，神のメッセージをすべての人々に伝えるためのものである。モルモン経は現代の人々に完全で明快な警告を与えており，この警告は真実である。

この書物を読み，よく祈っていただきたい。また，そこに記されている言葉を信じ，勧告に従っていただきたい。モルモン経は確実に私たちをキリストのみもとに導くものである。

私たちはモロナイの最後の言葉を記憶の外に捨て去ってよいものだろうか。神の恵みがあって，私たちが決してそういう状態に陥らないように，イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

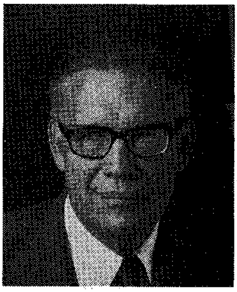


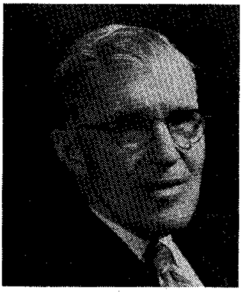
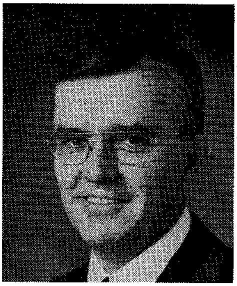
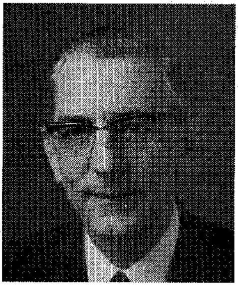
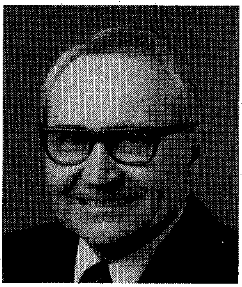
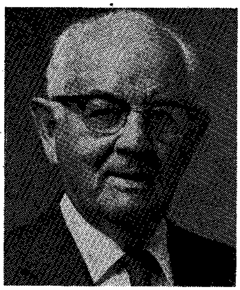
大会出席者で一杯のタバナクル

1978年10月1日(日)

午後の部における説教

末日聖徒イエス・キリスト教会第148回半期総大会報告



ブルース・R・マッコンキー長老

M・ラッセル・バラード・ジュニア長老

S・デルワース・ヤング長老

L・トム・ペリー長老

ジョン・H・グローバーグ長老

ジェイコブ・ディエガー長老

スペンサー・W・キンボール大管長

十二使徒評議員会会員
ブルース・R・マッコンキー

啓示を受けるであろう

主はすべての子供たちがいと高き所より下される光明と真理と知識を得るように望んでおられる

私は死すべき人間に与えられている賜の中で最大の賜のひとつとされるものについてお話したいと思う。それは至上のみたまの賜であり，末日聖徒を世の人々と区別し，特異な民とするものである。それはまた，主がご自分の民に絶えず与えておられる賜であり，彼らが神の選民であることを示すものである。これがなければ，いかなる宗教も存続する価値はないのである。

私はきょうここで，啓示について，すなわち天よりの導きについてお話したい。教会や世の中を導くために予言者や使徒に与えられる啓示，また自分自身と家族に対する啓示についてお話したいと思う。

私はこの話を準備するにあたり，聖きみたまの導きがあるように切に願い求めてきた。今また，耳を傾ける皆さんの胸の内が燃えたつように，また生ける炎によって皆さんの心が開かれ，私の述べる教義と証が真実であると聖きみたまの力によって知ることができるように心から祈っている。

恵み深い神は，この世に住む神の子供たちとどのように交流なさるだろうか。時間と空間と肉体の弱さの中で限られた経験しか得られないこの世に住む私たち人間が，どうして限りない永遠の御方を理解することができるだろうか。一体何を用いれば，この人間の目で幕の彼方を見，この耳で永遠の神のみ声を聞くこができるだろうか。

予言者が未来を見通す目をもってあたかも現実に起きているかのごとく将来の出来事を語るのはまことに奇しきことである。この肉眼でこの惑星の霧や暗黒を貫き通し，天の川の内側をかいま見ることは実に驚くべきことである。取るに足らない小さな人間が永遠の御方を知るようになり，過去，現在，未来の事物を確実に見分け，永遠の光栄の中に住む不死不滅の体を永久に受け継ぐことができるようになるとは，ただ想像を絶するばかりの驚きである。

しかしどんなに不思議だと言われようとも，事実を変えることはできない。永遠の御方がその方法を与えて下さったからである。慈愛に満ちた天父は律法を定められた。そして，私たちはその律法に従う時に，主の道を学び主のみこころを知ることができるのである。

その時代の予言者や使徒たちの言葉に従ってキリストを信じる者，世のものを捨てすべての罪を悔い改める者，バプテスマの水に入り生涯主を愛し，主に仕えると誓約を交わす者，これらの人々は聖霊の賜を受ける人々である。

この賜は，信仰の度合に応じて，神会の御一方を絶えざる伴侶とすることのできる権利である。すなわち，この賜は聖きみたまによって啓示を受ける権利である。予言者ジョセフ・スミスは次のように語っている。「聖霊を受ける人は，いかなる人でも啓示を受けることができる。聖霊は啓示を与える御方である。」（ジョセフ・フィールディング・スミス，*Teachings of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p. 328）

啓示は様々な方法によって与えられる。しかし，いずれの場合も聖霊の力による。イエスは古代の使徒たちにこう約束された。「助け主，すなわち，父が私の名によってつかわされる聖霊は，あなたがたにすべてのことを教え，また私が話しておいたことを，ことごとく思い起こさせるであろう。」（ヨハネ14：26）また，近代の聖典には次のように記されている。「『慰め主』はすべての事を知り且つ父と

子とを証すればなり。」（教義と聖約42：17）さらに次のような約束も与えられている。「聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうかがあなたたちに解る。」（モロナイ10：5）

人がみたまの力によって変えられる時，主はご自分の良しとされる方法で真理を明らかにされるのである。

1820年の春，御父と御子は天のとばりを引き，ジョセフ・スミスを訪れて時満ちたる神権時代の幕明けを告げられた。この栄光に満ちた御二方は，ジョセフ・スミスがこれからも真理の内にとどまり忠実であるならば，完全なる永遠の福音を回復する器となるであろうと約束された。

私たちの先祖の神，アブラハム，イサク，ヤコブの神，ユダヤのベツレヘムでマリヤからお生まれになった全能の主なるエホバは，1836年4月3日，カートランド神殿で栄光の内にジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに現われたもうた。

「その眼は燃ゆる炎の如く，頭髪白きこと清き雪の如く，その顔は日の輝きにも勝りて光り輝き，その声は洪水の激する音の如し。誠にエホバの御声言いたもう。

われは始めなり終りなり。われは生ける者なり殺されたる者なり。父と汝らの間の仲保者なり。……

愛憐（あわれみ）をもてわが民に姿を現わすべし。

わが民よくわが誡命を守（らば）……われわが僕らに現われ，われ自らの声をもてこれに語るべし。」（教義と聖約110：3—4，7—8）

その後も，ミカエルやガブリエル，ラファエル，など多くの天使が現われ，「その神権の時代，その権能，その鍵，その誉，その威厳，その栄，その神権の権能を宣言し」（教義と聖約128：21）た。

モーセもイスラエル集合の鍵を回復した。また，エライヤスは「アブラハムの福音」を回復し，彼らとその子孫によって後の世の人人がすべて祝福されるであろうと約束した。さらにエライジャが現われてこの地上で結ぶことがすべて天においても永遠に結ばれるように結び固めの権能を授けた。（教義と聖約110：11—13参照）

ペテロ，ヤコブ，ヨハネは神の王国の鍵を回復し，すべての国民，すべての造られしものに福音を宣べ伝える使徒職の権能が授けられた。モロナイはモルモン経を世にあらわし，バプテスマのヨハネはアロン神権のすべての鍵と権能を回復した。（教義と聖約128：20—21参照）

1832年2月16日，オハイオ州ハイラムで，ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは永遠の世界における光栄の王国を示現で見た。そして，死すべき体を持つ人はほとんど味わうことのできない，あふれるばかりの恵みと真理を受けた。（教義と聖約76章参照）

神のみ声は，私たちが聞き分けられるように私たちの言語で語り，みたまの力によって人の心に語りかけられる。そして，神のみ声を今日に至るまで，多くの人々が度々耳にしている。

主の教会の忠実な教会員たちは，ほとんど解決不可能と思われる問題に直面し，悪戦苦闘の末にようやく解決策を見いだし，しかもその決定が正しく，主のみ心にかなうものであるというみたまによる確信を数限りなく受けている。

また私たちは，啓示について語る時にはいつも，スペンサー・W・キンボール大管長に注がれている偉大な驚くべき物の知識について証を述べる。キンボール大管長は，神権と，福音に伴うすべての祝福と義務を今こそあらゆる国民，あらゆる血族，あらゆる人種に伝えなくてはならないと述べている。

まことに，聖霊は啓示を与える御方である。聖霊が語りかけられる言葉はまさに主のみ声である。聖霊はキリストの使いであり，代理である。聖霊が語ることは，イエスご自身が語りたもうみ言葉である。

主は「神権に按手聖任され…たる皆の者に」対して次のように言われた。「およそ聖霊に感

じたる時語るところはことごとく聖典の言となり，主の意となり，主の精神となり，主の言となり，主の声となり，世を救いに導く神の能力となるべし。」（教義と聖約68：2—4）

現代は，「あらゆる人々主なる神すなわち世の救い主の名によりて語」る約束された時代である。（教義と聖約1：20）

もしすべての末日聖徒が主の望まれる生活をしていたならば，「主の民がみな預言者となり，主がその霊を彼らに与えられることは，願わしいことだ」（民数11：29）というモーセの願いはかなえられていたであろう。

現代は，神が「その聖き『みたま』により知識」を与えて下さり，私たちが「聖霊の言い尽し難き賜」によって「世の始めより今日に至るまで嘗（かつ）て表したまいしことなき知識」を得られる時代である。（教義と聖約121：26）

またジョセフ・スミスが次のように語っている時代でもある。「神はジョセフに啓示したことで，十二使徒に知らせないことはなかった。また，たとえ聖徒たちの最も小さき者であっても，それを受けることが可能であればすぐさますべてのことを知らせて下さる。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.149）

私たちは，栄えある福千年を待ち望んでいる。その時，「人はもはや，おのおのその隣とその兄弟に教えて，『あなたは主を知りなさい』とは言わない。それは，彼らが小より大に至るまで皆，わたしを知るようになるからであると主は言われる。」（エレミヤ31：34）。

しかし私たちは今でも啓示を受けている。「われらは，すべて神のこれまでに啓示したまいしこと，すべて今啓示したもうことを信じ，なお今より後，神の王国につきて多くの偉大にして重要なることを啓示したもうことを信ず。」（信仰箇条第9条）

主は予言者，聖見者，啓示を受ける者に，教会とこの世に関するご自身のみこころを明らかにされる。ステーキ部やワード部，定員会の管理役員にはその組織に必要な事柄を啓示して下さる。父親や母親，子供たちには，「知識の大いなる宝まことに秘れたる宝」（教義と聖約89：19）を明らかにし，彼らを完成へと導いて下さるのである。

私たちが証を得，啓示を求め，予言の賜を熱心に求めるように主は望んでおられる。また，みたまの賜を得ることを願い，主のみ顔を拝することを望むことも主のみこころである。

主は，すべての子供たちがいと高き所より下される光明と真理と知識を得るように望んでおられる。また私たちがとばりを貫き通し，諸天を開き，永遠の示現を見ることも主のみこころなのである。

主はご自身の口を通して次のような約束を与えられた。「その罪を捨ててわれに来り，わが名を呼び，わが声に従い，わが誡命を守るあらゆる人々は，わが面を見てわれ在るを知ることあらん。」（教義と聖約93：1）

これは，悲しみと罪の世に死すべき肉体を持って生きている私たちに与えられた約束である。

もし私たちがねたみと恐怖心とを取り去って主のみ前にへりくだるならば，主が言われるようにとばりは開かれて私たちは主にまみえ，主の存在を知ることができるのである。（教義と聖約67：10参照）

これは私たち聖なる神権を持つ者すべてに与えられている特権である。

肉欲に従う人や，神と心の波長が合わない人には，これらの約束は意味のわからない外国語のように思われるかもしれない。しかし，天からの光明を受け，その心が燃えている人人には，その約束は決して燃え尽きることのないしばのようなものとなるであろう。私たちと同じ使徒であり，同じ主に仕える証人であるパウロは次のように記している。「神のかかわる事柄は神の御霊を受けた者以外にだれも知ることはできない。」（霊感訳Iコリント2：11）

ここで厳粛に証を述べさせていただきたい。

しかも，みたまによってこの証を述べる。これらの教義は真実である。主なる神はその民の頭に正義の雨を注ぎ，民が万物を知り尽くし，神ご自身と同じようになる完成の日が訪れるまでこれからも引き続きその雨を注がれることであろう。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

七十人第一定員会会員
ジョン・H・グローバーグ

「おかえり，フェリーラ」

人間に関する神のみ業にはいささかの偏見も気まぐれもない

愛する兄弟姉妹の皆さん，この世においても来るべき世においても幸福を得るために欠かせない大切なものがある。そのことについてこれから皆さんと一緒に考えたい。その間，私たちの心に主のみたまが注がれるように，皆さんの信仰と祈りをお願いしたい。

人類全体にとっても，私たち各個人にとっても，今一番必要なことは，創造主に対してより大きな，より強い信仰を持つことである。神が文字通り私たちの御父であり，慈悲深く，公平な御方であり，私たちを理解し，私たちの必要を知っておられる。この知識は，私たちの最も貴重な宝である。そしてこの宝を得るためには，信仰，しかも強い信仰が必要である。

物事が順調にいっている時は，神を信じることは容易なように思われる。しかし，成長するには，神経を張りつめ，努力をすることが必要である。信仰を強めるためには，信仰を働かせ，試しに耐える必要がある。

私たちの多くが経験するひとつの試しは，明らかに自分ではどうしようもないことや，不公平と思われるような出来事に遭遇する時である。

例えば，私はこれまで体の機能の一部が麻痺している人を見ていつも心を動かされてきた。そして皆さんと同じように，なぜこのようなことが起こるのだろうかと考えてきた。事故に遭ったり，大病にかかったり，家族が不慮の死を遂げたり，あるいは知恵遅れや身体障害の子供が生まれたり，そのほか説明しがたいような出来事の経験を持つ人々は，二度とそのようなことが起こらないという保証を求めて私たちのところへ来る。

聖典には御父の許しがなければ，一羽のすずめも地に落ちることはないと言われている。（マタイ10：29参照） 私も皆さんと同じように，この聖句から大きな慰めを得てきた。私たちはこの聖句を信じている。しかし，いざ自分の愛する人や友人たちに災いが降りかかれば，なぜだろうかという疑問がわいてくるのである。私はすべての答えを知っているわけではないが，これからお話する数年前の経験が，そのような疑問と闘っている人々にとって何らかの助けになるのではないかと思う。

太平洋のある小島に住む信仰篤い家族に女の子が生まれた。その子はフェリーラと名付けられた。この恵まれた霊がこの世に誕生した時，大きな喜びと幸せが訪れた。ところが，間もなくこの子に問題のあることが分かった。頭が異常に大きかった。医師は水頭症と診断した。脳の損傷や異常はないかなど，いろいろと医師たちは心配した。熱心な断食と祈りの後，長老定員会会長はさっそく支部長にそのことを話した。支部長は地方部長に，地方部長は事態の確認を行なってから伝道部長であった私のところへやってきて，何か助ける手立てがないだろうかと尋ねた。

医者に尋ねると，現地ではほとんど手の施しようがないということであった。そこで方方に手紙を書き，情報を交換し，レントゲン撮影を行なって分析もした。問題は，山積されており，なすべきことは沢山あった。落ち着

かない毎日が過ぎ，ようやく解決の糸口が見えてきた。退院しても自宅療養が何年続くか分からないというのに，ソルトレークのある家族が，その子を引き受けてくれることになったのである。医師たちの意見はその子が完全に回復する見込みがあることで一致し，病院側としても付きっきりで治療にあたることを決めた。航空運賃のためのカンパが行なわれ，地元の旅行者がその子を病院まで連れて行ってくれることになった。しかし，それですべてが解決したわけではなかった。査証や旅券，健康証明書，予約など，まだまだ問題は多く残されていた。

その間，その子の家族，長老定員会，支部の全員が断食と祈りを続けていた。そうするうちにも出発の日がだんだんと近づいてくる。

そんなある朝，私は，ほかにも差し迫った仕事を多く抱えていたが，今すぐその子が出発できるように努力する必要があると強く感じた。そこで国際電話をかけた。領事館はついに査証の発行を許可してくれ，航空会社の予約も特別にできた。旅券係の人が正規の手続きを省略してくれたからである。ほかにも多くの人々の協力と助けがあってようやくすべての準備ができた。

いつもならばだれか使いの者をやって書類に家族の署名をもらってくるところであるが，この時私は自分で行って支部長に会った方がよいと強く感じた。そして午後早くに，彼が教えている学校の近くで支部長に会った。彼は外でひとりで立っていた。

私はすぐさま彼のところにかけ寄った。「何があったか分かりますか。すべてうまくいったんです。奇跡です。フェリーラはあす出発できます。すぐにご家族に知らせてあげて下さい。」

しかし支部長はさして喜ぶ様子もなく，じっと私を見詰めていた。私は一瞬，喜びの気持ちがうすれてゆくのを感じた。「本当です。確かに時間は掛かりましたし，がっかりすることも沢山ありました。でも今度こそ本当にフェリーラは行けるのです。一体，どうしたのですか。」

私は自分の心が支部長の鋭いまなざしにさし貫かれるのではないかと思った。ゆっくりと，彼はフェリーラが死んだことをおもむろに告げた。すべての用意が整い，大勢の人々が奉仕の心に燃え，一致と無私の気持ちが最高に高まり，みんながこれ以上はないというほどの犠牲を決意し，人々の気持ちが最も盛り上がった。その朝，幼いフェリーラはひっそりと世を去ったのである。あれほど大勢の人々が断食をし，祈り，より良い治療が受けられるように努力したというのに。

そのフェリーラが死んだ？それも今朝？，あんなに骨折り，時間を掛け，断食と祈りをしたのに，あんなに強い気持ちを感じたのにすべてが無に帰してしまったのだろうか。いや，そんなはずはない。

支部長は私よりも強い信仰をもっていた。彼は私をまっすぐに見詰めたまま信仰ある励ましの言葉を残し，それから静かに学校の方へ引き返して行った。

私はひとりそこに取り残された。あるいはそう感じたのかも知れない。ほこりっぽい道を重い足取りで歩きながら，私は考えた。なぜ？なぜだろう。あれほど大勢の人々の善意と強い信仰と心の一致もあったのに，なぜだろう。

太陽は輝いていた。そよ風はやしの葉をひらひらと落とし，澄みきった青空を背景におだやかな雲をゆったりと押し流していた。私はその輝きとそよ風の暖かさを感じた。するとある感情がわいてきた。地球は美しい。生命は永遠に続くのだ。続いて自分の身に何が起きたのか十分に説明できないが，その一部を知ってもらうことはできると思う。「みたまによって力が尽きてしまいそうだった」と言うのが一番近い表現ではないだろうか。まるでだれかに手を引かれて高い所に連れて行かれ，「見なさい」と言われたようであった。見ると，想像を絶するような壮大で美しい光景

が眼前に広がった。その時やさしく，慈愛にあふれた，それでいて大自然が静まりかえり，聞き従うような力強い声が聞こえた。

「おかえり，フェリーラ，我が娘よ。お前を愛する者たちがお前のために求めた安らぎを得る所に，ようこそおかえり。私は彼らの祈りを聞いた。彼らはお前のために断食をし，愛を示した。私はそれに答えよう。おかえり，わが娘よ。お前は人生の使命を終えたのだよ。人々の心は和らげられ，霊は高められ，信仰が強められた。さあおいで，フェリーラ。」

主は彼女を知っておられた！主は彼女の名を知っておられたのである。主はフェリーラのすべてを，そして周囲の人々のことを知っておられた。御父の愛は何と完全無欠なのだろうか。主は祈りを聞いておられた。そして一番良い方法をとられたのである。主はすべてを知っておられた。これまでそのことを信じてはいたが，心からそう思ったことはなかった。私たち人間の理解を超える何か不思議な方法で，主はすべてのことを知り尽くしておられるのである。

なぜなのかという私の疑問，公正と道理を求めて納得できなかった私の思いが，その一瞬完全に消え去ってしまった。疑問などはまったくの場違いであった。グランドキャニオンをスプーンで掘ろうとするような見当違いなものであった。

私たちはヤコブの言葉を忘れてはならない。

「ごらん，主の御業は本当に偉大で驚嘆すべき事である。また主の奥義が何と深くて，隅々まで知ろうとしてもむつかしいことよ。それであるから，主のなしたもうことを一切知るのはとても人間業でできることではない。主の道が啓示されなかったならこれを知る者は一人もない。それであるから兄弟たちよ，神の下さる啓示を軽んじてはならない。……

主に向って勧めをしようとはしないで主から訓戒を受けようとせよ。ごらん，あなたたちは主が智恵と正義と大きな隣みとをもって，造りたもうた万物を勧め戒めて治めたもうていることを知っている。」（モルモン経ヤコブ4：8，10）

私は，永遠の中には完全な正義が存在することを証する。人間に関する神のみ業にはいささかの偏見も気まぐれもない。そこには，一貫性と調和と完全がある。

ある人はこう言うかも知れない。「しかし，私たちはこの何年間もずっと熱心に断食と祈りを続けてきた。主はこの上，何を期待されるというのだろうか」と。

いろいろな答えがあると思う。しかし私の答えはただひとつである。主はもっと大きなことを求めておられる。それはあなたに永遠の祝福をもたらすものであると。これが私の答えである。私たちが永遠を理解し始める時，まったくの新しい価値観を持つようになるからである。

人々を思いやる責任と特権と機会をお持ちの皆さん方が，長い歳月の経験から，主の思いを悟ることができるように願っている。

失望してはならない。主に助言しようとしてはならない。決めるのは主であって，あなたではない。主は人の心を知り，人に必要なことをすべて御存じである。主は人の思いを測り，その思いを知っておられる。

他人を思いやる時，その量，質，程度，期間のすべてが大切である。なぜなら神の知恵の中では，他人を思いやることから信仰が生まれるからである。

願わくは私たちすべてが幼いフェリーラを身に受けることができるように，フェリーラは大勢いる。知能の遅れた子供，虚弱な人，霊的，肉体的に特別な助けの必要な人，老人や子供たち，このような人々は皆私たちの心を愛で和らげ，心にやさしさを育み，他人を思いやることによって自己の価値を認識させ，とりわけ全知全能の神への信仰を強くしてくれる。神こそ持てるすべてを人々のために捧げ，永遠に生き，永遠に支配し，そのふむ道は永遠にかわらぬ一すじの御方である。イエス・キリストの聖なるみ名により申し上げる。

アーメン。

七十人第一定員会名誉会員
S・デルワース・ヤング

「人よ，彼はさきに よい事のなんであるかを あなたに告げられた」

「昇栄を可能にする儀式」を受け，「昇栄を実現させる」福音の行動規範に従う

初めに証を述べたいと思う。先程マッコンキー兄弟が述べられた原則の通り，この2日間に私と同僚たちが受けた召しは，33年前に私が受けた召しとまったく同じ主の霊感によることを，証申し上げる。皆さんにそのことを知っていただきたいと思う。

科学が驚異的な進歩を遂げている今日，私は自分の子供時代のことをよく振り返ってみる。これは老いたる人間の常と言うものだろうか。

ソルトレーク・シティーの東4番街と5番街の間に南7番街という通りが走っている。そこに古びた一部屋しかない第2ワード部の集会所があった。このワード部にはデンマーク出身の教会員たちが集っていた。そのワード部のヒーバー・C・アイバーソン監督はデンマーク語を話すことができた。断食集会では，聖徒たちが覚えたばかりの英語を使って四苦八苦しながら証を述べるので，私にはなかなか理解できないことが多かった。日曜学校になると，針金をひいて緑色のカーテンを下げ，部屋を幾つかのクラスに分けた。自分の教師の話に興味がない時は，ほかの5つのクラスのどこでも好きな話に耳を傾けることができた。また，カーテンの向こうから私をつつく少年がいて，その少年がだれか言い当てることに興じたものである。

そんな少年時代にも，私は自分の救いを可能にするのは自分しかないこと，たとえ救いが得られなくてもそれは他人のせいではないということだけは分かっていた。今，その原則をどこで教わったのかはっきり覚えていないが，第2ワード部で聞いた証や，日曜学校のクラスあるいは家庭で両親から聞いた証，さらに，当時何回も繰り返し覚えた信仰箇条第2条から学んだのではないかと思う。信仰箇条第2条にはこう記されている。「われらは，人は皆各々其身にてなしたる罪に対して罰を受け，アダムの咎に対して罰を受けざることを信ず。」

私は子供心にも良い人になってその罰を受けないようにしようと決心した。罰という言葉を私はいつも耳にしていた。父と母はお尻を打つ前と後に必ずこの言葉を使ってそのわけを説明した。私は良いことでも悪いことでも自分の行動の責任は自分でとらなければならないことをはっきりと教えられて成長した。

しかし，十戒や山上の垂訓によって定められていた人間の行動が，私が大人になる頃にはかなり人の思いつきに左右されるようになっていることが分かった。人は自分が一番よいと思うことをすればよいのだというのが，その口実である。明らかに十戒は忘れられている。しかし，十戒はなくなったわけではない。十戒は今も，永遠の生命，すなわち永遠の幸福と喜びへ人を導くかがり火である。

私は十戒の簡潔でしかも厳格な言葉に，いつも畏怖の念を抱いていた。そして人々の行ないを見るたびに，その言葉は鋭く心を刺した。ここで，アビナダイがノア王に述べた十戒の言葉を引用してみたい。

1．汝はわれのほかに何物をも神とすべからず。
2．己がため何の偶像をも造るべからず。
3．汝は徒(いたず)らに汝の神なる主の名を口にするべからず。
4．安息日を大切に憶えて聖日とせよ。
5．汝の父母を敬え。
6．汝殺すべからず。

7．汝姦淫すべからず。
8．汝盗むべからず。
9．汝偽りの証を立つべからず。
10．汝貪（むさぼ）るべからず。（モーサヤ12：35—36，13：12—24参照）

アビナダイは，この十戒が彼らの「心に記されていない」（モーサヤ13：11）ことを知り，ノア王とその家来たちに告げたのである。

しかし十戒はモーセがシナイ山の雷と稲妻のただ中で造り主とまみえた時以来，不変の言葉としてなおも存続している。

現代は，十戒に従うことが是非とも必要な時代である。そのうち5つは教義と聖約の42章に繰り返され，ほかの戒めも別の章に述べられている。私は幼ない時から，それをみな守ろうと努めてきた。

ところで，若い父親たちに申し上げるが，父母を敬えという5番目の戒めを，時間を取って子供たちに教えていただきたい。

私たちは子供にうそをついてはならない，盗んではならないと教える。しかし青年期の反抗が父母を敬えという戒めを明らかに破ることであることを理解させる努力が足りないようである。この戒めを効果的に教えるには，両親がまず敬われるに値する生活をしなければならない。自分の父親が誠実な人ではないことを知れば，それは子供たちにとって致命的である。

ある日，私はミカ書を読んでいた時に，自分の行動規範を告げていると思われる言葉にゆきあたった。それを引用してみよう。その言葉は今でも私の心に最良のものを呼び覚ましてくれる。

「人よ，彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは，ただ公義をおこない，いつくしみを愛し，へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか。」（ミカ6：8）

「公義をおこなうこと」—私はそれを望んでいる。「いつくしみを愛すること」—私の心はその思いでいっぱいである。また「へりくだってあなたの神と共に歩むこと」によって私は一層神に近づくことができる。この教えは教義と聖約11章12節に繰り返されている。

私は，ジェシー・エバンズ・スミス姉妹がタバナクル合唱団の中で独唱するのを聴いた。彼女の歌声を聴く人は皆，この教えに従って生活しようと決意したことだろう。詩篇24篇の中で，詩篇作者はまずふたつのことを尋ねている。「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。」その答えは驚くほど簡明である。「手が清く，心のいさぎよい者，その魂がむなしい事に望みをかけない者，偽って誓わない者こそ，その人である。」そして次にこの約束が来る。「このような人は主から祝福をうけ，その救の神から義をうける。」（詩篇24：3—5）このあと詩篇作者は，「これこそ……神の，み顔を求める者のやからである」（詩篇24：6）と断言している。

正義を表わすこれらの特質を述べた言葉は，隣人との日々の交際の中で直面する様々な事態に，その道標として胸に刻み込んでおくべき言葉である。そうする時に，予言者ジョセフ・スミスが私たちの生活の標準は「正直，真実，貞潔，慈善，高徳なるべきこと，およびすべての人に善を行うべき」（信仰箇条第13条）ことであると宣言した教えに従うことが容易になってくる。清い手といさぎよい心で正義を行ない，いつくしみを愛し，空しいことを求めず，へりくだって歩むならば，十戒に背く誘惑はなかなか入って来ないはずである。

十戒に従って徳高い義の生活を求める人は，私たちの救い主である神の御子について知るという高価な真珠を見いだし，それにより喜びを得るであろう。このことを私は証する。さらに隣人を愛し，隣人に仕えるならば，その人は真珠の鎖をもいただき，天父とあの救い主のみ前で永遠の生命を見いだすであろう。

私たちは昇栄を可能にする儀式を受けている。

そして昇栄を実現させる行動規範に従って

いる。

このふたつの事柄を忠実に守り，従うことは，取りも直さず主なる神を敬い，神の戒めを守り，キンボール大管長を神の予言者として支持するという証を述べることである。私は主イエス・キリストがまことに私たちの救い主であることを証し，これらの願いを主の聖なるみ名によって申し上げる。アーメン。

七十人第一定員会会員
M・ラッセル・バラード・ジュニア

霊の成長

私たちは子供たちの永遠の成長のために，注意深く，しっかりとした霊の訓練を行なってゆかなければならない

私は全員を代表して，私たちがヤング長老を敬愛していることをお伝えしたい。

私は先日，初孫を両手に抱いた折，生まれたばかりのわが子を抱いた時と同じ感動を味わった。もう何年も前のことになるが，生まれて間もないわが子のあどけない顔を見つめていた時，私の心にこんな思いがわいてきたものである。この子は一体どんな人になるのだろうか。天父はこの子にこの世で何を成し遂げるように望んでおられるのだろうか」と。多分，子供を持つ親であれば，幼な子を両腕に抱き，同じようなことを考えた経験がおありだと思う。

スペンサー・W・キンボール大管長の父君は，はじめてその幼な子を抱いた時，その子が前世で予任された霊としてやってきて，いつか成長し霊的な力と強さを具え，このような大会に予言者として，また末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として出席することを想像しただろうか。兄弟姉妹の皆さん，あなたの家庭やあなたの身近にいる子供たちの中に，あなたの教育を受けて，将来教会幹部やステーキ部長，監督，扶助協会会長，初等協会会長になる準備をなすべく，あなたのもとへ送られてきた霊の子供がいることだろう。どこかの家庭に，現在予言者が腰掛けておられるその席に着くように召される霊が，天父のみもとから送られているはずである。将来の予言者を教えている人がだれであるかは分からないが，どうか彼をよく導いていただきたい。今日，キンボール大管長が私たちを愛しておられると同じように，主と聖典と，そして隣人を愛するように教えていただきたいと思う。

子供が自分の永遠の責任を果すことができるように霊的な備えをさせるために，私たちは何をしたらよいであろうか。最も包括的な答えは，福音の原則にどのように従って生活すればよいかを教える，ということであろう。良い教師となるには，良い聞き手となることが必要である。個人的な経験になるが，私の長男のクラークが4歳の時，ちょっとしたいたずらをした。それは父親が注意しなければならない類のことであった。そこで私は彼を寝室に連れて行き，そのようないたずらを二度としてはならないとその理由を説明し，言い聞かせた。ところが私の長い説教が終わると，茶色の目をしたこの幼な子は私の目をじっと見つめて言った。「でも，パパ。ぼく，そんなことしていないよ。」彼のまなざしを通して霊が私に語り掛け，私はそれがうそではないことを知った。私はわが子を抱き上げ，そして謝った。主のみたまは，わずか4歳の子供を通して，私に語り掛け，その日，私は息子から大きな教訓を学んだのである。いかなる時であっても良い聞き手になりなさい。

天父が霊の子供たちをこの地上に送り，この短い期間私たちに託して下さった天父の永遠の計画を親たちが理解することは，何と大切なことだろうか。考えてみていただきたい。人間の中には，天の愛する永遠の父母から生まれた生ける霊が宿っているのである。両親

がそのことを気付いているならば，永遠の関係と人生の本当の目的に添って子供たちをより良く導くことができるであろう。心ある親であるならば，家庭に忍び寄り，その永遠に続く家族の行く末を断ち切ろうとする暴言や虐待を許さないであろう。

ある子供たちは運動能力においては多少の不利な条件を負って生まれてくるかもしれない。しかし霊の成長においてはみな同じである。主の永遠の計画の中で，恐らく家族の他の人々の霊的な成長のために，障害を持ったその子の存在が必要なのだろう。今日，私はある素晴らしい家族から，その家の少女を歌った次のような詩をいただいた。

見えない目で世界を見つめるこの子，
しかし霊のことは隠されていない。
苦悩を負うことを選んだおまえ，
幕のこちらから見る人には，

おまえの霊の重荷はない。
天父には，おまえはまったく健やかなのだ。
おまえはだれでどんなにすぐれているのか，
幕のこちらでは，知る人はいない。

おまえこそ，こよなき所にいる，こよなき
霊だ。
おまえを見る人たちは
そこに天使の面を見るのだ。

（エド・ジョイナー「ビッキー・アン」
未刊）

天父の永遠の霊の子供に肉体を与える父，母となる特権を私たちに与えて下さった天父の大きな信頼について考える時，私は畏敬の念を感じずにはおられない。私たちは天父が私たち一人一人に深い関心を寄せておられることを忘れてはならない。そして人間はそれぞれ神の永遠の計画の中でどれほど大切な存在なのかをよく認識する必要がある。私たちが一人一人の大切さを理解する時，私たちは親として神聖な責任に対する導きと指示を，心から天父に祈り求めることができる。主は言われた。「これわが業にしてわが栄光，すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」（モーセ１：39）この言葉は，この世の父母が大いなる生命の永遠の計画の中で家族一人一人にとって非常に重要な役割を負っていることを表わしているように思われる。

人の肉体は，親がそれほどのことをしなくても大人の体に成長する。子供が適当に休養と運動と食物を取れるように気を配っていれば，肉体は定められた通りに完全な大人の体に成長する。そうする内にやがて私たちは肉体の衰えを感じるようになる。なめらかだった肌にしわが見え，頭髪にはしらがまじりはじめ，やがて見事な白髪となる。このような老化をたどりながら，人はやがて死を迎えるのである。その時，人間の永遠の霊はこの世の住まいを離れ，天父のみもとへ帰って行く。

ある両親は子供のためにすべての物質的欲望を満たすのに夢中になり，この世のことはすべてうまくいっている，さらに永遠の責任もすべて順調に果たせていると思い込んでいる。しかし，子供をぜいたくに育てすぎると霊的な価値観を鈍らせ，永遠の見地から物事を判断する力を失わせる恐れがあると私は思う。私たちは時々立ち止まって，自分の子供がどれだけ霊的に成長しているか，よく気を付けてみる必要があると思う。自分は子供の霊を養い，育て，訓練しているだろうか。子供が霊的な力を増すように，どれほど教え，愛し，霊感を与えているだろうか，と。教える機会は山ほどある。教会はそのために家庭の夕べを開くように奨励している。忘れないでいただきたい。永遠というのは漠然とした遠い将来ではなく，今始まっているのである。私たちは毎日，その一瞬一瞬を永遠の生命のために準備しているのである。永遠の生命のために備えていなければ，それよりずっと劣るもののために準備をしていることになる。

人の霊の成長は体のようではない。むしろ逆である。霊は正しく養いさえすれば，肉体のように動作が鈍くなり能力が衰えるということもなく，自ら信ずることが神の前に強くなるのである。（教義と聖約121：45参照）霊の強いまなこを通して，私たちは人々の力と強さを感じることができる。大管長会と十二使徒評議員会の人々を知っている人ならだれでも，彼らの肉体の年齢が霊の能力と何の関係もないことを立証できると思う。彼らと握手をすると，内なる霊の力と強さを感じ，彼らが長年福音に従って生活してきたことで今や全教会を強くするほどの霊性を培ってきたことが分かるのである。大勢の聖徒が，霊の成長こそが人生で最も大切なものであるということを知っている。そのことをよく知っている両親からそれを教えられて育つ子供たちは，何と祝福されていることだろう。

私が申し上げたいのはこのことである。私たちは子供たちの永遠の成長のために，注意深く，しっかりとした霊の訓練を行なってゆかなければならない。子供たちの霊の成長を図ることは，肉体の成長のように簡単ではないので，よく考えて計画することが肝要である。

古代から現代に至るまで，主の予言者は私たちにいつもはっきりと教えを述べてきた。モーセは基本となる十戒を告げ，救い主はその教えに加えてイエス・キリストの永遠の福音を教えられた。1820年には，天父と愛する御子が直接，予言者ジョセフ・スミスに現われたもうた。その後，主のみ名によって霊的な事柄を執り行なう神権の力と共に，完全な福音の回復が告げられたのである。古代，近代の啓示をよく学べば，天父が肉体よりも霊の成長にはるかに多くの関心を抱いておられることがよく分かる。

私たちが堅固な霊の基を築くならば，すなわち罪を悔い改め，知恵と知識と理解を深めるならば，私たちは天父と愛する御子のみもとで永遠に暮らすことができるであろう。これが，神のあらゆる賜のうちで最大の永遠の生命である。（教義と聖約14：7参照）

私は，神が生きておられ，人はすべて神の子供であることを知っている。イエスはキリストである。また，もし人々が真理を理解し，イエスの模範に従おうと努めるならば，天父が私たちに望んでおられるような霊の成長を得ることができることを証する。私たちの上に主の祝福があってそれを成し遂げることができるように主イエス・キリストのみ名により祈る。アーメン。

七十人第一定員会会員
ジェイコブ・ディエガー

誤解のないように

回復された福音の目的は，この世においても来るべき世においても家族を幸福にすることである

愛する兄弟姉妹の皆さん，私は今，自信をもってここに立っている。というのは，今朝，香港にいる17歳の娘から貴重な電報を受け取ったからである。その電文をご紹介したい。「パパ，お話，がんばって。大好きよ。オードリー。」

オードリーがこの大会の話を聴いているということなので，まことに勝手ながらこの場で返事をさせていただきたいと思う。「ありがとう，オードリー。パパも君が好きだよ。」

愛する兄弟姉妹の皆さん，私は1972年の地区代表セミナーのことを今も覚えている。セミナーが終わった後，私が片腕に大きな２冊のバインダー，もう片方に印刷資料の束を抱えて通路の脇に立っていると，マリオン・G・ロムニー副管長が講堂から出てこられ，通りすがりにこう言われた。「ディエガー兄弟，霊感によって準備されたこの資料の全部をどの

ように教えるおつもりですか。」

私は一瞬，副管長を満足させる答えを捜して思案した。そして，「ロムニー副管長，私はみんなが理解できるような方法で教えたいと思います」と答えた。

ロムニー副管長は片目をつぶって，「それだけでなく，神様からいただいたこの資料を誤解のないように教えて下さい」と言い，去って行かれた。

今，あれから何年かたって，私にはロムニー副管長のあの時の助言の意味がますますよく分かってきた。先日，私はＺＣＭＩ百貨店の遊歩道で人の好いお年寄の姉妹と会ったが，彼女のような誤解はよくありがちである。

「しばらく前の総大会でお話されたオランダ人の方はあなたでしょう。」私は「はい，さようです」と返事をした。彼女は話を続けた。「ああ，指を堤防に突っ込んだ男の子のあのオランダのお話，とてもよかったと思いますわ。」私はそれに対してこう答えた。「姉妹，私は人を救うことについてはお話しましたが，そのような話はしていません。」ところが彼女はさらにこう言った。「だって，あなた，あのお話は私がまだ学校に行っていた時に初めて聞いたお話なの。だから，またあなたからあのお話をうかがって，とってもなつかしかったのよ。」

兄弟姉妹，私は議論しないこと，それも特に姉妹たちと議論しないように心掛けているので，その場は笑顔で姉妹と別れた。心中，寂しい気持ちがした。誤解のないように教えることに失敗したことは確かであった。

そこで，きょうは気をつけてお話したいと思っている。私は，開かれたばかりの伝道部の小さな支部で働いておられる現代の開拓者たちに，短い感謝の言葉を捧げたいと思う。

とりわけ，教会員がまだ少なく，聖徒たちを鼓舞し，シオンを確立するために主が考えておられる教会の様々な活動が行なえない地域の開拓者たちに感謝したい。

また，国際伝道部の代表として，遠くの地で働いているご夫婦たちにも敬意を表したい。中には70代で３度目の伝道という方々もおられる。

また，台湾のティエンムで出会った執事，フィリピンのバコロドで新しく長老に聖任された兄弟，インドネシアのソロで会った扶助協会の姉妹，タイのコラトの初等協会の会長，そのような方々の献身と忍耐に対して賞賛の気持ちで一杯である。また，誤解のないように申し上げるが，私は世界の各地で，このような立場と召しにあって働くすべての方々をたたえるものである。天父のとりわけ豊かな祝福が，そういう現代の開拓者たちの上に絶えず注がれんことを。

私たちの前途にはなんと大きな仕事が待っていることだろう。平凡な日常生活の中に，イエス・キリストの福音の安らぎと落着きがますます必要になっていることを認めるからである。予言者ジョセフ・スミスにより地上に回復され，イエス・キリストのみ名を負うこの教会は，あらゆる国民，あらゆる国語の民にその平安をもたらすことができる。

神の神権が地上に回復され，日々に増加する神権者たちが主の僕として喜んで仕えていることを，証申し上げる。私たちはこの神権をもって，私たちを最も必要としている人々に最良の働きをするのである。

人間がこの地上に存在するについては深い目的がある。私たちの天父は，その目的を明らかにし，その確かな目的を全人類が喜んで果たせるように，み言葉を授けられた。しかし，残念なことに，その教えを，啓示を，導きを拒んで，自分の思考の暗闇につまずく方を選ぶ人が多い。

また，世間がこぞって自分に敵対しているという気持ちを持っている人々も多い。時にはそれが事実のこともあろう。そういう人はなぜなのか，理由を考えるがよい。そうすれば，自分の欠点を見いだし，どうすれば向上できるか，その方法が分かるからである。主は，ご自分の教会に来る人が牢獄からであろ

うと，成功した身分の高い出であろうと出身を問われない。主は経歴ではなく，人の魂を受け入れられる。それから扉が開かれ，その人は模範によって，またイエス・キリストの麗しいたとえ話のような聖典を通して規則に規則，戒めに戒めを学んで進歩を始めるのである。

分かりやすく説明された，当時のたとえ話をたびたび読もうではないか。それについて英国の詩人トーマス・T・リンチは次のように詠んでいる。

主は緑と風と雨を，
いちじくの木とうららかな空を語り，
天と地を
ひとつに結ぶことを
自らの喜びとされた。

主は野の花と小麦とぶどうの木を，
つばめとからすを語り，
その言葉はそぼくで知恵に満ち，
人の心に刻まれた。

彼はパン種とパン，亜麻布と衣を，
卵と魚とあかりを語った。
見るがよい，まったくの見慣れた世界を
主はこの上なく聖らかに論じられる。

イエス・キリストの生活の社会的背景が，たとえ話の中に見事に描写されている。たとえ話は私たちを1世紀の昔に連れ返してくれる。想像をたくましくして読むと，私はその家に入って，その家の主婦がパンを作り，古着を繕い，なくした硬貨を捜している姿を目にすることができる。市場の雑踏が見え，道行く旅人が見える。私は種まきと一緒に畑で働き，羊を追って丘を登り，湖の岸で網を引く漁師を手伝う。

私は近所の商人となじみになり，彼の邸宅やぶどう園や穀倉を見，家令や使用人の扱い方を知る。私はそのような情景にただうっとりとする。ガリラヤ地方の活気ある生活の隅々を，救い主は逃さず見ておられるようである。救い主の一番の関心は，常に庶民の上にあった。

兄弟姉妹の皆さん，私はこの神権時代における主の謙遜な僕になりたいという私の願いを，皆さんに知っていただきたいと思う。主は生きておられる。その主イエスがこの教会の頭なのである。

私は改宗者であり，宣教師から光をいただいた者である。私は，世界の隅々にまで光をもたらすのに大切なものがふたつあると思う。天上の太陽と，この教会の伝道組織である。私は担当の各伝道部を旅しながら，毎日その奇跡を目の当たりにしてきた。必要なのは組織だったチームワークである。このことを心に留めて，私たちはひとつのチームとして支部，地方部，ワード部，ステーキ部，あるいは神権定員会や補助組織を地上の御父の王国の中に設立しようではないか。そして，ハロルド・B・リー大管長がよく引用された次の言葉をいつも思い出そう。「だれが名声を得ようと頓着しないならば，あなたにできる善事に際限はない。」今日必要なのは，主の回復された教会における真の意味での弟子たちである。

イエス・キリストの福音は全世界に宣べ伝えられつつある。教会の伝道プログラムは発展する教会の霊感された青写真である。

それゆえ，私たちは決意を固め，愛と一致の精神をもって前進しようではないか。勢力と思いと体力を尽くしてみ業に携わり，人々を本当に幸せにしよう。この気持ちこそが前進をもたらすのである。

旧約聖書の箴言にはこう書かれている。「預言がなければ民はわがままにふるまう，しかし律法を守る者はさいわいである。」(箴言29：18)

私はこのことが真実であることを心の底から知っている。この回復された福音の目的は，この世においても来るべき世においても家族

を幸福にすることである。

私たちの全員がこの神聖な目的を十分に理解できるように，主なる救い主イエス・キリストのみ名により，へりくだり祈る次第である。アーメン。

十二使徒評議員会会員
L・トム・ペリー

ホーム・ティーチング—その神聖な召し

私たちの備えは入念で完全なものであり，しかも両親とその家族の個々の必要に見合ったものでなければならない

「われ主なる神，アダムとイヴを追い出してより，アダムは先にわれ主の命じたりし如く，土地を耕しすべての野の獣を治め，彼の額の汗によりて食物を食うことを始めたり。而して，妻なるイヴもまことに彼と共に働きたり。……

アダムとその妻イヴ主の御名を呼びたるに……声聞えて……

主，彼らに誡命を下して宣いける。……

アダムとイヴとは神の御名を讃め，息子娘らにすべての事を知らしめたり。」（モーセ5：1，4—5，12）

世の初めより，主はその子供たちに，互いに助け合う義務と責任のあることを教えられた。アダムや昔の族長の時代には，最年長の神権者が一族を守護する族長としての責任を行使するのが普通であった。主の子供たちが増加するにつれ，父親が父親としての義務を果たせるようにするための主の方法が，教会員を守護する原則として定められた。

人類の歴史を研究してみると，主は地上に教会を設立された時はいつも，教会員を守護し強めるための制度を定めておられる。

イスラエルの民を奴隷の境遇から導き出す重大な責任を与えられたモーセは，義父から次の原則を教えられた。

「あくる日モーセは座して民をさばいたが，民は朝から晩まで，モーセのまわりに立っていた。

モーセのしゅうとは，彼がすべて民にしていることを見て，言った，『あなたが民にしていることはなんですか。あなたひとりが座し，民はみな朝から晩まで，あなたのまわりに立っているのはなぜですか』。

モーセはしゅうとに言った，『民が神に伺おうとして，わたしの所に来るからです』。……

モーセのしゅうとは彼に言った，『あなたのしていることは良くない。

あなたも，あなたと一緒にいるこの民も，必ず疲れ果てるであろう。……

今わたしの言うことを聞きなさい。わたしはあなたに助言する。どうか神があなたと共にいますように』。……

モーセはしゅうとの言葉に従い，すべて言われたようにした。

すなわち，モーセはすべてのイスラエルのうちから有能な人を選んで，民の上に長として立て，千人の長，百人の長，五十人の長，十人の長とした。」（出エジプト18：13—15，17—19，24—25）

救い主がこの世におられた間に，主に従う人々の数が次第に増えてきた。そこで主は人々を教え，その必要を満たすためにひとつの組織を設けられた。最初に十二使徒を召されたのである。さらにみ業が進展するにつれて，次のような人々が召されたと聖典に記されている。

「その後，主は別に七十人を選び，行こうとしておられたすべての町や村へ，ふたりずつ先におつかわしになった。

そのとき，彼らに言われた，『収穫は多いが，働き人が少ない。だから収穫の主に願って，その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。』」（欽定訳ルカ10：1—2）

主のみ業はますます発展し，さらに新たな

組織が加えられた。「そして彼は，ある人を使徒とし，ある人を預言者とし，ある人を伝道者とし，ある人を牧師，教師として，お立てになった。

それは，聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ，キリストのからだを建てさせ，

わたしたちすべての者が，神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し，全き人となり，ついに，キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。

こうして，わたしたちはもはや子供ではないので，だまし惑わす策略により，人々の悪巧みによって起る様々な教えの風に吹きまわされたり，もてあそばれたりすることがなく……。」（エペソ４：11—14）

こうして，時代の経過と共に，教会員を守護することは神権組織の責任となった。したがって，この福音が回復された今日においても，「教会員を守護する」というこの原則が教会の基本プログラムのひとつとして明示されているのも当然のことである。1830年に予言者ジョセフ・スミスを通して授けられた教会の組織と管理に関する啓示の中で，この原則が再び確立された。啓示で次のように述べられている。

「教師の義務は常に教会員を守護し，彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす。

また教会員の中に邪曲（よこしま）なきよう，互いの間に頑固（かたくな）なることなきよう，また虚言，蔭口，悪口などもなき様注意すべきものとす。

また教会員のしばしば集会することをはかり，またすべての会員にその義務をつくすようになさしむ。……

されど彼らは警告を与え，釈き，勧め且つ教えて，キリストに来る様すべての人々を勧誘すべきなり。」（教義と聖約20：53—55，59）

教会の初期の時代にこの責任がいかに遂行されたかを伝える興味深い記録がある。それは予言者ジョセフ・スミスの家庭を訪問する教師に召され，その責任を果たしたウイリアム・ファリントン・カフーン兄弟の証を記したものである。

「証を終える前に，……決して忘れることのできないひとつの出来事について話したいと思う。私は末日聖徒の家庭を訪問する教師に召され，聖任された。私はこの召しに非常によい気持ちを感じていたが，それも自分が予言者の家庭を訪問しなければならないことを知るまでのことであった。当時私は若かった（17歳であった）ので，自分には教師として予言者の家庭を訪れるだけの力がないと感じたのである。私はこの責任を下りたいとさえ思った。しかし，私は意を決して予言者の家を訪れ，扉をたたいた。すると間もなく予言者ジョセフ・スミスが戸口に現われた。私は震える足でそこに突っ立ってこう言った。

『ジョセフ兄弟，教師として参ったのですが，ご都合はよろしいですか。』

『ウイリアム兄弟，どうぞお入り下さい。本当によくいらっしゃいました。どうぞその椅子にお掛け下さい。今，家族を呼んできますので。』

やがて家族が出てきて，皆席に着くと，予言者は，『ウイリアム兄弟，私たち家族はあなたの言い付けに何でも従います』と言って椅子に腰を下ろした，『さて，ウイリアム兄弟，何でもお聞きになりたいことがあればお尋ね下さい。』

この時には，私の恐れは去り，震えはすっかりとまって，私は次のように尋ねた。

『ジョセフ兄弟，あなたは自分の宗教に従って生活しようとしていらっしゃいますか。』

『はい。』

『家族で祈っていらっしゃいますか。』

『はい。』

『家族に福音の原則を教えていらっしゃいますか。』

『はい，そのように努めています。』

『食事の祝福をしていらっしゃいますか。』

『はい。』

『家族の皆さんと平安で一致のある生活を送るように努めていらっしゃいますか。』

彼は行なっていると答えた。そこで私は，彼の妻であるエマ姉妹の方を向いて尋ねた。

『エマ姉妹，教会の教えに従って生活しようと努めていらっしゃいますか。両親に従うように子供たちに教えていらっしゃいますか。祈るように子供たちに教えていらっしゃいますか。』

彼女はすべての質問に，『はい，そのように努めています』と答えた。

私はジョセフの方に向き直って言った。『私が教師としてお尋ねしたいことはこれで全部です。何か私に教えて下さることがありましたら，喜んでお受けしたいのですが。』

『神の祝福があるように，ウイリアム兄弟。あなたが謙遜で忠実であるならば，教師として働く時にいかなる困難に遭遇しても，それを解決する力を与えられるでしょう。』

それから私は教師として予言者ジョセフ・スミスと家族に祝福を残し，辞去した。」(*Juvenile Instructor*「ジュービニル・インストラクター」1892年8月15日，pp. 492—93)

父祖アダムから現代に至るまで，主の教会が地上に組織された時はいつも，そこに兄弟姉妹が互いに関心を示し合う制度あるいはプログラムが存在していた。これまでの総大会の記録の中にもこの神聖な義務を思い起こさせる兄弟たちの説教が数多くある。きょうの私の話もこの記録に加えたいと思う。そして，皆さんがホームティーチャーの召しを自分の生活の中で適切に優先させることができるように願っている。ホームティーチングのプログラムを成功させるために必要な3つの要素をもう一度思い出してみよう。

第1に，家族は教会組織の基本ユニットである。ホームティーチャーはその基本ユニットを守護し，強める第一の防御線である。しかしまず第1に私たちは，自分自身の家族を守り，強めるために時間を費やさなければならない。それから，良心的で堅実なホームティーチャーになるために備えるのである。

ジョセフ・F・スミス大管長は，1915年4月の総大会で次のように語った。

「教師の義務は，人々の家庭を訪問し，家族と共に祈り，彼らに高潔，尊敬，和合一致，愛，信仰，シオンの大義への忠誠などの諸徳を身に付けるように勧めることである。もしこの義務が期待通りに果たされるならば，これ以上に神聖で必要な義務はないであろう。」(*Conference Report*「大会報告」1965年4月，p. 140)

ホームティーチャーには，バプテスマや神権を受けていない人を導いてそれを受けられるようにし，不活発会員が活発になるように助け，さらに消息が分からない教会員を捜し出す責任がある。

第2に，モーセがひとりではイスラエルのすべての民の必要を満たせなかったように，ホームティーチャーも能力以上の重荷を負わないようにする。

ワードティーチングとホームティーチングの歴史を見ると，時の経過と共に担当家族数が変わっているのが分かる。当初担当家族数が8～10もあったのが，現在では5家族以下に減っている。これは教会の発展により管轄区域が広がり，訪問する範囲が広くなったためである。達成感を味わえる能力を越えた割り当てを与えることほど，ホームティーチャーの精神を損なうものはない。また，よく組織され効果的に運営されるホームティーチングほど，ステーキ部長，監督，定員会会長に与えられている管理上の責任を軽減してくれる教会のプログラムはないのである。

第3に，ホームティーチャーの準備が必要である。マシュー・F・カウリー長老は，1902年4月の総大会で次のように述べている。「聖徒たちの家庭を訪問する教師たちは，神から啓示のみたまを授かる必要がある。福音の原則を研究し，教える時に聖霊の導きを受けられるような生活をしていなければならない。そうすれば，彼らが教えることを子供たちはよく理解し，関心を示すであろう。訪問のたびに決まりきった質問をし，ただ毎日1回の

訪問をこなせばよいという気持ちであってはならない。神から授けられた啓示のみたまにより霊感を受けたホームティーチャーとなってはじめて，家族の人々の心に触れることができるのである。」（*Conference Report*「大会報告」1902年4月，p. 38）

私たちがホームティーチングの責任を適切に優先するならば，訪問をする時の私たちの備えは入念で完全なものであり，しかも両親とその家族の必要に見合ったものでなければならない。私たちはホームティーチャーとして，最も神聖なこの義務を果たす時に主からの霊感と導きをもっと熱心に求める必要があるのではないだろうか。

神の祝福があって，私たちがホームティーチングの責任に対して大きなビジョンを持てるように，また私たちが愛と関心をもって仕えるように召された人々を守護し強めることにより，主のみこころを行なう望みを抱くことができるように，心からへりくだりイエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

大管長
スペンサー・W・キンボール

キリストにあって永遠の望みを抱く

全能の主キリストの御名によるほかには世の人に救いを与えることのできる名も道も方法も一切ない

愛する兄弟姉妹の皆様，私たちがこの大会に集ったのは，みたまにより清められ，高められて主に仕える決意を新たにし，また私たちの心に真の礼拝の精神があることを確認するためである。

期待通りの素晴しい大会であった。主はみたまの力を注いで私たちと共にいて下さり，私たちはこの大会に参加して良かったと感じている。

皆様が，これまで述べられてきた教えを信じ，教会幹部の兄弟たちの勧告に従い，そしてこの大会で私たちの心を高めてくれた同じみたまをもって今より一層前進されることを望んでいる。

最後に，証と感謝の気持ちをもって大会の閉会に臨みたいと思う。

私たちが今携わっているみ業は，私たちが現在所有しているすべての物を与えて下さった御方のみ業である。

私たちの愛する兄弟であるパウロは，「キリストが，……わたしたちの罪のために死んだこと，そして葬られたこと，聖書に書いてあるとおり，三日目によみがえったこと」を認めた上で，次のように述べている。

「もしわたしたちが，この世の生活でキリストにあって単なる望みをいだいているだけだとすれば，わたしたちは，すべての人の中で最もあわれむべき存在となる。」（Ｉコリント15：3－4，19）

それからパウロは，キリストが死人の中からよみがえったように，キリストにあってすべての人が墓から復活すること，そして各自は各々の行ないに従って裁きを受け，それぞれに備えられた場所に行くことを教え，かつ証している。

人の復活の状態について，パウロは次のように記している。「日の光栄に属するからだもあれば，月の光栄に属するからだもあり，星の光栄に属するからだもある。また，日の光栄と月の光栄と星の光栄との間に，栄光の差がある。」（Ｉコリント15：40，霊感訳より和訳）

さて，啓示を通して与えられたこの宗教の体系こそ，きわめて実践的な宗教であると言える。この宗教は，羊の群れと羊飼い，所有物の価値について教え，また，私たちが共存してゆくためにはどうすればよいかについても教えてくれる。さらに，わびしく単調なこの世の生活を楽しく陽気なものに変えるひと

つの生き方を教えてくれる宗教でもある。

しかし，それだけではない。イエス・キリストの福音は，人に救いを得させる永遠の計画である。永遠の父なる神が，信じて従うすべての人を救うために考え，公表された計画だからである。

私たちは永遠の存在である。神の霊の子供として神のみ前にどれだけの期間住んでいたかは分からない。しかし私たちは一時の間，試しを受けるために死すべきこの世に来ている。それから私たちは復活し，それぞれの働きに応じて与えられる王国を受け継ぎ，戒めを守って永遠に生きるのである。

この世の生活は，昨日，きょう，そして明日という束の間の時間の積み重ねである。いくら長生きしても，100年以上生きることはまれである。しかし，生命は永遠であり，終わりがない。人は墓からよみがえった後，二度と死ぬことはない。生命は永遠であり，終わりがないのである。すなわち，天父の子らは復活した後決して死を味わうことはないのである。

私たちは今この場でキリストにあって望みを抱いている。主なるキリストは私たちの罪のためにご自分の命を捨てて下さった。その主の贖いと福音により，私たちの罪はバプテスマの水で洗い流され，あたかも火で焼かれるように私たちの体から焼き尽くされる。そして私たちは清い者となり，明らかな良心を抱いて，人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安を得るのである。（ピリピ4：7参照）

私たちはキリストの福音の律法に従って生活する時に，この世の富を得，また心身の健康を維持することができる。今でも私たちは十分福音の恵みを享受している。

しかしながら，永遠という時をサハラ砂漠にたとえてみるならば，きょうという日はその一粒の砂にすぎない。私たちはキリストにあって永遠の行く末に望みを抱いている。もしそうでないとすれば，パウロが言っているように，私たちは「すべての人の中で最もあわれむべき存在」（Iコリント15：19）であろう。

もしも復活がなければ，私たちの悲しみはいかばかりであろうか。また，永遠の生命に対する望みがないとすれば，どんなに悲しいことであろう。救いと永遠の報いに対して私たちが抱いている望みが消え去るならば，私たちは過去にそのような希望を持たなかった人々よりもはるかにみじめな思いをするはずである。

「しかし事実，キリストは眠っている者の初穂として，死人の中からよみがえったのである。」（Iコリント15：20）

そこで，キリストの復活の力はすべての人に及び，「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように，キリストにあってすべての人が生かされるのである。」（Iコリント15：22）

つまり，「わたしたちは，土に属している形をとっているのと同様に，また天に属している形をとるであろう。」（Iコリント15：49）

その条件は次の通りである。「この朽ちるものが朽ちないものを着，この死ぬ者が死なないものを着るとき，聖書に書いてある言葉が成就するのである。『死は勝利にのまれてしまった。』」（Iコリント15：54）

それからすべての人は，大いなるエホバの法廷に立ち，現世での行ないに応じてそれぞれ裁きを受けるのである。

そして，この世の習わしに従って生活した人々は，その栄光が星に似た星の光栄の王国に行く。

また，正しく高潔で，善良な生活を送った人々は，その栄光が月に似た月の光栄の王国に属する。

一方，キリストを信じ，世のものを捨てて聖きみたまの導きに従い，その全財産を聖壇の前に進んで捧げた人々，すなわち神の戒めを守った人々は，日の光栄の王国を受け継ぐ。その栄光は太陽にたとえることができる。

「死よ，おまえの勝利は，どこにあるのか。死よ，お前のとげは，どこにあるのか。」（Ⅰコリント15：55）パウロはこう尋ねているが，墓に勝利はない。生が死に取って代わったからである。不死不滅は，神の御子の贖罪を通して全人類に与えられた無条件の賜である。

しかし，パウロは「死のとげは罪である」と述べている。これは，もし罪があるまま死ぬようなことがあれば，その人は定められた罰を受け，先に述べた低い光栄に属するという意味である。（Ⅰコリント15：56参照）

古代の使徒パウロは続けてこう言っている。「しかし感謝すべきことには，神はわたしたちの主イエス・キリストによって，わたしたちに勝利を賜わったのである。」（Ⅰコリント15：57）

もし私たちは正しく忠実であるならば，私たちは復活して不死不滅の体のみならず永遠の生命をも受けるであろう。不死不滅とは指定された王国で永遠に生き長らえることである。一方永遠の生命は，最も高き天界において昇栄を得，家族として生活することを言う。

そこでパウロは聖徒たちに次のような訓戒を与えている。「だから，愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず，いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては，あなたがたの労苦がむだになることはないと，あなたがたは知っているからである。

目をさましていなさい。信仰に立ちなさい。男らしく，強くあってほしい。」（Ⅰコリント15：58；16：13）

私たちはキリストにあって永遠の望みを抱いている。この世の生活は永遠の将来に備えるために与えられたものである。「また，この世にてわれらの中にある交りの天にもあることを知らん。ただわれらの今この世にて享けざる永遠の光栄それと結合せるを見るべし。」（教義と聖約130：2）

私たちはこのことを信じている。これは私たちの証であり，私たちは世の人々に対して，「全能の主キリストの御名によるほかには世の人に救いを与えることのできる名も道も方法も一切ない」（モーサヤ3：17）ことを宣言するものである。

私たちはまた，人が救いを受けるためには「過去現在未来を通じて，救いは身代りの贖罪をなしたもう全能の主なるキリストの血に由って与えられる」（モーサヤ3：18）ことを信じなければならないと，知っている。これは私たちの証であり，同様に世の人々に宣言する教えでもある。

ニーファイはこう話している。「私たちが力をつくして書き記すのは，自分たちの子孫と兄弟たちを説得してキリストを信じさせ，神との一致を得させるためであり，それは人が最善をつくしてはじめて，神のめぐみにより救われることを知っているからである。

私たちはキリストのことを話し，キリストのことを喜び，キリストのことを説教し，キリストのことを予言し，また私たちの子孫にどこに罪の赦しを求めるかを知らせるために自分たちが予言したことも書くのである。」（Ⅱニーファイ25：23，26）

私たちはまた，ニーファイと同様に，永遠の望みを得るためには何が必要かを知っている。ニーファイはこう述べている。「正しい道とはキリストを拒まずにこれを信ずることを言うのである。キリストはイスラエルの聖者である。それであるから，あなたたちはキリストの御前にひざまずいて勢いと心と力とをつくし，全身全霊をこめてキリストを拝さなくてはならない。そうすれば決してあなたたちは追い出されない。」（Ⅱニーファイ25：29）

私たちは，愛する主についてパウロが述べた次の言葉を喜ばしく思う。「わたしたちは，この御子によってあがない，すなわち，罪のゆるしを受けているのである。

御子は，見えない神のかたちであって，すべての造られたものに先だって生れたかたである。

万物は，天にあるものも地にあるものも，見えるものも見えないものも，位も主権も，

支配も権威も，みな御子にあって造られたからである。これらいっさいのものは，御子によって造られ，御子のために造られたのである。

彼は万物よりも先にあり，万物は彼にあって成り立っている。

そして自らは，そのからだなる教会のかしらである。彼は初めの者であり，死人の中から最初に生れたかたである。それは，ご自身がすべてのことにおいて第一のものとなるためである。

神は，御旨によって，御子のうちにすべての満ちみちた徳を宿らせ」（コロサイ1：14—19）たもうたのである。

再び，パウロの言葉を引用して申し上げる。「それゆえに，神は彼を高く引き上げ，すべての名にまさる名を彼に賜わった。

それは，イエスの御名によって，天上のもの，地上のもの，地下のものなど，あらゆるものがひざをかがめ，

また，あらゆる舌が，『イエス・キリストは主である』と告白して，栄光を父なる神に帰するためである。

わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから，あなたがたがいつも従順であったように，わたしが一緒にいる時だけでなく，いない今は，いっそう従順でいて，恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。」（ピリピ2：9—12）

私はペテロの次のうるわしい証を読み，いつも心に新たな活力を得てきた。

「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき，弟子たちに尋ねて言われた，『人々は人の子をだれと言っているか』。

彼らは言った，『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし，ほかの人たちは，エリヤだと言い，また，エレミヤあるいは預言者のひとりだ，と言っている者もあります』。

そこでイエスは彼らに言われた，『それでは，あなたがたはわたしをだれと言うか』。

シモン・ペテロが答えて言った，『あなたこそ，生ける神の子キリストです』。

すると，イエスは彼にむかって言われた，『バルヨナ・シモン，あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは，血肉ではなく，天にいますわたしの父である。

そこで，わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして，わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。」（マタイ16：13—18）

これら古代の偉大な使徒たち，同じ主なるキリストのみ業に携わった兄弟たちの証に加えて，私自身の証も述べさせていただきたい。私は，イエス・キリストが生ける神の御子であり，世の人々の罪のために十字架におかかりになったことを知っている。

イエス・キリストは私の友であり，私の救い主，私の主，そして私の神である。

私は，聖徒の皆様が主の戒めを守ることができるように，そして主のみたまを受け，日の光栄の王国において主と共に永遠の受け継ぎにあずかることができるようにと心から願っている。

愛する兄弟姉妹の皆様，2日間にわたって開かれたこの栄えある大会を閉じるにあたって，私の胸は皆様への愛と感謝で一杯である。私はどこに行ってもあふれるばかりの愛と親切にあずかり，心から感謝している。皆様が私に示して下さる愛と親切は，私の霊のマナとなっている。皆様の祈りと愛が私を支えて下さっているのである。主は，皆様の祈りを聞き届け，私や他の教会幹部の兄弟たちの健康を祝福し，地上における神の王国の諸事を管理できるようにして下さっている。私たちはこのことに深く感謝している。

このような皆様の深い愛に対して，私も心からの愛と感謝を申し述べたいと思う。それぞれのワード部，ステーキ部，伝道部，さらには家庭にお帰りになった後も，天父が皆様と皆様の家族を祝福して下さるように祈っている。この大会のメッセージならびに精神を，

家庭や職場，集会，日常生活におけるこれからのすべての行ないに反映させるようにしていただきたい。これまで以上に立派な末日聖徒になろうではないか。主が皆様方を祝福したもうように。また，主の僕として，皆様の上に祝福があらんことを祈り，心からお別れの言葉を述べるものである。

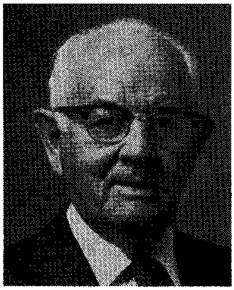
イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

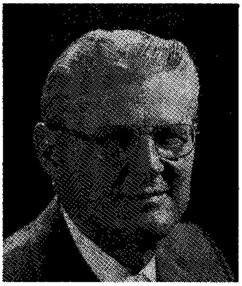
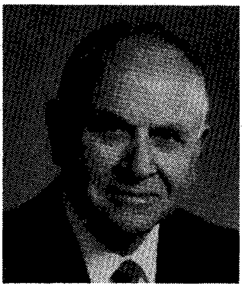
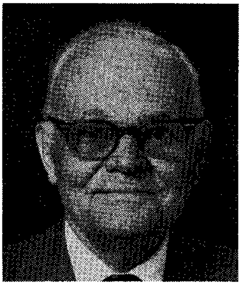
タバナクルの開場を待つ聖徒たち

1978年9月30日(土)

福祉部会における説教

末日聖徒イエス・キリスト教会第148回半期総大会報告



スペンサー・W・キンボール大管長

J・リチャード・クラーク第二副監督

ビクター・L・ブラウン監督

デビッド・B・ヘイト長老

バーバラ・B・スミス姉妹

H・バーク・ピーターソン第一副監督

マリオン・G・ロムニー第二副管長

大管長
スペンサー・W・キンボール

福祉活動の労働のもたらす祝福

「主が指示し，警告しておられるように自分の責任と義務を十分に果たしているだろうか」との，大管長の問いかけ

愛する兄弟姉妹の皆様，この収穫の季節に，皆様にお会いできることを心から感謝している。同時に，皆様が主の勧告に従って福祉活動の面においても各自の家をよく整えるように切望している。

ここで私のいう家とは，それぞれ自分たちの家庭，それに管理を託されているワード部や支部，ステーキ部，伝道部を指している。

はたして，私たちは主が指示し，警告しておられるように自分の責任と義務を十分に果たしているだろうか。

私たちの家を秩序あるものとするためには，福祉の基本原則とプログラムをよく組織立て，首尾一貫したものを時機を失することなく適用させてゆかなければならない。

福祉活動は主が私たちに与えて下さった完全なプログラムである。備えのある生活，個人と家族の備え，ホームティーチングと家庭訪問，物品の生産と貧しい人への供給問題や障害を持つ教会員の社会復帰，就職の斡旋，情緒的に不安定な人々を教会および社会の活動に参加させることなど，私たちはこの地上に神の王国を築くために最善を尽くしている。

私たちは福祉活動の家を打ち建てるためにこれまで42年間も備えてきた。長い歳月であったが，まだ行なうべきことは沢山残されている。世界各地の多くのステーキ部やワード部は，まだ福祉活動に着手したばかりである。私たちは地方の指導者に一言申し上げたい。

「物事を秩序正しく行なうならば，主は皆さんを祝福して下さるであろう。」また，福祉活動が順調に進んでいるステーキ部もある。しかし，皆さんのステーキ部がそのいずれであろうと，すなわちやっと福祉活動が始まったステーキ部であろうと，すでに完全に軌道に乗っているステーキ部であろうと，現在ほど，福祉活動の労働のもたらす祝福について述べるに適した時機はないと思う。

この「福祉活動の労働のもたらす祝福」についてよく理解できるように，3つの段階に分けてお話したいと思う。これらはみな相互に関連がある。まず第1に個人の得る祝福，第2に家族の得る祝福，そして第3に教会全体の得る祝福である。

個人の得る祝福

個人の得る祝福としては，尊敬，自尊，強い証，無私の心，そして個人の霊性が高められることなどがある。J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は，1936年10月2日，この同じタバナクルで開かれたステーキ部長のための特別集会で，福祉計画によってもたらされる祝福について次のように述べている。

「当初から福祉計画の長期的な目標は教会員，すなわち与える者と受ける者双方の人格形成にあった。教会員の心の奥底にある繊細さを回復し，潜在的な霊性に花を咲かせ，実らせることである。これが教会の使命であり，目的であり，この教会の存在する理由である。」

福祉活動のもたらす第一の祝福は，個人の生活の中に見られる。そして，その祝福を得た者のみが家族に，次いで教会全体に祝福をもたらすことができるのである。ちょうど個人の証によって教会が強められるように，会員一人一人の働きによって福祉活動の結束した力が生まれるのである。

皆さんは，「これらの祝福を受けるにはどうしたらよいだろうか。その実を刈り取るためにどのような種をまくことが必要だろうか」と問うかもしれない。私は，それが福祉活動の基本原則を日々の生活の中に取り入れるこ

とであると思う。すなわち愛，奉仕，労働，自立，奉献，管理の6つである。これらの原則を生かす機会は福祉活動だけでなく，教会すべてのプログラムにある。

これまで福祉活動は福音の実践であると繰り返し述べられてきた。これは取りも直さず，私たちが福祉活動のもたらす祝福を得るためには，これら6つの原則とそれに関連した福音の教えを知るだけでなく，実践し，行ない，教えられたことを行動に移す必要があることを示している。

しかし，種をまかずに実を刈り取ろうとする人をよく見掛ける。私たちは信仰をもって種をまいてこそ，奇跡の花を目にすることができるのである。しかし，人はよくそれを取り違え，逆に考えてしまう。彼らは種をまく前に収穫を得ようとする。

モルモン経のヤコブ書第5章に記されている樹木園のたとえ話は，このことについて偉大な教訓を与えていると思う。樹木園の主人はかんらんの木から「多くの実」を得ようと思い，長い間一生懸命働いた。しかし，ほとんど収穫が得られなかった。そこで樹木園の主人は落胆して次のように言った。

「『しかし，私がこれまでしてきたこと以上に，まだ樹木園でやってやれたことがあるだろうか。私がなまけて養いを与えなかったことがあるだろうか。いやいや，私は養いを与えたり，枝の刈り込みをしたり，根元を掘って肥を与えたりしたばかりか，いつもほとんど1日中手をつくしたが終りの時がもう近づいた。私が今樹木園の木をみな切り倒して火に投げこんで燃やすほかに仕方がないのはまことに惜しいことである。私の樹木園をこのようにだめにならせたのはいったい誰であるか』と。

すると僕はその主人に答えて，それはあなたの樹木園の木が高くそびえているからではないか。だから，枝が良い根を負かしているからではないか。枝が根に勝っているので，それが根の力以上の成長をして根から勢力をとりすぎるのである。これがあなたの樹木園の木がだめになる原因ではないかと言った。」（ヤコブ書5：47—48）

私たちの中にも，これと同じ問題を抱えている人がいると思う。彼らは木を生長させる根に養分を与えずに，豊かな実り，すなわち霊的にも物質的にも大きな収穫を得たいと願っている。自己を磨き，努力し，代価を払って丈夫な根を育てようとしないのである。訓練は，青少年の頃から始めなければならない。私は少年の頃，毎日庭の手入れをしたり，家畜にえさをやったり，水をくみに行ったり，薪を割ったり，垣根を修理したりした。このような農場での仕事が，丈夫な根を張るのに効果があることを知ったのは，将来枝を伸ばす時期を迎えてからのことである。

私は両親が根と枝の関係を理解していたことに深く感謝している。私たちが根を深く張り，福祉活動の労働によって自分たちの望む実を収穫することができるように願っている。

家族の得る祝福

家族も，福祉活動の労働から多くの祝福を得ることができる。平安，愛，調和，一致，満足感などがその祝福である。

真の末日聖徒の家庭は，人生の嵐や苦しみから身を守る避け所である。

家庭は文明の発祥地であり，社会の基であるという賢人の教えがある。しかし，主は予言者を通じてそれに勝る多くのことを教えておられる。私たちは昇栄した家族がやがて神の族長制度に入り，王国の力となり，忠実な者のために備えられた栄光を永遠に受けることを知っている。

家族が平安と愛と調和の実りを得るためには，家庭にどのような種をまくことが必要であろうか。福祉活動の観点から言えば，個人の備えの標準に要約できるはずである。これらの標準については，すでに全世界の教会員が知っている。すべての教会員は，それらの標準を学び，実行していただきたい。

私は毎日，教会員からの沢山の手紙をいただく。その多くは，個人的な問題に対して助言を求める手紙である。そこで私はこれらの問題を検討した後，ほとんどを地元の指導者に送り返している。彼らが十分な解決を与えられるからである。その時いつも考えることは，私たちが皆それぞれに何らかの個人と家族の問題を抱えているということである。障害や心を悩ますような事柄に出会うこともあれば，成功や失敗を繰り返すこともある。それらの事柄から，私たちはこの世で成長し，力を得て，経験を積んで行くのである。しかし非常に大きな問題が生じている場合は，みたまを通して与えられる主の勧告か，または指導者の勧告に従わなかったと見なされることもある。個人と家族の備えの原則を日常の生活の中で実践するようにしていただきたい。「もし汝らに備えあらば怖るることなからん。」（教義と聖約38：30）

教会の得る祝福

私たちが教義や訓戒に従い，福祉活動のプログラムを実施する時，私たちの労働によってシオンの確立という祝福が得られる。

主は次のように宣言しておられる。「シオンはその美と聖とを増し，その境域は拡がりそのステーキ部は堅うせられざるべからず。われ誠に汝らに告ぐ，シオンは起ちてその美しき衣を着けざるべからずと。」（教義と聖約82：14）

シオンは心の清い者たち，つまり聖められ，子羊の血によってその衣を白く洗われた者たちが住む所である。（アルマ13：11参照）彼らは慈愛の衣を身にまとい，清い心で人々に奉仕する者たちである。

私たちは世界各地にシオンの力となるステーキ部を打ち建てている。したがって私たちは聖徒たちに，自国にとどまって神の選民を集め，主の道を彼らに教えるように勧告する。神殿が各地に建設されつつあり，聖徒たちは世界中どこにいても自分たちの住む所でその祝福にあずかることができるようになる。

主は人々が主の再臨の時に主にまみえることができるように，新しくかつ永遠の誓約を啓示された。シオンを築くために私たちが守らなければならない原則と教えの中でも，一番大切な事柄が福祉活動の中に示されている。聖典にはこう記されている。「日の栄の王国の律法の要求する和合一致に従いて一致協力せず。およそ日の栄の王国の律法の諸原則によらずんば，シオンを建つること能わず。これによりて建てずば，シオンをわれに受け入るることかなわざるなり。」（教義と聖約105：4－5）

モーセの著に記録されているエノクに与えられた示現でも明らかなように，福祉活動のもたらす祝福を得るためには，身と心を捧げ，力を尽くして働くことである。これが私たちに課せられた責任である。そして私たちは現在その機会に浴している。

「われ天より正義を地に下さん。われ地より真理を出（いだ）してわが生みたる独子の証となし死人の中より彼の復活せる証となし，誠にまたすべての人々の復活の証となすべし。われまた正義と真理とをして洪水の如く地をあらい去り地の四極よりわが選民を集めて，わが備うべき地聖なる都に至らしめん。こは，わが民をして腰に帯しわが来る時を待ち望ましめんためなり。わが幕屋はその地にあるべし。而して，そはシオン，すなわち新エルサレムと呼ばれん。」（モーセ7：62）

私たちが個人として，あるいは家族として，教会として自分の家をよく整え，福音のもたらす祝福，まさに完き喜びを刈り取ることができるように備えていただきたい。

ここで，バーバラ・スミス姉妹をご紹介したい。スミス姉妹に教会の小麦貯蔵について大管長会が承認した事柄の経緯について説明していただきたいと思う。

バーバラ・B・スミス姉妹：

キンボール大管長，どうもありがとうござ

います。1876年，ある秋の日，ブリガム・ヤング大管長は，私と同じ扶助協会の会長で，当時「ウーマンズ・エクスポーネント」誌の副編集長をしていたエメリン・R・ウエルズ姉妹を執務室に呼びました。そして，シオンの女性たちは危急の時に備えて小麦の貯蔵を開始して欲しい，またそのために彼女に姉妹たちを指導して欲しいと言いました。

ウエルズ姉妹はこう述べています。「私たちは早速その年に小麦の貯蔵を開始しました。人から笑われましたが，それでも小麦を買って蓄えました。」（*Relief Society Magazine*「扶助協会誌」1915年2月号，p.48）「姉妹の皆さん，どうか真剣に取り組んで下さい」とウエルズ姉妹は呼びかけました。姉妹たちは皆，それに快く応じ，小麦の貯蔵に取り組みました。（*Woman's Exponent*「ウーマンズ・エクスポーネント」1876年10月15日号，p.76）

小麦を買うお金がない時は，畑に出て落穂拾いをしました。彼女たちは日曜日に食べる分の卵を食べず小麦と交換したり，それを売って小麦を買ったりしました。また掛け布団や敷物，チーズなどを作って売ってはそれで小麦を購入したのでした。

扶助協会の記録を見れば，姉妹たちがどれほど熱心に努力してきたかがよく分かります。

シダーシティーからは次のように報告されています。「愛する監督は私たちに什分の一管理事務所の一室を貸して下さいました。そこで私たちは160ブッシェル（5,638リットル）の小麦を貯蔵しました。そのほか必要であればすぐにでも小麦に替えられる資産もあります。」（同上，1877年2月15日号，p.138）

ボックスエルダー郡のマンチュアからは次のような便りが届いています。「私たちは，愛するブリガム・ヤング大管長が勧告して下さった小麦の貯蔵をできるだけ実行するようにしてきました。これまで115ブッシェル(4,053リットル）の小麦を蓄えました。その中の13ブッシェル（458リットル）は若い姉妹たちが落穂拾いをして集めたものです。」（同上，1878年2月号，p.130）

これら初期の献身的な女性たちが蓄えた小麦は，思いもよらないところで役立ってきました。

1898年には，この扶助協会の小麦は，かんばつの被害に苦しむユタ州のパロワンやその他の地域に援助物資として送られました。

1906年には，地震と火災で荒廃したサンフランシスコ市に，貨車1両分の小麦粉が送られました。

同じ年，飢きんで苦しんでいる人々を救うために，中国にも同量の小麦粉が送られました。

1918年には，第一次世界大戦後の食糧難を救うため・合衆国政府に20万ブッシェル（705万リットル）の小麦をすべて売却しました。

このようにして得た利益はすべて妊産婦の医療費，児童福祉，あるいは教会員の健康管理の費用に当てられました。

1940年，扶助協会は再び小麦を購入し，ウエルフェア・スクウェアの穀物貯蔵庫に貯蔵しました。

小麦貯蔵計画が神より託された計画であると自覚するようになってから，すでに100年以上たっています。この賢明な投資によって，このプログラムの価値は高まりました。そして，今日までの小麦の貯蔵量と資産額はかなりの数字になっています。

当時の扶助協会の発行誌に，ある姉妹の小麦の貯蔵に関する次のような記事が載っています。

「疑いを抱く人には，……自分を見詰させ，大勢の子供たちを見せ，彼らの母親には今小麦を貯蔵するようにという勧告が与えられていることを認識させましょう。

純真な子供たちにパンを食べたいとせがまれても与えることができない，そのようなことがあってよいのでしょうか。」（同上，1876年11月1日号，p.81）

御存じのように，私たちには女性として子供たちに栄養価の高い食物を与えるだけでな

く，母親として彼らに生命と救いの偉大な計画を教える責任が課せられています。これまで扶助協会の女性は必要を満たすために，教育と職業訓練プログラム，病院，妊産婦の世話，養子縁組，その他の社会奉仕および福祉計画を含め，数々のプログラムに率先して取り組んできました。そして，これらの計画の規模が大きくなった時に，扶助協会はそれを教会の管理下に移行してきました。

扶助協会中央会長会は，小麦の管理について祈りの気持ちをもって検討した結果，扶助協会の責任はすでに果たし終えたという判断を下しました。扶助協会の小麦を全教会穀物貯蔵計画に移す時がきたのです。

扶助協会の266,291ブッシェル(9,384,095リットル）の小麦を，教会のすべての会員のために，福祉活動の穀類貯蔵計画に加えたいと思います。この提案には扶助協会中央管理会が一致して賛成しています。また，1957年7月1日付の小麦保有証明書を持っているステーキ部と伝道部にもこの件に関する文書を送付し，彼らの全面的な支持を得ました。

キンボール大管長から許可をいただいて，この集会に出席しておられる姉妹たちにこの件に関する支持をいただきたいと思います。全教会穀物貯蔵計画に扶助協会の小麦を移すという私たちの決議を支持して下さる姉妹は，その意を表わして下さい。ありがとうございます。

キンボール大管長，私たちはシオンの女性として，過去の功績を大変誇りに思い，私たちの小麦と小麦に関係する資産を大管長に譲渡致します。教会中央福祉活動委員会を通して大管長の管理下にこれをお使い下さるように心から望んでいます。

私たちは扶助協会の小麦計画が引き続き神より託された計画であると見なされるように祈っています。この小麦の支給を受けるすべての人々の生活が祝福されますように。イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。

キンボール大管長：

スミス姉妹，教会の兄弟およびすべての教会員のために扶助協会から贈られたこの素晴らしい贈り物を心から感謝すると共に，その意義を心に留めてお受け致します。私たちは1世紀以上にわたりこの神聖な小麦計画の責任を信仰を持って果たしてこられた扶助協会の姉妹たちの多大の犠牲と熱意を強く感じます。大管長会，十二使徒評議員会，管理監督会，扶助協会中央会長会で構成される中央福祉活動委員会の指示の下に，福祉事業部が過去に扶助協会が素晴らしい成果をもたらしたその方法で，小麦の保存管理を続行することを，確信をもってお約束致します。今後この扶助協会の贈り物は，全世界の教会員の生活に祝福をもたらすために適宜利用されることでしょう。

私たちは過去および今日の姉妹たちの功績を誇りに思っています。これからも続けて皆様の責任を立派に果たし，教会のプログラムを，特に扶助協会のプログラムを支持していただきたいと思います。

また，姉妹たちと兄弟たちは互いに助け合っていただきたいと思います。互いにパートナーとして，また同僚として，主のみ業の発展と自分自身の救いのために協力して下さい。扶助協会からいただいたこの贈り物を，教会および家庭において私たちの人生を豊かにする相互努力と調和の象徴にしたいと思います。

この偉大で神聖な福祉活動に携わる私たちに主の祝福があるように，イエス・キリストのみ名により心からお祈りします。アーメン。

☆　　☆

扶助協会中央管理会会長
バーバラ・B・スミス

健康―喜びのある生活をもたらす鍵

肉体の健康を維持するための目標―定期的な運動，適切な休養，栄養のバランスのとれた食事

ロバート・ブラウニングの詩に，「神，天にましします。世のことすべては善し」という一節があります。この詩は，私たちの肉体がその機能を完全に果たす時に，一層意味の深いものとなります。そして私たちは皆，その祝福を心から望んでいます。

私たちの健康状態は，個人の精神状態や仕事に対する姿勢，社会生活，さらに主に仕えることなど，生活のあらゆる面に影響を及ぼします。

肉体的な病気はこの世の生活と切っても切り離せないものですが，聖典には「人類が現世に在るのは幸福を得んためである」（IIニーファイ2：25）と記されています。主は私たちに，健康に関する教えを啓示し，このみ言葉が確かであることを立証されました。私たちが主の指示に従う時に長生きして，喜びのある人生を送ることができるように，数々の教えを与えて下さっています。

健康に関する聖句として最もよく知られているものに，教義と聖約の第89章があります。その中で主は，私たちが摂取すべきものと，私たちにとって良くないものの両方について詳しく述べておられます。

研究の結果，茶，コーヒー，タバコ，それにアルコール性飲料が有害であることが科学的に証明され，さらに胎児の発育にも悪影響を及ぼすことが明らかにされました。

私たちは予言者だけでなく科学者からも，「店頭で売られている薬」を含む薬物を不適切に服用したり，乱用したりすると危険であるとの警告を受けてきました。これらの薬物が役立つのは，病状に応じて服用する時だけです。しかも，薬の中には色々な成分が含まれているので，過度に服用したり，他の薬と一緒に飲んだりすると，中毒症状を起こしたり習慣性になるなど，危険を招くことさえあります。

「知恵の言葉」の中には，「人間の……利用のために……定め」（教義と聖約89：10）られた体に良い食物が具体的に数々挙げられています。

扶助協会では小クラスを設けて，体に良い食物の調理法や，食欲をそそるような盛りつけ法を教えることができます。

私のある友達は，夕食に特製の野菜料理を出したところ，若い客から，「私，ほうれん草は嫌いだと思っていましたが，あのほうれん草のクリーム煮はとてもおいしかったわ」と言われたそうです。彼女も私たちと同じように，菜園を造るようにというキンボール大管長の勧告に心から従い，現在も野菜を栽培しています。そして素晴らしい料理技術を生かし，収穫した野菜を使って食卓をにぎわしています。どの客人も，おいしい上に体に良いその食物に大変感謝して，テーブルを立つということです。

主は，私たちがこれらの戒めを守るならば，「走れども疲れず，歩けども気を失うことなからん」（教義と聖約89：20）と約束しておられます。

また，主は私たちに健康にかかわるもうひとつの律法を挙げておられます。それは，適切な運動が必要であるということです。散歩やランニング，その他のリズミカルな活動は，循環器を丈夫にするのに効果があります。

私たちは生活に追われ，時間も機会もないからと言って，適切な運動を怠り勝ちです。私の知人のある女性は大変多忙な毎日を送っています。けれども，自己改善のテープを聞きながら，あるいは聖句を暗記しながらでも

運動をします。彼女のようにすることができないほど忙しい人は，まずいないと思います。

私たちはまた，夜は早く寝て疲れをとり，朝は早起きをして肉体と精神を活気づけるように勧告されています。（教義と聖約88：124参照）。

「不潔なるを止めよ」（教義と聖約88：124）とも戒められています。この聖句は私たちの肉体だけでなく，家の中や隣近所にも適用しなければならないことです。例えば，食事の支度をする時には手を洗い，台所や食卓をきれいにしてから始めます。

教義と聖約の第59章で主は，地上の食物は「適量にこれを用いて貪らず」（59：20）と戒めておられます。保健の専門家によると，肥満は健康上大きな問題となっているということです。太り過ぎると，病気にかかりやすくなるだけでなく，肉体的にも心理的にも負担がかかります。

科学の進歩や医療技術の向上に伴い，寿命が伸び，健康と活力が養われ，乳幼児の死亡率が低下したことに，私たちは感謝しなければなりません。歴史を振り返ってみる時，病気の子供を助けようとする両親の大きな愛にまつわる話が数々あります。

今日，病気に対する免疫があるということは，大きな祝福であるといえます。非常に危険な病気でさえ，今や完全と言ってよいほど，予防接種で発病を抑えることができます。

家庭看護コース，応急手当て，その他の家庭健康法は扶助協会でも学ぶことができます。

医療費の高い今日，女性は医療健康保険の価値を理解することが必要です。これは，健康の面からも，財政管理の面からも大切なことです。

最後に，肉体の健康を維持するための目標を幾つか挙げて終わりたいと思います。

1．知恵の言葉を守る。
2．定期的な運動，適切な休養，栄養のバランスのとれた食事に気を配り，体重の調整を図り，持久力を養う。
3．個人と家族の衛生を改善する，あるいは維持する。
4．健康を維持するために，予防処置を講じる。
5．家庭健康法を学び実践する。

私たちの日常生活にこれらの原則を喜びをもって取り入れることができるように，イエス・キリストのみ名によりお祈り申し上げます。アーメン。

管理監督
ビクター・L・ブラウン

メキシコ，ベルメヒロ支部の素晴らしい模範

4年という短期間のうちに，彼らはシオンの理想を打ち立てる途上にある

兄弟姉妹の皆さん，今朝，私は教会の指導者と会員が福祉活動の基本原則を各自の生活に取り入れる時にどのような素晴らしいことが起こるかをお話したいと思う。これからお話することは，メキシコのトレオン近郊にあるベルメヒロという村の教会で実際に起こったことである。

では，砂ぼこりの立つ道とアドービれんが造りの家々が目につく，北部中央メキシコの典型的な村，ベルメヒロに話を移そう。

この村に教会の小さな支部が組織されたのは，8年前のことである。当時，教会の集会はこの借家〔スライド映写〕の一室で開かれていた。会員はこの借家を「祈りの家」と呼んでいる。

支部のほとんどの男性は，政府から委託された野良仕事に従事している。彼らの生産物はおもに綿，とうもろこし，それに豆である。収穫物は小さな協同組合を通して出荷し，一

日に約3ドルから5ドルの報酬を得る。これは生活必需品を賄うのにも足りない賃金である。

この小さな支部を支えているのは，カスタネイダ家族である。カスタネイダ家の母親と6人の息子とひとりの娘は，8年前にベルメヒロ村で初めて福音が宣べ伝えられた時にこれを受け入れ，バプテスマを受けた。息子たちは結婚をして，伴侶を改宗した。現在この家族は，アリゾナ神殿で結び固めの儀式を受ける計画を立てている。

ユリアン・カスタネイダは過去5年間，支部長を務め，この支部の物心両面における諸事に対して指示を与えてきた。

1975年以来，福祉活動宣教師が毎週定期的にベルメヒロを訪れてくるようになった。彼らは今も指導者や会員に衛生学と栄養学を教え，また支部長の助け手として福祉活動に関連のある業務に従事している。

福祉活動宣教師が派遣されるようになってから，カスタネイダ支部長は福祉活動委員会を頻繁に開いてきた。そして，個人と家族の備えの各分野について会員を援助する計画を立て，実施してきた。

福祉活動宣教師として働いていた夫婦に，家庭菜園を始める会員を援助するように依頼した。カスタネイダ支部長は，種を購入して会員たちに配り，自ら率先して菜園造りに励んだ。その結果，ほとんどの会員が彼の模範に倣った。

やがて菜園を本格的に行なうには，豚が逃げ出さないように対策を講じなければならないことに気付いた。鶏舎も造る必要があった。それは，鶏が種や新芽を食べてしまうからである。

菜園だけでなく，貯蔵の計画も立てた。会員は果物や野菜の乾燥法を学び，小規模ではあるがかん詰めを製造した。ジャムとジェリーも地元に適した方法で作った。また，自分の畑で取れた穀物も貯蔵した。彼らは貯蔵穀物を害虫やねずみから守る方法も研究しなければならなかった。山から運んで貯えた木材は，料理に使うだけでなく，食器を洗ったり家を掃除する際のお湯を沸かす燃料として使った。

公衆衛生が強調されると，会員は各自の家に隣接してトイレを造り始めた。この計画が実施されるまでは，ベルメヒロの会員の家にはトイレがなかったのである。

この小さな建物〔スライド映写〕にベルメヒロ村で最初の水洗式トイレが設けられ，中庭に穴を掘って汚物タンクが設置された。シャワーも取り付けられた。屋根の上に容量が約200ℓのドラムカンをひとつ置き，毎朝そのドラムカンに水を満たすことにした。そうすると，水は日中太陽の熱で暖められ，晩にはシャワーを浴びることができるのである。

菜園と浴室が整った。しかし，床は汚れ，ベッドもない。また，煙突がないため，煙にまかれながら料理しなければならなかった。そのように汚れ放題の家が，現在は清潔な家となっている。床にはセメントを塗り，料理用ストーブには適切な換気装置が取り付けられ，テーブルもいすもきれいで，部屋も整とんされている。また，台所を屋外に建てた家庭もある。

5年前のベルメヒロでは，どの家々も同じように見えたが，現在，末日聖徒の家は村の名所となるほどに改善されている。末日聖徒の家は，壁が新しく塗り替えられ，緑の木々や美しい花が植えられているので，容易に見分けることができる。

ベルメヒロの会員は近くの町からパイプで水を引いているが，そのまま飲料水として用いることはできない。その上，燃料不足のため，煮沸消毒することも難しい。そこで母親たちは，約1ℓの水に塩素系漂白剤を3滴落として殺菌することを学んだ。水を消毒することによって，下痢，アメーバ赤痢，腸チフスを予防することができた。

福祉活動宣教師には，バプテスマを受けて間もない家族の家庭を訪問する責任が，支部

長から与えられた。そのため宣教師たちは，緊急に指導を要する事態にしばしば直面した。

例えば，宣教師たちが新会員の家庭を訪問したある日のことである。彼らがあいさつを済ませ，母親の招きに応じて家の中に入り，いすに腰掛けるや，母親が泣き出した。子供が病気で，その子のおなかが異常に膨らんでいるというのである。

いろいろ調べた結果，その子には小麦粉を水に溶いて作ったミルクしか与えていないことが分かった。母親が8カ月間そうしてきたのは，子供の容態が悪くなり，ほかの食物を与えてよいものかどうか不安であったからである。しかし，その病気の原因は栄養失調であった。

そこで宣教師たちは母親に，穀類や果物，それに野菜を適切に組み合わせ，その子に合った食事の作り方を教えた。今，その子は回復に向かっている。

このような計画を実施した結果，その伝道部全体の子供の会員の死亡率は，40パーセントから10パーセントに減少した。

個人と家族の備えの他の分野についても計画が実施された。そのひとつに，キンボール大管長がすべての会員に行なうように勧告している家の片付けがある。彼らはある不活発会員の家の片付けを手伝う計画を立てた。

その家族は親子8人で，面積約11平方メートルの狭い家に住んでいた。家の床は汚れ，家財といえばダブルベッドがふたつと，小さなテーブルと灯油ストーブがひとつだけで，電気も水道もなかった。

その問題を解決するために，支部では福祉活動委員会が組織された。扶助協会の姉妹たちはその家を掃除するために，何杯もの水をバケツで運んだ。姉妹たちはその家族を助けて家具を外に運び出し，何年間も積もっていたほこりを払った。

ホームティーチャーや他の神権者たちは，家具の修理を手伝った。

福祉活動宣教師は，その家族に衛生管理について教えた。

そのほかにも，宣教師たちは幼児の世話というような特別なレッスンを扶助協会の姉妹たちに行なって支部を援助した。また，家族の健康管理の原則とその方法も教えた。現在姉妹たちは，自分の衣服を縫い，買い物も適切に行なえるようになっている。

これらの活動を通して扶助協会の姉妹たちの愛が育まれ，現在では家庭訪問が定期的に行なわれるようになっている。

個人と家族の備えの計画によって，子供たちも祝福を受けている。今では，母親は子供たちを初等協会に送り出す前に，身づくろいはよいかどうか確認するようになっている。

年上の子供たちは年下の子供たちに福音を教えながら，指導性を養っている。宣教師は子供たちの模範となることにより，彼らに大切な原則を教えた。子供たちはキンボール大管長の勧告に従って伝道資金をためている。また，お菓子よりも果物を買うようにしている。

ベルメヒロ支部の教会員の模範を通して影響を受け，福音を学ぶようになった非教会員も大勢いる。

支部の会員が増えたため，借家では狭くなってしまった。そこで，カスタネイダ支部長はこの土地〔スライド映写〕に教会堂を建てる許可を求めた。同じ伝道部内の他の支部には，なかなか教会堂の建築許可が下りなかったが，ベルメヒロ支部は許可を得ることができた。ベルメヒロでは村会議員が支部のこれまでの功績を認め，この土地に教会堂が建設されるのを楽しみにしている。

その土地に小さな仮設集会所が建てられた。現在，聖徒たちはこの教会堂で集会を開き，すでに建築許可の下りた新しい集会所の建築資金をためている。

支部では現在，事業を実施して建築資金を集めている。毎週火曜日と木曜日に，扶助協会の姉妹たちは小グループに分かれて，ドーナツやタマールを作り，公園で売ったり，戸

別訪問して売り歩いたりしている。姉妹のひとりは，戸別訪問して売り歩くことはとても大変ですと言いながらも，次のように語っている。「私たちは教会堂が欲しいのです。ですから，資金がたまるまでは，どんなことでも喜んでします。」

彼らはすでに必要な資金を集め，教会堂の建設は年内に行なわれることになった。

私たちはこの話から，指導者と会員が福祉活動の基本原則を完全に理解し，その原則に則った生活を始めるならば，どのような状況下にあろうと，素晴らしい模範になれるということを学ぶことができる。4年という短い歳月の間に，彼らが成し遂げたことを考えていただきたい。菜園を造り，生産物を貯蔵し，家屋を塗装し，木や花を植え，トイレとシャワーを取り付け，家屋の内部および外部を整え，修理し，水を消毒し，適切な食事を準備し，子供たちに栄養価の高い食事を作って与えた。

このほかに，会員たちは不活発会員の家族の物質的な問題を解決したり，非教会員をフレンドシップしたり，また末日聖徒の生活の善い模範を示すなどして，人々に愛の手を差し伸べた。

会員の活動，教師の適切な準備，有能なホームティーチャーと訪問教師，非教会員の改宗，支部の事業，個人の犠牲，これらによってこの支部の霊性は高められたのであった。過去4年間に，この小さな支部のひとり当たりの断食献金が10倍以上に増えていることは，注目に価する。

愛，奉仕，労働，自立，奉献，管理の原則は，ベルメヒロの支部の功績にすべて明白に表われている。実に，彼らはシオンの理想を築く途上にある。

私は，教会のすべてのワード部，ステーキ部はベルメヒロ支部と同じような成功を収めることができると確信している。その成功は，福祉活動委員会を組織し，福祉活動の基本原則を学び，その原則に則った生活をすることによって得られるであろう。ワード部やステーキ部には援助を与えることのできる人がいても，地方にはそのような人がいないこともある。その場合は，適切な経路を通して福祉活動宣教師の援助を要請し，問題のある教会ユニットの必要に応えることができる。

私たち一人一人が，ベルメヒロ支部の聖徒と同様に福祉活動のビジョンを抱くことができるように願っている。私たちは力を合わせれば，末日のシオンを完全に築くことができるであろう。その日が一日も早く来るように，イエス・キリストのみ名によって祈る。アーメン。

管理監督会第二副監督
J・リチャード・クラーク

福祉活動における管理の職を果たす

現状は満足すべきものではないということを認識するかどうかが，私たちの今後を大きく左右する

兄弟姉妹の皆さん，私は，教会のこの偉大な福祉計画に参画することができて非常に感謝している。この大いなるプログラムは，全能の神が末日の予言者たちに啓示されたものであることを，私は心の底から証する。

福祉活動が開始されて以来，すでに長い年月を経てきたが，まだまだ私たちの歩む道は遠い。全世界の伝道活動の著しい進展と共に，物質的な必要を満たす業も同様の進展を見ることだろう。私たちはこの大きなチャレンジに十分に応えるために，もっと賢明で忠実な管理人とならなければならない。

近代の聖典には，あらゆる物は主のものであると記されている。「主なるわれは諸々の天を拡げ，わが手づから創れるもの，すなわちこの地を築きたり。されば，その中にあるよ

ろずのものはわがものなり。……すべてこれらの財産は皆わが有なり。……而してもし財産がわが有ならば，汝らはすなわちわが管理人なり。」（教義と聖約104：14，55—56）

管理の職については，タラントのたとえ話の中ではっきりと教えられている。（マタイ25：14—30参照）賢い僕となるためには，主が私たちに託して下さったものを増し加えなければならない。管理人とは経営者のことである。健全な経営をするためにはむだを省き，投資に見合った収益を上げるようにしなければならない。自分に期待されていることをすべて成し遂げたことを主人に報告し，次のように言われる時，その僕はどれほど幸せなことだろう。「良い忠実な僕よ，よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから，多くのものを管理させよう。」（マタイ25：21）

私は，管理の職を効果的に果たす要素は3つあると考えている。自由意志と，勤勉さと，報告である。私たちは奉仕の機会を受け入れることも，拒むことも自由である。しかし，一度受け入れたならば，その結果に対して完全な責任を負わなければならない。教義と聖約の第4章には，次のように記されている。「この故に，汝ら神の役務に出で立たんとする者は（私はこれが奉仕の機会に浴することであると考えている），……すべからく心をつくし，勢力をつくし，思をつくし，体力をつくして神の役務をなせ。」（教義と聖約4：2）また第72章には，「主はあらゆる管理人の手より，今もとこしえにも管理人の職に関する報告書を差出すことを求むる」（教義と聖約72：3）と記されている。私たちは最終的に主に対して報告する義務があるが同時に，この世の神権指導者に対しても報告をする必要がある。

ここで倉庫資源制度の中で私たちがその管理の職をどのようにして果たせばよいか具体的に考えてみたい。

第1に，計画を立てることである。計画を立てると，資源の管理がよくでき，最大限に活用することが可能になる。適切な計画がなければ，必ず失敗を招く。危険な試行錯誤方式の運営ではむだが多いことはだれもが承知しているところである。そこで，地域やゾーンごとに自給できるように，私たちはひとつの基本計画を作成した。この福祉の基本計画は，何が必要かを明らかにし，その必要を満たすために援助手段を組み立てるものである。この基本計画が完全に実施されるようになれば，監督はこの経済変動の激しい状況の下にあっても，援助の必要な人々を適切に助けることができるようになるであろう。

第2に，良い管理人は効率良く管理を行なうということである。2年前にキンボール大管長は次のように言われた。

「生産事業を今よりも一層効率よく行なおうではないか。そしてただ福祉農場を持つことのみに終わることのないようにしよう。やがて時が来れば，私たちはすべての産物を私たちの福祉計画から得るようになるであろう。しかも今よりはるかに多くの産物を必要とするようになるであろう。

福祉計画が経済的にも成り立つようにしていただきたい。そして，福祉計画をただ神権者が並んで働く単純なものと考えてしまうことのないようにしていただきたい。労働を共にすることにより兄弟愛が生まれ，同時に，経済性も高めることができるのである。」（*Ensign*「エンサイン」1976年5月号，pp.125—26）

J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は，1960年の福祉大会で次のように述べている。

「私はきょう，心からへりくだって申し上げたいと思う。私たちは現在，与えられているものも十分に運営できないくらいなら，福祉計画など永久にない方がよいと考えている。もし私たちが教会員の神聖な基金を使い，事業に着手し，しかも主が私たちに期待されているようにその計画を活用できないとしたら，主は恐らく現在のワード部やステーキ部の指

導者を罪なしとはされないであろう。」(福祉農業集会，1960年4月4日)

教会本部には，この神聖な基金を管理する重大な責任がある。教会の費用一部負担やローンの申請を受けた場合，私たちは財政状況とその計画を入念に検討する。そして組織や運営，あるいはその事業計画に対する地元の神権指導者の参画などを一つ一つ細かく評価する。そして申請書を見れば，計画を実施し運営する管理人がどのような人であるか一目瞭然に分かるようになっている。

第3に，品質管理を向上させることである。品質のよい製品は決して偶然に生まれるものではない。絶えず入念に検査をし，精一杯努力した結果として得られるのである。私たちは，皆さんが定められた基準と手続きを厳密に守り，倉庫から支給される物資を純粋で，栄養価の高いものとするようにお願いしたい。キンボール大管長は，先日，新しいかん詰工場の鍬入れ式の折に品質管理のことに触れ，次のように述べられた。「私たちは，主が私たちの倉庫を訪れて来られた場合でも，私たちの工場でできた製品を主に喜んで差し出せるようにしておく必要がある。」(福祉に使えるほど良質の」という言葉には，大きな意味がある。主は最善のものしか受け入れたまわない。「デゼレト」というラベルは，最高級品の象徴とならなければならない。そのラベルの背後には愛の労働があるからである。

それが奉仕であろうが，製品であろうが，品質管理は福祉活動のあらゆる面に適用される。専業であると，自発的な奉仕であるとを問わない。そして，倉庫に受け入れられる物資の質こそが，私たちが生産を効率よく行なっているかどうかの最終的な物差しとなるのである。

第4に，品質管理と切っても切れない関係にあるのが安全性である。幸いにも安全性はますます高まってきた。しかし，それでも多くの事故が実際に起こっている。人的な損害にでもなれば，まさに悲劇としか言いようがない。そのほかにも，金銭や労働の損失，火災による損失など，毎年，数十万ドルにのぼる被害を受けている。

皆さんにもう一度思い起こしていただきたいことがある。それは，教会は基本的に自己補塡(ほてん)主義をとっているということである。つまり，何らかの不注意により損失が生じた場合，その損害を埋め合わせるために教会の神聖な基金を使うようになっている。そのために手引きを作成し，倉庫資源制度の中でとるべき安全確保の手続きが定めている。手引きの内容をよく検討し，それに従って進めていただきたい。そうすれば，ほとんどの事故は未然に防ぐことができるはずである。

第5に，立派な管理人は施設の予防管理を怠りなく行なう。建物に欠陥がないかどうか毎年点検する。またその他の備品についても定期的に検査し，必要であれば補修する。管理をよく行なえば，資産の寿命を延ばすことができる。私の事務室には，次のような標語が掲げてある。「いつも物事をなす時間は十分あるのに，それを正しく行なう時間がないのはどうしてだろうか。」予防管理こそ，初めから誤りなく正しく行なう方法である。

第6に，賢明な管理人は会計記録をよく付けており，健全な財政の維持に努める。私たちは情報提供がよく行なえるように会計情報制度の改良に取りかかっている。この新しい制度を導入するに当たって，皆さんが示して下さっている努力と援助に心から感謝している。御存じのように，正しい判断を下すためには，詳細な情報を得ておかなければならない。皆さんが要求された報告書をもれなく提出して下さっていることを感謝している。

教会から費用の一部負担を受けて資産を購入した場合，皆さんにはそれを賢明に運用する義務がある。生産量を増すために必要な備品や資産の購入にのみ教会の費用一部負担の申請をしていただきたい。このことに関して，決して主の信頼を裏切ることのないようにしていただきたい。

教会が商取引きをする場合，評判を落とさないようにしなければならない。勘定の支払いは必ず契約通りに行なう。非営利団体は値引きを求める上に，支払いが遅いとよく言われる。しかし，私たちの教会に関してはそういうことのないようにしようではないか。これは，あなたが教会に対して約束した事項や生産の約束についても言えることである。これは神聖な義務であり，当然その通りに履行して然るべきである。

さて，兄弟姉妹の皆さん，私たちのなすべきことはまだまだ沢山残されている。願わくは，私たちが指導者であるスペンサー．W．キンボール大管長の助言と模範に従うことができるように。1977年10月の福祉部会で，キンボール大管長はこう言われた。「この偉大な業を推進するよう私は切にお勧めしたい。現状は私たちにとっても主にとっても満足すべきものではないということを，全体としてまた個人として認識するかどうかが，私たちの今後を大きく左右する。」（「聖徒の道」1978年2月号，p. 120）

主は，勤勉に働くすべての人々に次のような約束を与えられた。「およそ何人にまれ，忠実にして正しく，且つ賢き管理人はその主の悦びに入りて永遠の生命をつぐべし。」（教義と聖約51：19）

兄弟姉妹の皆さん，主は皆さんの献身と，たゆみない努力を喜んでおられる。皆さんの上に主の祝福があって，私たちが今後も直面する大きなチャレンジに引き続き応えることができるように，イエス・キリストのみ名によりへりくだり祈るものである。アーメン。

☆　　　☆

管理監督会第一副監督
H・バーク・ピーターソン

個人と家族の備えをする

備えは一定不変のものではなく，絶えず変化している

兄弟姉妹の皆さん，今朝，キンボール大管長は個人と家族の備えに関連して生活の標準についてお話下さった。また，フィルムストリップにより私たちの記憶は呼び覚まされ，目標を立てて必要な分野の準備を整えなければならないという励ましを与えられた。

フィルムストリップで述べられていた原則はすべて基本的なものであり，教会の各個人と家族の生活にそのまま応用できる。各個人の環境が異なると同様に，個人の必要も様々である。また，個人の状態も年と共に変化している。したがって，私たちは絶えず各自の必要を明確にし，方向や目標を新たにしなければならない。そして大きな意味において，私たちの永遠の進歩は，自分の弱い分野を評価し強める能力によって決定されるのである。その上，人々の必要としているものは互いに異なり，必ずしも一様の方法によって満たされない。これに関して少し例を挙げて説明したいと思う。

御存じのように，私たち夫婦には5人の娘がいる。何年も前から，私たちは霊性を高めるために，毎日家族で聖典を読んできた。15年前は子供たちが全員家にいたので，朝の6時半に集まって勉強会をした。しかし現在家にいるのは，私たち夫婦と13歳の娘だけである。そして勉強会は続いている。けれども，方法は以前とは異なっている。家庭の夕べと日曜日の夜に一緒に聖典の勉強会をするほかに，毎日聖典の勉強を興味深く行なえるよう

に新しい計画を加えた。冷蔵庫の側面に1から30までの数字を書いた表が張ってある。この数字は聖典を読んだ連続日数を表わすものである。家族全員が1日に1章読み，その表に現況を記録することになっている。そのために，家族全員が互いの状態を見ることができる。1日でも欠かせば，今までの日数は無効になるので，また1の数字から始めなければならない。家族として見事に30日間読み通したら，全員で特別な買い物に出掛けることにしている。これが心の励みとなっている。だれもほかの者の喜びを失わせたくないからである。この方法は，13歳の娘にとって効果的である。

家庭における生産と貯蔵に関しては，地下室に1年分の蓄えがあり，「ピーターソン商店」と書いた看板を掲げてある。しかし，家庭菜園や貯蔵計画も15年前とは異なる。大人ふたりと子供5人の蓄えに代えて，現在は大人ふたりと子供ひとり，それに来客のため必要な品が貯蔵されている。

健康管理の方法も変わった。子供たちがまだ小さくて家にいた頃は，みんなで身体を鍛えるためにいろいろな運動をした。そして現在は，決してもう若いとは言えない私たち夫婦ではあるが，13歳の娘を中心にした運動をすることが大切になっている。例えば，以前は娘たちが対抗で行なっていたテニスを，今は父親対娘と母親でしなければならない。また，私はジョッギングを15年間実行しており，今では生活の一部となっている。ただし，日を追うごとに困難になっているのは事実である。

子供たちが成長して，家庭構成は変わったが，愛を表現することの大切さは依然として同じである。父，母，娘の定例の面接が必要であることも変わらない。また，夏に遊園地で娘と一緒に遊ぶ父親の役割も以前と変わらない。夫婦の意志の疎通もこれまでと同じように深めていく必要がある。これらの必要性は永遠に存在し，絶えずその必要を満たさなければならない。

そこで私は次のことを申し上げたい。私たちはいつも個人と家族の備えに注意を払わなければ進歩しない。また，備えは一定不変のものではなく，絶えず変化している。私は備えが必要でないという人生を知らない。全員が備えをして，家族が祝福を受けられるようにしていただきたい。また，与えられた時間は多くないので，その大切な時間をむだにすることなく，永遠のために備えをしていただきたい。これらのことを，イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

十二使徒評議員会会員
デビッド・B・ヘイト

福祉活動における
ステーキ部長の役割

福祉活動は，個人がさらに神に近づけるように高め，清め，祝福をもたらす

主がその民のために組織された教会の福祉活動の目的について話すに先立ち，まず最も大切な福音の原則を取り上げてみたいと思う。主は様々な方法で人の値が福音の中で大切な位置を占めていることを述べてこられた。「汝ら，人の値は神の前に大いなることを憶えよ。」（教義と聖約18：10）男女は終わりなく「永久にその子孫」を存続させる能力を有している。（教義と聖約132：19参照）人の肉体と英知と霊を構成する元素は，永遠のものであり，不滅である。

これら永遠にして高貴なる人間が，神権の権威と権能によってもたらされる導き，恵み，助けを必要とする時がある。すなわち，絶望から立ち上がり勇気を得るために，物質的，精神的，あるいは霊的な助けを必要とする時である。皆さんが福祉集会でこの永遠の原則

を再び認識して下さるようにお願いしたい。というのは，これこそが福祉活動の心髄であり，神の息子，娘である個人がさらに神に近づけるように高め，清め，祝福をもたらすからである。

このことを考慮しながら，実際にあった話を幾つかご紹介したいと思う。1830年代の初頭，私たちは厳しい経済危機に見舞われた。収入が急激に減少し，中にはまったくその道を断たれた人もいた。失業者は数百万人にのぼった。これはすべて世界的な大恐慌が原因であった。

合衆国の国民所得は50パーセント以下に減少し，農業所得も50パーセント以下に落ち込んだ。失業者は全労働者の25パーセントに達した。しかしこれらの統計は，大勢の人々が体験した苦しみや悲劇の一部を想像させるものに過ぎないのである。例えば，ソルトレーク・パイオニアステーキ部ではこの不況による失業者が会員の半数以上にのぼり，事態は非常に深刻であった。また，ソルトレーク・グラントステーキ部のサウスゲートワード部では，173家族中，110家族の家長がその職を失っていた。

私はこの厳しい年月を生き抜き，直接その体験を味わってきた。私は大学で経済学と経営学を学び，銀行家になりたいと思っていた。そして不況が始まった直後に学業を終え，ソルトレーク・シティーにやって来た。しかし，当時銀行家は「２週間で10セントも支払えない」と言われた時代である。私はデパートで週給15ドルの職を見つけたが，それは実に幸運であった。こうして私は熱心に働くことによって得る報酬の尊さを学んだのである。

私はすべての銀行が閉鎖された日のことを今でもはっきりと思い出すことができる。ソルトレーク・シティーの大通りを歩いていると，ザイオン銀行の表通りや歩道に人々が黒山のように群がっていた。グラント大管長の副管長を務めるアンソニー・W・アイビンズ兄弟が銀行の階段に立って群衆に語っていた。「もしお望みであれば，銀行にはお金が用意してありますので，お金の引出しができます。あわてて銀行に殺到する必要はありません。皆さんの預金をお返しできる十分なお金をこの銀行には置いてございます。」これを聞いて人々は少しずつ家に戻り始めた。アイビンズ兄弟は誠実と信頼の象徴の人であったからである。

後年，私はカリフォルニアの教会福祉プログラムの発展を目にした。そして教会福祉計画がいかに効果的に人々の自立に役立っているかをはっきりとこの目で確かめることができた。

1936年に大管長会は，教会福祉計画の第一の目的は不況のもたらす弊害を阻止することであると発表した。この計画はすぐに実行に移され，教会の指導者により会員たちの中から怠惰を追放し，施しをなくし，勤勉と倹約と自尊心を育む制度が確立された。この計画の主な目的は，教会員が自立できるように援助を与え，勤労が教会員の生活の中心となるようにすることであった。

教会員の中にはそのような大きなビジョンを持つ計画が果たしてできるものだろうかと疑う者もいた。事実当時の教会は規模も小さく，資源も限られていた。金銭，指導力，労力などすべて自発的な奉仕に頼るしかなかったのである。しかし，目標と指導原理は明らかにされており，もしこの原則に忠実に従うならば，危急の際の教会員の必要を満たすことができると約束されていた。

主が貧しい人を助ける方法を確立された頃とほぼ時を同じくして，世の中では主のみこころに反する失業手当ての支給制度が政府によって設けられた。これは特に注目に値することである。つまり，この世の方法は個人の労働と家族の責任を忘れさせ，「政府が面倒を見てくれる」とか，「政府に養う義務がある」といった考えを植え付けた。そこには個人や家族の自主的な働きといったものはなくなり，政府の施しにとって代わられてしまっている。

救い主が教えられた隣人への愛と関心を示す正しい精神は全く忘れ去られていたのである。

統計を一目見れば，いかに政府の方法が額に汗して働き，報酬を得ようとする意欲と動機を奪い，同時に私たち自身の身の破滅を招くものであるかがよく分かる。

合衆国政府の福祉援助費の総額は，1975年度には1945年の57億ドルから3倍の177億ドルにはね上がっている。

福祉政策と呼ばれるこの怪物は人々に何をもたらしたであろうか。福祉を受けるようになってからすでに2世代から3世代を経過しようとしている。そして，現在数百万の人々が政府の厄介になって生活するようになり，子供たちは労働の価値と尊さを知らずに成長している。政府は，教会福祉プログラムが阻止しようとしていることを逆に奨励してきたのである。

主の方法は政府のプログラムとは異なっている。霊感された教会福祉計画は次のような原則に基づいて行なわれる。すなわち，個人は自分の必要を自分でまかなう責任がある。次にその人に力がなければ，家族が援助する。さらに，家族もその個人の必要を満たすことができなければ，教会が手を差し伸べる。主の方法では，各自が自分で働くことと自分の責任を果たすことが大切であり，人は自立することを求められる。

教会福祉活動はまったく健全で効果的なプログラムであることが，今日ますます認められるようになってきた。テキサス州選出のW・R・ポージ下院議員は，ユタ州の労働経験・訓練プログラムが，援助を受けている人々に労働の機会を提供する数少ない政府のプログラムのひとつであり，「教会の教えから多大の影響を受けているユタ州の労働理念がこのプログラムの推進に一役かっている」と述べた。さらに，「政府は個人が自立できるように援助すべきである」と語っている。（*Desert News*「デゼレトニューズ」1978年8月25日，p. D—1）

だからと言って，教会員は全員政府の失業手当てのもたらす弊害に背を向けているというわけではない。私たちの中にも，政府から無償で援助を受けている人が実際にいる。これは取りも直さず，教会福祉の原則をもっと認識する必要があることを示している。キンボール大管長は次のように述べている。「肉体や情緒面の能力がありながら，自分自身あるいは家族の福祉を図る責任を第三者に転嫁しようとする者は，決して本当の末日聖徒ではない。」（「聖徒の道」1978年10月号，p. 127）

ステーキ部長の皆さんは教会の重要な分野を管理し，絶えず人々に真の福音の原則を教える，大勢の教会員の霊の指導者である。しかもそれは福音が広く知れわたっているからではなく，真実であるから教えるのである。昔シオンは杭（ステーキ）に固定した綱で張り広げた巨大な天幕として描写されていた。（イザヤ54：2参照）ステーキ部は，ステーキ部長や神権指導者がこれらの神聖な原則を教える特別な場所である。

ステーキ部長は，助けの必要な人を捜し出し，主の計画に従って彼らを援助するように監督を教え，励ましていただきたい。もしステーキ部の会員が主の計画をよく理解するならば，自分自身を正しく治める上でさらによい備えができるであろう。

さて，ステーキ部長の皆さん，福祉の基本原則を踏み行なうに当たって，どのようなステップを踏むことが大切であろうか。

第1に，この原則を自分自身がよく理解し，受け入れることが大切である。あなたはステーキ部長である。

第2に，教会福祉活動は神権組織により実施される。監督と定員会指導者がこれを実施する。特に主要な責任はワード部の家族の80パーセント以上を管理する長老定員会会長にある。

第3に，ステーキ部長会，高等評議員会，ステーキ部監督評議会議長およびステーキ部扶助協会会長会によって構成されるステーキ

部福祉活動委員会を開く。この集会で福祉の援助手段を得るための原則について話し合い，援助を必要とする会員には監督を通じて助けを与えるようにする。さらにこの委員会では，新たに行なう福祉生産事業を入念に分析し評価する。また，福祉生産物資や教会福祉活動スペシャリストの召し，個人と家族の備えについて定員会会長を教える高等評議員および監督の訓練などについて研究する。このステーキ部福祉活動委員会は，ステーキ部長に，霊感に基づいて福祉活動を指導する機会を与える最良の組織である。

第4に，ステーキ部監督評議会を開く。監督は貧しい人，困っている人，悩んでいる人を見付け，彼らを助ける方法を知っておかなければならない。監督はアイディアの交換を図り，倉庫制度を評価し，被援助者にどのような労働の機会を提供できるかを知っておく必要がある。現在，日用品よりも，監督が出す現金による援助の方がはるかに多い。数年前まではこのようなことはなかった。これは決して本来のあるべき姿ではない。

ステーキ部長は監督から報告を受けるはずである。あなたは彼らを教え，励まし，また各監督と個人面接を行ない，彼らに福祉における義務を理解させるようにしていただきたい。

第5に，ステーキ部メルケゼデク神権委員会と会合を持ち，福祉活動の中の予防と社会復帰について教える。また高等評議員の助けを得て，メルケゼデク神権指導者に個人と家族の備え，兄弟愛，定員会内の助け合いについて教える。このようにして示す関心こそが聖典の中で述べられている「キリストの純粋な愛」（モロナイ7：47）である。これは神権に伴う責任であり，定員会福祉活動の心髄である。

第6に，定員会会長と監督はホームティーチャーを通じて援助の必要な人に関する情報を得る。ステーキ部長の皆さん，もしステーキ部内で効果的なホームティーチング・プログラムが行なわれていなければ，皆さんは会員の必要を十分に把握することはできないであろう。監督と定員会指導者を代表する友好的なホームティーチャーが各家族を訪れ，その家庭に問題がないかどうかを確認することが必要である。もしもこれが十分に行なわれていなければ，監督は援助の必要な人に関する情報を得ることはできないであろう。病人や困っている人，問題に直面している家族はいないだろうか。

ステーキ部長の皆さん，教会は貧しい人や乏しい人を援助する責任を政府に転嫁できるなどと誤った考えに陥ってはならない。私たちは主の福祉計画を用いて援助の必要な人を助けるのである。40年の実績が，この霊感された福祉計画の素晴らしさを証明している。これまでに数十万人の末日聖徒が，この神聖な原則の適用を受け，自立を促されてきた。すべては，主の勧告に進んで従う私たちの従順さにかかっている。それが正しいことは，みたまが証していると同時に，歴史も証明している。

ステーキ部長の皆さんは，各自のステーキ部でこの福祉活動の原則を教える責任を負っている。これは自立を促すプログラムである。ステーキ部に帰ったならば，今すぐそれを実行に移していただきたい。そしてステーキ部内のすべての人々にその祝福をもたらしていただきたい。私は，教会福祉活動は，人の尊厳と自尊心を守るためにこの末日に神から啓示されたプログラムであることを証する。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

☆　☆

第二副管長
マリオン・G・ロムニー

貧しい人々に手を差し伸べる—誓約により課せられた義務

主の教えの中で，貧しい人々に手を差し伸べるようにという戒めほど，聖典の中で述べられ，強調されている戒めはない

兄弟姉妹の皆さん，私はこの大会において今まで非常に有意義な時間を過ごすことができた。これから私は，「誓約により課せられた義務として貧しい人々に手を差し伸べる」というテーマで話したいと思うが，そのために主の祝福があるように祈っている。

ウェブスター辞典によると，誓約とは「2名以上の当事者によって交わされる拘束力のある神聖な同意であり，……ある特定の事柄に関して条件を規定する」とある。

貧しい人々に手を差し伸べることが誓約により課せられた義務か否かについて考える時に，1936年の大会で話されたルーロン・S・ウェルズ長老の説教を思い出す。今から42年半前の大会での話である。その説教の中で，ウェルズ長老は次のように言われた。「二者が契約を交わす際には，まず文書を起草し，一方が署名する。次いで，証人を前に相手側に署名を求めた上で封印し，公布する。その後，文書に拘束力を持たせるために，公証人かまたは治安判事の前で宣誓する。さらに拘束力を持たせるために，違反行為に対して罰を課す法律が制定される。これが契約の持つ性質である。」（*Conference Report*「大会報告」1936年4月，p. 41）

教会における誓約について，ウェルズ長老は次のように言われた。

「私たちは正しい事を行なうべきである。それを行なうならば，主は私たちと交わされた誓約により，約束を果たす義務を負わされる。また，私たちが主なる神の命じられたすべての事柄を行なうならば，私たちの頭には永遠に栄光が増し加えられるであろう。それは約束であり，神の誓約である。私たちは誓約の民である。この誓約は主なるイエス・キリストの福音の回復に伴い，この地上に回復された。そして，主なる神が私たちに命じておられることはすべて，この栄えあるイエス・キリストの福音の中に示されている。

私たちは，福音に従順に従うことによって，永遠の栄光すなわち終わりのない世界を受け継ぐ資格が与えられるであろう。これは主の約束である。したがって主はご自身の誓約を守られる。」（*Conference Report*「大会報告」1936年4月，pp. 40－41）

主は教義と聖約133章の中で，完全なる福音を「永遠の誓約」と定義された。（教義と聖約133：57）

バプテスマと聖霊の賜を授かる按手礼により，教会員になることを受け入れた者は，福音の求めるすべての事柄に従って生活するという誓約を主と交わすのである。主はこれに対して，私たちが福音に従うという条件の下に，永遠の生命を約束して下さっている。

ウェルズ長老はさらに続けて，次のように言われた。「そこで私たちは，神ご自身が誓約の当事者であるということを考えなければならないのではないだろうか。神は私たち全員と誓約を交わしておられる。神が私たちと契約を結ばれたのである。したがって，私たちが主なる神の命じられたことをすべて行ない，主のみこころを果たすならば，私たちの頭に永遠に栄光が増し加えられるであろう。これは誓約である。神はご自身の誓約を果たされる。したがって私たちも同様にすべきである。

では，私たちはどのようにして主と契約を結ぶのだろうか。それは，契約書に署名をすることによってではなく，より厳粛かつ正当な方法によって行なわれる。主は僕を任命し，神権を授け，あたかも当人が署名するのと同様の効力を有する神聖な儀式を執行する権能

を託しておられる。このことは，主イエス・キリストの福音に従って生活し，主の命じられるすべての事柄を行なう必要があることを私たちに思い起こさせるものである。それは契約である。私たちは最も厳かな方法により主と契約を結ぶのである。文書にしなくて何によって主との契約関係を規定するのだろうか。それは罪の赦しを受けるために水に沈められるバプテスマによってである。何と素晴らしく，感銘深い規定であろうか。また，それには何か別の意味があるのだろうか。バプテスマの水に沈められることは，使徒パウロが説いているように死と生命を象徴している。パウロが述べているように，私たちは死にあずかるバプテスマによって，イエス・キリストと共に葬られ，次いでキリストの栄えある復活に模して水の墓から出て来るのである。」（*Conference Report*「大会報告」1936年4月，p. 41）

私はバプテスマの意義について書かれたこの聖句を読むと，この40年間の私自身の信仰生活を鮮明に思い出す。

アルマがバプテスマの誓約について記した聖句も感銘深いものである。

アルマは集まった人々に向かって言った。「『ここにモルモンの泉がある。あなたたちは神の羊の群に入って神の民と言われること，互いに苦難を軽くするために喜んで助け合うこと。

悲しむ者を思いやって共に悲しむこと，慰めること，また神に贖われ第一の復活にあずかる者の数に入って永遠の生命を得るよう，いついかなる時でも，どのような所に居ても，どんなことについても，死に至るまでも神の証し人になりたいと心から思っている。

従って，あなたたちがもしも真心からこれを望んでいるならば，あなたたちは主からますます豊にその「みたま」を賜るよう，主に仕えてその命令を守るという誓約を主に立てた証拠として，主の御名によってバプテスマを受けるのに何のさしつかえがあろうか』と。

集った民はこの言葉を聞いて非常に喜び，その手を叩いて『これはわれわれが真心から願うことである』と言った。

このときアルマは先に立ってきた者の中のヒーラムと言う一人の男をつれて行って水の中に立ち，高らかな声で祈って言った『主よ，汝のしもべが聖き心を以てこの働きを為し得るよう「みたま」を与えたまえ』と。

こう言って祈ると主の『みたま』がアルマの上に降った。そこでアルマは『ヒーラムよ，われは全能の神より権能を受けたるにより，汝がすでに肉体の死ぬまで全能の神に仕えたてまつると誓約をしたる証拠として汝にバプテスマを施す。ねがわくは，主の「みたま」が汝の上に降り，また全能の神が創世の前より備えたもうたキリストの身代りの贖いによりて汝に永遠の生命をたまわらんことを』と言った。」（モーサヤ18：8—13）

これらの聖句を照らし合わせてみると，ウェルズ長老が言われたように，バプテスマを受け，その儀式を結び固める聖霊の賜を受けた者は，主の戒めを守る誓約を主と交わしたことになるというのは，ごく当然のように思われる。貧しい人々に手を差し伸べることが戒めのひとつであることは，聖典から明らかである。

主の教えの中で，主の教会の会員として貧しい人々に手を差し伸べるようにという戒めほど，聖典の中で頻繁に述べられ，強調されている戒めはないと言ってもよい。

教会が組織された年1830年の12月に，主は「貧しき者柔和なる者たちはわが福音を説き聞かせられ」ると言明された。（教義と聖約35：15）

それから間もなく，1831年1月2日に主は予言者ジョセフに啓示を下された。これは教義と聖約38章の中に記録されている。この中で，主はたとえ話を用いて貧しい人々に対する聖徒の義務について述べておられる。

「われ汝らの救われんために」主は私たちの救いのためにと言われた。「われ汝らの救わ

れんために一つの誡命を与う。

この故に，汝らわが声を聞きてわれに従え。」（これは教会が組織されてから一年足らずの時に与えられたものである）

「ことごとくの者，兄弟を己が身の如くに思い，わが前に徳と聖きを履み行うべし。

われ重ねて汝らに告ぐ，汝ら皆己が身の如くに兄弟を思うべし。

汝らの中誰か十二の息子を有つに，その一人にのみ偏よることをせざればその子たちよく父に仕う。然るに，すなわち一人に向いて汝礼服を着けて此所に座せよと言い，また他に向いて汝ぼろを着て彼所に居れと言い，しかも息子たちに向いて，見よ，われ公平なりと言うことを得んや。

見よ，こは一つの比喩を以て汝らに語るところなれど，正にわれ在るが如く真なり。われ汝らに向いて言わん，汝らひとつとなれ。もしひとつとならずば，汝らはわがものにあらず。……

さて，またわれこの地方の教会員に一つの誡命を下さん。すなわちこの教会員の中，ある人々は任命を受くれどもこの任命は教会員の支持の挙手によりて為すべきなり。

任命されたる人々は貧しき人々，乏しき人々に心を留めて，その苦しまざるよう救助を施すべし。」（教義と聖約38：16，22，24－27，34－35）

それから1カ月と5日の後，主は次のように言われた。

「汝らもしわれを愛すれば，われに仕えわがすべての誡命を守るべきなり。

見よ，汝ら貧しき者のことを思い起し，……扶助のために，破るべからざる誓約と証文とを以て己が財物を神に奉献せよ。

また汝らの財物を貧しき者に分ち与うれば汝らこれをわれに為すなり。」（教義と聖約42：29－31）

主は同じ月に別の啓示を与えられた。

「見よ，われ汝らに告ぐ。汝ら貧しき者，乏しき者を訪れて救いを施さざるべからず。」（教義と聖約44：6）

1831年6月に開かれた大会で，主は長老の職を持つ者に対して次の指示を与えられた。

「汝ら貧しき者，乏しき者，および病める者，悩める者たちを……憶えて憐れむべし。これらの事を為さざる者はわが弟子にあらざればなり。」（教義と聖約52：40）

さらに主は，同じ月に次のように宣言された。

「貧しき者に財物を与えんとせざる汝ら金持は禍なるかな。汝らの富は汝らを触蝕すればなり。而して主の来りたもう日，また審きの日，また主の怒りの日に汝らは歎き悲しみて言わん。あゝ，刈り入れは終り夏はすでに過ぎ去りぬ，われは救われず，と。」（教義と聖約56：16）

貧しい人々に手を差し伸べることは主との誓約により課せられた聖徒の義務であるということが，以上の聖句からお分かりいただけたと思う。したがって，私たちは貧しい人や困っている人を助ける時には，それが単に都合が良いとか，興味がある，あるいは社会的に受け入れられるという理由だけでなく，主と交わした誓約を果たすことになるという理由を第一として行なうべきである。

主が私たちと誓約を結ぶことを重要視しておられることは，神権の誓約について述べられた次の聖句からもよく分かる。

イエスは言われた。「また，われを受け入るる者はわが父を受くるなり。

而して，わが父を受け入るる者はわが父の王国を受くるなり。この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし。

而してこは神権に属ける誓詞と誓約によりて然るなり。

この故にこの神権を受くる者は，すべてわが父のこの誓詞と誓約とを受け，而してこれをわが父は破ることも変えることも為したもうはずなし。

されど何人にまれ一度この誓約を受けて後これを破り，またことごとくこれに違背する

者はこの世に於ても未来の世に於ても罪の赦しを受くることなかるべし。」（教義と聖約84：37－41）

主の誓約を守らない時にどのような結果を招くかを考えると，私たちは断食献金を沢山納め，福祉活動にもっと積極的に参加することが大切であるということが分かるであろう。

貧しい人々を援助することの大切さについて，主はさらにはっきりと言われた。これは，1834年4月，教会が組織されてから，4年後に与えられた啓示である。

「主なるわれは諸々の天を拡げ，わが手づから創れるもの，すなわちこの地を築きたり。されば，その中にあるよろずのものはわがものなり。

あらゆるものはわがものなれば，わが聖徒らを扶養するはわが目的なり。

されどその事たるや，必ずわが道に適いて行われざるべからず，見よ，この道は主なるわれ，わが聖徒らを扶養するため命を下したるところにして，貧しき者は高くせられ，それにて富める者は低くせられんことこれなり。

地は物に満ち足りて余りあり。然り，われよろずの物を備えて人の子らにこれを与え，人各々を自由意志によりて動く者となす。

この故に，もし何人たりともわが造りし多くの物の中より取り，わが福音の律法に従いてこれを貧しき者，乏しき者に自己の取前をわかつことをせざる時は，悪人と共に地獄に落ちて苦悩を受け目を挙げて望み視ん。」（教義と聖約104：14－18）

この痛烈な言葉は，イエスが最後の裁きについて述べられた予言と一致している。この予言はマタイによる福音書第25章に記されている。

「人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき，彼はその栄光の座につくであろう。

そして，すべての国民をその前に集めて，羊飼が羊とやぎとを分けるように，彼らをより分け，

羊を右に，やぎを左におくであろう。

そのとき，王は右にいる人々に言うであろう。『わたしの父に祝福された人たちよ，さあ，世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。

あなたがたは，わたしが空腹のときに食べさせ，かわいていたときに飲ませ，旅人であったときに宿を貸し，裸であったときに着せ，病気のときに見舞い，獄にいたときに尋ねてくれたからである』。

そのとき，正しい者たちは答えて言うであろう，『主よ，いつ，わたしたちは，あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ，かわいているのを見て飲ませましたか。

いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し，裸なのを見て着せましたか。

また，いつあなたが病気をし，獄にいるのを見て，あなたの所に参りましたか』。

すると，王は答えて言うであろう，『あなたがたによく言っておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは，すなわち，わたしにしたのである』。

それから，左にいる人々にも言うであろう，『のろわれた者どもよ，わたしを離れて，悪魔とその使たちとのために用意されている永遠の火にはいってしまえ。

あなたがたは，わたしが空腹のときに食べさせず，かわいていたときに飲ませず，

旅人であったときに宿を貸さず，裸であったときに着せず，また病気のときや，獄にいたときに，わたしを尋ねてくれなかったからである』。

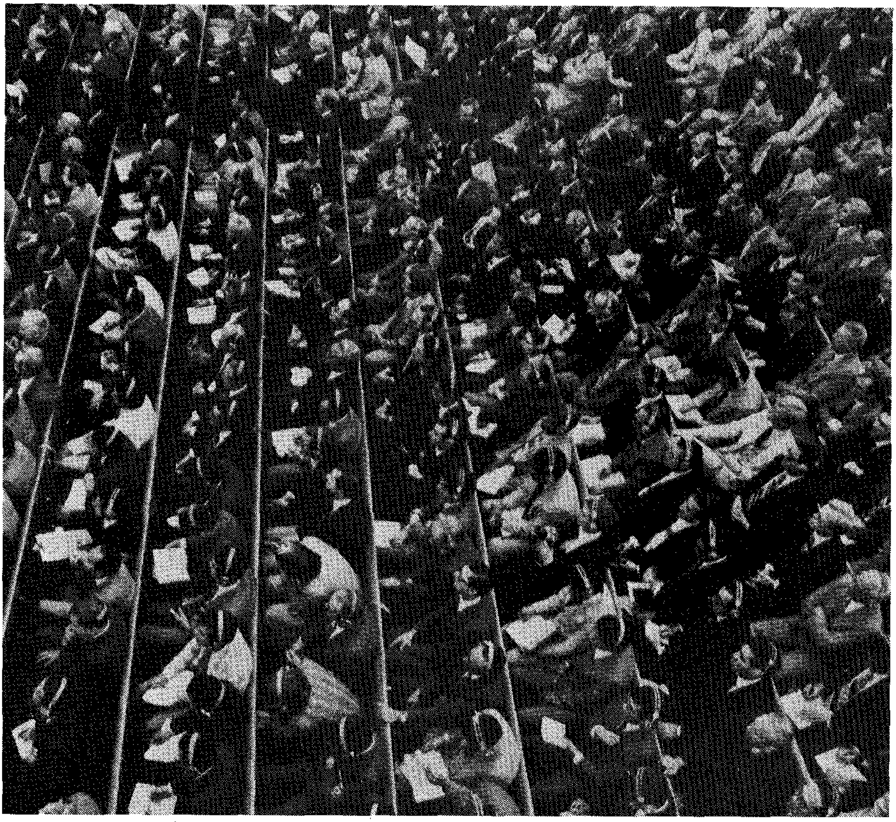
そのとき，彼らもまた答えて言うであろう，『主よ，いつ，あなたが空腹であり，かわいておられ，旅人であり，裸であり，病気であり，獄におられたのを見て，わたしたちはお世話をしませんでしたか』。

そのとき，彼は答えて言うであろう，『あなたがたによく言っておく。これらの最も小さい者のひとりにしなかったのは，すなわち，わたしにしなかったのである』。

そして彼らは永遠の刑罰を受け，正しい者は永遠の生命に入るであろう。」（マタイ25：31－46）

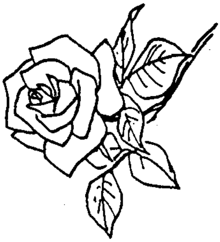
兄弟姉妹の皆さん，結論として，聖典は貧しい人々に手を差し伸べることが誓約により課せられた聖徒の義務であることを証明していると言ってもよいと思う。

私たち一人一人が主と交わした誓約の下に義務を完全に果たせるように，また皆さんの上に主の祝福があるように，イエス・キリストのみ名により謙遜に祈るものである。アーメン。



通訳を通して説教を聞く各国の指導者

女性のためのファイアサイドにおける話



1978年9月16日，ユタ州ソルトレーク・シティーのタバナクルで，12歳以上の末日聖徒の女性を対象とした特別ファイアサイドが催され，次の４人の指導者が話をした：スペンサー・W・キンボール大管長，前若い女性中央管理会会長ルース・H・ファンク姉妹，現若い女性中央管理会会長エレイン・キャノン姉妹，扶助協会中央管理会会長バーバラ・B・スミス姉妹。このファイアサイドには，世界各地から1,400人の女性たちが出席した。

女性の特権と責任

大管長
スペンサー・W・キンボール

愛する姉妹の皆様，世界各地からおいでいただいた大勢の姉妹たちにこのようにお話する機会のあることを心から感謝しています。世界中のすべての姉妹が一堂に会することができたらと思います。けれどもそれは不可能です。しかし主の祝福によって科学技術が進歩し，今宵この会を世界的な規模で開催できることを喜ばしく思います。この会は，古い歴史を持つこのタバナクルで毎年行なわれる総大会によく似ています。ここではすべての人が着席して，話に耳を傾けます。私は近代科学技術の発展が王国建設に多大の貢献をしていることに感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思います。教会が発展し，組織が複雑化してきたにもかかわらず，科学技術の進歩により様々な方法で連絡が取れるようになりました。それは，距離的に不便で，意志の伝達が十分に行なわれなかった開拓者の時代と比べると，目覚ましい進歩です。

このような会は珍しく，意義あるものです。私の知る限り，教会の歴史上このような会が開かれたことはありませんでした。

これは今日の私たちにとって素晴らしい機会となることでしょう。多くの喜びが得られるに違いありません。

私は，扶助協会，若い女性，初等協会の中央会長会ならびに管理会員の方々に感謝を述べたいと思います。教会の姉妹たちのために尽力して下さりありがとうございます。

若い女性の素晴らしいコーラスは，私たちがここにお集まりの皆様すべてに望み，祈ることを美しい歌声によって表わしてくれました。皆様の美しい心とコーラスのために，主は祝福を与えて下さることでしょう。

大きな意義を持つこの集会に皆様と同席する特権を得た数少ない男性のひとりとして，私は平安と希望と愛のメッセージ，助言と勧告のメッセージ，信仰と励ましと信頼のメッセージを差し上げたいと思います。私の申し上げることが皆様のお役に立つように望んでいます。

初めに，永遠の真理について改めて強調したいと思います。姉妹の皆様，神の戒めを守ることを選んで下さい。男性にとっても女性

にとっても，また老いも若きも，この世と永遠の世において幸福を得る鍵は神の戒めを守ることです。克己心と自制心を働かせて戒めを守る時に，私たちをいつも支え，昇栄へと導いてくれる本当の自由がもたらされるのです。基本的な戒めは，真理であるだけでなく，分かりやすいものです。例えば，神がモーセにお与えになった十戒はその良い例です。そのほかにも，救い主は，心をつくし，精神をつくし，力をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ。また，自分を愛するように，あなたの隣り人を愛せよ，と言われました。

個人の祈りと家族の祈りを行なって下さい。思いにおいても行ないにおいても安息日を聖く守って下さい。知恵の言葉を厳密に守って下さい。家族の責任をすべて果たして下さい。清い生活を送り，不浄で不純な思いや行ないを避けるようにして下さい。自分の高い標準を脅かしたり，低めたりしない交際や活動をして下さい。

聖典を研究して下さい。永遠の事柄を理解することによって，力を得ることができます。若い女性の皆さんは，永遠の父なる神のみこころとみむねを知り，天父に近く生活する必要があります。私たちは，兄弟たちと同じように姉妹たちも，聖典に精通していただきたいと思っています。

皆様には，自分自身の福利のために，また自分の子供やあなたの影響が及ぶすべての人人を教えるために，天父の永遠の真理を身に付けておく必要があります。

純潔を守って下さい。また，他の人々も清く生活できるように力を貸して下さい。精神を高揚させ，心を豊かにする仕事や趣味の時間を設けることによって，否定的な考えや悪い思いを抱かないような環境に自分自身を置くようにして下さい。

また，主が特に重視しておられることが幾つかあります。それを忘れないように，脳裏に刻んで下さい。これらは神聖な原則です。これに忠実に従うならば，この上ない幸福を味わうことができるでしょう。

霊感されたすべての予言者たちの言葉から，純潔の律法に背くことは天父の目から見て罪であることがお分かりいただけると思います。姦淫や私通など，性に関わる誤った行ないは罪です。同性愛や肉欲的行為も罪です。

男女をひとつに結ぶ性的衝動は善きものであり，必要です。それによって男女は父母を離れ，互いに堅く結び合うのです。しかし大切なのは，自制心を働かせなければならないということです。人間をこの世にもたらす源である性的衝動にこたえることは，神聖な結婚においてのみ許されるものです。

皆様の人生における最も重要な選択のひとつに，神殿結婚を加えていただきたいと思います。だれひとり，誉れある幸福な結婚を望まない人はいません。この深遠な交わりを故意に，また不注意に避ける者は，自らの永遠の救いを危うくしているのです。

結婚はあらゆる決断の中で最も重大なものであり，永遠にわたって影響を及ぼすものと言えるでしょう。それは，結婚が目前の幸福だけでなく，永遠の喜びにも通じているからです。

この世と永遠にわたる伴侶を選択する際，これ以上できないという入念な計画を立て，考え，祈り，断食をし，数ある決断がある中でこれだけは間違っていないという確信を得る必要があります。本当の結婚には，心と同様に思いの一致がなければなりません。感情にまかせて決断を下してはなりません。断食と祈りと真剣な熟考によって高められた心と思いで決断する時，この上なく素晴らしい結婚を体験することができるのです。

人々の中には，安易やぜいたく，適度なスリルといった人を引き付けるものを幸福と考えている人がいます。しかし，本当の結婚というのは，そのようなものを超越した，与えること，奉仕すること，分かち合うこと，犠牲，自分を捨てることからもたらされる喜び

をその基としています。

若い女性の皆さん，あなたが達成したいこと，努力したいことの目標を立てて下さい。そしてそれを達成するために努力を続けて下さい。よく祈り，謙遜になって，知恵と知識を求めて下さい。皆さんは今，学び備えをする時期にいます。できる限り学んで下さい。目標を高く揚げ，それに向かって努力する時に成長がもたらされます。

ところで，私たちは，姉妹たちの中に未亡人の方が非常に多いことをよく存じています。また離婚した方や，いまだに神殿結婚の恵みにあずかっていない方もいます。私たちはこのような姉妹たちが，私たちの家庭生活に関する話を理解の心を持って聞いて下さるよう望んでいます。惨めな思いを抱かせ，価値のない人間であると感じさせるためにお話ししているわけでは決してありません。教会の指導者たちがよく述べるように，そのような境遇にある姉妹たちの中にも，天父が愛しておられるこの上なく高貴な霊がいるのです。自分に与えられた人生を最大限に生きる人は，その人が天父と同胞に奉仕した度合に応じて報いを受けることでしょう。

自分の好みからではなく，どうにもならない理由のために，本来の女性の役割を今経験できない人は，他の人々を援助するために働くことができます。あなたの才能と時間を誤って使わないように気を付けて下さい。と言うのは，分かち合ったり，与えたりする望ましい方法がすべて今あなたの前に明らかにされているとは限らないからです。

主はまた，どうにもならない状況におかれて，自ら生計を立てなければならない責任を負っている母親がいることも御存じです。主はこのような女性と苦痛や苦労を忘れずに，必ずや祝福を与えて下さいます。

教会はこれからも常に幸福な家庭生活の理想を高く掲げることでしょう。それが私たちに是非とも必要だからです。家庭生活はこの世において幸福を得るための最高の方法であり，次の世の状態を示すものとして主が私たちにお与えになった形態でもあります。

姉妹の皆様，私たちは末日聖徒の家庭の理想を引き続き掲げなければなりません。中にはこのような家庭生活を送る機会に恵まれていない人もいます。だからと言って，その話を止めなければならないということはないでしょう。むしろ，多くの姉妹がこのような家庭を持つ機会にあずかっていないことを心に留めて，真剣に家庭生活について話しているのです。他の多くの事柄は家庭生活の上に築かれるため，このことをないがしろにすることはできません。

若い女性の皆さんは，結婚と子供の養育についてよく計画し，準備する必要があります。これはあなたが神からいただいた権利であり，最大にして最高の幸福に通じる道なのです。また，子供たちが成長し，手がかからなくなったら，自分の時間を有効に使えるようになることも考えて選択する必要があります。あなたが交わるすべての人の生活に恵みをもたらす方法を見いだすべきでしょう。努めて，あらゆる事柄の真理を知り，神の王国建設に貢献できるように備えて下さい。

伴侶を見いだすことは女性の力の及ぶところではないと言うかもしれません。選ぶのは男性であると。ある程度そう言えるかもしれません。しかし，主が娘たち一人一人に望んでおられるのは，再び天父のみもとに帰れるようにふさわしい生活をするという選びをすることです。そうすることが結婚の準備になるのです。

これに関して，大切な原則がひとつあります。この世で福音を聞かずに世を去った人で，もし聞いていたら心からそれを受け入れたであろうと思われる人は，次の世で福音の全き祝福を受けることができます。同じことが神殿結婚についても言えます。すなわち，自分に非がないのにもかかわらずこの世で神殿結婚の特権と祝福にあずかれなかった教会の女性で，しかも機会があったらそれを受け入れ

たと思われる人は，来るべき世でそれらの祝福をすべて享受することができるということです。姉妹の皆様，私たちが皆様のことをどれほど愛し，感謝しているかを知っていただきたいと思います。皆様の勇気と熱意あふれる奉仕，献身的な働きに敬意を表したいと思います。

私は教会の姉妹たちのことを考える時にいつも愛する妻カミラのことを思い，妻の才能と指導性のお陰で私たちの家庭は大きな恵みを受けてきたことを感じます。彼女を，いや彼女と同じ立場にある皆様方を，それほど信頼の置ける者としたものは一体何でしょうか。それには幾つか理由があると思います。

まず第1に，モルモンの女性は一般にたくましく，自立心があり，誠実です。非常に望ましい信条に基づいた生活をしています。教会の初期の時代から，活発な教会員とは信仰が篤く，不屈の精神を具え，節制し，利己心をなくしてよく奉仕する人のことを指してきました。

教会のプログラムはすべて，男女を問わず私たちを一層素晴らしい末日聖徒とするためにあります。また，私たちを天父にさらに近づけ，御子イエス・キリストのように完全な者とするためにあるのです。

王国の偉大な姉妹たちは，夫や家族と共に住み慣れた地を追い出され，次から次へと住まいを変えることを余儀なくされました。しかし彼女たちは，神が自分たちのことを見捨てられたなどと決して考えませんでした。彼女たちは宇宙を治めておられる神，しかも，そのような広大さの中にあってもご自分の子供一人一人に絶えず完全な愛を注ぎたもう神を礼拝していたからです。

皆様は女性であることを誇りとすべきです。自己を哀れむことは見るに忍びません。取り立てて理由もなく自己れんびんに浸る時はなおさらです。実直な女性になることは，いつの時代でもまことに素晴らしいものです。特に救い主の再臨に先立つこの最後の時代に，実直な女性となることは，極めて崇高な召しであると言えましょう。実直な女性の力とその影響力は今日，平静な時代と比べてはるかに大きな効果を及ぼします。そのような女性がこの地上に送られたのは，家庭を守り，豊かなものとするのを助けるためです。そしてこの家庭こそ，社会をつくる最も貴い組織なのです。社会におけるその他の組織は動揺したり，崩壊したりすることがあります。しかし，家庭は実直な女性によって守られるに違いありません。そして家庭は嵐と闘争のただ中にあっても唯一の聖所となることでしょう。

いつの時代にも偉大な女性たちは皆，自分自身の慰めを二の次にして家族の将来に心を配りました。このような女性は，人生の何たるかをよく理解していました。そして求めに応じて，湿地に美しい町を作りましたし，砂漠にバラを咲かせました。

幸福と実りを得る鍵は，利己心を捨てることです。利己心を捨てることは貴いことであり，その他様々な徳を生むひとつの人徳として大切にしなければならないものです。世の中には，私たちが生来持っている利己主義を助長するものが非常に沢山あります。しかし私たちは，男性女性を問わず，そのようなものを受け入れてはなりません。私たちは利己心を捨てて尽くす母や女性たちのお陰で，立派な民となりました。たとえ世の中の一部の人々が利己的なことを説き勧めたとしても，気高い徳を失ってはなりません。

教会の姉妹たちの置かれている状況は様々です。しかし，他の団体と比べて共通点がはるかに沢山あります。一致を唱えながらも最終的には分裂してしまう世の教えに気を付けましょう。主は自分自身を捨てる時に自分自身を見いだすことができると教えられました。この教えに見られる主の知恵に逆らう世の教えが沢山あることに，男性だけでなく女性も注意していただきたいと思います。

優しさを養い，それを保ち続けましょう。世の方法は私たちの心を硬化させてしまいま

す。女性の優しさは直接子供たちの優しさにつながります。教会の女性は自分たちの息子娘を教えるために，また若人に備えをさせるために多大の努力を払っています。この点を間違わないようにしましょう。聖徒たちにとって家庭は苗床です。罪も利己主義も，私たちの霊的な感覚を鈍らせてしまいます。

私は，教会の姉妹たちが扶助協会やその他の教会組織に加わることによって，キリスト教徒らしい奉仕の業に携わって下さることを感謝しています。私は，教会の若い姉妹の皆さんが，若い頃から奉仕の習慣を身に付けて下さるよう望んでいます。私たちが他の人々の問題解決を助ける時，自分自身の問題を新たに見詰め直すことができます。教会の姉妹の皆さんに年齢を問わずお願いしたいことがあります。友人や隣人のために，目立たない奉仕の業に努め励んで下さい。福音の原則に従う時に，必ず証が得られます。ですから，奉仕の業はそれを受ける人だけが恵みを受けるのではなく，与える人をも豊かにしてくれます。

山上の垂訓の中で，救い主は柔和な人，憐み深い人，平和を作り出す人，迫害や誤解によく対処する人をほめたたえています。

女性は愛すること，善処すること，困っている人を思いやることにかけては大きな力を持っています。これを謙遜に示すのが奉仕です。女性はしばしば愛の模範を実践しています。

私たちはだれでも，霊的に成長している時には，協調性や一致，自尊心が高まることは確かです。私たちは姉妹の皆さんが個人の進歩プログラムを実践できるような雰囲気を作りたいと思います。皆さんはこれを実際的なプログラムにして下さい。人に強制されてではなく，自発的に行なうようにして下さい。目標は進歩を促すものでなければなりません。私たちは特別なものを求めてはいません。むしろ姉妹たちが適切な努力を払って自らを高め，自己達成の喜びを見いだしていただきたいと思うのです。

女性の裁縫や料理の技術と同様に，意思の伝達の方法についても考えてみる必要があります。立派な女性というのは，優しい話し方の中にもはっきりとしたものを持っています。あるひとつの技術や特質を伸ばすためとは言え，他のものを犠牲にまでしてする必要はありません。バランスのとれた霊的成長を考えなければなりません。私たちは姉妹の皆様が，家庭の食糧管理にたけると同時に，時間の良き管理者ともなるように心から望んでいます。

私たちは，過去に対して深い感謝の念を抱いている女性は，栄えある将来を築こうと努めている人であることを知っています。姉妹の皆様は社会的教養を身に付けるようにしていただきたいと思います。社会的教養は，「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」という第2の戒めを守るに当たって非常に大切なものだからです。天父との絆を強めようとする女性は，隣人との絆もまた強めるはずです。

神の娘たちは，この地上にただ生きるだけでなく，豊かな人生を送るために必要な実用的技術をないがしろにせずに，神のみ業を畏敬の念をもってながめることができます。年齢に関係なくすべての神の娘たちにこのことが言えます。宇宙の秩序と目的と，幸福な家庭に見られる秩序と一致との間には，人が想像する以上の深いつながりがあります。

母親の皆様が教会での経験を生かして家庭に一層のやすらぎをもたらそうとする時，末日聖徒の家庭に教養が養われることを，私はうれしく思っています。特に，信仰箇条第13条の精神でこれを行なうならば，それが真実であることが分かるでしょう。「もし何にても，徳高きこと，好ましきこと，よき聞えあること，あるいは褒むべきことあらば，われらはこれらをたずねもとむるものなり。」

キリストのような特質を磨くことは，絶え間のない仕事です。それは気が向いた時に行なえばよいと言うものではありません。

姉妹一人一人には，自分の人生の方向を定める権利と義務があります。惑わされないで下さい。また，自分の選んだことに対する責任は自ら負わなければなりません。これが永遠の原則です。刈り入れの律法はここでも明らかに働きます。

自由意志についてはよくお聞きになることでしょうが，ここで再びそのことに触れたいと思います。

自由意志は非常に大切なある事柄を前提としています。それは信頼です。全面的な信頼です。神が私たちを信頼して地上のすべての創造物を託して下さっているように、私たちも神の知識を信頼し，また私たち同士互いに愛し信頼し合わなければなりません。

神は昨日もきょうも，永遠に同じであり，神の目的もまた変わることはありません。モーセの著にはこう書いてあります。「われ神，わが像(かたち)の如くに人を造れり。わが生みし独子の像の如くにこれを造り，すなわちこれを男と女とに造りたり。」（モーセ2：27）

創世記には創造の業について美しく記されています。

「神は彼らを祝福し……

神はまた言われた。『わたしは全地のおもてにある……すべて……をあなたがたに与える。……命あるものには……すべて……を与える』。そのようになった。

神が造ったすべての物を見られたところ，それは，はなはだ良かった。」（創世1：28—31）

このように，神は人を信頼しておられます。子供の歌の中に「私は神の子」という歌があるように，私たちは生まれながらに高貴な存在なのです。神はあなたの父であり，あなたを愛しておられます。天の御父と御母は，あなたを計り知れないほど高く評価しておられます。天の父母は地上の両親があなたに肉体を与えたと同じように，あなたの永遠の英知に霊体をお与えになりました。あなたはかけがえのない存在なのです。あなたは，永遠の生命を求める権利のある永遠の英知から造られているのです。

あなた自身に大きな価値があることについては，疑問の余地はありません。そして，福音の計画の目的は，皆様一人一人に可能性を追求する機会を提供することです。これがすなわち永遠の進歩であり，神のようになることなのです。

あなたの人生を決める者はあなた自身であり，何になるか，何を行なうかを決めるのもあなたであることを承知して下さい。また，あなたの選びが，あなたと関わりを持つ人々の生活をもある程度左右するということを心に留める必要があります。あなたが，かりに何かに成功を収めたとしましょう。それは単に運が良かったからではありません。成功は信仰と働き，祈り，絶え間ない努力によってもたらされるのです。地上におけるあらゆる事柄，神の賜を使って何をすることを選ぶかは，自由意志の問題です。私たちは，この自由意志と生命がいかに大切かを思う時，私たちの今住んでいるこの世界を憂慮する気持ちが起こってきます。この世には悪と欲求不満と醜悪が渦巻いています。ですから，私たちは義なるものを確固として擁護しなければなりません。さもなければ私たちは，打ち倒されてしまうことでしょう。

主は私たちが何の問題もチャレンジもなく一生を送れるとは約束されませんでした。しかし，信仰があれば，この世において身に振り懸かるものに対処する力が与えられると約束しておられます。

末日聖徒は「努めて善き業に従う」ことにより，どのような状況にあっても希望の光を持ち続けることができます。また，喜びと主の愛さえ感じることができるのです。

家庭はすべての人にとって，安らぎの場であり，人格を高め，真実を語る場です。家庭はそこに住む両親と，子供が皆絶えず成長し，進歩できるように，良い環境を与えるものでなければなりません。家庭がこのような環境

となるかどうかは，各人が生活の中で正しい選択をすることに心を配っているかどうかによって決まります。

サタンが攻撃の的としているのは，家庭です。サタンは家庭における道徳の神聖さを崩そうとねらっています。そして，「ニューモラル（新しい道徳）」という名の下に，性の解放を提唱しています。これは，「あなたは姦淫してはならない」（出エジプト20：14）という主の戒めに逆らって，夫婦間の忠誠と貞節を破壊するものです。

愛する姉妹の皆様，「新しい道徳」というものなどあろうはずがないことを理解して下さい。道徳に関する教会の教えは皆様が御存じのことと思いますが道徳には時代遅れで古臭いというものはないことをはっきりと申し上げたいと思います。

皆様が人生の選択をする時，このことを忘れないで下さい。神は昨日もきょうも，そして明日も変わることのない御方です。神の誓約や教義は決して変わることがありません。たとえ太陽が冷え，星がその光を放たなくなろうとも純潔の律法は依然として神の世界と主の教会の基を成すものです。教会はその時代の人々が受け入れないからといって，価値のあるものを価値なしとは決してしません。教会は，正しく，かつ神が告げられたことは，いつの時代にもそれを守り通します。

純潔の律法は，結婚前の純潔と結婚後の貞節を要求します。これは男女双方に言えることです。純潔の律法は幸せな結婚生活と家族の一致に欠かせない信頼を築く土台となるものです。

サタンはまた，神が定められた家庭生活の喜びと神聖さを打ち壊そうと，別の面からもねらっています。それは離婚です。心痛，苦悩，悲しみ，時には悲惨な結果をもたらして破壊行為を進めています。私たちは時折，離婚の悲しみや落胆について口にしますが，それはいくら強調してもし過ぎることはありません。

どのようなことを見聞きしているかに関係なく，また，周囲の女性たちの置かれている状況の違いに関わりなく，末日聖徒の女性は，主が母親であることを神聖かつ最高のものとして評価されていることを理解する必要があります。主は，神の娘たちに，子供を産み養育する偉大な責任をゆだねられているのです。

これは，女性にしか与えられない偉大な業です。女性が子供を産むことをやめたら，子孫は絶えてしまうでしょう。この世での生活は特権であり，永遠に進歩するために必要なひとつのステップです。母なるイヴはこのことをよく理解していました。あなたもこれを理解しなければなりません。

子供を産み育てることは容易なことではありません。しかし，簡単なことばかりしていては自己を進歩成長させることはできないのです。今日，「できるだけ子供を少なく」という醜悪な叫び声が各地に広がっています。避妊のための薬や手術，さらには憎むべき堕胎までも行なわれ，その数は途方もない数字に上っています。正当な理由もなく母親がまだ生まれない子供の命を奪ったり，そのような行為に力を貸すとは，何と恐ろしいことでしょう。

家庭の主婦になると雑事に追われ，束縛されると，いろいろなことが言われています。しかし，福音にあってはそうではありません。それぞれの新しい生命の中に神の属性があり，その生命が育ち成長することのできる環境を作り出すところにこそチャレンジがあるのです。永遠に存続する家庭を築こうとしている男女の間には協力関係があります。

結婚生活は協力関係によって支えられます。夫婦が互いに生活の一部を担い合うのです。たとえ与えられた務めや機会を無視する男女がいたとしても，この計画自体は決して変わりません。

結婚生活は協力関係によって支えられると申し上げましたが，完全な協力であると付け加えます。私たちは，末日聖徒の女性にこの

永遠のみ業にあって，沈黙の協力者，力を出し惜しむ協力者にはなっていただきたくないのです。どうぞ，献身的で，完全な協力者となって下さい。

母親にはひとつの神聖な役割があります。母親は夫と共に働くだけでなく，神の協力者として，神の霊の子供を産み，さらにその子供が主に仕え，戒めを守るように導きます。尊い，身元の確かな，立派に成長した子供を託される者となることほど神聖な務めがあるでしょうか。教会は，子供の人生に影響を及ぼす恐れのある流行や不品行，律法に対する違背には常に断固たる立場を取ることを改めて断言いたします。

私がこれらのことをここで皆様に率直にお話しましたのは，今日数多くの重大な問題を引き起こしている世の傾向を憂慮し，神のまことの娘として皆様に大切な選択をお願いしたいからです。

よく理解していないのではないかと言われないようにして下さい。このことについて深く考え，祈って下さい。確かにその通りですから。女性であることが自分に与えられた特権であると言えるように，よく備え，完全な生活を送って下さい。

私たちは，教会の姉妹の皆様に感謝しています。若い方も年輩の方も，言葉と行ないによって教会を擁護して下さることを感謝しています。私たちは皆様を愛し，誇りに思っています。

モロナイはジョセフ・スミスに，予言者ヨエルの言葉を引用して述べています。私もそれを皆様に申し上げたいと思います。

「その後わたしはわが霊を
すべての肉なる者に注ぐ。
あなたがたのむすこ，娘は預言をし，
あなたがたの老人たちは夢を見，
あなたがたの若者たちは幻を見る。
その日わたしはまた
わが霊をしもべ，はしためにに注ぐ。」
（ヨエル2：28—29）

皆様の上に，そして皆様の愛する人々の上にいつも主の恵みがありますように。イエス・キリストのみ名によって心からお祈りします。アーメン。

前若い女性中央管理会会長
ルース・H・ファンク

「来たれ，予言者より　み言葉聴け」

もしも私たちが最も小さい点についてでも主に仕える器となることができたら，これほどの喜びはありません。これは何と気高い光景でしょう。次代を担う若人の歌声に，私たちは心の安らぎを覚えました。今歌声を聴かせてくれたこれら神の娘たちは，神の王国の開拓地における守護者として大いに期待されている勇気ある姉妹たちで，およそ30万の若い女性を代表しています。音楽の中に表わされた彼女たちの証は何と素晴らしいものでしょう。これは歴史に残るひと時と言えましょう。遠く隔てた所にいても，みたまは一致をもたらします。私たちはこうして，神の予言者の言葉を聴くためにこの場に集まりました。国際的に名高いある編集者がこう語っていました。「現代の世の道徳の退廃を解決する策があるとすれば，それは絶えざる啓示を主張するモルモン教会を通して与えられるものにほかならない。」まさにその通りであると，私は心から証申し上げます。

今宵，予言者は特に私たち，主の教会の姉妹たちのためにお話し下さいます。しかし

同時にこのメッセージは，聴く耳と理解の心を持つこの世のすべての女性に与えられるものとも言えましょう。

この教会の名称にそのみ名を付けられている御方は，ご自身について知っているいないを問わず，すべての人々を等しく無条件に愛しておられます。どのような状態にあろうと，手を差し伸べて下さるのです。この地上におけるその御方の代弁者も同様です。さあ，来て，予言者よりみ言葉を聴きましょう。私は31年間にわたって中央管理会の様々な責任をいただき，神より召された4人の予言者の霊感あふれる指導の下で働けたことを心から感謝しています。

しかし今宵は召しという外とうを脱ぎ，組織の公式な代表者という立場を離れてここに集いました。女性として，妻として，母として，主のはしためとして，それ以上に，神の娘，神の教会の一会員として参加しています。私はこのことを私の声の届く限りすべての方方にお伝えしたいと思います。私に与えられたこの大きな責任が無事に果たせるように天父の助けを願っています。たとえ私たちは遠く離れた別々の地域に住んでいようと，神の愛によって私たちがひとつとなることができますように。

私は自分が話せる範囲のことを皆様にお話すればよいのか，話すべきことをお話しなければならないのかと，熱心に祈っていました。その結果，私個人の神聖な経験を話すようにとのみたまの勧めを感じました。私はイエス・キリストが実在し，しかも身近におられ，私たちに無限の愛を示して下さっていることを絵を見るようにはっきりと知っています。私はこれまで幾度となく公の場でそのことをお話しようかと思いましたが，いつも申し上げることができませんでした。しかし，今宵みたまがそのことを話すようにと私にささやきますので，是非お話したいと思います。

救い主が私たち一人一人に深い関心を抱いておられることを感じていただけたら幸いです。救い主は確かに実在しておられます。私たちの身近におられ，私たちの想像以上に深い愛を注いで下さっています。

私の最初のふたりの子供は何事もなく娘として立派に成長してくれました。けれども，3番目の子供を妊娠している時のことです。私は危険な状態に陥り，間もなくそれが生命に関わる重大な問題であることが分かりました。医師たちは，私が命を落とすか，治療のために堕胎手術をするか，ふたつにひとつだと説明しました。しかし聖霊は，選択の余地はないと私に告げました。私は子供を産むことにしました。このような状態に置かれた人がすべて私と同じ証を受けるとは限らないでしょうが，私は自分に与えられた啓示を受け入れました。苦悩の数カ月が過ぎました。それは主に嘆願する日々であり，私の身近にいた人々は皆主に嘆願してくれました。また，天の祝福を通して神権の力を感じる日々でした。こうしてついに私は出産の日を迎え，健康な男の子を授かったのです。ひとり息子の誕生です。母子ともに元気でした。これは私が今宵話すようにみたまの勧めを感じた出来事のはじまりに過ぎません。

秘蔵の息子がもうすぐ3歳という頃でした。ある日，何の徴候もなく突然息子の呼吸が止まり，倒れたのです。まるで死んでしまったかのようでした。夫は留守でしたので，私は10歳の娘のナンシーの助けを借りて息子をベッドに寝かせました。私は息子の命を取り留めようと動き回りながら，主に助けを求めました。ひとり息子の命を救って下さるように嘆願しました。もし息子の命を助けて下さるなら，彼が神のみ手の器となるように一生懸命に教え導きます，と私は約束しました。パトカーが非常器材を持って来てくれました。私は息子の命を助けて下さいと必死で祈り続けました。間もなく医師が到着しました。最終的な応急処置として興奮剤が直接心臓に注射されると，息子は泣き声を上げたのです。私の祈りは答えられました。こうして思い掛

けない方法でさらに強い証を得たのでした。

翌朝，息子は父親のひざの上で，「ぼく，イエスさまのひざの上にのってたの」と言いました。「イエスさまはぼくの目をじっと見てたよ。ぼく，とてもうれしかった。いつまでもイエスさまのそばにいたかったんだけど，イエスさまはぼくに，家に帰るようにっておっしゃったの。」息子はこのように話してくれました。今，息子は24歳になりますが，この時間を超越した一時に味わった主の深い愛を今でもはっきりと覚えているそうです。健康でたくましくなった息子は，結婚して男の子に恵まれ，現在主に仕えています。

ほんの一時にしろ救い主の愛を感じ，知ったこの子のように，私たちも年齢に関係なく女性として，神の娘として，また妻として，母親として，常に人々の前に模範を示すように求められている組織の一員として主をよく知り，主を愛し，主に仕えることができますように。主にお会いできるように努めて下さい。主の愛に報いて下さい。そしてそれを人人に示して下さい。C・S・リーバイスは，「神々や女神の集まりの中に住むことはただならぬことである」（*The Weight of Glory*「栄光の重さ」pp.14—15）と言っています。この厳粛な言葉の意味をよく考えてみましょう。

イエス・キリストは私たちの救い主であり，長兄であり，友です。私たちが拒まない限り主は身近にいて下さいます。私たちの無限の喜びと幸福は，主との交わりの上に築かれるものです。落胆や悲しみ，チャレンジのただ中にあっても，私たちが主に近づく時に平安がもたらされます。困難に遭遇した時は，贖い主への深い愛を抱き，勇気と寛大な心をもって，また感謝の念を抱いてそれに対処したいものです。私たちに注がれる主の愛は計り知れません。その代わりに主は何と言われたでしょうか。「わたしがあなたがたを愛したように，あなたがたも互に愛し合いなさい。」（ヨハネ13：34）

これらのことをへりくだり証申し上げます。それと言うのも，これが神の教会であることを知っているからです。天父は，その独り子，救い主イエス・キリストと同じように生きておられます。主のみ言葉は今宵，主の選ばれた代弁者スペンサー・W・キンボール大管長を通して語られます。予言者の声に耳を傾けて下さるよう，イエス・キリストのみ名によりお祈り致します。アーメン。

若い女性中央管理会会長
エレイン・キャノン

「上に」行きたいと思うなら，「上に」行くものに乗らなければならない

キンボール大管長をはじめ教会幹部の皆様がご出席下さり，感謝に耐えません。また，この放送をお聴きの皆様にも，私たちの愛とまごころをお伝えしたいと思います。素晴らしい母親であり，娘である皆様，ようこそこのタバナクルにおいで下さいました。（私の母も娘たちもこの歴史的な集会で予言者の言葉を聴こうとこの会場に来ています）本当に素晴らしい光景です。

私は今，女性であることを喜びとし，時満ちたるこの時代に末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることに誇りを感じて，この場に皆様と集っています。まだ教会に入っていらっしゃらない方々もようこそおいで下さいました。この会場には，向かいの建物で開かれた若い女性主催の特別集会から直接この場においでになった方も何人かいらっしゃる

ことでしょう。私たちはカミラ・キンボール姉妹やタナー姉妹をはじめ，教会幹部の夫人の皆様，またお嬢さんのような方々がいらっしゃることを本当に光栄に思います。また前若い女性中央管理会会長であるファンク姉妹と副会長の皆様に賞賛の言葉をお贈りしたいと思います。３人の姉妹の働きに心から感謝しています。皆様にはこの３人の模範にならって自らの生活を整えるようにお勧め致します。この３人の姉妹たちは，主を身近に感じて生活され，予言者に忠実に従ってこられました。そして教会に大きな貢献をなさいました。また，数々の困難な状況にも耐えて，そこから生活に美しさを見いだしてこられました。私たちが模範とすべき誉れ高い姉妹として，ほかに，同席のルイーズ・レイク姉妹，ベル・スパッフォード姉妹がいらっしゃいます。

今晩，12歳以上の教会の姉妹たちが出席しておられるこの集会の模様は，初めての試みとして全世界に中継放送されています。私たちは今，放送という科学技術によって結ばれています。しかし同時に，主イエス・キリストの愛の力により互いの心を感じ取ることができます。この瞬間を教会のすべての姉妹の統一の始まりにしたいと思います。個人的な事柄はさて置いて，適切に物事の優先順位を付けていただきたいと思います。この集会は，主の代弁者スペンサー・W・キンボール大管長のマントで私たちすべての者をおおって下さるとても大切な会です。今晩キンボール大管長がお話しになることは，主イエス・キリストご自身が私たち姉妹に語られることです。このことはキリストがその昔語った次の言葉の中にはっきりと示されています。「もし汝ら，われが汝らの中より選び出して汝らを教え導く者とし，汝らの僕となしたる……者の言葉に聞き従うならばさいわいなり。」（IIIニーファイ12：１）

「およそ聖霊に感じたる時語るところはことごとく……主の言となり，主の声となり，世を救いに導く神の能力となるべし。見よ，……これ主の汝らに約束するところなり。」（教義と聖約68：４－５）ですから，キンボール大管長，私たち教会の姉妹たちは心から大管長を支持し，大管長のお言葉に従いたいと思います。

ここで，キンボール大管長との経験についてお話したいと思います。この話から，キンボール大管長が素晴らしい方であり，力強い予言者であることがお分かりいただけると思います。２年ほど前のことです。私は教会本部ビルの地階でひとりでエレベーターを待っていました。月曜日の朝の早い時間であったため，出勤ラッシュの前で人影はほとんどありませんでした。エレベーターが下りてくると，突然どこからともなくふたりの警備員が現われて，扉がしまらないように押さえてくれたのです。私のためにそのようなことをしてくれるはずはありません。そこで見回すと，キンボール大管長と秘書のヘイコック兄弟がこちらに向かってこられる姿が見えました。そこで私は数歩下がって道を譲りました。キンボール大管長はエレベーターの前にお立ちになると，次のエレベーターを待とうとしている私をご覧になって，やさしく声をかけて下さいました。「お早うございます。」私も「お早ようございます，キンボール大管長」と答えました。すると大管長は「お乗りにならないのですか」と言われました。「ええ－」と私はどぎまぎしながら「大管長がおいでになるとは思いませんでしたから」と言った。すると大管長は「上にいらっしゃるのでしょう」とお尋ねになるので，「はい」と答えました。「では，どうしてお乗りにならないのですか。どうぞお乗りなさい」と言って下さったのです。そこで私はエレベーターに乗りました。大管長のお誘いによってエレベーターに同乗することができて本当にうれしく思いました。

今晩キンボール大管長はその誘いのわくを広げ，特に私たち女性に対して，大管長が救い主に従っておられるように，大管長に従う

ことを求めておられるように感じます。「上に」行くためには，「上に」行くものに乗らなければなりません。これは分かりきったことです。指導者と自称する人々の多い世にあって，キンボール大管長こそ私たちが神のみもとへ帰れるように導いて下さる指導者です。

姉妹の皆様，この教会は世の人々を救う教会です。私たち女性はそのためにどのような役割を負っているでしょうか。少女は将来の母親となります。女性は神権者の伴侶であり，次の世代を形成します。私たち女性には，愛すること，良い感化を及ぼすこと，結婚すること，母親となることなどの賜が与えられます。けれども，これは主の定められた時に与えられるのです。（そのことをよく心に留めて下さい。まだそれが与えられていなくても，遅かれ早かれ与えられることでしょう。ふさわしい生活をしていればその時は訪れます。そして立派な男性をひたすら願ったことや，神聖な責任を果たそうとしたこと，時期を待ったことがむだではなかったと思うことでしょう）生活の細々した点やタイミングが本当に大切なすべてではありません。それらは単に既婚者か独身者か，子供に恵まれたか恵まれなかったかの違いを示すものでしかありません。それらは大したことではありません。重要なのは，私たちと主との関係，ならびに必要な時に主がいつも身近にいて下さるという揺るぎない証です。

私たちは，私のこの声も及ばない異なった文化的背景を持っており，各人の生活環境も様々です。（時々パンの焼き方などこの世的な事柄について意見の合わないことがあります）けれども，私が強く感じることは，誓約の民としての道を歩まなければならないということです。どこにあっても神聖な習慣は守らなければなりません。この集会の話を聴くことによって，皆様は神の娘として歩むべき道をはっきりと知り，優先すべき事柄をよく理解できるに違いありません。人の考えは様々です。しかし永遠の原則は決して変わりません。姉妹の皆様，予言者の言われることには議論の余地はありません。ですから，家族，貞節，主に対する責務，地域社会における責任，福音を伝えること，これらに関して女性としての力強い一致を皆様に望みたいと思います。そのために役立つものとして，ふたつの大切なことがあると思います。それは年齢を問わず，体が不自由であろうとなかろうと，平和な時であろうと困難な時であろうと，特権が与えられていようとなかろうと，私たちすべてが実行できるものです。まず，自分自身を強めること。次に，人々に仕えることによって主に仕えることです。このような行ないを通して，個人の証を得るのです。そしてその証を人々に述べ伝えます。また，福音の原則を学び，それを人々と接する際に応用します。個人の記録をつけ，系図を調べます。そうすれば，声高らかに喜びをもってこう叫ぶことができるでしょう。「私は従順です。人々を強めるために役立っています。人々もまたそうしてくれるでしょう」と。

キリストの時代に，ある時人々がキリストの周囲に群がっていました。その時，わずらっているひとりの帰人が信仰をもって主に手を触れました。大勢の人が群がる中で，私にさわった者はだれかとお尋ねになったキリストを，弟子たちは笑いました。しかし，キリストはその婦人の触れ方が他の人とは違うことに気付いておられたのです。彼女は主の心を捕えたのでした。そしてキリストは彼女を癒されました。

姉妹の皆様，私たちもそのような触れ方をしなければなりません。ただ単にキリストに近寄り，祝福を求めるだけでなく，手を伸べて信仰によって結ばれなければなりません。きょう予言者は，その方法を私たちに示すためにこの会においでになりました。大管長があの朝早く私に教えて下さったように，「上に」行くためには，「上に」行くものに乗らなければならないのです。

私の話を聴いておいでの方々の中に，疑問

を抱いていたり，証がまだ強くなっていない方がいらっしゃれば，私たちの証を信頼して下さい。私は神が生きておられることを知っています。イエスがキリストであり，私たちに必要な贖い主であることも知っています。主は私たちを愛して下さっており，主の教えは私たちに喜びを与えてくれます。キンボール大管長がタナー副管長やロムニー副管長と共に私の頭に手を按き，私を若い女性中央管理会会長に任命して下さった時，私は聖霊の力を通して，確かにキンボール大管長が予言者であるという強い証を得ました。そのことを，私の初航海の特別なこの機会に証できますことを心から感謝しています。姉妹の皆様，この教会はまことの教会です。神権の力を借りて母親としての務めを果たすこと，これは私たちにとって祝福です。

日々チャレンジに直面する時，また計画通りに事が運ばない時にも，主の側に立ち，予言者と共に歩み，進んで下さいますように，イエス・キリストのみ名によってお祈りします。アーメン。

扶助協会中央管理会会長
バーバラ・B・スミス

女性に与えられた最大のチャレンジ

キンボール大管長，タナー副管長，ロムニー副管長ならびに愛する教会幹部と姉妹の皆様，この歴史に古いタバナクルに神の予言者からの勧告を聴こうと教会の姉妹たちが一同に会してから3年経ちました。私は今，姉妹たちが共に集う時の温かい雰囲気，また主のみ名により申し合わせて集合する時にもたらされる安らぎと慰めを久しぶりに心ゆくまで味わっています。

世界の歴史を見ても教会歴史を見ても，数数の出来事のあった3年間でした。また，ある面ではチャレンジに富んだ歳月でもありました。女性の役割や社会における女性の立場について，これほど多く語られ，記事になった時代はありません。

私は恵まれてこの3年間に多くの皆様と集会を開き，このめまぐるしい世の中にあって主が望んでおられることを熱心に求めている皆様の姿を拝見して参りました。ある集会の後，改宗して間もないひとりの方が近寄ってきて，私にこう質問されました。「モルモンの女性とはどのような女性ですか。」日本からは次のような問い合わせがありました。「私たちには子供が沢山いますが，私たち夫婦の両親の育て方には同意できません。どのように子供たちを育てたらよいでしょうか。」また，家族の長としての責任も果たさなければならない姉妹たちから，次のような質問が寄せられています。「ほかに生活手段がない場合に，生計を立てながら家庭にいて子供たちの教育に当たるにはどうすればよいでしょうか。」また独身女性からは，「家族中心のこの教会の中で，まだ夫のいない私は何をすればよいのでしょうか。神の王国を建設するために私にもお手伝いできることがありますか」という質問が寄せられています。もちろんあります。女性の働きは，妻として，母として，姉妹としてどれも，王国において欠くことのできないものです。

私たちは扶助協会の姉妹として崇高な伝統を受け継ぎ，チャレンジに応え，偉大な者となる力を授かっています。扶助協会の組織を通して，主の娘たちのために主のプログラムが与えられています。神の子供たちの苦しみを軽減するために尽力すること，これこそ主の

み業の基となるものです。

予言者ジョセフ・スミスは姉妹たちに，扶助協会は「貧しい者を援助するだけでなく，その魂をも救わなければならない」と言われましたが，これは今日の私たちに与えられたチャレンジでもあります。

前回教会の姉妹たちが一同に会し，特別な関心事について話し合って以来，私たちは現在数多くの問題と対決せざるを得ない状態に置かれています。

福音の教えを広め，思慮深い分析と愛の精神をもって現代の諸問題に取り組むことは，大切なことです。

予言者ジョセフ・スミスはノーヴーにおいて，初期の扶助協会の姉妹たちにこう述べています。「私たちは自分たちの住む社会の道徳的風潮に対する責任を負っている。市民としての責任をなげうつことはできない」と。

ユタにおける教会初期の時代に，扶助協会の指導者をはじめ，地域社会の信頼できる女性たち，教会の幹部の兄弟たちが力を合わせて，聖徒たちの間にも婦人参政権を獲得しようと努力しました。しかし，それは社会一般の傾向とは合っていませんでした。州政府に必死に働きかけることからして，これは賢明なこととは思われませんでした。しかし，婦人参政権は義にかなったことでした。そのため，ユタ準州の最初の議員たちは全員一致でそれを支持し，州法として明文化したのです。

今日，多くの教育の機会に恵まれ，参政権も得ている末日聖徒の女性は，進んで社会の諸問題の解決に乗り出さなければなりません。責任ある市民として行動しなければなりません。

それにはどうしたらよいでしょうか。

ヘンリー・ワード・ビーチャーはこのように言っています。「ほとんど真実であるというものに真実はない。しかも過ちを招く危険性が極めて高い。真実に近いものというのは人を迷わすからである。」

今日の世の中にあって，私たちに与えられた最大のチャレンジは，福音の教えの精神と一致した諸問題の解決策を見いだすよう努めることだと思います。

そのために必要なものが3つあります。

第一に，祈りです。欺かれないように，また主の律法に従って主を身近に感じて生活できるように絶えず祈ることです。そうすれば個人的に取り組んでいる問題に必要な光と真理を見いだすことでしょう。

第2に，聖典です。聖典を学びましょう。聖典の中で主が特定のひとりに言われたことは，すべての人に言われたことだからです。救い主の生涯を研究して下さい。救い主は，私たち一人一人にとって模範とすべき御方です。

第3に，現在私たちを導いて下さっている予言者の言葉に耳を傾けることです。回復の偉大なるメッセージのひとつは，天が開けて，神が油注がれた予言者を通して私たちを導いて下さっているということです。

政治的な事柄に関しては，問題となっている事柄を研究し，自らの自由意志を働かせるようにとキンボール大管長は勧めておられます。また，真理の原則と一致した指導者を選び，プログラムを計画するように勧告されました。大管長は私たちに自主的に行動するように語っておられます。

道徳に関しても，キンボール大管長はこれまで以上に具体的な勧告を与えておられます。堕胎や同性愛，ポルノ，その他女性にかかわりのある事柄について，率直に勧告しておられます。モルモンの女性は，これらの勧告を受け入れることも拒むこともできるということを知っています。しかし，この勧告を拒否する時には重い責任を負うということも承知しておかなければなりません。道徳上の問題の核心を見極め，その行く末を考え，そのようにならないよう人々に警告を与えることは，予言者の召しです。時には予言者の指示に同意できずに，警告に従わない人もいます。しかし，やがて予言者の言葉が真実であるこ

とが分かるはずです。

予言者の警告に従う人もいます。ヨナがニネベに遣わされ，この大きな悪の町の崩壊を予言した時，「ニネベの人々は神を信じ，断食をふれ，大きい者から小さい者まで荒布を着た」（ヨナ３：５）と記されています。そして彼らが悔い改めて悪の道を離れたので，神はその町を滅ぼされませんでした。

この夏，女性のための記念像がノーヴーで献堂された折に上演された劇「エリザベスのお陰で」の中で，エリザベスは最後に言っています。自分には直面するすべての問題は解決できないし，ことごとくのチャレンジに応えることもできない。しかし，自分にできないことは他の人々がしてくれる，と。そして劇の終わりに，観客は，ひとりの女性がその直系子孫に及ぼした大きな影響力に驚くのです。彼女の息子や孫，そのまた息子や娘が宣教師となっておびただしい数の人々に福音を宣べ伝えるのです。

このことは女性が過去数十年間にわたってなしてきた，女性ならではの伝統的かつ進歩的な，偉大な貢献と言えるでしょう。女性のこの働きを重視して続行することが大切だと私は思います。女性はこの召しの重大さを理解しなければなりません。このほかにも解決しなければならない問題は数多くあります。そしてそれの解決に取り組む責任が女性にはあるのです。私たちは，できる限りあらゆる面で自分の持てる才能を生かさなければなりません。そうする時に，今日世の中の問題を解決する，最良のものをもたらすことができることでしょう。

私たちにとって大切なのは，心を尽くし，勢力を尽くし，思いを尽くし，体力を尽くして主から与えられた務めを果たすこと，すなわち，私たちと，私たちが感化を及ぼせる人人が神の王国で昇栄できるような生活をすることではないでしょうか。

私たちはこの務めを果たすために召されています。この教会の姉妹たちは夫や息子，兄弟たちと手を取り合ってこの務めを果たすのです。

主の祝福があって私たちが女性として永遠の将来を見通せるようになれますように。愛と一致の精神をもって，忠実にこのみ業を進めることができますように，イエス・キリストのみ名により，へりくだってお祈りします。アーメン。

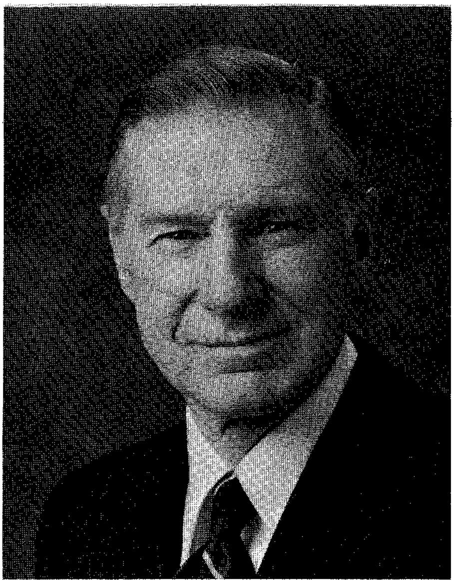
教会幹部の紹介

十二使徒定員会会員

ジェームズ・E・ファウスト

土曜日の午前の部で，十二使徒定員会会員として支持を受けたジェームズ・E・ファウスト長老は，会の終了と同時に教会幹部たちから握手を求められ歓迎を受けた。

感慨無量の面持ちで歓迎にこたえながら，ファウスト長老は教会幹部の夫人席に足を運んだ。「家内はいますか？」夫人のルース・ライト姉妹もほかの姉妹たちから歓迎の抱擁を受けていた。夫人は夫の手をとると，無言のまましばらくその腕にすがっていた。そこには言葉以上のものがあった。



「申し分ない妻です」とファウスト長老は語る。「私を支え，いつも助けてくれます。最高の伴侶です。このような愛が示せる相手は，世界のどこを捜しても彼女以外にいません。」

ファウスト姉妹の力の大きさは，ファウスト長老が歴任した数々の教会の責任によく表われている。そのほか長老は弁護士を23年間務め，地域の活動にも積極的に参加してきた。過去に受けた教会の責任としては，監督，ステーキ部高等評議員，ステーキ部長，地区代表，十二使徒定員会補助，七十人第一定員会会長がある。

十二使徒に召されるまでは，国際伝道部伝道部長，南米担当ゾーンアドバイザー，教会教科課程部管理部長，3つの月刊誌の編集長，デゼレトニューズ出版社取締役副社長を務めていた。

最も心に残る教会の召しについて尋ねたところ，次のような答えが返ってきた。「これまで教会で経験してきたすべてのことに感謝しています。私にはそのような訓練が必要でした。けれども，特に心が残っていることと言えば，ハロルド・B・リー長老がまだ十二使徒の頃，私共のステーキ部を訪れて下さり，先任高等評議員を副監督に任命した時のことです。その時リー長老はこう言われました。『教会の中でどの職が高く，どの職が低いなどということはありません。私はMメンのアドバイザーの責任が大好きでした。』私もその通りだと思います。特にどの職が重要だと申し上げることはできません。ただし父親になることは別です。」

ここでファウスト長老が言った「父親」とは肉親の5人の子供だけでなく，「嫁」や，

「婿」のことをも考えて語った言葉である。ファウスト長老には5人の子供がおり，4人はすでに家庭を持っている。ジムとシェリー・ファウスト，ジャンナとダッグ・クムズ，マーカスとスーザン・ファウスト，リサとスコット・スミス，それにロバート・ファウストである。

ファウスト長老は，ジョージ・A・ファウストを父，エイミー・フィンリンソンを母として，1920年7月31日にユタ州デルタに生まれた。後に家族はソルトレーク盆地に移り，父親はそこで弁護士，次いで地方裁判所の判事を努めた。

ファウスト長老は高校時代，陸上競技とフットボールの選手を努め，ユタ大学では4分の1マイルリレーと1マイルリレーで活躍した。長老はブラジルで伝道に従事し，その後合衆国空軍に入隊し，1942年に少尉となった。長老が夫人とソルトレーク神殿で結婚したのは戦時中のことである。1948年，ファウスト長老はユタ大学の法学部を卒業した。

仕事においても活躍し，1962－63年にかけてユタ州弁護士協会の会長を務めた。また，合衆国弁護士雑誌のアドバイザー，ユタ州における合衆国最高裁判事選定委員会委員，ユタ州議会議員（1949－51年），ケネディー大統領時代の民権と人種問題に関する弁護士委員会委員，また現在はユタ州憲法改正委員会委員とユタ州友好協会の役員を努めている。

これらの経験のどれも，使徒の職に召される備えをするのに十分役立った。「よく分からないので十分に説明できないのですが，この度の召しはこれまで社会で経験した事柄とはまったく違うものです。私は自分を省みて苦しみ，眠られない日々が続きました。自分が無力で取るに足らない者であることをつくづくと感じました。

しかし，快い確信と慰めが与えられました。教会幹部の皆様の愛と思いやりに励まされました。彼らほど人に心を配り，温かく接する人々はいません。とりわけ，キンボール大管長，タナー，ロムニー両副管長に感謝しています。大管長会と十二使徒会の皆様から按手を受けた時，私の心は慰めで満たされました。

支持の挙手をして下さった会員の皆様に心から感謝致します。このように支持していただけることをうれしく思います。」

ファウスト長老は，会衆の前で述べた証を再び力強く語った。「教義と聖約には『聖霊によりて，イエス・キリストは神の子にして而も世の人の罪のため十字架につけられたるを知る』（46：13）みたまの賜について記されています。

私は福音のすべての原則を完全に理解しているわけではありません。まだ分からない事柄が沢山あります。しかし，証はいつも持っています。私にとって信じることはたやすいことです。これが自分だけの力で得られたとは申しません。これは賜ですから，私は，ジェレドの兄弟のように『疑わずに』知ることができたことを心から感謝しています。」

七十人第一定員会会長

W・グラント・バンガーター

ウイリアム・グラント・バンガーター長老は，穏やかな話し方をする落ち着いた人である。その長老がひんぱんに使う言葉が，「急いで」であることは興味深い。

「私は十二使補助に召されて以来4年間，数々の経験を通して福音の教えを学んできました」バンガーター長老は語る。「キンボール大管長が非常に急いでおられることを感じます。主が望んでおられることを行なおうという大管長の意向に添いたいと思います。福音を急いで世の人々に告げ知らせる必要があることを感じています。」

「急いで」という言葉は，長老が「恋人」と称しているブラジルにおいては，特に鋭い響きを持つ。この国は長老が1939―41年にか

けて宣教師として最初に働いた地であり，1958－63年には伝道部長として，ごく最近では地域担当教会幹部，また1976年10月1日からは七十人第一定員会会員として担当した地である。「この国では数百万の人々が教会に入るはずです。主はそう望んでおられますから，そうなるはずです」と長老は語る。

バンガーター長老が七十人第一定員会会長に召されたのは，総大会を2日後に控えた「あわただしい木曜日の午後」のことであった。その日，ほかにも数人の教会幹部が新たに召された。「面接の初めにキンボール大管長は私に，七十人第一定員会会長会に空席ができるので，そこに私を召したいとおっしゃいました。私は力が抜けてしまいそうでした。

キンボール大管長は温かく親切に接して下さいました。ブラジルにおける私たちの働きに感謝を示し，私を抱きしめて，これまで私との間に交わされた親交の数々をお話しになり，私の気持ちをなごませて下さいました。」

バンガーター長老はこの召しに対する家族の反応について，涙をこらえながら次のように語ってくれた。「家族は私にもっと大きなことができると思っていますので，この召しについては別に驚きませんでした。母は，私がこの新しい召しにあずかることを1週間前から知っていたと言うのです。」

バンガーター長老は10人兄弟で，それぞれ教会のために献身的に働いている。「母はハンナの精神をもって私たちを育ててくれました。私たちはできることは何でもさせてくれましたが，主に仕えることを第一としました。私が若くしてステーキ部長に召された時，父は親しくしているリー長老やキンボール長老をはじめ，数人の教会幹部の方々から『立派な息子』さんですねとおほめの言葉をいただいたそうです。すると父は決まってこう答えたのです。『私には立派な息子が5人います』と。実際その通りです。」

バンガーター長老には，33歳から13歳まで10人の子供がいる。夫人のジェラルディン姉

妹について長老はこう語る。「彼女は25年間にわたって少なくとも3名の補佐分の働きをしてくれました。」

バンガーター長老は，ウイリアム・ヘンリー・バンガーターを父，イザベラ・ボーデンを母として，1918年6月8日にユタ州グレンジャーに生まれた。ユタ大学を卒業後，兄弟と一緒に建設業を営んできた。

バンガーター長老の新しい召しに対する態度には，奉仕に対する彼の生涯の信条がうかがえる。「この新しい召しを光栄に思い謙遜に受けたいと思いますが，どのようにしたらいいのか心配です。」しかし，バンガーター長老を知っている人は，信頼の気持ちをもって長老を見守ることだろう。

☆　☆

七十人第一定員会会員

F・バートン・ハワード

F・バートン・ハワード長老は，教会にあって驚くような責任に召されたことがある。扶助協会書記がそれである。宣教師の頃ウルグアイでこの責任を受けて以来，長老は聖歌隊の指揮者，クラスと定員会の教師，監督，ステーキ部長を歴任し，さらに大管長会の特使としてラテンアメリカに教会を築くのを援助した。そして，10月の総大会で七十人第一定員会会員として生涯を捧げる責任に召されたのであった。ユタ州ローガン出身のハワード長老は，1959年ユタ法律大学を卒業後，法律の仕事に携わってきた。長老は法律学校の一学期が終了した時に，ユタ州マグナのキャロライン・ヘイズ姉妹と結婚した。

1962年に長老は教会法務部で働くことになった。そして，この仕事は，新たなこの召しを受けるに当たって大きな備えとなったのである。過去17年間，第二副管長のマリオン・G・ロムニー長老と共に働き，政治や法律面でラテンアメリカにおける教会の発展の道を切り開いてきた。

この間に，長老は教会が2倍以上に発展したことを目の当たりにした。「主のみ手は，主のみ業が開始されたばかりのこの開拓の地に差し伸べられていることがはっきりと分かります」と長老は語る。

さらに，ロムニー副管長と仕事を共にしたことが，ハワード長老の進歩を早めた。「ロムニー長老はいつも私を教えて下さいました。ロムニー長老といるといつも何か深い教えを学ぶことができます。」

ハワード長老のこの進歩の道は，彼が教会法務部で働くに当たってロムニー長老から面接を受けたその時から始まった。ロムニー長老は，ここで弁護士として働くにはスペイン語が分からなければなりませんと言って，その試験をすることになった。ハワード長老はスペイン語を伝道中と，また大学で学んでいたので分かると思った。ロムニー長老は彼に「マニャーナ」という言葉の意味を質問した。その若き弁護士はややもったいをつけて，「明日」という意味ですと答えた。その時のことをハワード長老はこう語る。「ロムニー長老は机から体を乗り出し，私の方を指しながらこうおっしゃるのです。『間違っています』と。私はスペイン語を沢山は知りませんが，『マニャーナ』については自信がありました。そこで，『では，どのような意味ですか』と尋ねました。するとロムニー長老はほほえみながら言いました。『いいですか，「今日ではない日」という意味です。』こうしてロムニー長老は私に忍耐を教えようとされたのです。」

このような数々の経験は，奉仕の精神と結びついて，ハワード長老に福音と救い主に対する証を与えたのであった。長老は父親が政府の仕事をしていた関係上，1933年に生まれて以来，各地を転々としなければならなかった。その結果，「家族と教会は，私にとって大切なものとなりました。一カ所にとどまっていたら，このような気持ちは持てなかったと思います。私は両親からよく『モルモンはそんなことはしない』と言われたものです。」教会員とも，また非教会員とも交流のあったハワード長老は，「両方の生活の良い面が見られることを幸せに」思った。

ハワード長老は過去の様々な経験から，確固たる福音の証を世の人々に述べたいという気持ちを強くしてきたのである。

七十人第一定員会会員

テディー・E・ブルーアートン

テディー・E・ブルーアートン長老と夫人のドロシー・ホール・ブルーアートン姉妹は，自分たちの計画を変更することに慣れてしまったという。

ブルーアートン夫妻はこれまで2度外国旅行をする計画があったが，2度ともその時は理由が分からないままその旅を取りやめたということである。最初の計画は1962年のことであった。その年，夫妻はオーストリアで開かれる生化学の学会に出席することになっていた。その旅行を取りやめた時に，ブルーアートン長老はカナダ，アルバータのカルガリーワード部の監督に召された。今回も夫妻は20日後に迫ったラテンアメリカ行きを取りやめた。その時は，まさか10月の総大会で自分が七十人第一定員会会員に召されるなどとは考えてもみなかったという。

教会幹部として召されるまで，ブルーアートン長老は4年間地区代表を務めた。担当地区は最初にオレゴンとアラスカ，次にカルガリーとエドモントンである。ブルーアートン夫妻は共にアルバータのレイモンドの出身で，長老は1925年生まれである。

1965年から68年にかけて，長老は現在コスタリカ，サンホセ伝道部となっている地域の最初の伝道部長を務め，コスタリカ，ホンジュラス，ニカラグア，パナマ，ベネズエラの各国で働く宣教師の管理に当たった。

「私たちは6週間ごとにこれらすべての国のすべての市を訪れなければなりませんでしたから，飛行機に乗ることが度々でした」と長老は語る。数々の妨害があったにもかかわらず，伝道の業は発展した。ブルーアートン姉妹は，書き言葉を持たない沿岸のインディオを教育するために，テキストとプログラムを考え出した。チャレンジはとてつもなく大きかったが，夫妻は持ち前の独創性を十分に発揮したのであった。

「人は自分にできることをすべて行なわなければなりません。自由意志を使って」とブルーアートン長老は言う。カルガリーで薬局を経営していた薬剤師のブルーアートン長老は，福音をはじめ，様々な興味ある事柄を研究することの大切さを知ったのであった。

ブルーアートン長老は1949年にマリオン・G・ロムニー長老から按手任命を受けて，ウルグアイ伝道部で宣教師として働くことになった。その時，福音を項目ごとに系統的に研究するようにという指導を受けた。「そして私はそれを実行に移しました。その結果，このような研究が，全体的な備えをする上で，また教会の様々な事柄に対する個人的な証を得る上で，極めて価値あるものであることが分かりました。」

長老は，カルガリー大学で教えていたインスティテュートのクラスでもこの方法を使った。「これによって私たちの心は開かれました。」聖典は何百回と読んではじめて意味の深さが分かるものである。ブルーアートン長老はこの原則を仕事にも取り入れている。長老の専門は，政治理論，考古学，製薬化学である。

ロムニー長老から受けたこの教えは単なる助け以上のものであった。夫妻がコスタリカに滞在中，ブルーアートン姉妹は5人目の子供を身ごもった。医師からはこれ以上子供を産むことは無理ですと言われたが，ロムニー長老から神権による祝福を受けることによっ

て，無事出産し，４年後には６人目の子供に恵まれた。

今，ブルーアートン家は再び計画の立て直しをしている。今後の計画は，ブルーアートン長老が教会幹部としての生涯の召しを無事果たすことができるように援助することである。

七十人第一定員会会員

ジャック・H・ゴースリンド・ジュニア

ジャック・H・ゴースリンド・ジュニア夫妻は，若人のために働くことを喜びとしている。そして彼らは，これまで若人に関係した責任に携わってきた。

ゴースリンド長老が監督の時代に，ワード部の青少年はユタ州プロボの北にあるティンパノゴス山の急勾配の道をハイキングすることを決めた。しかし，参加したくても肉体的に無理な少年がひとりいた。スキッパー・ハワードというその少年は，車奇椅の生活を送っていたのである。スキッパーは友達と一緒にハイキングをしたいと心から願っていた。そこで，ゴースリンド監督と副監督のソン・ピネガー兄弟，それに他の少年たちで，スキッパーの車椅子を押して，一緒にハイキングを楽しんだという。

「私は若人が大好きです」と，ゴースリンド長老は言う。長老は教会の様々な分野で若人に愛を示してきた。

長老はステーキ部長の時に，ソルトレーク中のヤングアダルトとスペシャルインタレストを監督し，新しいプログラムの推進を図る特別な責任を受けた。この経験は後にアロン神権ＭＩＡ（現在では若い男性の組織）の中央管理会副会長として働く際に大いに役立った。

これらの責任を通して，ゴースリンド夫妻は大勢の素晴らしい若者たちと接した。しかし夫妻にとって最も大切な若者たちは，自分自身の子供や孫たちである。夫妻は，パット（ブライアン，グライトリ夫人），パットの息子グレッグ，英国ロンドン南伝道部から帰還したばかりのデビッド，イタリア，パドバ伝道部で伝道中のマーク，それにエリザベス，リチャード，ダイアンなどの若者たちに囲まれている。

1928年４月18日にジャック・H・ゴースリンドを父とし，アニタ・ジェーン・ジャックを母としてソルトレーク・シティーで生まれたゴースリンド長老は，父親と強い絆で結ばれている。ふたりは同時期に監督を務め，またステーキ部長を務め，長年仕事も一緒に行なってきた。

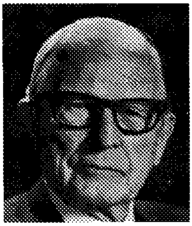
小学校時代からスキー好きのゴースリンド長老であったが，19歳の時にはオリンピックのための訓練を断わって伝道に出ることを決心した。しかし，彼のスキー好きは今も変わらない。「でも，今年は新しいスキーを買わないと思いますわ」とゴースリンド姉妹が皮肉った。

新しいスキーを買う代わりに，上等なトラックシューズを買わなければなりませんと，長老は言う。なぜだろう？

「キンボール大管長について行くためには，速く走らなければならないからです。

キンボール大管長は私に，素晴らしい方法によって同胞に仕える新しい主からの召しを下さり，私の人生に恵みをもたらして下さいました。私は感謝の気持ちで一杯です。」

七十人第一定員会名誉会員



9月30日(土)に，大管長会より，「健康状態を考慮し，献身的な奉仕に対する感謝を表わすもの」として，「教会幹部の兄弟たちに必要に応じて」「名誉会員」という新しい称号が与えられることになった旨の発表があった。

この度，この名誉職に支持されたのは以下の7名の教会幹部で，その名前と影響力は広く教会に知られている。これら7名のこれまでの奉仕期間を合計すると，125年にもなる。

これらの長老たちに対する愛と，また長年にわたって世界中の数多くの会員たちの生活に霊的な潤いを与えた働きに対する深い感謝の気持ちを込めて，会場の会員たちの手が高く挙げられた。

名誉会員に支持されたのは次の7名である。(写真上段左より)

スターリング・W・シル長老　75歳。1954年4月6日に召されて以来，24年6ヵ月間。

ヘンリー・D・テイラー長老　74歳。1958年4月6日に召されて以来，20年6ヵ月間。

ジェームズ・A・カリモア長老　72歳。1966年4月6日に召されて以来，12年6ヵ月間。

ジョセフ・アンダーソン長老　88歳。1970年4月6日に召されて以来，8年6ヵ月間。

ウイリアム・H・ベネット長老　67歳。1970年4月6日に召されて以来，8年6ヵ月間。

ジョン・H・バンデンバーグ長老　73歳。1961年9月30日に召されて以来，17年間。

S・デルワース・ヤング長老　81歳。1945年4月6日に召されて以来，33年6ヵ月間。

これら7名の教会幹部は引き続き七十人第一定員会に籍を置き，七十人第一定員会の重要な集会と活動には今後も参加することになっている。

地区代表セミナー報告

副主幹
マービン・K・ガードナー

スペンサー・W・キンボール大管長は，9月29日（金）に地区代表セミナーを開催し，福音のおとずれを全世界に及ぼそうと地区代表たちに呼び掛けられた。大管長会と十二使徒評議員会をはじめとする教会幹部，地区代表，その他の教会指導者が会したこの場で，新たに召された22名の地区代表が紹介された。これで地区代表は184名になる。

キンボール大管長は説教に先立って，ふたつの事柄を発表した。

「大管長会と十二使徒評議員会は，聖餐会で姉妹たちが祈りを捧げることに関して，聖典にはこれを禁止する教えがまったくないとの判断を下した。したがって，今後聖餐会や日曜学校の集会，ステーキ部大会をはじめ，姉妹たちが出席するどの集会でも姉妹に祈りを捧げる責任を割り当てることができるものとする。また，扶助協会訪問教師は訪問先の家庭で祈りを捧げることができる。」

キンボール大管長はまた，教会の指導者の夫人は教会の責任のために夫に同行する際はスカートを着用し，パンタロンを避けるように指示された。

系図に関して，また貧しい人と老人の世話に関して指示を与えてから，キンボール大管長は「羊の群れの番を」するようにと勧め，人々の必要にこれまで以上に心を配り，彼らが主の道を歩めるように援助するチャレンジを与えられた。「私は人々が貧しい人を見た時の感受性の鈍さを心配しているのではない。私が心配なのは，そのような助けを必要としている人がいることに気付かないということである。……神権指導者の皆さん，教会のプログラムを運営することに振り回されて使徒ヤコブが述べている『清く汚れのない信心』（ヤコブ1：27）を忘れるようなことのないようにしていただきたい。」

キンボール大管長は指導者たちに，着実に行動するように勧告された。すなわち，常に善を行ない，常に真実を認め，「人々が疑おうと，人々にあざけられようと，この神権時代に生ける予言者がいることを」常に認めるようにと言われた。

アロン神権の職にある若人とそれを受ける年齢にある若人の数とを比較し，非常に多くの若人がバプテスマを受けず，その結果，神権を受けていないことは遺憾であると，キンボール大管長は述べられた。次いで，19歳から26歳までの若者の少なくとも半数を伝道に出すように，そうすれば伝道の力は倍加し，バプテスマの数は倍以上になるであろうと言われた。

主のみたまは今やアフリカ，中国，インド，サウジアラビア，ソ連，その他のアジアとヨーロッパの国々に注がれ，福音が宣べ伝えられる備えが進んでいる。地の果てまで福音を広めるために「慎重に注意深く行動しなければならないが」とにかく「行動することであ

る」とキンボール大管長は言われた。

主にとって困難なことは何ひとつないが，教会員は自分の本分を尽くす必要があると，大管長は力説された。私たちのうちどれほどの者が中国で，北部インドで，アラビアで福音を述べ伝えることができるだろうか，と大管長は尋ねている。「私たちの準備ができた時，主は主の目的を果たすために私たちをお使いになるだろう。」

キンボール大管長の説教に続いて，数人の教会幹部と教会指導者が語った。

十二使徒評議員会のゴードン・B・ヒンクレー長老は，地域社会や国家の改善に対する教会員の市民としての役割を強調する一方，ひとつの教育的機関である教会は，政治的媒体となってはならないことを告げた。ただし，大管長会が特別に示す道徳に関する事柄についてはこの限りではない。

さらにヒンクレー長老は，教会の施設を選挙事務所として貸したり，教会の書簡用紙を選挙運動に使ったりしないように指示した。また，選挙に立候補する者は，教会員の票集めをすることを慎むように勧告した。「市民としての役割を果たす必要があると強く感じてそれを行なう時には，教会の役員としてではなく，一市民としてそれを行なっていただきたい」と，ヒンクレー長老は語る

1980年の教会150年祭について，ヒンクレー長老はキンボール大管長の指示の下に記念行事を計画中であると述べた。教会中央活動委員会では，地方のユニットのために行事の提案をする予定であるが，各地方で柔軟性をもって独創的な活動を行なうように奨励されることになる。「これは喜びの時となることだろう。音楽や演劇，美術などを織り込んだ精神を高揚させる活動を催し，主に感謝を捧げる時であり，主への信仰を培う時となるからである。」

マリオン・G・ロムニー第二副管長は，教会福祉の基本原則を強調した。私たちは自らの労働によって生活を営むこと，家族は互いに助け合わなければならないこと，教会は，自分の力や家族の助けを得ても生活できない人を世話すること，これが原則である。「政府が生活必需品を支給してくれるなどと当てにすることは，度が過ぎると，どのような国をも自由な国から奴隷の国と変えてしまうであろう」と，ロムニー長老は語った。

教会は，断食献金と福祉活動によって困窮者の世話をしている。ロムニー長老はイザヤ58：3－12を引用して，断食の律法に従う時にもたらされる霊的，また物質的な祝福について述べた。またモルモン経を開き，「祈りが答えられるか否かは，その人が惜しみなく困窮者に手を差し伸べているか否かにかかっている」と述べた。（アルマ34：28－29参照）最後に，教義と聖約から，主は地球を私たちに任された時に，自由意志を与えられたこと，したがって主の祝福を得るには自分の持っている物を貧しい人に分け与えなければならないと，ロムニー長老は語った。（教義と聖約104：13－18参照）

次いでキンボール大管長はロムニー副管長の言葉に確認を与え，指導者たちに福祉の基

本原則を理解し，それらを自らの生活や担当地区で実践するように，またみたまの確認を求めるように勧められた。

エズラ・タフト・ベンソン会長は，今日教会員に求められている過度の時間と経済的要求に対する大管長会と十二使徒会の懸念を表明した。

ベンソン会長は次のように語った。「集会に出席するために両親が家をあけたり，子供たちのもとを離れたりすることに，私たちはもう少し神経を使う必要がある。幼い時期は，子供を教える絶好の時である。サタンの力が彼らには及ばないからである。（教義と聖約29：45－48参照）

この時期における両親の影響力は極めて大きい。私たち指導者は，両親の時間を保護し，貴い子供たちを抱えた彼らが子供たちにとって大切な時期に家をあけ過ぎることのないように心を配る責任がある。……

また，ステーキ部や地方のユニットが計画する大規模でぜいたくな活動の費用についても憂慮している。」ベンソン会長は続けて，「伝道活動や必要な建物の建築はその対象外である」と説明を加えた。

次いで各指導者に，各自が担当する地区のプログラムについて，どのように時間と経費を節減することができるかを考慮するように促した。「注意深く，霊感を受けて計画をすれば，自分にとって大切な仕事を犠牲にしなくてもこのことができると私たちは信じている。……この教会が目指すのは家族を強めることであり，弱めることではない。この大切な業に最大の関心を払っていただきたい。」ベンソン会長はこのように語った。

このセミナーで紹介された新しい地区代表は以下の通りである。

オハイオ州リンドハーストのカール・リックス・アンダーソン；カリフォルニア州リードレーのアルバ・D・ブラックバーン；ブラジル，リオデジャネイロのエリオ・ダ・ロチャ・カマルゴ；ソルトレーク・シティーのシャーマン・M・クランプ；コロンビア，ボゴタのホリオ・エンリッケ・ダビラ；アリゾナ州ツーソンのアーサー・W・エルレイ・ジュニア；ユタ州バウンテフルのロバート・B・ハーバートソン；ユタ州シダシティーのコンラッド・バロイ・ハッチ；ドイツ，ラムステイン空軍基地のジュームズ・ポール・ジェンセン；日本，藤沢の柏倉仁；ブラジル，サンパウロのホセ・ロンバルディ；メキシコのアブラム・ロザノ；ユタ州セントジョージのアンドリュー・O・マッカーサー；オクラホマ州バートルズビルのベイ・J・ニールセン；ブラジル，サンパウロのサウル・ミスィアス・オリベイラ；ニュージーランド，オークランドのケネス・M・パーマー；ペルー，リマのギレルモ・マリオ・ペロティ；南ウェルズ，マーサーチドフィールドのラルフ・プルマン；ソルトレーク・シティーのラルフ・G・ロジャーズ・ジュニア；アルゼンチン，ブエノスアイレスのユーゴ・ネストル・サルビオリ；ニューメキシコ州ラプラタのデル・アルビン・テリー・シニア；メキシコ，ボスケス・デ・エシェガライのオラスィオ・アントニオ・テノリオ。

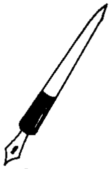
◇　　　　　　　　◇

今月号よりローカル・ページに「ワード部支部だより」と題して全国のワード部，支部を紹介していきたいと思います。

全国どの地にあっても，イエス・キリストの福音のもとで同じ信仰をもち，力いっぱい生きている兄弟姉妹が大勢いるはずです。そのような彼らの信仰生活を知ることによって，私たちはなお一層励まされ，証を強めることができます。

今回は厳寒の地に負けず一生けん命働かれている北海道帯広支部の聖徒たちをご紹介します。

ワード部支部だより



帯広支部長
今　村　安　孝

根強い信仰生活をめざして

クリスマス，お正月というのに雪もなく，ただ地面をたたきつけるような寒風が吹き，底冷えのする冬の十勝である。ときどきドカ雪や雷，地震が気まぐれに立寄るほかは年中ほとんど快晴で，抜けるような青い空である。町を少し離れると一面に牧場が広がり，畑にはビート，じゃがいも，豆などの寒冷地作物が作られている。

帯広市もようやく15万の人口を数えるに至った。もともと農業を中心に栄えた地であり，各地方からの支店や出張所が多い。従って教会員の移動もひんぱんで，お正月になるとほとんどの会員が帰省し，教会はとてもさみしくなる。

私自身も1年9カ月余り前に転勤して来たひとりである。赴任して来て最初に感じたのは，帯広の人は皆親切でなじみやすく，のんびりしているということである。例えば店員は店の利益より客のことを親身になって考えてくれる。また人々は話好きで，面倒がらずすぐ力を貸してくれる。

こんな街の中心部に帯広支部があるわけだが，80余名の登録会員がいて，そのうち半数近くが活発に集っている。会員の中には自動車を1，2時間も走らせて教会にくる熱心な会員もいる。教会員は皆家族的でとても明るく，初めて来た人や訪問された人ともすぐ友達になっている。みんなとても温厚で従順である。指導者の指示に適切に従う。だが自分たちでそしゃくし，よく理解を深めた上でなければ動かない。背伸びをしたり徒長したりする生き方は嫌いだからだ。

私は支部長として何度か指導上の試練を受けた。私の誤りを示唆してくれた会員たちに心から感謝している。私は以前旭川支部で7年以上も模範的な兄弟姉妹に助けられて共に

活動し，証を述べ，信仰を育むことができた。そして帯広支部に来て支部長に召された時，張り切って目標を立て，活動を計画し，大声で兄弟姉妹を励ました。また落胆している兄弟を力づけるために，何度も彼の前で証を述べ，福音について語り合った。

しかしどうも歯車が噛み合わない時もあった。私はふと我にかえったように，自分の間違いに気付き，福音の教えにたち返ることの必要性を知ったのである。

教会の指導者とは「指動者」でも「死動者」でもなく「始動者」でなくてはいけないと言ったある兄弟の言葉を思い出した。

私の頭にはIコリント13章1節から3節までの「たとえわたしが，人々の言葉や御使たちの言葉を語っても，もし愛がなければ，わたしはやかましい鐘や騒がしい鐃鉢と同じである」という聖句が痛いほど脳裏に焼き付いて離れなかった。私はいかに誤った指導をしてきたことであろうか。私はイエス・キリストが求めていらっしゃるような純粋な愛を提供する機会と，それによって受ける祝福を長い間放棄していたのかも知れない。

私が9年間培かって来たものは真の信仰だったのだろうか。知識が単に増したに過ぎなかったのではないだろうか。また私の支部組織に対する働きかけは，会社組織で働きかける方法と何ら変わってはいなかったのではないだろうか。

兄弟姉妹に対しての勇気づけは，単にハッタリをきかせて発奮させようとしていたに過ぎないのではなかったかと。

しかし私は今，帯広支部の堅実で，羊のように柔和謙遜な兄弟姉妹と接する時，自分が丸みのある人間として洗練されゆくのを感じている。またここ帯広支部には，急速な歩みはないかも知れないが生活に根差した信仰と豊かな可能性のある人々が育っているような気がする。

先日，旭川支部で働いたことのある兄弟が訪問してくれた。彼から帰りがけに「今村兄弟もすっかり田舎くさくなったものだね」と言われた。

私にはこの言葉はとてもうれしかった。私もようやく，帯広の人間となることができたのだと思ったからである。

私はこれからも支部長として愛する30数名の会員と共に一致し互いに励まし合って伝道し，証を強め合い，生活に根差した幸福な信仰生活を送って行こうと思う。

ハロルド・B・リー大管長はこう言っている。

教会の強さは什分の一の総額がどの位かや，会員数の多い少ないではない。また教会堂が立派か否かでもない。大切なのはそこに集う教会員一人一人の証の強さであると。

私は帯広支部は現在，会員数は少ないが，そのことを十分立証しつつあると期待している。

私は仕える人となり，自分のでき得る限りの力を傾けて，証を分かち合い，会員たちが揺るぎのない土台の上に立つ生活を送れるように助け，福音をまだ知らない多くの人々に告げ知らせたいと思っている。

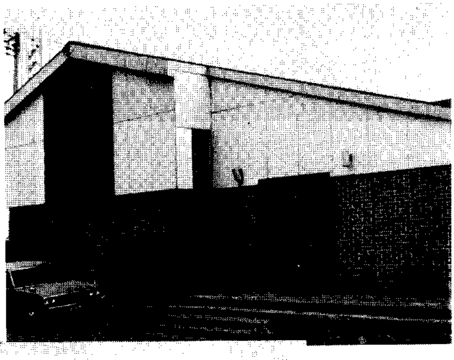
イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

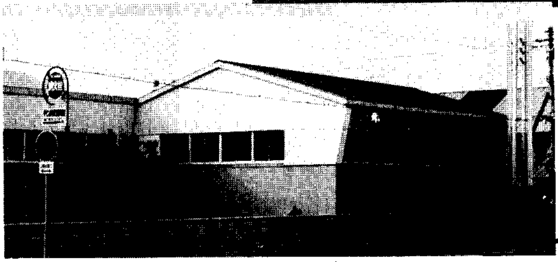
すなっぷ教会堂

教会の発展と共に，私たちが主を礼拝し，福音を学び，いろいろな活動を行なう教会堂も，日本各地に建設されてきました。これらはみな，献堂の時に主に捧げられた主の宮居です。今月号から全国各地に建てられた末日聖徒の教会堂を写真で追ってみたいと思います。

今回は旭川支部をご紹介します。

所在地：旭川市6条西1丁目
完　成：1968年12月
献　堂：1969年4月
（エズラ・タフト・ベンソン長老）





公　告

会員その他利害関係人各位

規則第18条の定める手続を経て，下記の通り教会用地を買収しましたので宗教法人第22条の規定によって公告します。

昭和52年11月1日

宗教法人　末日聖徒イエス・キリスト教会　代表役員　菊地良彦

支部／ワード部名	所　在　地	面　積
四日市支部	四日市市大字浜田字返し堀1106	1990m²（土地）
前橋支部	前橋市表町1丁目2番7	841.36m²（土地）389.90m²（建物）
池田ワード部	川西市花屋敷1丁目1216番地	1377.8m²（土地）176.02m²（建物）
札幌第四ワード部	札幌市北区北34条西10丁目	2573m²（土地）
富山支部	富山市茶屋町字向開561番地	2228.76m²（土地）
	富山市呉羽町字猪谷7352番地	508.02m²（建物）

訂正

聖徒の道1月号に以下の誤りがありましたので，お詫びして訂正いたします。

p. 56　上から4，8，28行目マクレリン→ムレリン（正）

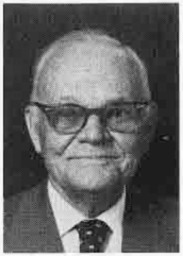
末日聖徒イエス・キリスト教会

教　会　幹　部

大　管　長　会

第一副管長
N・エルドン・タナー

大管長
スペンサー・W・キンボール



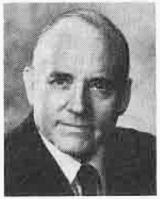
第二副管長
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン

マーク・E・ピーターセン

リグランド・リチャーズ



ハワード・W・ハンター

ゴードン・B・ヒンクレー

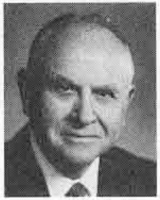
トーマス・S・モンソン

ボイド・K・パッカー

マービン・J・アシュトン

ブルース・R・マッコンキー

L・トム・ペリー



デビッド・B・ヘイト

ジェームズ・E・ファウスト

大祝福師

エルドレッド・G・
スミス

七十人第一定員会会長会

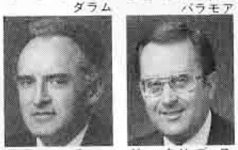
フランクリン・D・リチャーズ　J・トーマス・ファイアンズ　A・セオドア・タトル　ニール・A・マックスウェル　マリオン・D・ハンクス　ポール・H・ダン　W・グラント・バンガーター

七十人第一定員会

セオドア・M・バートン　バーナード・P・ブロックバンク　ロバート・L・シンプソン　O・レスリー・ストーン　ロバート・D・ヘイルズ　アドニー・Y・小松　ジョセフ・B・ワースリン　ハートマン・レクター・ジュニア　ローレン・C・ダン　レックス・D・ピネガー　ジーン・R・クック

チャールズ・A・ディディエ　ウイリアム・R・ブラッドフォード　ジョージ・P・リー　カーロス・E・エイシー　M・ラッセル・バラード・ジュニア　ジョン・H・グローバーグ　ジェイコブ・ディエガー　ボーン・J・フェザーストーン　ディーン・L・ラーセン　ロイデン・G・デリック　ロバート・E・ウエルズ

G・ホーマー・ダラム　ジェームズ・M・パラモア　リチャード・G・スコット　ヒュー・W・ピノック　F・エンツィオ・ブッシェ　菊 地 良 彦　ロナルド・E・ポールマン　デリック・A・カスバート　ロバート・L・バックマン　レックス・C・リーブ　F・バートン・ハワード



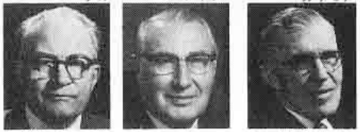
テディー・E・ブルーアートン　ジャック・H・ゴースリンド・ジュニア

管理監督会

第一副監督 H・バーク・ピーターソン　管理監督 ビクター・L・ブラウン　第二副監督 J・リチャード・クラーク

七十人第一定員会名誉会員

スターリング・W・シル　ヘンリー・D・テイラー　ジェームズ・A・カリモア　ジョセフ・アンダーソン



ウイリアム・H・ベネット　ジョン・H・バンデンバーグ　S・デルワース・ヤング

聖徒の道 1979年2月20日発行（毎月1回20日発行） 第21巻第2号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可